



揺るぎない 信頼

いつでも、全ての状況において
神様に信頼することの喜びを見つける

ジョイス・マイヤー

#1 ニューヨークタイムズベストセラー作家

揺るぎない
信頼

揺るぎない 信頼

いつでも、全ての状況において
神様に信頼することの喜びを見つける

ジョイス・マイヤー

Unless otherwise indicated, all scripture quotations
are taken from the:

SHINKAIYAKU BIBLE.

Copyright © 2004 by Inochi No Kotoba Sha
(used by permission);

the Japanese Living Bible (リビングバイブル)
Copyright© 1978, 2011, 2016 by Biblica, Inc.®
Used by permission. All rights reserved worldwide.

Colloquial Japanese (1955) (JA1955)

ALIVE訳

© 2014 Bible League International. All rights reserved.

Copyright © 2020 by Joyce Meyer
All Rights Reserved.

Translated and printed by Lifehouse Media in Japan.
<http://www.mylifehouse.com>

For more copies of this book and other resources
please contact the Joyce Meyer Ministries Japan
team at info@joycemeyer.jp .

【日本語版への追記】

著者の意向により、本書における聖句の引用にはAMP訳が用いられています。その性質上、どうしても既存の日本語訳では補い切れない表現が多いため、そのような場合には「～訳より一部強調」という形で、AMP訳からの直訳となる日本語を□内に補足しました。また、引用聖句全体を、翻訳者による日本語への直訳という形で対応している箇所もあります。

目次

はじめに	i
第1章 信頼とは?	1
第2章 信頼は心の安息を与えてくれる	11
第3章 誰を信頼すれば良いの?	23
第4章 自分自身を信頼することの愚かさ	35
第5章 神様を信頼して良い行いをする (パート1)	45
第6章 神様を信頼して良い行いをする (パート2)	55
第7章 どんな時も	69
第8章 もし神様が良い神様なら、どうして人は苦しむの?	81
第9章 神様が苦しみを「許可」しているの?	93
第10章 私たちが苦しむ理由 (パート1)	103
第11章 私たちが苦しむ理由 (パート2)	115
第12章 苦しみの先にあるもの	127
第13章 一日ずつ	139
第14章 全てを知ることができなくても	149
第15章 神様の待合室 (パート1)	157
第16章 神様の待合室 (パート2)	165
第17章 神様が静寂を保つ時	175
第18章 変化の時にも神様を信頼する	185
第19章 自分を変えたい	195
第20章 人々の変えるのは神様であると信頼する	207
第21章 疑いの対処法	217
第22章 どれだけ経験がある?	227
第23章 全てを神様に委ねる	237

参考文献一覧

救いの祈り

信頼することは、いつも簡単なことであるとは限りません。個人的なニーズ、家族のニーズ、金銭面での義務など、私たちは様々な責任を背負って日々を生きています。「自分の物は自分で管理したい」、「何でも自分の思い通りにやり遂げたい」、「他の誰も信用したくない」。人からの裏切りや失望を経験をすると、私たちは「自分だけを信頼するほうがよっぽど良い」と考えるようになるのです。

しかし、日々の生活に溢れる責任の全てを、たった一人で背負うことはできません。感謝すべきことに、私たちには愛に溢れた神様がいます。神様は信頼に値する存在であり、私たちがいつでも神様に頼ることを望んでいます。今こそ、人生を変えてくれるものを受け取る時です。それは、神様への「揺るぎない信頼」です。

ジョイス・マイヤーは、ニューヨークタイムズのNo.1ベストセラーを世に送り出した著者です。本書では、人生のあらゆる側面で神様を信頼することがいかに良いものをもたらすかについて語られています。本書は、彼女自身の経験談と神様のことばである聖書に基づき、全ての人が、自己信頼によって作られる壁を打ち破って、試練の時に救い主に目を向けるための手助けをしてくれます。

信頼することは義務ではありません。むしろ、イエスを信じる者に与えられた特権です。神様を信頼することで、より安定のある、平安と喜びに満ちた人生を手に入れることができるのです。神様への信頼を身につけることは、霊的な面や、人間関係、感情面、金銭面など、人生のあらゆる面において神様のベストを受け取ることを可能にします。

『揺るぎない信頼』は、心を尽くして神様を信頼するために、私たち一人一人を整え、励ましてくれる一冊です。(箴言3:5より)過去の傷や現在の状況、未来への不安などにかかわらず、神様を完全に信頼することで、喜び溢れる毎日を体験できます。時に、私たちは人から裏切られ、失望することがあります。しかし、神様に失望させられることは決してありません！

はじめに

「神様を信頼すること」。これ以上に、執筆すべき大切な題材があるとは思えません。なぜなら、神様を信頼するという決断は、私たちの人生に計り知れないほど素晴らしい益をもたらしてくれるからです。また、神様を信頼ということは、私たち人間が神様を誉め讃える上での最大級の手段なのです。

この本のはじめにまずお伝えしたいのは、神様を信頼することは義務ではないということです。むしろ、これは神様が私たちのために与えてくれた特権なのです。私たちは、神様を信頼するように招かれています。私たちが実際にそうする時、私たちは平安と喜びのある、実り多い人生への扉を開き始めます。

日常生活のあらゆる分野において神様を信頼していくと、私たちは日頃の不安や心配事、恐れ、憶測、身体が衰弱するほどのストレスから解放されていきます。例えば、私は今この本を執筆しながら、神様が助けてくれることを信頼しています。言い換えると、神様を信頼することに関する本を執筆する上で、神様を信頼することについて私は全てを知っている訳ではないので、神様の助けなしでは、この本を良い本にするのは不可能だと自覚しているということです。神様の望みは、私たちがいつでも、全ての状況において神様を信頼することです。神様の子どもである私たちに関することであれば、たとえそれがどんなに小さなことであっても、神様は手助けしたいと願っているのです。

人はみな、つい自分自身に頼ってしまう傾向があるので、神様への信頼を身につけるためには時間がかかります。その原因の一つは、過去の苦い経験から生じる「他の人を信頼してはならない」という考えにあるでしょう。しかし、神様の考えは、私たち人間の考えをはるかに超えています。聖書にあるように、神様は嘘をついたり、だましたりする存在ではないのです。

揺るぎない信頼

この本を通してあなたにお伝えしたいことは、私たちが全てにおいて神様に信頼することができるということ、そして、理屈を超えて信仰を持つことができるということです。私たち人間の目標は、神様に完全に信頼することです。それは、神様に誉め讃えるためでもあります。神様に完全に信頼することで体験できる益は、計り知れないものだからです。

私たちが神様に信頼すればするほど、神様は喜びます。ヘブル11:6には、「信仰なしに神を喜ばすことは出来ない」(ALIVE訳)とあります。信仰と信頼は非常に密接な関係にあり、この2つを切り離して考えることはできません。信仰は、私たちが神様を人生に迎え入れる上で、必要不可欠な要素です。信仰によって、日々の生活の中心に神様を置き、力強い形で神様を体験していくことができるのです。

私たちには、悪魔という敵の存在がいます。悪魔は、私たちが神様との関係を楽しむことや、神様が用意してくれた人生を歩むことを阻しようとして、いつも隙を狙っています。恐れや不安、心配事、憶測、ストレス、疑いなど、あらゆる手段で私たちを誘惑してきます。そして、私たちが神様のことを忘れ、自分の力でなんとかしようと奮闘し、自分のことしか見えない人生を歩ませようと誤った道へと導くのです。

そんな悲劇を免れるための唯一の方法、それが神様に完全に信頼することなのです。あなたがこの本を読み進める中で、神様の恵みによって自分自身を完全に解き放ち、いつでも、全ての状況において、全ての思い煩いを神様に委ねることができるように祈っています。

この本を読み、学んでいく上で、この聖書箇所をぜひ心に留めてください。

主である神を信じ、信頼し、神に拠り頼み、神に希望と自信を置いている者は【もともと】祝福される。

エレミヤ17:7 (AMPC訳より直訳)

揺るぎない
信頼

第1章

信頼とは

心配の始まりは信仰の終わりであり、信仰の始まりは心配の終わりである。

ジョージ・ミュラー

「信頼できる」と思える人や物に出会うことで、心配は消え去ります。だからこそ、信頼そのものについて学び、信頼の仕方を学ぶことはとても大切です。その中でも、神様に信頼することに関して、私たちは特に学ぶ必要があります。

ノア・ウェブスターのアメリカ英語辞典初版によると、信頼とは「自信； 他者の誠実さ、正直さ、正義感、友情、その他の揺るがない品性を信用し、そこに心を安息させること」であると定義されています。つまり、神様に信頼を置く人は安心できるということです。(箴言29:25より)

信頼することによって、私たちは人生の重荷や心配事から解放された人生を生きることができます。なぜなら、自分の代わりに誰かが重荷を背負ってくれることに自信を持つことができるからです。重荷を抱えたままの人生を生きる代わりに、軽やかな気持ちで人生を楽しめるようになるのです。

信頼することによって、

私たちは人生の重荷や心配事から解放された人生を生きることができます。

神様に信頼し、全ての心配事を委ねるためには、私たち自身がそう決断する必要があります。詩編の著者であるダビデは、神様に信頼を置くことについて頻繁に語っています。英語の「Put(置く、身に着ける)」という単語は、神様が人間に指示

揺るぎない信頼

を与える時の表現として、聖書の中にたびたび登場します。例えば、「神様に信頼を置く(Put)」と並んで、「愛を身に着ける(Put)」、「新しい霊を身に着ける(Put)」、「平和の福音の備えを足に履く(Put)」などがあります。(箴言3:5、コロサイ3:14、エペソ4:24、エペソ6:15より)

聖書は私たちにこう言っています。「あなたの重荷を主にゆだねよ。[その重いものを神に明け渡せ。] 主はあなたを支えてくださる。」(詩篇55:22 新共同訳より一部強調)

「重荷を下ろす」といった考えが私は好きです。私たちは日々、重苦しい気持ちや重荷を負った心を抱えながら生活しています。しかし、神様はそんな私たちをより良い人生へと招いているのです。それは、神様を信頼することによってのみ体験できる人生です。ノア・ウェブスターは、「信頼とは、心を安息させることである」と言いました。また、使徒パウロも、「神の安息の域に入れるのは、神を信じる[信頼する] 私たちだけである。(ヘブル4:3 ALIVE訳より一部強調)」と教えています。

ただ単に神様を「信頼しようとしている」のではなく、本当の意味で神様を「信頼している」かどうかを見極める方法がいくつかあります。そのうちの 하나가、「自分の魂が、神様の忠実さの中で安息しているかどうか」を確かめることです。もし神様を信頼していると言いながら、心配や不安を抱えて重荷を背負い続けているのであれば、それはまだ重荷を神様に委ねられていない証拠です。信頼しようとしているかもしれませんが、実際にはまだ信頼できていないのです。

私自身、その事実を理解することで、本当の意味で神様を信頼することがどういうことなのかを理解できるようになりました。それは、言葉にできないほどの感動です。「神様に重荷を委ねる」という決断が、私の魂(心、意思、感情)に安息をもたらすのです。例えば、石がゴロゴロと詰まったリュックサックを、あなたがどこへ行くにも背負っている状態を想像してみてください。仕事へ行く時も、買い物へ行く時も、教会へ行く時も、石の詰まったリュックサックを背負って行くのです。どれだけ重

第1章 - 信頼とは？

くても、あなたはひたすら背負い続けています。次に、そのリュックサックを下ろすと決断することを想像してみてください。きっと、身体は軽くなり、全てのことがより楽になるはずです。この例えは、私たちが不安を神様に委ねる代わりに、自分で重荷を抱えている時の状態を表しています。私たちはそんな状態で日々のタスクをこなし、生活を機能させようとしませんが、重荷の重さのせいで大きなストレスを感じ、人生はとても困難なものになってしまうのです。神様に信頼することで、今日、重荷を下ろす決断をすることができます。そう決断するなら、あなたはきっと「そうして良かった」と思うことでしょう。

今日、重荷を下ろす決断をすることができます。

「神様は、全ての問題の面倒を見てくれる」と言う人たちに、私はこれまでたくさん出会いました。しかし彼らは「恐れや不安もある」と言い、解決策を自分の頭で考え出そうとしているのです。彼らは神様に信頼すべきであることを理解していて、そうしたいと願ってはいるのですが、実際にはまだ信頼できていません。神様に信頼していると言いながら、多くのことを心配していて、その重荷の重さにつぶされそうになっているのです。

神様との関係を正しく機能させるために最も大切なことは、「神様の前に正直である」ということを私は学びました。神様には全てのことがお見通しですが、神様の前に正直であることで、私たちは真理と向き合うことができるのです。私もかつては、神様に信頼していると言い張りながら、本当は心配や惨めな思いを抱えて、多くの歳月を無駄にしていました。しかしそれを通して、本当の信頼には良い実が伴うことに気付きました。本当の信頼は、私たちの理解をはるかに超えるほどの「平安」の実をもたらすのです！

もしも、まだ神様に完全に信頼するのが難しいと感じるのなら、そのことについて神様に正直に打ち明けてみてください。マルコ9章に、自分の息子の癒しを求める父親の話があります。彼はイエスに対して「奇跡を信じてはいるが、自分の不

揺るぎない信頼

信仰を助けてほしい」という正直な気持ちを打ち明けました。(マルコ9:24より)この話に出てくる父親の正直さに、私はいつも好感を覚えます。最終的に、彼は奇跡を体験することができました。時には、信仰に疑いが混ざり込んでしまうこともあるでしょう。私たちは成長し続け、どんな時でも神様を信頼できるようになっていきたいものです。しかし、その実現には時間がかかります。ですから、たとえ神様に対する自分の信頼がまだ完璧でなかったとしても、罪悪感を感じる必要はありません。

私自身、神様のことばを教えるようになってから40年以上経ちますが、それでも、神様を信頼することに関しては、この一年で多くのことを学びました。この本を執筆するためによく調べ、研究する中で、神様を信頼することについて私自身もさらに多くのことを学んでいくのだろうと思っています。

神様の性質

Merriam-Webster.comのオンライン辞典によると、信頼とは「人や物が信用に値し、善良かつ実直で、有能な存在であると信じること」と定義されています。

つまり信頼とは、「信頼できる存在」の性質について私たちが知る情報によって左右されるのです。もし相手が良い人ではなく、不公平で、不親切で、情にも薄く、信用できない存在だとあなたが感じていたら、その人を信頼することなど到底できないはずです。

神様の性質についてしっかりと学ぶことで、神様に完全な信頼を置く方法を学ぶことにおいて私は大きく助けられました。例えば、私が大きな安心感を覚える神様の性質の一つは、「神様は正義である」ということです。つまり、神様は間違っていることを、いつも正してくれるのです。

これまでも数え切れないほど、私は神様の正義を体験してきました。たとえ私が不利で、不公平な状況にいたとしても、神様のやり方とタイミングで、神様が間

第1章 - 信頼とは？

違ったものを正してくれると信頼できるようになりました。人生が常に公平であるとは限りません。しかし、神様はいつでも公平です。私たちが神様を信頼し、全ての重荷を手放す時、神様が私たちの代わりに働き、正義をもたらしてくれるのです。

神様が正義をもたらしてくれると信頼することで、私は「自分で何とかしよう」という重圧から解放してくれます。復讐は神様の役割であり、神様の子どもである私たちが攻撃する敵に対しては、神様自身が報復してくれると聖書に明確に記されています。

私たちは、“[報復と]正義はわたしのものである。[不正を犯す者への]復讐はわたしがする”——【聖書: 申命記32:35より引用】また、“神様がその民を裁く”——【聖書: 申命記32:36より引用】と断言した方を、よく知っている。

ヘブル10:30 (ALIVE訳より一部強調)

神様の正義を体験するためには、今自分が握り締めている状況を神様に明け渡し、自分の力で何とかしようとするのをやめる必要があります。ここが難しいところですよ！私を含め、多くの人たちが自分で何とか解決しようと奮闘して疲れてしまいます。最終的にはどうすることもできなくなり、行き詰まってから、やっと神様を信頼する決断をするのです。そうすることで神様の忠実さを体験し始めるうちに、神様を信頼することが少しずつ簡単になっていきます。神様を信頼することが難しく感じられる理由の一つは、「私たちの求める答えが必ずしもすぐに与えられるわけではないから」です。信仰と忍耐を通して、私たちは神様から受け取ります。その答えを待っている時こそが、私たちの信仰を引き伸ばし、次のレベルへと成長させてくれるのです。

神様は良い神様です。憐れみ深く、聖く、そして優しい方です。恵みに満ちていて、忠実で、いつも真実な方です。神様は愛です！神様は、どんな時も変わることなく、決して約束を破ることのない存在なのです。

揺るぎない信頼

私たちを愛してくれていて、助けるのに十分な力があるだけでなく、実際に私たちを助けたいと思ってくれる人に信頼を置くのは簡単です！神様は、私たちが助けたいと待っています。私たちがするべきことは、ただ神様を信頼することなのです。

これまでの人生を思い返すと、「神様は忠実な方だ」と自信を持って言うことができます。たとえ、私たちが神様の存在を感じられないような時でも、神様はいつもそばにいます。「神様は今も働いている」と信じてさえいれば、神様は正しいタイミングで、ご自身の働きをはっきりと目に見える形で明らかにしてくれます。答えを受け取るまでの待ち時間が長いと感じても、どうか諦めないでください。神様を信頼し続けるのです！

神様を信頼するのが難しいと感じる時、私はいつも、神様がこれまでにしてくれたことを思い起こします。そして、「またあの時と同じように神様は働いてくれる」と改めて確信するのです。これまで40年間に渡り、私はジャーナル(聖書を読んで感じたこと、語られたことを短く書き留めること)を続けています。最近、ふとしたきっかけから、1970年代に自分が書いたジャーナルを読む機会がありました。その中で私は、神様に「1ダース分(12枚入り)の新しいタオルを与えて欲しい」と求めていました。当時の私たち夫婦は、貧しい生活を送っていたので、タオルを買う予算すらありませんでした。ちょうど「神様を信頼すること」を実践し始めていた私は、まるで小さな子どものように、タオルを与えるようにと神様をお願いしたのです。それから数週間後、さほど面識のないある女性が、突然家にやって来てこう言いました。「私のことをおかしな人だと思うかもしれないけれど、ここ最近、ずっと神様から、あなたにタオルを届けるように言われている気がしてならないの！」その言葉を耳にした瞬間、私はとても興奮してしまいました！私が最近「タオルを与えてください」と神様をお願いしていた経緯について彼女に説明すると、彼女はとても驚いていました。これは、私の記憶に鮮明に残っている、神様の忠実さについての体験談の一つです。これ以外にも、数え切れないほど似たような体験をしてきました。

第1章 - 信頼とは？

聖書の中で、ダビデが巨人ゴリアテを倒さなければならなかった時、周りの人たちは「ダビデが勝てるはずがない」と、彼の士気を下げるようなことばかり言いました。それでもダビデは、以前にも神様の助けによって、ライオンや熊との戦いに勝利したことを思い返しました。こうして、ダビデの信仰は強められ、ダビデはゴリアテに戦いを挑んだのです。(1サムエル17:34-36より)

ぜひ今、この瞬間にでも時間をとって、これまでに体験した神様の忠実さの一つ一つを書き出してみてください。きっと、あなたの信仰がますます強められるのを感じるはずです。そして目の前にある問題についても、より深く神様を信頼できるようになるでしょう。

信仰とは、「信頼されることや、頼りにされることである」と耳にしたことがあります。私たちは神様を頼りにすることができます！神様に寄り掛かっても良いのです。神様は決して私たちから離れ去ったり、見放したりしないと約束しています。むしろ、どんなことがあっても、必ず共にいると宣言してくれているのです。(マタイ28:20より)

困っている時、いつも神様が共にいてくれて、助けてくれると私たちは信頼することができます。(ヘブル13:5より) 試練の中を通る時にも、神様は共にいてくれて、どんなことがあっても必ず私たちを助け出してくれます。(1コリント10:13より) 周りのみんなが自分を見放したとしても、神様は変わらず共にいてくれて、忠実に居続けてくれるのです。(2テモテ4:16-17より)

神様の性質について学べば学ぶほど、神様をより信頼できるようになります。神様の性質の特徴について、この本を通してさらにお話していきたいと思いますが、このトピックに関しては、あなたが個人的に学ぶこともお勧めします。

揺るぎない信頼

自信

信頼は、自信であるとも考えられます！自信があると、より人生を生きやすくなりますよね。「自分にはできる」と信じることで、喜びと期待のある人生を、大胆に歩めるようになるのです。イエスを信じる者として、私たちの自信はイエスのうちにあるべきです。人は誰でも、いくつかの分野においては、自然と自信を持てるものです。しかし、神様を信頼することによって、得意分野においてだけでなく、人生の全ての分野において、自信を持てるようになるのです。例えば、私が大きな集会などでメッセージをする時、人々を教えることに自信を持てる日もあれば、持てない日もあります。たとえそんな日でも、私は自分自身の能力や感情にではなく、キリストのうちに自信を置く決断をすることで、自信を持つことができるのです。

使徒パウロは、自分自身に自信を置くことはしないと明確に宣言しました。彼には生まれ持った強みや能力が多くあったにもかかわらず、彼は外側にあるそれらのものに自信を置かなかったのです。パウロは、私たちの自信はキリストのうちにありと強調しています。(ピリピ3:3より)信頼とは、信頼できる相手に置く「自信」であり、キリストのうちにある自信が私たちに安心感を与えてくれるのです！「自分はすべきことをすることができる。」と信じるからこそ、私たちは何をすることも安心感をもってこなせるようになります。自信に満ちた信頼は、ストレスや重圧、心配、そして失敗に対する恐れを取り除いてくれるのです。

信頼とは、信頼できる相手に置く「自信」。

先ほど私は、たとえ自信を持ってないと「感じる」ような時でも、自信を持つことができると言いました。それがまさに重要なポイントです。感情は常に移り変わります。何の前触れもなく、突然変わるのです。ですから、自分の感情に自信を置くことは、あまり賢い選択とは言えません。

例えば、仕事の面接を受ける時のことを考えてみてください。「自分にはこの

第1章 - 信頼とは？

仕事に必要なスキルがあるから大丈夫」と意気込んで面接に臨みますが、もし途中で、自分はこの面接官にあまり好かれていないと感じ始めたら、どうでしょう。そう考えたら、(実際には、面接官は何とも思っていないかもしれないのに)みるみるうちに、自信を喪失してしまいます。しかし、もしあなたの自信が、感情ではなく神様に置かれていたらどうでしょう。あなたは、神様が好意をくれると信頼することができます。そして、「もしこの仕事が自分に合っているなら、面接に受かる」と自信を持って面接を続けることができるでしょう。

悪魔は、私たちが自信を持つことを望んでいません。なぜなら、自信が無ければ、私たちは多くのことを成し遂げられないと、悪魔はよく知っているからです。どんなに才能があって、知的で、有能な人だったとしても、自信が無ければ意味がありません。私たちに自信は、飛行機にとっての燃料のようなものです。飛行機には空を飛ぶ性能が備わっていますが、燃料が無ければ飛ぶことはできません。

もし私たちが、人や物などに自信を置いてしまったら、自信をいつも持ち続けるのは不可能でしょう。なぜなら、人や物は常に移り変わるものだからです。しかし神様は決して変わることがなく、嘘や偽りを言うこともありません！不確かなことが海のように渦巻くこの世の中であって、神様の存在は、私たちがしがみついている大きな岩なのです。

第2章

信頼は心の安息を与えてくれる

重い束縛を受けて、疲れはてている人たちよ。さあ、わたしのところに来なさい。あなたがたを休ませてあげましょう。

マタイ11:28 JCB

ノア・ウェブスターの辞典によると、信頼とは「相手の善良な性質に、心を安息させること」と定義されています。心の安息については、この本の中でも章を設ける必要があると感じるほど大切なトピックです。心の安息は全ての人にとって必要不可欠であり、多くの人が欲しいと思っているものです。人生には、落ち着いてよく考えなければならないことがたくさんあります。その中で神様は、私たちを助けたいと望んでいるのです。しかし、私たちが自分の力で何とかしようと奮闘し続ける限り、神様が無理やり手を差し伸べたりすることはありません。

神様は、私たちの身の周りに人生の重荷を共に背負ってくれる人を与えることで、助けの手を差し伸べてくれます。夫のデイヴと私には2人の息子がいますが、彼らも共にこのミニストリーで働いています。大きく成長したミニストリーの運営を支えるために、神様が息子たちを加えてくれたのです。当初は、デイヴと私が担ってきた責任を息子たちに託すことに、少し抵抗を感じました。しかし、その決断は私たちにとって必要なものでした。実際に彼らに責任を託すと、私たちの心と魂には大きな安息が与えられたのです。

息子たちが運営に関わるようになってから、私たちが気にかける必要のなくなったことはたくさんあります。そのおかげで私は教えることや執筆活動、祈り、聖書研究、テレビ番組の制作などに専念することができるようになりました。今こうし

揺るぎない信頼

て机に向かい、執筆に専念している間にも、私の把握していない案件も含めてミニストリーの運営が上手く回っているのです。ミニストリーは常に良い成果を挙げています。それはあらゆる面において息子たちが卒なく運営をこなし、最終的に良い結果に結びつけていけることを、私たちは信じているからです。先日、私たちのテレビ番組がNetflix(インターネット上の放映チャンネル)でも観られるようになったことを息子のダンが教えてくれました。それを聞いて、私はとても驚きました。Netflixで放映できるなんて、より大勢の人に神様を伝えていけるまたとないチャンスです。この件についても、私が運営に関わることなく全て実現されました。なぜなら放映関連の運営も、今では他の人に全てを任せているからです。

また別の日には、もう一人の息子デイビッドが数枚の写真を手に私の元を訪れました。その写真には私たちのミニストリーが経済的に支援し、運営の監督にも関わっているタンザニアのプロジェクトの様子が収められていました。その写真を見た時、私はとても驚きました。そして、多くの人に支援の手を広げていくことのできる喜びを共に味わうことができたのです。しかし、今回のプロジェクトを実現させる過程において、私が気を揉むようなことは一度もありませんでした。

このミニストリーにおいて、息子たちはかけがえのないパートナーです。もちろん、デイヴも私も引き続き活動には大きく関わっていますが、膨大な仕事量に押し潰されそうになったり、そのために苦しくなったりすることは全くありません。また、不安や心配事を抱えて落ち込むこともなくなりました。私たちの心は安息の中にあるのです！

私たちが全てを神様の安全な手の中に委ねることで、神様は嬉しいサプライズを与えてくれます。神様は私たちの人生のパートナーになりたいと望んでいます。私たちが神様とパートナーになる時、私たちの心は完全に休むことができます。聖書によると、私たちは神様と友好関係を築き、共に歩むために呼ばれています。1コリント1:9にこう書かれています。

第2章 - 信頼は心の安息を与えてくれる

この神の約束は確かです。神様は〔誠実で、信頼に値し、約束事に対して忠実で、頼れる存在であり、〕いつでも、語られたことをそのとおりに実行されるからです。この神様があなたがたを、神の子、すなわち主イエス・キリストとのすばらしい交わり〔、そして共に歩む友好関係〕に招き入れてくださったのです。

(JCBより一部強調)

神様と関係を持つということは、ただ毎日聖書を読み、毎週教会へ通い、ある程度の額の献金をして、時々良い行いをするということではありません。それでは単なる宗教に過ぎません。イエスを信じる信仰によって持つことのできる神様との関係は、神様とパートナーになるということなのです。私たちが神様を信頼する間、神様は私たちに必要な能力を与えてくれます。そして、その与えられた能力を私たちが活かすことを、神様は望んでいます。また、手に負えないような問題に私たちが直面した時のために、神様はいつでも助けるスタンバイをしています。ですから私は、あなたにお伝えしたいのです。あなたがベストを尽くせるように、神様が助けてくれることを信頼して、神様が残り成し遂げてくれることを信じてください。

*あなたがベストを尽くせるように神様が助けてくれることを信頼して、
神様が残り成し遂げてくれることを信じてください。*

心の平安

神様に信頼を置く時、神様は私たちの心に平安を与えてくれます。一日を通して、私たちの心には数え切れないほど多くの思考が駆け巡ります。それによって、時には不安になったり、心配したりします。今朝、私はある人と時間を過ごす機会があったのですが、その人はとても静かで、あまり私と話をしたような雰囲気ではありませんでした。そこですぐに、私はこう思ったのです。「もしかしたら彼女、私のことあまり好きじゃないのかしら。」その瞬間、私はその場の状況を変えるために「何とかしなくちゃ」と思いました。しかし、どうすれば良いのか、実際には分からずにいました。

揺るぎない信頼

どうすれば良いのか見当すらつかないような状況で、「何とかしよう」と自分に頼ってしまうと、ストレスが蓄積され、次第に心配や不安、時には恐れさえも感じるようになります。あなたにも、何かを“直さなければ”と思ってはいても、実際にどうすれば良いのか分からないと感じる出来事はありませんか？もしあるとしたら、今朝私がしたことをぜひ試してほしいのです。あの瞬間、私は神様にシンプルに祈りました「お父さん、〇〇さんとの関係をあなたの手の中に委ねるわ。だから、この状況をあなたのベストな形へと造り変えて。」そうしてその状況を全て神様に委ねました。するとすぐに、心の中に平安が戻ってきたのです。

それから間もなく、息子たちから電話がありました。その時、受話器の向こうに感じられる雰囲気から、息子たちの様子がいつもと違うことを察しました。何か私にできることはないかと尋ねたのですが、彼らはただ「大丈夫」と答えるだけでした。その瞬間、私は心の中でこう思ったのです。「一体どうしちゃったのかしら？誰かと口論でもしたの？体調でも悪いの？何があったの？」私はそのようにして、重荷を背負ったまま一日を過ごす準備をしていました。しかし次の瞬間、この重荷を全て神様に委ねれば良いことを思い出しました。実際に何が起きているのか、事の全てを把握しているのは神様だけ。そして、その状況を正すことができるのも、神様だけだと気付いたのです。

そこで、私はこう祈りました。「天のお父さん、〇〇が今日、良い一日を過ごす決断ができるように助けて。悲しむのではなく、自分がこんなにも祝福されていることを感謝できるように、〇〇の目を開かせて。」そう祈り終わると、間もなくこんなメールが届きました。「何だか気持ちはずいぶんスッキリしたよ。ありがとう。愛しているよ！」

これと似たような状況を、私たちは日々の中でいくつも体験するでしょう。どのように神様に信頼すれば良いのかを知らずに、全ての心配を神様に委ねないままであれば、ストレスが溜まるのも不思議ではありません。私自身も、人生の大半をそんな風に過ごしてきました。でも今はこうして、自分の心配事を神様に委ねること

第2章 - 信頼は心の安息を与えてくれる

ができ、心は感謝でいっぱいです。

あなたの生活に起こる全てのことについて神様と語り合い、一日を神様と共有してみてください。祈りとは、シンプルに神様と会話をするということです。ですから、祈りを義務として捉えないでください。私たちの人生のあらゆる面で神様に介入してもらうことが、祈りなのです。あらゆる面とは、私たちの平安を奪ったり心配を感じさせるようなことも含まれます。

自分の頭に巡る思考をコントロールすることなんてできない、といった考えに騙されないでください。もし、今頭の中の考えが心配事や不安だとしたら、あなたは他のことを考える選択ができるのです。聖書では、誤った考えを締め出し、それらを抑えてイエスに従わせるようにと教えています。(2コリント10:5より)私は一日を通して、自分の行動の全てや心配事についてイエスと語り合うようにしています。そうすることが、イエスとの関係に留まるためのベストな方法の一つであることに気付くことができました。また、イエスの存在を楽しみ、同時にイエスの助けを受け取ることもできるのです。

イエスが問題に直面した時、彼は何を考えていたと思いますか？聖書には、イエスがどのようにそれらを対処したかを描いたシーンがたくさんあります。その中でイエスは毎回、天にいるお父さんを信頼する選択をしました。十字架にかけられ、お父さんに見捨てられたと感じた時も、イエスは「父よ。わたしの霊を御手におゆだねします！（ルカ23:46 JCB）」と言いました。その時はイエスにとって最も辛い瞬間でしたが、激痛と苦しみの中にあっても、彼は神様を信頼したのです！

また聖書には、イエスがボートに乗っている最中に、ひどい嵐が押し寄せて来た時の様子が記されています。同じボートに乗っていた弟子たちは大慌てになり、そして弱気と恐れでいっぱいになっていました。しかし、イエスはそのまま船尾で居眠りを続けていたのです。弟子たちは急いでイエスを起こし、事の重大さを説明しましたが、イエスは「どうしてそんなにこわがるのですか。まだわたしが信じら

揺るぎない信頼

れないのですか。[揺るがない信頼はどこにあるのですか。](マルコ4:40 JCBより一部強調)」と答えたのです。

神様は、私たちに信頼して欲しいと思っています! 私たちには、神様を信頼するという選択肢が与えられているのです。ですから、不安が心に忍び込んできたら、どんな時でも神様を信頼する選択をしていきましょう。惨めな思いをしなくても良いなら、惨めな思いをする方を選ぶ必要はありません。

もし求めたものが与えられなかったら?

「求めたものが与えられなかったらどうしよう?」そんな恐れが、神様を信頼していく上で障害となる根源の一つだと、私は思います。多くの人は「欲しいものを手に入れるには、自分の力で何とかするべきだ」と考えるでしょう。しかし、その「もし与えられなかったら」という恐れこそが、私たちが何かしらを完全に信頼することを妨げてしまうのです。

幼い頃、私はとても自己中心的な両親に虐待されて育ちました。そのため、私のためを思って行動してくれる人など、この世には誰もいないと感じていました。「自分のことは自分でする。助けてくれる人など誰もいないのだから!」それが私の態度でした。もしかしたら、あなたにも同じような態度を持った経験があるかもしれません。しかし私と同じように、そんな態度で生きたとしても、そこにはただ惨めさしか残らないことを体感したのではないのでしょうか。

私は当初、夫のデイヴのことすら信頼しようとしていませんでした。そのため、どれだけ彼を傷つけてしまったことでしょう。しかし私は、彼が自己中心的な選択をすることはないと、どうしても確信することができなかったのです。彼が私を愛していることは信じていました。しかし、私の両親も私を「愛している」と言っていたのに、愛とは真逆の仕打ちしか返ってこなかったのです。

第2章 - 信頼は心の安息を与えてくれる

神様の無条件の愛を信じるまで、私は誰のことも信頼できずにいました。しかし、たとえ誰かに傷つけられたとしても神様が私を癒し、安心させてくれるのです。神様はいつも私たちのために思い、最高な人生の計画を用意しています。私たちはそう信じることで神様を信頼し、人々を信頼できるようになっていくのです。

神様はいつも私たちのために思い、最高な人生の計画を用意しています。

神様を信頼したからといって、自分の欲しいものが必ず手に入るというわけではありません。しかしながら、それは神様が更に良いものを用意しているからなのです。実際に、私も欲しいものを神様に求めて、それが与えられなかった経験を何度もしました。もしあの時に求めたものが与えられていたとしても、それは必ずしも私にとってベストな結果ではないと後になって気付くのです。自分の欲しいもの以上に神様が用意したベストを求められるようになれば、私たちはどんな状況でも心に平安を持つことができるようになります。

イエスは苦痛に満ちた死を目前にして、ゲッセマネの園で神様にこう祈りました。その姿勢は私たちに完璧な模範を示しています。

「父よ。許していただけるなら、どうぞこの恐ろしい杯を取り除いてください。ですが、わたしの思いどおりにではなく、[どんな時でも]あなたのお心のままになさってください。」

ルカ22:42 (JCBより一部強調)

心に平安を持てるかどうかは、たとえ自分には理解できなくても、神様の考えが自分の考えより優っていると信じることによって決まります。私たちには自由に選択できる権利が与えられています。そのため、自分の望む通りに人生を生きようとする選択肢が私たちにはあります。しかし、感謝すべきことに、もう一つの選択肢があります。それは、神様の主権と偉大さに信頼を置くことです。預言者イザヤはこう表現しています。「その主権は増し、平和は絶えることはありません。(イザヤ

揺るぎない信頼

9:7JCB)」人生の主導権を神様に委ねれば委ねるほど、私たちはより豊かな平安を味わうことができます！

あなたの人生の運転席に座っているのは誰？

人生が思い通りに行かない時に神様を信頼せずにいると、私たちは人生の運転席にいる神様からハンドルを横取りして、あれこれと指示し、「自分の思い通りに人生を進ませてくれ」と神様に強引に迫りやすくなります。しかしその結果、残念ながら、どんなに優れた人であっても溝にはまってしまい、感情面や霊的な面でダメージを負うことになるのです。それならいっそのこと、神様に運転してもらう方が良いと思いませんか？

最近、とある十代の2人の少女が一緒に過ごしていた時の出来事を耳にしました。一人の少女はとても衝動的で、よく考えずに行動するタイプでした。助手席に座っていた彼女は、運転席に座っていたもう一人の少女と席を代わりたくて突然言い始め、走行中に移動し始めました。その時、運転席の少女は交代を拒否しましたが、最終的には諦めて一緒に走行中の交代を試みたのです。その直後に車は溝にはまり、車体はひどく破損してしまいました。

運転は神様に任せることをお勧めします。神様があなたのために定めた目的地まで運転している最中に、ハンドルを横取りしようとししないでください。先導は神様に任せて、神様に従うことを学びましょう。それが最も賢くて、安全で、喜びに満ちた人生の歩み方なのです。

それではここで少し休憩して、次の質問について考えてみましょう。

- あなたの人生の運転席に座っているのは誰ですか？
- あなたは心の平安をどれくらい味わっていますか？
- 何かを心配するあまり心に平安がなくなり、一日を無駄にしてしまうことはど

第2章 - 信頼は心の安息を与えてくれる

のくらいありますか？

・「求めるものが与えられなかったらどうしよう？」という恐れから、神様を信頼することを難しく感じてはいませんか？

・「もっと心に平安が欲しい」と思っていますか？

・「もっと人生を楽しみたい」と思っていますか？

これらの質問に正直に答えることで、あなたがどれだけ神様を信頼してるかを見極めることができると思います。たとえ、自分がまだ神様を十分に信頼できていないと気付いたとしても、自分を責める必要はありません。今この瞬間で心配するよりも、信頼する決断をすれば良いのです。ぜひこの聖書箇所について、考えてみてください。

神を信頼し、[全てを委ねて主に抛り頼み、揺るがない希望を持ち、自分の意思と品性の両方において]いつも主のことに思いをはせる者を、神は何の心配もないように守ってくださいます。[そして神は、終わることのない完璧な平安を与えてくれるのです。]

イザヤ26:3 (JCBより一部強調)

ここで新しい祈り方をお勧めします。ただ神様に自分の望みを伝えるだけでなく、加えてこう祈るのです。「もしそれが私にとってベストでないなら、どうかそれを与えないでください！」

私はこれまでに、何度も欲しいものを手に入れるために努力し、やっと得たはずなのに、結局は満足できず、しかもそれを手に入れたことで状況が悪化してしまったような経験をしてきました。(もしかするとあなたも同じ経験があるかもしれません。)もしくは、自分には高額すぎるものを諦めきれずに購入し、その結果、借金の返済によるプレッシャーに追い詰められる経験をしたことのある人も多いのではないのでしょうか。または意見の食い違いから夫や妻と口論になり、最終的に自分の思い通りになったとしても、そこにたどり着くまでの精神的な苦痛を思えば、本当

揺るぎない信頼

にそれが意味のあることだったのだろうかと感じた経験のある人もいるのではないのでしょうか。

自分の欲しいものを手に入れることに平安を感じないのであれば、それはそこまで手に入れる価値がないかもしれないということを、私は学びました。聖書も、最終的な決断をする時には、心に平安があるかないかで判断するように教えています。(コロサイ3:15より)私自身、長年に渡る精神的・感情的な混乱の時を経て、平安こそが本当に価値のある人生の必要要素であることを学びました。私たちはどんな時でも、心に平安を保つことを何よりも優先するべきなのです。

*自分の欲しいものを手に入れることに平安を感じないのであれば、
それは私たちにとってそこまで価値がないものかもしれません。*

神様を信頼することが難しいと思ったら、自分自身にこう問いかけてみてください。「神様を信頼したら、求めるものが与えられないのではと、不安に思っている？」もしそうだとしたら、あなたはその時点で、信頼と平安が欠けている原因を突き止めたも同然です。

私たちは、自分の望みを叶えることをつい優先し過ぎてしまいます。しかし、自分の欲を満たすことにどれだけ時間を費やしても、最終的には本当の満足を得られないことに気付くだけなのです。

神様の思いだけが、私たちを完全に満足させることができます。私たちは神様のために造られ、神様の目的のためにデザインされました。それ以外のもので、永遠に続く満たしを私たちに与えられるものは、この世には存在しません。若い頃の私たちは、自分の望みを叶えることが人生において最も重要なことである、と思うでしょう。しかし、歳を重ねるごとに経験値も増え、やがてはこう言えるようになりたいものです。「私が求めるものではなく、神様が与えてくれるものを受け取りたい。」なぜなら、神様の計画の中にいること以上に優れた場所などないのですから！

第3章

誰を信頼すれば良いの？

「おおよそ〔虚弱な存在である〕人を頼みとし〔虚弱で人間的な〕肉なる者を自分の腕とし、その心〔と思い〕が主を離れている人は、〔邪悪に〕のろわれる。」

エレミヤ17:5（口語訳より一部強調）

「今の時代、信頼できる人なんて一人もいない。」それは、現代の人々がよく口にするフレーズです。きっと多くの人が、ついそう思いたくなるような経験をしたことがあるでしょう。しかしながら、「信頼できる人なんて一人もいない」というのは事実ではありません。むしろ、そのように皮肉っぽく考えるのは危険です。

時代の流れと共に、信頼できる存在との出会いはますます少なくなってきているように感じます。しかし、人々を疑い、不信感を持って生きる人生など、私は受け入れたくありません。その人を信じるべきでないという明らかな根拠がない限り、私はどんな時でも相手のベストを信じ、信頼する決心をしました。この決断は、これまでの人間関係の経験に基づいたものではありません。

7歳になる時点で、私はすでに自分の両親を信頼することができなくなっていました。父も母も、自分以外の存在を思いやれないような、虐待的な人たちだったからです。親戚に助けを求めても、返ってくる言葉は「この件には関わりたくない。私たちには関係ない。」という言葉だけでした。そんな親戚たちのことも、私は信頼できませんでした。

やがて十代になってからも、悲しい体験は続きました。その度に、まるで何か私に向かって「信頼できる人なんて誰もいないんだよ!」と叫んでいるかのようで

揺るぎない信頼

した。18歳の時に、ある若い男性と結婚しました。彼はとても不誠実な人で、盗みを働いたあげく、最終的には刑務所行きになってしまいました。きっと中には、誠実で信頼できる人との出会いもあったはずですが、私はいつも自分を傷つけた人たちに対して怒りを抱えていたので、そのことばかりを考えていました。

23歳になり、私はデイヴと結婚しました。その頃から教会へ通うようになり、「教会の人たち」との関わりが増えたので、「この人たちなら、信頼してもきっと傷つけられることはない。」と思うようになりました。しかし、現実はそうではありませんでした。実を言うと、これまで経験した傷や失望の中でも特にひどかったものは、クリスチャンの人たちから受けたものです。（「分かる！」と言う声が今にも聞こえてきそうです。）あなたにも私と同じような経験や、今までの人間関係の中で起きた苦々しい話があるかもしれません。

私たちも含め、人間には欠点があります。そのことに気付かずに生きていたら、やがて深く失望するはずです。イエスは強い者のためにではなく、弱い者のために地上へやって来ました。私は、そんなイエスに心から感謝しています。私自身も、常に憐れみと赦しが必要です。そして、私は、自分が憐れみと赦しを受け取っているからこそ、人に対しても、憐れみと赦しを惜しみなく注いでいくべきなのです。

「信頼」に関連するニュース（むしろ「信頼の欠落」と言った方が正しいかもしれませんが）は、近頃メディアでもよく取り扱われます。祭司による性的虐待の告発の報道も多いように感じます。また、エンロン事件（2001年10月に発覚したアメリカの大企業による巨額な不正事件）では、何千もの人々が長年の蓄えを騙し取られていたことが報じられました。信頼の置きそうな政治家に投票しても、公約を実行しないことで私たちは失望させられることがあります。

良い人と悪い人を、どのように見分けられるのでしょうか？信頼に値する人と、そうでない人を区別する方法はあるのでしょうか？信頼できる人は誰でしょうか？これらの問いに答えるのは、大変難しいことです。たとえ自分を養育し、世話を

第3章 - 誰を信頼すれば良いの？

する立場にある人ですら、信頼できないことだってあるのです。ある若い女性は、父親から虐待されていました。しかし、なんとその父親は誰からも尊敬される教会の執事だったのです。家族を含め、誰もが彼を誠実と信頼の象徴であると考えていました。しかし、彼の本当の姿は、偽りと悪のかたまりであることが明らかになったのです。

アーウィン・W・ラッツァー博士は、自身が執筆した「Who Can We Trust? (誰を信頼すれば良いのか?)」の中でこう語っています。

なぜ人は信頼に値しないのでしょうか？私たちは誰しも理性によって動かされていると信じたいものですが、実際には自分の身勝手な欲望によって動かされています。しかしそれでも、人から良く思われたいという気持ちが強いので、自分の心と正直に向き合うことを無視して、私たちは外見を取り繕うことに特段の注意を払ってしまいます。実のところ、そのような人たちは他者を欺くだけでなく、最終的には自分自身をも欺くことになるのです。自分自身を欺いてしまうと、私たちはやがて邪悪さを帯び始め、自分の病んだ思いを守るために自分の周りの人たちを傷つけながら生きようになるのです。

確かに、信頼できる人を見極めるのは至難の技です。例えば、いつの時代も不倫などの性的な罪は大きな問題ですし、試験の最中にカンニングをする学生はたくさんいます。従業員が会社のものを盗むこともあります。リストに挙げればきりがありません。より小さな規模で言えば、職場において、全ての社員や従業員が、誠実に業務をこなしているとは限りません。約束した相手が、時間通りに約束を守る保証もありません。このような時代にあって、私たちは一体どう生きるべきなのでしょう？

ひねくれた態度を選んで、「今の時代、信頼できる人なんていない」と不信感を露にすれば良いのでしょうか？それとも、「信頼するべきではない。」と根拠のある明らかな理由がない限り、人々を信頼し続けるべきでしょうか？私だったら、人々

揺るぎない信頼

を信頼する方を選びます。誰かに傷つけられた過去を理由に、いつも人を疑いながら生きる人生なんて受け入れたくはありません。

目を大きく開いて信頼する

私たちが唯一心から信頼できる存在は神様だけです。その信頼を人々に置くことなく、私たちは人々を信頼することができるのです。この件について、イエスは次のように語っています。使徒ヨハネは、その内容をこう記しました。

しかし、〔ご自身に関して〕イエスは、ご自身を彼らにお任せにならなかった。なぜなら、イエスはすべての人を知っておられたからであり…

ヨハネ2:24（新改訳より一部強調）

ここで、「イエスは誰も信頼しなかった」ではなく、「自分自身を彼らに任せなかった」と書かれていることに着目してください。一体どういう意味でしょうか？イエスは、「誰も自分のことをがっかりさせたりしない」とは考えていませんでした。だから、人々の手の中に、自分自身を完全に委ねたりすることは決してなかったのです。

また、イエスはご自身で、人のうちにあるものを知っておられたので、人についてだれの証言も必要とされなかったからである。〔つまり、人の性質について、誰からも教わる必要はなかった。〕

ヨハネ2:25（新改訳より一部強調）

イエスは、人の性質とその弱さをよく理解していました。そんな彼らの弱さに強さを与え、罪と失敗をすべて赦すためにイエスは地上にやってきたのです。もし平安が欲しいなら、私たちもイエスと同じように、人について正しく理解する必要があります。

この世の中で、「周りの人を一度も傷つけずに生きてきた」と言える人は誰も

第3章 - 誰を信頼すれば良いの？

いません。同じように、「一度も傷つけられずに生きてきた」と言える人もいないでしょう。私たちはみんな、人間特有の弱さを体験します。私自身も、意図的に人を傷つけるつもりはなくても、誰かを傷つけてしまうことがあります。だからこそ、人間関係を築く上で大切なことは、傷つけられてもすぐに諦めず、信頼を築き続けようとする姿勢なのです。

だから、私は目を大きく開いて、人々を信頼していこうと決心しました。つまりそれは、「失望させられることはない」と思い込まないということです。時には、神様との関係においても、自分の思い通りにならなくてがっかりすることもあります。しかし、「私のがっかりすること」と、「神様が私をがっかりさせること」には、大きな違いがあります。私たちは、自分自身の誤った期待が原因でがっかりするのであり、それは決して神様のせいではありません。聖書には、神様に望みを置く人は、決して失望することはないと明確に記されています。(ローマ5:5より)

「私のがっかりすること」と、
「神様が私をがっかりさせること」には、大きな違いがあります。

誤った期待

私たちが落ち込む時、それはどこまでが人のせいで、どこまでが自分のせいなのでしょう？とても面白い質問ですね。私は先ほど、「神様は決して私たちを失望させない」と言いました。時には、神様がしたことや、しなかったことについて落ち込むこともあるでしょう。でも、そこで落ち込むのは、私たちが誤った期待を抱いていたからであり、決して神様のせいではありません。つまり、神様が与えようと意図するものではなく、自分勝手に欲しいものを求めていたので、期待が外れるとがっかりするのです。

「誰も自分を傷つけたり、がっかりさせるはずはない」という考えは誤った期待です。なぜなら、完璧な人間など、この世には存在しないからです。私たちは、相

揺るぎない信頼

手が自分の思いを察して、理解してくれることを望みます。しかし、それが上手くいかない、ついがっかりしてしまうのです。確かに、人に理解されないと悲しい気分になります。しかし、私とは考え方の異なるデイヴが私の気持ちを察してくれない時、それを責めるのは果たして正しいことでしょうか？私にとって重要なことでも、異なる性格を持つ彼にとっては、全く重要なことではないかもしれません。逆もまた然りで、彼と私の立場を入れ替えても同じことが言えます。もちろん、私が感じていることを彼に伝えれば、彼も愛する妻を理解しようと歩み寄ってくれます。しかし、彼は私が感じたのと同じ感情を実際に体験をするわけではないので、完全に理解するのは不可能なことなのです。

もし、女性が完全に理解されることを望むなら、なるべく自分と性格の似ている女性に話をする方が適しています。また、デイヴがスポーツについて誰かと熱く語り合いたい時、その話し相手に私を選んでも全く無意味です。彼の思いを尊重するために興味があるそぶりはできますが、私はスポーツに対する彼の情熱を実際に体験したことがないので、彼の興奮を理解することはできません。きっとこの先も、それは変わらないでしょう。

デイヴと私が結婚して50年が経ちます。今でも私たちが良い結婚生活を送られているのは、「相手にないものを期待しない」ことの大切さを、ずいぶん前に学んだからだと思います。もちろん、相手のために思って、苦手なことにチャレンジするのは可能です。しかし、中にはどうしても無理なこともあるでしょう。デイヴは、私が人生を楽しむことを望んでいます。しかし、私が私らしく生きられなかったら、人生を楽しむことはできません。それを彼はよく理解しているので、「彼が理想とする私」ではなく、「ありのままの私」を喜んで受け入れてくれるのです。それと同じように、私もありのままの彼を、喜んで受け入れています。私たちがそう考えられるようになるまでには、長い年月を要しました。その過程においても、誤った期待を相手に押し付け、傷つけ合い、失望するような経験を幾度となく経験しました。

イエスは、弟子たちにも自分をごっかりさせる可能性があることを知っていま

第3章 - 誰を信頼すれば良いの？

した。だから、彼らに失望させられた時にも、傷ついたり、取り乱したりするようなことはありませんでした。結局のところ、ユダはイエスを裏切り、ペテロはイエスを知らないと否定し、弟子たち全員も、イエスが祈りをもっとも必要としていた時に居眠りをしていました。それでも、彼らに対するイエスの愛は決して変わりませんでした。「お前は私を傷つけた。もう二度とお前たちなど信じるものか!」と、皮肉に満ちた言葉を放つことなど決してありませんでした。イエスは弟子たちに対して、誤った期待を押し付けていなかったのです。

もちろん、身近な人々が誠実に振る舞い、自分を意図的に傷つけないことを求めるのは誤った期待ではありません。しかし、「この人が失敗するはずなどない」と思い込むのは誤った期待です。単純に、人間は不完全な生き物なのです。

これまでの私の人生は、思い通りにいかないことだらけでした。それに対して、かつての私は失望し、怒りを抱きながら生きていました。しかし、ある時やっと気付いたのです。全てが自分の思い通りに進むことなんて、実際には片手で数えられるほどしかないのだということに。今の私は、むしろ想定外の出来事が起きる可能性があることを心に留めて日々生活しています。そうすることで、たとえ思いがけない事態が起きても、心に平安を保つことができるようになったのです。いつでも想定外の出来事を想定することには知恵があるのです。

想定外の出来事を想定することには知恵があるのです。

明るい方に目を向けよう

ここまで、信頼できない人々について話しましたが、信頼に値することを繰り返し証明している人々はどうでしょうか？私たちが言ったように、完璧な人など誰もいません。それでもなお、この世界には、類を見ない誠実さと正直さを持ち備えた人たちが存在するのです。そのような人たちは、自分の言動に責任を持つことができます。また、相手を意図的に裏切るようなことはしません。

揺るぎない信頼

私もそのような人々に出会う特権に恵まれ、彼らに感謝しています。今でも誰かに傷つけられると、昔の自分が顔を出し「誰も信用しちゃいけないって言ったでしょ？」とささやく声が聞こえることがあります。そんな時はいつも、私に希望を与えてくれた人々のことを思い出すのです。

どんな時も、苦々しくネガティブな側面ではなく、明るくポジティブな側面に目を向けることがベストなのです。心に平安を与えてくれる方と、平安を奪う方どちらかを選ぶとしたら、平安を与えてくれる明るい方に目を向けて、人生を最大限に楽しむべきだと思いますか？

霊によって見分ける力

聖霊から与えられる能力の1つに、霊によって見分ける力があります。(1コリント12:4-11より)それは、神様から与えられる超自然的な能力で、必要に応じて善と悪を見分ける判断力が与えられます。私も、そのギフトが与えられることを日頃から祈っています。自分には知る由もないような人の正しくない部分も、神様が気付かせてくれることを私は知っています。つい最近も、出会ったばかりの人に対して同じような感覚を持ちました。その人たちに会う度に、私は直感で彼らのことは信頼できないと感じました。最初は、そんな風に人を疑い、批判的になる自分を責めていました。しかし、2人の知人から別々の機会で、その人たちは見た目と本当の姿が違うことを聞いたのです。その人たちは、表面的には神様の教えを大切に、神様を中心として生きているように見せていたのですが、実際には正反対の生き方をしていました。

また、ミニストリーで雇用している一人に対して、同じような違和感を覚えたこともあります。明らかな理由もなく、その人と一緒にいることを居心地悪く感じるようになったのです。それから数ヶ月後、その人がきちんと業務をこなしていなかったことや、私たちに隠し事をしているのが判明しました。その時点で、私はすでに何かを感じ取っていたので、事実が明らかにされた時の衝撃はそれほど大きくありません。

第3章 - 誰を信頼すれば良いの？

せんでした。霊によって見分ける力は、不誠実な人々から私たちを守り、思いがけない出来事に備えて、私たちの心を準備してくれるのです。

しかしながら、私が誰かに違和感を覚えたり、居心地の悪さを感じても、その感覚だけを頼りに行動することは決してありません。なぜなら、自分の判断が間違っている可能性も十分あるので、それだけに頼って相手を裁いたり、心を閉ざしてしまうのは適切ではないからです。ただ、何かを事前に感じ取ることは、より気を付けながら、注意深く見るきっかけをくれます。そして問題があれば、神様が示してくれるように祈ると、神様はいつでもそのようにしてくれます。霊によって見分ける力を、日々祈り求めていきましょう。そのギフトによって、人から騙されたり、傷つけられたりすることを回避できるようになるはずですよ。

真の霊的な人は、霊によって見分けられる人なのです。

聖霊をいただいている人は、すべてを見抜きます。[すべてを観察し、調べ上げ、追求し、問いかけ、判断します。]・・・

1コリント2:15 (JCBより一部強調)

神様を信頼して!

残念ながら、いつも人を信頼することはできません。でも、神様のことは、いつも信頼して大丈夫なのです!天のお父さんである神様は、どんな時でも自身が信頼に値する存在であることを、私たちに繰り返し証明してくれました。

しかしながら、私たちの内側には向き合うべき疑問があります。例えば、神様が全ての主権を握る良い神様であるのなら、なぜ最悪な状況を生きる人たちのために何もしないのでしょうか?また、私の傷に気付いていながら、手を差し伸べようもしない人を、なぜ信頼しなければならないのでしょうか?良い人の人生に、どうして悪いことが起きるのでしょうか?かつて邪悪な心の持ち主であった私の父

揺るぎない信頼

は、83歳まで長生きしました。それなのに、私は先日、幼い2人の子を持つ母であり、良き妻である37歳のクリスチャン女性の早すぎる旅立ちを見送らなければなりませんでした。なぜ邪悪な人が長生きして、善良な人が早く死ななければならないのでしょうか？

これらの疑問に対しては、きっと様々な考え方があると思います。しかし、どんなに自分が納得できる考えでも、他の人が同じように納得するとは限りません。この本の後半で、知恵を絞ってこれらの疑問に答えていきますが、ここで改めてあなたにお伝えしたいことがあります。それは、「神様に信頼したいのなら、全てを完全に理解できなくても、とにかく信頼する決断が必要である」ということです。神様に完全に信頼するということは、答えのない疑問が湧き上っても、とにかく神様に信頼し続けるということです！私たちは答えを知らないかもしれませんが、「神様が全てを知っているから大丈夫」という信仰の上に休息すれば良いのです。

神様に信頼することは、私たちに与えられた大きな特権であり、自分で選択すれば選べるものです。私自身、長い間多くの疑問を抱えてきましたが、最終的に行き着いたのは、神様に信頼するという決断でした。幸せな人生を歩むための方法は、神様に信頼すること以外にはないと気付いたのです。神様こそ、私の信頼に値する存在です。これまでの人生、様々なものに信頼を置いてきましたが、最後まで私を裏切らず、失望させないものなど一つもありませんでした。だから、私は神様に信頼を置く決断をしたのです。自分自身に信頼を置くことも試みましたが、それは悲惨な結果に終わりました。周りの人々に信頼を置くことも試しましたが、どんなに素晴らしい人でも、結局は完璧ではないことを知りました。政府に信頼を置くことも賢い選択ではありません。株式市場や年金にも、信頼を置くべきではありません。そうやって様々な選択肢を考え抜いた結果、やはり神様に勝る存在などないことに気付いたのです。私は神様に信頼を置いて生きていくと決めたのです！

面白いことに、今こうして最後の文を書いた瞬間、私の内側に大きな喜びが弾けるのを感じました！私たちが神様に信頼する時、神様はそれを喜んでいること

第3章 - 誰を信頼すれば良いの？

が私には分かります。人々の内側に住んでいる神様がそれを好んでいるので、神様が喜べば私たちも喜ぶのです。

最近、自分には喜びがないと感じていますか？もしそうだったら、自分が今、何を信頼しているかに目を向けてみてください。パウロはローマ人に宛てて書いた手紙の中で、喜びと平安は信じることから始まると言いました。(ローマ15:13より) 私はこの原則を実際に試したので、それが本当であることを知っています。神様に信頼して、神様のことばと約束を信じる時、心には平安と喜びが湧き上がり、人生を楽しいと感じられるようになります。それとは反対に、神様に信頼しないと、心の中は疑いや恐れ、心配、不安で溢れ返るのです。やがてストレスは蓄積され、望んでもいない重荷を背負う羽目になるのです。

私たちには、2つの選択肢が与えられています。一つは、神様に信頼すること。もう一つは、神様に信頼しないこと。どっちつかずの中途半端な決断では、その祝福を100%味わうことはできません！しかし、先ほども触れたように、全てについて神様の前で正直になることが何よりも大切です。見せかけだけで取り繕っても、神様との関係は成長しません。もしあなたが神様に信頼できずにいて、それでも神様に信頼したいと望んでいるなら、こう祈ってみてください。「お父さん、私があなを信頼できるように、あなたが助けてくれると信じます。」

神様はいつでも、ありのままのあなたと向き合い、あなたが進むべき方向へと導いてくれます。それこそが、神様からの良い知らせ（ゴスペル）なのです！

*お父さん、私があなを信頼できるように、
あなたが助けてくれると信じます。*

第4章

自分自身を信頼することの愚かさ

それは私たちが不変の価値がある何かを、自分の力でできると考えているからではありません。私たちの力も成功も、ただ神から来るのです。

2コリント3:5 (JCB)

「神様を信頼するか、それとも自分自身を信頼するか。」このことを魂が問い続ける限り、この議論はいつの時代にも巡り続けます。人類は、神様の必要性を認める考えと、常に戦い続けてきました。

全ての人、特にクリスチャンは、それぞれ与えられた才能を最大限に活かし、必要に応じて様々な決断をする必要があります。私たちは人生の舵を自分で取り、非常事態に直面するまで神様の存在を無視しながら、気の赴くままに生きるためには呼ばれていません。

自分自身を信頼して生きようとしても、最終的には精神的・感情的・身体的な疲労と、人生に対する失望感と幻滅、もしくは行き場のない怒りを抱えて混乱するだけです。

ヨシュア24:15は、私たちが何を選択すべきかを教えてくれています。その選択は今でも、神様を信じる人にとって一番に選ぶべきものです。

もし主に従いたくなければ、たった今、だれに従うかを決めなさい。ユーフラテス川の向こうで先祖が拜んでいた神々であろうが、この地に住むエモリ人の神々であろうが、好きに選ぶがいい。しかし、私と私の家族とは、あくまでも主に仕える。

揺るぎない信頼

(JCB)

今日、私があなたに伝えたいことの中で、一番重要なことはこれです。「神様に仕えるかどうか、それを決めるのはあなた自身。その大切な選択をする上で、周りの誰かやこの世の中に左右されないこと。」

人生はたった一度きり。そんな貴重な一生において、あなたは誰を信頼しますか？世界の始まりと終わりを知る、唯一の存在である神様を信頼しますか？それとも、この世のやり方に頼って、自分のことだけを信頼しますか？

人生はたった一度きり。

そんな貴重な一生において、あなたは誰を信頼しますか？

自分自身を頼る(自己信頼) ってどういうこと？

自分自身に頼るということは、金銭や地位、権力、外見、所有物などの外的要因から幸せを得ようとすることです。人は、これらのものが自分を幸せにしてくれると思ひ込むと、がむしゃらになってそれを追い求めるようになります。しかし結局は、そこから本当の幸せは得られないことに気付き、多くの失望を味わうことになるのです。

以前、誰かがこんなことを言っていました。「人は皆、一生を費やして『成功』という名のはしごを登り切ろうと奮闘する。しかし、やっとの思いで頂上へ着くと、そのはしごが間違った建物に寄りかかっていたことに気付くのだ。」死の間際になって、銀行の残高を気にする人などいるのでしょうか。きっと誰もが家族や友人、そして願わくば、神様と一緒にいたいと願うはずです。

「別に、誰の存在も必要じゃない。自分のことは自分で面倒見れるから。」このように考えたことや、そう口にする人に会ったことはないでしょうか？私も数年の

第4章 - 自分自身を信頼することの愚かさ

間、同じことや似たようなことを口にしていました。しかし、ありがたいことに、私にも寄り添える人々の存在が必要だということ、そして何よりも、神様の存在が必要であることに気付きました。きっと先ほどのような考え方をする人たちは、過去に人からひどく傷つけられたり、イエスを通して与えられる神様との個人的な関係を体験したことがないのかもしれませんが。自分のことだけを信じ、自己信頼が最悪な選択であることに気付かずにいるのです。だからこそ、彼らは本当の神様と出会い、自分が神様によって造られた存在であること、また神様によって無条件に愛されていることを知る必要があります。

自分以外の存在など必要ないと思っても、神様は私たちが互いに必要とし合うように、私たちを造りました。それを好んでも好まなくても、私たちは他の人と寄り添い、共存してこそ、自分の能力を最大限に発揮することができるのです。私たちにはそれぞれ才能や能力が与えられています。一人の人が、この世の全ての才能や能力を持ち備えているということは決してありません。だからこそ、自分の持っていない才能を持つ人たちと共に歩み、助け合うことで、共に素晴らしいことを成し遂げ、人生を楽しむようにと神様はデザインしたのです。

悲しいことに、私たちは自分とは異なるやり方をする相手を受け入れる代わりに、相手を拒絶してしまうことで、人生の時間を無駄にしていることがよくあります。その結果、お互いの人生に豊かさを加えるチャンスを逃してしまっているのです。最も大切なことの一つは、私たちみんなが一人一人の人間の価値について知ることです。相手も完璧ではないので、良い人間関係を築くには時間と努力を要します。それでも、関係を築く価値は大いにあるのです。

過去に誰かから傷つけられたからといって、全ての人があなたを傷つければ決して思わないでください！周りから孤立して、心を閉ざして生きるよりも、人々を信頼して、たまに傷を負う方が良いです。人間関係における経験から、私も心の周りに城壁を建て、誰のことも迎え入れようとせずにいました。人との関わりはありましたが、相手との良い関係を築くよりも、相手から拒絶されないために気を遣っ

揺るぎない信頼

てばかりいたので、私の持っていた人間関係は健康的な状態ではありませんでした。しかし感謝すべきことに、その後、神様との関係を通して、神様のことばの力を体験し、私は再び信頼することができるようになりました。

過去に誰かから傷つけられたからといって、
全ての人があなたを傷つけるとは決して思わないでください!

もしあなたが傷ついているのであれば、神様はあなたの傷ついた魂を癒そうと待っています。神様は私たちの砕けた心を癒し、悲しみの代わりに喜びを与えてくれるのです。(イザヤ61:1-7より) 神様があなたを守る囲いになってくれます。決して傷つかないという保証はしていませんが、私たちを慰め、癒し、解放すると約束してくれています。次の聖書のことばをゆっくり時間をかけて読み、深く考えてみてください。自分自身に信頼するのではなく、神様に信頼する旅路の中で、このことばは私に大きな力をくれました。

王なるイエス・救世主(キリスト)の父である神に称賛があらんことを!神は心が広く、[憐みと情けに満ち、]私たちが苦難の中にいる時の深い愛情[慰めと励まし]の源だ!

試練[災難と苦痛]にぶつかるたびに神は私たちに愛情と力[慰めと励まし]を注いでくれる。それは、他の人が試練にぶつかったとき、私たちが神と同じ愛情を注ぎ、強める[慰め、励ます]ためだ。

2コリント1:3-4 (ALIVE訳より一部強調)

もし私が、今も傷ついた魂を神様に癒してもらっていなかったら、神様の助けと安らぎを受け取る方法について教えることなどできませんでした。神様はあなたにも重要な役割を与え、人々の助けになってほしいと願っているのです。もし、あなたがまだ傷を抱えたまま、過去から抜け出せずにいるのなら、今日から、神様の安らぎと癒しを受け取れることを祈ります。ただシンプルに、あなたの傷ついた魂が癒され、痛みが慰められることを神様に求めてください。

第4章 - 自分自身を信頼することの愚かさ

神様はただあなたを癒すだけでなく、あなたの人生で失われた数年間をも取り戻してくれます。神様に信頼を置く人たちには、過去の問題を倍に上回る祝福が約束されているのです。それは、一晩で起こるわけではありません。私たちが神様に信頼し続け、聖霊によって完全にされていく過程の中で、少しずつ起こっていくのです。イザヤ61:7にこう書かれています。

あなたがたは〔過去の〕恥に代えて、二倍のものを受ける。〔あなたの〕人々は侮辱〔と非難〕に代えて、その分け前に喜び歌う。それゆえ、その国で〔自分が奪われたものの〕二倍のものを所有し、とこしえの喜びが彼らのものとなる。

(新改訳より一部強調)

ここに記された神様の約束は、私の人生にも、また私が知る多くの人の人生にも実現しました。この約束がまだあなたの人生に実現していなかったとしても、実現する日は来ます。約束の実現を紐解く鍵は、神様に信頼し続けることです。

*神様はあなたを癒すだけでなく、
あなたの人生に失われた数年間を取り戻してくれます。*

愚かな者

旧約聖書の箴言は、知恵の原則について記された書です。著者であるソロモンは、多くの時間を費やして、知恵と愚かさのそれぞれの結末について教えています。知恵のある者にも、愚かな者にも、等しく約束が与えられています。知恵のある者には、導き、守り、長寿、健康、総体的な繁栄、昇進、栄誉など、思いつく限りのあらゆる祝福が約束されています。しかし、愚かな者には、それらとは真逆のものが約束されているのです。

箴言の中で、愚かな者は「自信過剰」や「自己信頼心」の強い人として描かれています。はっきり言ってしまえば、自分だけに頼る人は愚かな者であり、その結末

揺るぎない信頼

は決して良いものではありません。自己信頼心の強い人は、人からのアドバイスを受け入れることをしません。自分のやり方こそが正しいと信じているからです。そんな彼らが受け取るべき結末は、恥なのです。(箴言3:35より)愚かな者は物事を考えずに発言するので、その話しぶりから見分けることができます。また、正しく生きる人たちをさげすみ、嘲笑います。悪を愛し、正しいものを嫌うのです。愚かで自己信頼心の強い人が持つ有害な特徴の一つは、プライドです。彼らはプライドによって惑わされ、神様の声を聞くことを拒みます。

そんな愚かな人たちが、世の中にたくさんいます。彼らが変わらない限り、彼らは愚かさの実を刈り続けることになるのです。しかし、嬉しいことに、神様はいつでも新しい始まりを与えてくれる存在です。過去から抜け出すことを選択する人は、必ず抜け出すことができます。私自身も、長年に渡り自分のことだけを信じて生きてきましたが、神様の助けによって変わることができました。今では、自分には常に神様の存在と、人々の存在が必要であることを強く認識しています！私の人生に必要な人たちが神様によって与えられ、彼らと一緒に神様を信頼し続けることで、素晴らしいことが次々と起こると信じています。

たとえ熱心なクリスチャンでも、時には愚かなことをします。少なくとも、私はそうです。実は数か月前、じっくりと考えもせずに、長期間のある誓約を交わしてしまいました。今ではそれを後悔しています。神様の知恵を求めることに時間を費やさず、感情のままに決断してしまったからです。その後、私は神様の前で悔い改め、自分が誓約を果たせるように助けてくださいと祈りました。ここで断ったらさらに愚かですし、自分の判断ミスから何かを学びたいとも思ったのです。

何が言いたいかというと、人は誰も愚かな行動をしてしまう時があるということです。しかし、もし私たちの心が神様との正しい関係の中にあるのなら、神様は私たちの失敗を益に変えてくれます。しかしながら、たまに愚かな行動をしてしまったり、神様の知恵を求めずに自分で物事を決断してしまうことと、自分自身に頼って生きる愚かさは異なるものです。

第4章 - 自分自身を信頼することの愚かさ

聖書の中で、愚かな者が「自信過剰」や「自己信頼心」の強い人として描かれていることに気付いた時は、とても驚きました。自分自身を信頼することは、私たちの想像以上に大きな問題です。それは、神様が差し伸べる全ての助けを拒んでいることと同じなのです。私たちが自分自身に頼り、自分のことだけを信頼する時、そこから得る結果は、神様に信頼して得る結果よりも小さいのです！

全てを抱え込む必要はない

誰のことも信頼せず、自分にだけ頼る生き方は、大きな重荷を背負って生きるのと同じです。なぜなら、自分で全てを抱え込まなければならないからです。それを想像するだけで、どっと疲れを感じます！私もかつてはそんな生き方をしていました。信頼するという意味の一つに、「頼る」という要素があります。つまり、「何かに寄りかかる・それが頼れるものであるという確信を持つ・自分の身を委ねる・いつでも当てにする」ということです。何かに頼ることで、私たちの荷は一気に軽くなります。

もし、自分の中で「もう、このまま続けていくのは無理！」という叫びが聞こえていたら、それはあなたが自分の容量を越えて、多くのものを背負い過ぎているサインです。私たちにはそれぞれの限界があります。自分がどれくらいストレスを感じているかを知ることで、自分の限界を見極めることができます。私の場合、重荷を背負っていて、いつも疲れていたり、不平をこぼしたり、周りに対しても不機嫌でイライラしてばかりいるとしたら、それは自分が限界を越しているサインです。その時には、神様や神様が与えてくれる人々の助けが必要です。しかし、周りに頼る必要があったとしても、信頼の仕方がわからなければ、それは難しいことです。

今、あなたが抱え込んでいるものの全ては、本当に抱え込む必要がありますか？そもそも、それはあなたにしかやり終えることのできないものでしょうか？もしくは、他の人を信頼するのが怖いだけなのでしょうか？もしかしたら、「私がやらなければ」という使命感に存在意義(自分の価値)を感じてはいないのでしょうか？これら

揺るぎない信頼

の問いかけに正直に答えるには、自分の魂とじっくり向き合う必要があります。私たちは、本当の自分から身を隠すことが得意です。どれだけの人が本当の自分と向き合い、心に潜む本当の動機を理解しているのでしょうか？なぜ全てを自分で抱え込んでいるのか、その答えを知るのが怖くて、自問自答できずにいる人がいるかもしれません。私の場合、全てを自分で抱え込もうとした大きな理由はプライドでした。人に頼んでも、自分のように上手くこなせるはずなどないと思い込んでいたのです。（全く痛い話です！）

また、私には過去の経験から拒絶の根源が来ていました。そのため、「拒絶されたらどうしよう」という恐れから、素直に助けを求められずにいました。誰かに助けを求めても、答えが「NO」だったら、それは心地良いものではありません。他の大勢の人たちと同じように、私も自分の人生の根底に目を向けるのが怖かったので、自分が壊れる寸前までそれを続けていました。そこまで追い込まれて初めて、私はやっと神様に助けを求めたのです！

もし、あなたが崖っぷちの状態にいると感じているのであれば、まずはそこに踏みとどまり、神様に助けを求めてください。神様に助けを求める時、神様は私たちが直面しがたい真理を示し始めてくるかもしれません。正直、その真理を受け入れる時は痛みが伴いますが、真理を受け入れることで、私たちは自由を手に入れることができるのです。

今では、全てのことを自分だけで「やりたくない」と思うだけでなく、「できない」ということも理解しています！現実的にも、私の力でも、あなたの力でも不可能なのです。

神様を信頼することは、全ての癒しの始まりです。たとえ、神様のやり方が悪い方向へ進むのではないかと感じたとしても、私たちは神様のやり方を信頼する必要があります。癒しのプロセスは、時に病よりも多くの痛みを伴います。理解し難いことかもしれませんが、自分の魂に関する真理と向き合う時こそ、痛みをより感じ

第4章 - 自分自身を信頼することの愚かさ

やすいものです。私の魂は病んでいました。自分以外の存在を、どうやって信頼すれば良いのかわかりませんでした。恐れの中を生きていました。私のリュックの中には重荷でパンパンに詰まっていた、それをどんな時にも背負おうとしていました。こうして過去を振り返ってみると、今の人生がいかに素晴らしいかに気付かされ、喜びでいっぱいになります。当時の自分が抱えていたプレッシャーと比べると、今の私はとても身軽で自由です。それを可能にしてくれた神様の力と偉大さは、驚くほど素晴らしいものです！

神様を信頼することは、全ての癒しの始まりです。

私がここで、かつての自分についてお話したのは、まだ同じような境遇から抜け出せずにいる人が大勢いると思ったからです。このように自由を体験した話を聞いた誰かが、「全てを手放し、神様に委ねる」ことで同じ体験ができるということを知り、弱った魂が励まされることを私は祈っています。

神様に頼れば、神様は助けの手を差し伸べ、あなたの面倒を見てくれます！

世の中には、「自分には神様など必要ない」と考える人が数えきれないほど存在します。そのことを思う度に、私はショックを受けています。もし、人生の毎瞬ごとに神様の存在がなかったら、私は何事にも目的を見出せなくなってしまうでしょう。神様は、私たち人間が、神様を必要とするようにデザインしました。ですから、神様から離れてしまえば、私たちが完全に機能することは不可能なのです。中には「自分は大丈夫だ」と思い込んでいる人もいますが、いつか必ずその代償を払う日がやって来ます。最終的に崖っぷちに立たされる瞬間、できることなら、彼らがへりくだって、神様を受け取ってくれることを願うばかりです。

ここまで自己信頼について話してきましたが、何か自分自身に対して思い当たる節はありましたか？助けが必要だと感じたら、シンプルに神様に求めてください！人を助けることに関しては、神様が世界における一番の専門家です！そして、助

揺るぎない信頼

け主と呼ばれる聖霊が、いつも私たちと一緒にいてくれます。(ヨハネ14:26より)想像してみてください。神様から送られた専属の助け主が、常にあなたの側に立っているのです。せつかくですから、助けてもらった方が良いと思いませんか？全てのことを、あなたが一人で抱え込む必要など全くありません。実のところ、すでにイエスが全てのことをやり終えてくれたのです。信頼と信仰、そしてイエスを信じることで、あなたは安堵のため息をつき、肩ののしかかっていた重荷を下ろすことができます！

第5章

神様を信頼して良い行いをする(パート1)

主に信頼して〔主に寄りかかり、主に頼り、主に自信を持って〕善を行え。
そうすればあなたはこの国に住んで、〔確実に〕安き〔主の誠実さ〕を得る。
詩篇37:3 (口語訳より一部強調)

詩編37:3では、神様を信頼して良い行いをすれば私たちは養われるという約束が書かれています。「養われる」というのは、単に食べ物でお腹が満たされるということではありません。それは「魂の満足と喜びを味わうことができる」という意味なのです。もしかしたら、あなたには人生において変化を求めている分野があるかもしれません。しかし変化が起きるまで待っている間にも、あなたの魂は神様にあって喜ぶことができるのです。

神様を信頼することは、神様の子である私たちに与えられた特権です。神様を信じることで毎日をただ単に生きるのではなく、楽しみながら生きられるようになります。神様を信頼することは全ての人に与えられた選択肢であり、特権であるということ覚えておいてください。しかし、神様を信頼することで得られる祝福を余すことなく受け取るためには、単に信頼するだけでなく、同時に「良い行いをする」必要もあるのです。

今回の章は多くの読者にとって、この本の中で最も重要な章になるのではないのでしょうか。詩篇37:3に書かれている原則は、私の人生で大きな助けとなりました。また、あなたにとっても大切な原則であると思います。

神様を信頼するということは、「心配事を全て神様に任せて、あらゆる悩みや

揺るぎない信頼

不安を拒む」ということです。とは言うものの、「自分の責任を放棄する」という意味ではありません。自分が望む結果を手に入れるためには、神様の導きの中で与えられる役割を全うする必要があるのです。中には神様を信頼し、忍耐して待つことを、受け身な姿勢であると捉える人がいます。言い換えると、彼らは「神様が全てのことを実現するまで、自分は何もせずじただ待ち続ける」と考えるのです。しかし、それは正しい解釈ではありません。例えば、神様が仕事を与えてくれるのを信じて待つ人が、仕事を探さずじただ待ち続けているだけだったら、望む結果を手に入れる確率はとても低いでしょう。

これに関しては、エペソの教会へ宛てた手紙の中でパウロが分かりやすく説明しています。パウロは彼らに対して、「いつどんな攻撃にも対抗できるように備え、持ち場で堅く立ち続けるように」と励ましました。(エペソ6:13より)この聖書箇所から、「神様を信頼して良い行いをする」という原則を見ることができます。自分がすべきことや出来ることは自分に与えられた役割として受け止め、自分に出来ないことやすべきでないことは神様が成し遂げてくれると信じるのです。

私たちがまず最初にすべきことは、人生の全てのエリアにおいて神様を信頼することです。次にすべきことは、私たちの役割を神様が示す時、それを達成するために自分を準備することです。私は最近、「ニーズがある時の祈り方を変えるように」と神様から導かれています。これまでは「神様、あなたがこれを私のためにしてくれと信じます」という祈り方をしていましたが、今では「神様、あなたがこの状況において働いていることを信じます。その中で私がすべき役割があれば、どうか示してください」と祈るようになりました。ぜひ、このように祈ってみてください。神様の導きを知るためには、まず神様の声に耳を傾ける必要があるのです。

2015年1月1日のジャーナルで、私は体力の向上を神様に熱く求めていました。それから間もなくして、自分には毎日のウォーキングが必要なのだと感じるようになりました。その頃の私はすでに専属トレーナーの元で週3回の運動をしていましたが、それに加えてウォーキングも習慣にすべきだと思ったのです。そこで私は、

第5章 - 神様を信頼して良い行いをする(パート1)

毎日ウォーキングを続けるために必要なモチベーションと能力を与えてくれるように、と神様に求めました。するとその数か月後には、1日約8kmもの距離を歩く習慣が身に着き、以前と比べて体力も確実に向上していきました。それだけでなく、忍耐力や集中力もアップしていきました。おまけに元々の目的ではなかったダイエットにも成功し、私は感激しました。有酸素運動をプラスすることで、私の健康状態は大きく改善されたのです。

もっと体力を与えてくれるようにと神様を信頼したら、神様は私のすべきことを与えてくれました。それだけではなく、それを全うするために必要なモチベーションと能力も神様は与えてくれたのです。神様を信頼し、自分の役割を成し遂げるための準備をするなら、ゴールに向かって着実に進んでいることにあなたは驚くはずですよ。

*もっと体力を与えてくれるようにと神様を信頼したら、
神様は私のすべきことを与えてくれました。*

最近、私は目に関して気になることがありました。元々目が乾燥しやすいタイプなのですが、場合によってはやけどのようなひどい痛みを伴うこともあったのです。勧められた目薬は片っ端から試し、寝室には加湿器を置いた結果、多少は緩和されたものの、それでも苦しむことがありました。ミニストリーの関係で乾燥した地域へ行くと、症状は特に悪化していました。

今まで何度も症状の改善を求めて、祈ってきました。諦めずにまた祈ると、今回は「今まで以上に水分補給をなさい」と神様に語られているのを感じたのです。水分はすでに十分補給している、と私は思っていました!実は以前にも、色々な人から水分補給を勧められていたのですが、その点に関しては自分はしっかりできていると思い込んでいたので、そこまで真剣に受け止めてはいませんでした。プライドというのは、本当に面白いものです。せっかくのアドバイスですら受け止めずに退けてしまうのですから。人からアドバイスをもらったら、それについて神様の前で

揺るぎない信頼

考え、自分の内側に住む聖霊がどう反応するかに耳を傾けるべきです。神様は頻繁に、人々を通して私たちに語りかけます。その時に、私たちは謙遜な態度で聞く姿勢を持つべきなのです。

感謝すべきことに、神様は私たちのことを決して諦めません。神様はすでに人々を通して水分補給の必要性を伝えていましたが、聞く耳を持たない私のために、今度は直接語りかけてくれたのです。その後、特に乾燥した地域に滞在する場合は、これまでの倍の量を飲もうと決心しました。実際にどれくらいかという、1日に4リットル分です！ペットボトルをテーブルの上に常備して、1日を通して飲み終える習慣を始めました。すると案の定、目の乾燥は大きく緩和されました。完全に治ってはいませんが、以前と比べるとずいぶん良くなりました。これほどの水分を飲み終えるのは決して簡単ではありませんし、中にはそれができない日もありました。しかし、これまでも新しい習慣を身につけてきた経験から、何事も最初は難しいと感じても、継続すればライフスタイルになるものだとは確信することができました。

感謝すべきことに、神様は私たちのことを決して諦めません。

他には、不眠に悩まされた夜もありました。明け方近くになってもまだ眠れなかったので、神様に向かって「私は今日、何かやり残したこともあるの？」と尋ねました。すると、神様はすぐにある出来事を思い出させてくれたのです。その日、私はある人に対して、失礼で不親切な態度を取ってしまいました。私はそのことをすぐに神様に謝り、赦しを求めました。そして後日、先延ばしせずに、できるだけ早く相手に謝りに行きました。それからの夜は、すぐに眠りにつくことができたのです！

どんな時にも神様を信頼し、「良い行いをする」ことが私の人生の目標です。「良い行いをする」ということは、神様の導きの中で良いことを行動することであり、神様が示すことに速やかに従うということです。このことに関してはまた違う角度から見ることができそうですが、それについては次の章でお話したいと思います。この章では、聖霊の導きに速やかに従うことの重要性について、より掘り下げていきましょう。

第5章 - 神様を信頼して良い行いをする(パート1)

私たちの助け主

イエスが天に帰る時、彼はもう一人の助け主を私たちに送ってくれました。それこそが、聖霊です!ヨハネ14:16で、イエスはこう言いました。

わたしは父に、もう1人の助け手〔慰め主〕(カウンセラー、仲介者、支持者、力を与え、いつも味方でいてくれる存在)を送っていただくようお願いします。その助け手は、いつもあなたがたと共におられます。

ヨハネ14:16 (JCBより一部強調)

イエスが聖霊を送ったのは、いつも私たちに「寄り添い」、私たちの「内側に存在する」ためです。ヨハネ16:13によると、聖霊は私たちを導くガイドなのです。神様から送られた助け主がどんな時も一緒に歩んでくれるという考えが、私はとても好きです。あなたもきっと、想像するだけでワクワクしますよね。聖霊が常に一緒にいて、私たちを助けてくれるのですから、たった一人で人生を歩もうとしたり、全てを一人で抱え込もうとする必要などありません。聖霊は私たちがすべきことを示し、それを成し遂げるための力を与え、どんな時にも強めてくれます!ですから、いつも神様に拠り頼んでいきましょう。神様を離れてしまえば、私たちにできることなど何一つありません。(ヨハネ15:5より)イエスに自信を置き、イエスに拠り頼む時に、私たちは様々なプレッシャーから解放されていくのです。

神様が自分に何か特別な行動をとることを望んでいたとしても、その全貌が明らかになるまでに多少の時間が掛かることもあります。しかし、忍耐して待つ間にも神様を信頼し続けていれば、必ず神様の思いは示されます。以前、状況が神様によって対処されることを待っていた時に、私は「その状況に対してポジティブに語り続け、やがて神様のタイミングが来るのを信じて感謝をすること」が自分の役割であることを、心に感じました。それ以外にも、献金という形で何かを捧げたり、断食することを示された時もありました。ただひたすら賛美して待つようにと語られた時もあります。神様のやり方に際限はありません。ですから、「神様はこう働き、こう語

揺るぎない信頼

るはずだ」という思い込みを持つべきではないのです！

神様が私たちに語りかける時(導き、道を示す時)、私たちは自分がこれから進むべき方向や、心の中にある揺るがない思いに気付かされることがあります。神様に導かれたいと心から願う人々を、神様は導いてくれます！時には信仰の一步を踏み出してチャレンジしたことが、神様の道ではなかったことに気付くこともあるでしょう。そんな時には、諦めずにその失敗から学べば良いのです。

神様に導かれたいと心から願う人々を、神様は導いてくれます！

自分が神様に求められていないことをしている時、私は心の中に違和感を覚えます。その感覚が続いたら、それは軌道修正が必要なサインだということを私は学びました。また、どう軌道修正すべきか具体的に示されるまで待つことも身に着けました。それとは反対に、自分が神様に求められていることをしていると、心に平安と恵み、喜びが溢れ出すのを感じるのです。

あなたの人生の舵取りをしているのは誰ですか？神様が舵を取ってれば、人生は良い方向へ行くはずです。しかし、神様以外の誰かが舵を取っていたら、良い結果を得ることはできないでしょう。

神様に言われたことは実行しよう！

ある大きな集会の終了後、一人の女性が私のところに来ました。その時の会話がとても印象的だったので、今でも頻繁に話題に上がります。その週末、彼女は色々な女性たちから、神様の言うことに従って体験した奇跡の証について聞いたそうです。「ジョイス、彼女たちが神様から言われたのと同じことを、実は私も言われていたの。それをちゃんと実行に移して、彼女たちは問題に勝利したわ。でも私は実行に移さなかったから、同じ勝利を体験できなかったの！」この証からも分かるように、聖霊の導きに従うことこそが、私たちが前進に進み、問題を乗り越えるための

第5章 - 神様を信頼して良い行いをする(パート1)

鍵なのです。

これ以上シンプルに語ることはできません!それに関する良い例がヨハネ2章にあります。当時、カナンでは結婚式が行われていましたが、途中でワインが足りなくなってしまいました。そこでイエスの母は奇跡を求めました。5節で、マリヤは使用人たちにこう言いました。「あなたたちが〔イエスに〕言われたことは何でもやりなさい。」あなたは自分の人生の舵取りを、神様に完全に委ねられていますか?もし委ね切れていないなら、今それを人生の新しい目標にしてください。あなたはその決断を決して後悔しないはずです。

今、自分自身に対して正直に問いかけてみてください。「私は本当に神様を信頼している?神様に言われたことをちゃんとできている?神様に従うことを後回しにして、自分勝手な思いを握り締めてはいない?」神様に従おうとしない人が、神様を信頼することなどできるのでしょうか?私は不可能だと思います!きつい言葉に聞こえるかもしれませんが、神様の言うことに従って、行動を起こしたり、あるいはその場に留まることができなければ、「神様を信頼する」とは単なる霊的な思想に過ぎないのです。

もし神様が「何もしないように」と言ったら?

神様は、私たちにすべきことを示す場合もあれば、やめるべきことを示す場合もあります。私も以前、夫が変わることを願った時期がありましたが、そんな私に神様は「夫を変えようとするのはやめなさい」と語ったのです!また、自分を変えたいと願った時期もあったのですが、どれだけもがいても自分の力で自分を変えることはできませんでした。それよりも神様のタイミングを待ち望み、神様が私の内側で始めた良い働きが必ず完了することを信じるべきだったのです。(ピリピ1:6より)神様がやめるように示したものは、自分が積極的に関わりたいと感じるものでもあったので、そこから身を引くのは簡単ではありませんでした。

揺るぎない信頼

あなたの人生の中で、神様からやめることを示されているものはありますか？私にも、やめるべきことを示された経験が何度もあります。例えば、夫と口論になると、最後にはいつも自分の意見を通したいという願望が強かったのですが、そんな時に限って、「黙りなさい」と神様に言われていました！私は自分の意見を言うのが得意です。しかし、そういう時にこそ聖霊からの赤信号が出て、口を閉じて静まるようにと示されるのです。

私は、あなたがいつも自分の力ではできないことを実現させようとしてイライラすることを望みません。私がここで話しているのは、「神様に示されたことを行動して、やめるように示されたことをやめること」だということを理解して欲しいです。

詩篇46:10は、私が大好きな聖書箇所の一つです。そこに書かれているのは、私たち人間は静まり、彼こそが神様であることを知るべきだということです。活動的であることよりも静まることの方が、私にとっては大きなチャレンジでした！もちろん神様は、私たちに活動的であってほしいと望んでいます。しかし、それは神様に従うことに対して活動的であるという意味で、自分の思いのままに行動するという意味ではありません。

神様に委ねた状況を、神様が対処してくれるのを信じて待っている時、霊によってこう感じるかもしれません。「もしかしたら神様は、ただたくさん願い事を並べる祈りよりも、感謝に溢れた祈りを望んでいるのかもしれない。」人生には、ただ祈って待ち望むことしかできない状況がたくさんあります。愛する人のために祈る時には、なおさらそう感じるでしょう。あなたの祈りは、神様が働くための扉を開きます。しかし、それでもなお、関わっている相手が自ら、神様の働きを求める必要があるのです。

ある人のために長い間祈っていると、これ以上、神様の働きを求め続ける必要はないと心の中で感じるがよくあります。それよりも、すでに働いてくれていることに感謝したいと感じるようになるのです！

第5章 - 神様に信頼して良い行いをする(パート1)

従うことの力

自分の信仰は何も働いていないのではないかと困惑する人々に、これまで何度も耳を傾けてきました。ほとんどの場合、短い間でも一緒にいると、彼らが困惑する理由が見えてきます。彼らはいつも不満をこぼし、人に対して批判的で、ネガティブな考えばかりをしているのです。それが彼らに共通する特徴です!そのような態度では、聖霊の導きに従うことはできません。私たちは態度においても、神様に従う必要があります。

私たちにはサタンという敵を打ち負かす力が与えられています。しかし、その力を発揮するためには神様への従順が必要不可欠です。イエスは力に満ちた存在であると同時に、従順さを持ち備えていました。聖書には、イエスはその従順さゆえに十字架の死にまで従ったので、神様は彼に全ての名に勝る名を与えたと書かれています。全てのものが、彼の偉大な名の前にひれ伏すようになったのです。(ピリピ2:8-10より)

自分が手放せずにいる怒りや憎しみが、多くの人にとって祈りの答えを受け取る妨げとなっています。自分を傷つけた人や、「敵」だと感じる人を赦すことの必要性に関しては、これ以上ないほど分かりやすく聖書に書かれています。私たちが祈る時、まずは自分に敵対する存在を赦す必要があると、神様は明確に語っています。(マルコ11:25より)したがって、赦せない気持ちを握り締めたままで、神様の働きが見たいと期待するのは見当違いなのです。

私は「従順になることで人は救われる」と主張しているわけではありません。私たち人間は、従順に行動したから救われたのではなく、キリストの従順さゆえに救われました。それは全て、神様の恵みだけが実現できることであり、私たちの行いとは全く関係ありません!(エペソ2:8-9より)キリストによって救われた私たちは、キリストを心から愛しています。だからこそ、従順さにおいてもさらに成長したいという願いが、自発的に湧き上がってくるはずなのです。

揺るぎない信頼

親の望みは子どもが自分を信頼し、自分に対して従順に生きてくれることです。ですから、それと同じことを神様が私たちに望むのは、当たり前のことなのです。心を決めてどんな時にも神様を信頼し、神様が示すことに対して従順に行動するよう、私はあなたを励ましたいです。(コロサイ3:2より)私たちがたまにだけ行うのではなく、継続して真面目に行うことで、人生に勝利がもたらされます。不従順な心の中に、少しだけ従順さがあるだけでは、満ち足りた人生を歩むことはできないのです。

*不従順な心の中に、少しだけ従順さがあるだけでは、
満ち足りた人生を歩むことはできないのです。*

神様に対して、より従順になるための準備はできていますか?もしそう決断するなら、神様は実際に、従順になるための恵みを与えてくれます。今あなたの中に、神様に明け渡すべきことはありますか?不安や心配事だけでなく、誤った態度や神様の思いにそぐわない感情はありますか?この瞬間から、あなたは真新しいスタートを切ることができます!今日こそが新たな始まりの日です!これを、あなたの心の叫びにしてください。「天のお父さん、私の思いではなく、あなたの思いを実現させてください!」

次の章では、良い行いをすることのパート2に移ります。とても興味をそそる内容なので、早く伝えたいです!

第6章

神様に信頼して良い行いをする(パート2)

善を行うのに飽いてはいけません。失望せずに行えば、時期が来て、刈り取るようになります。

ガラテヤ6:9 (新改訳)

これまでの章では、神様に対して従順になり、聖霊の導きに従うことが「良い行いをする」ことであると学びました。この章では、神様に従い、助けを必要とする人々に手を差し伸べるという角度から「良い行いをする」ことに焦点を置いていきたいと思います。

使徒パウロはガラテヤの教会の人々に対して、「正しい行いをすることに疲れ果ててはならない」と励ましました。(ガラテヤ6:9より)彼は全ての人に対して、特に信仰によって神様の家族となった人々に対して、あらゆる状況で親切にすることを勧めたのです。(ガラテヤ6:10より)何らかの必要がある人を助けることは、良い行いをするためのチャンスであると考えべきです!それは周りの人々を祝福するチャンスでもあり、自分自身も祝福を受け取るチャンスなのです。人を助けることに集中している人たちは、喜びに満ちた人たちです!

与えることは神様に信頼することに根付いていると、私は信じています。私たちが与えるのは、神様がそれを私たちに求めているからであり、また金銭的なニーズも全て満たしてくれるという神様の約束を信じているからです。熱心に良い行いをし続けていくと、私たちは多くの素晴らしい祝福を体験できるようになります。使徒20:35(JCB)にこうあります。「与えることは受けることよりも幸いである。」与える姿勢を持つことで、人生には喜びが溢れます。そして、神様が私たちの必要を満た

揺るぎない信頼

してくれるのを待つ間にも、その期間を楽しむことができるようになるのです。中にはこう思う人もいるでしょう。「問題だらけなのに、どうやって喜ばばいいの?」しかし、その答えはとてもシンプルです。他の人のために行動を起こしていれば、自分の問題ばかりに集中して、不安にならずに済むのです。問題の解決を神様から受け取るまで、一日中うつむいて過ごす必要などありません。自分の欲しいものや必要を神様に伝え、必要なものは与えられると信じながら、周りの人に対して良い行いをすることに集中すれば良いのです!

私のお気に入りの聖書箇所の一つに、使徒10:38(JCB)があります。そこにはイエスが聖霊に満たされ、「すばらしいみわざ(働き)を行い、また悪霊につかれている人たちをみないやしながら、各地を巡回された。」とあります。イエスの生き方を模範とすることを、私たちは教えられました。ここに記されている内容を行動にするのは、私たちにできる最も優れたことの一つです。世界には、悪魔によって制圧された人々が大勢います。私たちは聖霊に満たされた者として、イエスがしたように彼らに手を差し伸べるように呼ばれているのです。

良い行いをする度に、私たちは種を蒔くことになります。その種はいつの日か、収穫へと繋がるのです。「自分自身の問題で手一杯だから、人を助けるなんて無理」と考えるのは大きな勘違いです。そのような態度は、自分自身を問題に留まらせるだけです。

*「自分自身の問題で手一杯だから、人を助けるなんて無理」と考えるのは
大きな勘違いです。*

ある週末、私はこの章と同じトピックである「神様を信頼して良い行いをする」をテーマにした大きな集会を控えていました。その開会の直前、開催会場のアリーナが所在する地域で停電が発生しました。しかも、それはオープニングセッションの開始1時間前で、復旧の目途も立たなかったため、私たちはキャンセルを余儀なくされ、何千人もの参加者は次々とアリーナを後にしていました。結局、電力が

第6章 - 神様を信頼して良い行いをする(パート2)

復旧したのはセッション終了の予定時刻10分前で、開催は翌朝まで延期せざるを得ませんでした。

神様を信頼することがテーマの集会の開催をかけて、私たちはまさに神様を信頼しなければならない状況に直面していました!それに加えて様々なことの調整に追われる中で、アリーナのスタッフが外の掲示板に「ジョイス・マイヤーの集会はキャンセルになりました」というお知らせを流したのです。もちろん、彼らは気を利かせるつもりで流してくれたのですが、キャンセルは一夜のみで、翌朝から開催するという大事な情報を伝え忘れていたのです。その瞬間、脳裏には空っぽの会場で教壇に立つ自分の姿がよぎりました。パニックで取り乱しそうになる気持ちを抑えて、私は「神様、あなたを信頼します。」と祈り続けました。最終的に集会は無事開催され、参加者の皆さんと最高の時を過ごすことができました。

あるセッションの途中で、「神様を信頼して良い行いをする」ことの原則について分かりやすく教えるために、小道具を用意しました。高さ約1mある2本の薬瓶をテーブルの上に置き、片方には「神様を信頼する」というラベルを、もう片方には「良い行いをする」というラベルを貼りました。「空になっても詰め替えは無制限、好きなだけ服用して大丈夫」という注意書きも加えてあります。どちらも過剰摂取になることは決してありません。

試練や困難、問題、悲劇への対処法として「症状が現れたら、速やかに『神様を信頼する』を内服し、続けて『良い行いをする』を内服しましょう」と伝えました。この描写を通して、神様を信頼しながら人々のために良い行いをするのがいかに効果的で、それがいかに魂が必要とする薬であるかということを、多くの人々が理解してくれたようです。

神様のことばは、私たちがその内容に従わなければ、疲れた魂に効き目をもたらすことはできません。どんな薬でも、実際に服用しなければ意味がありません。それと同じように、神様のことばも、ただ知っているだけで実行しなければ、私たち

揺るぎない信頼

に効果をもたらすことができないのです。例えば、もし罪を犯してしまったら、罪悪感から自分を責めるのが一般的なリアクションだと思います。しかし、代わりに「神様、赦して」というラベルの薬を服用して、魂の癒しを受け取ることもできます。また、誰かに傷つけられて嫌な思いをしたら、怒りで歯を食いしばる代わりに、「あなたを赦すよ」というラベルの薬を服用して、良い一日を送ることもできるのです。このように、神様のことばを「魂の薬」として考えることで、人生における全ての問題を乗り越える力を得ることができるのです。

もう一度言います。神様を信頼して良い行いをすることは、「魂のための薬」です。いつでも好きなだけ服用して良いのです。ただし、それには副作用が伴います！それは平安、喜び、心の安定、自信、天における報いという名の副作用です。

何をすれば、良い行いをしていることになるの？

良い行いをするとは、誰かを褒めたり、傷ついた人の声に耳を傾けたりなど、至ってシンプルなことです。また、相手を助けるために自分の時間や金銭を捧げることも、良い行いをするのと同じです。

貧しい人々を助けて相手の必要を満たすことや、傷を負った人々を励ますことに関するたくさんの記述が聖書にはあります。その中で私たちは良い行いをし、人々に親切にする機会を「探すように」と聖書は教えています。つまり、「人々の助けになれる方法を探す」ということなのです。

悪をもって悪に仕返ししないように、気をつけなさい。

かえっていつも、お互いの間で、

またどんな人にも、善意を示すよう心がけなさい。

1テサロニケ5:15 (JCB)

この世に生きる間、あなたは人々の役に立ちながら、目的のある人生を送り

第6章 - 神様を信頼して良い行いをする(パート2)

たいと思いますか？イギリスの有名な作家チャールズ・ディケンズはこう言いました。「この世には、生きる価値のない人など存在しない。どんな人でも、誰かの重荷を軽くしてあげることができるからだ。」

神様は、傷ついた人々を助けることに加えて、「私たちの敵を祝福しなさい」と言っています！なぜなら私たちは良い行いをすることによって、悪に打ち勝つことができるからです。(ローマ12:21より) 私たちには「良い行いをする」という名のパワフルな秘密兵器が与えられています。問題に直面したり、傷つけられたり、個人的な必要を抱える時には、その秘密兵器を駆使して、奇跡を体験できるのです！

人から傷つけられたり、不当な扱い方をされた時、私たちはまず相手のために祈るべきです。どのように祈れば良いのでしょうか？神様が彼らを赦すよう祈り求め、彼らの目が開かれて、自分たちの行動がいかにか神様を傷つけているかに気付くように祈るのです。相手がまだクリスチャンでないなら、相手の救いのためにも祈りましょう。こうすることで、彼らがしたことに対する怒りと惨めさ、思い悩みから自分自身が解放されます。祈っても、すぐには心がスッキリしないこともあるでしょう。しかし、自分が祈っている相手に対していつまでも怒りの感情を持ち続けるのは、案外難しいことなのです。

私たちはどんな時にも良い行いをするべきです。心に傷を負っている時だと、つい内側にこもって周囲との接触を避けたいくなるかもしれません。しかし、それは大きな間違いです。いつでも良い行いをするべきですが、特に問題を抱えている時にこそ、良い行いをするに意味があるのです。イエスは想像を絶するような苦痛の中で、死を目前にしながらも良い行いをし続けました。自分を十字架に架けた人々の赦しを天の父に求め、十字架に架けられながらイエスに助けを求めた隣の罪人を慰めたのです。(ルカ23:32-43より) 私の場合、問題を抱えていると、つい周りの人に八つ当たりしてしまうことがあります。しかしながら、そんな時こそ親切に振る舞い、良い行いをするための絶好なチャンスであるということを、私は学びました。何も問題がない時に、親切に振る舞うのは簡単です。しかし傷ついている

揺るぎない信頼

時に、神様を信頼し、神様の意志に従って良い行いをし続けることには多くの鍛錬が求められます。

詩編37篇は、私が愛してやまない聖書箇所です。1-5節には、このような知恵が書かれています。「悪を行う人たちのことで気を揉んだり、不安や心配を感じてはいけません。神様の時が来たら、彼らは神様によって取り扱われるからです。それを待つ間にも、あなたは神様を信頼して、良い行いをし続けなさい。主を喜びとしなさい。主は、あなたの心が願うことをかなえてくれます。自分のしよとすることを、全て神様に委ねなさい。そうすれば、神様が全てを成し遂げてくれます。」

これは単なる気休めの聖書箇所ではありません。これこそ私たちが従うべき教えなのです。それを実行に移すことで、自分の必要が全て満たされるだけでなく、まだ神様を信じていない人々への良い模範となることができます。

そして、私たちが良い行いをする様子を目にすることで、世の人々は私たちが神様に属していることを知るので、(1ペテロ2:12より)

*私たちが良い行いをする様子を目にすることで、
世の人々は私たちが神様に属していることを知るので。*

最大級のおきて

神様が与えるおきては全てが素晴らしく、重要なものばかりですが、その中でも特に大切なのは「愛のうちに歩む」というおきてだとイエスは言いました。私たちは神様を愛し、自分を愛するように人々を愛するべきです。(マタイ22:26-39より) また、私たちの間にある愛によって、世の中の人々は私たちがイエスの弟子であることを知るとイエスは言いました。

「そこで今、新しい戒めを与えましょう。わたしがあなたがたを愛するように、互

第6章 - 神様を信頼して良い行いをする(パート2)

いに愛し合いなさい。互いに心から愛し合うなら、わたしの弟子であることをすべての人が認めるのです。」

ヨハネ13:34-35 (JCB)

良い行いをするということについて触れずに、愛を語るのは不可能です。なぜならば、良い行いをする事で愛が体現されるからです。愛とは、教会でのメッセージを活気付けるための、単なる理論や教義ではありません。愛はとてもリアルで、実践的なものなのです。愛は目で見て、感じることができます。そして人生を大きく変えることのできる奇跡的な力を持っているのです。

残念ながら、私たちクリスチャンの間にある分裂が原因となって、この世の多くの人々は私たちの証を信用していません。もし教会が一致することができたら、私たちの証を否定する人は誰もいなくなるはずですが!愛は一致を見出すものであり、相手に反論するための理由を探ったりはしないのです。

*愛は一致を見出すものであり、
相手に反論するための理由を探ったりはしないのです。*

家族が一致すると、さらにパワーアップします!ミニストリーを開始して間もない頃、対立がある状態ではミニストリーで成功することはできないことをデイブと私は学びました。そこで夫婦間の不協和音はすぐに排除するように意識して努め、平和と一致を最優先した結果、その絶大なる効果を肌で体験することができたのです。

家族や家庭環境、近隣関係、教会、職場などにおいて、他の人と対立するような状況に関わってはいけません。対立を避け、他人からの屈辱を見逃すことで、私たちは称賛を受けます。(箴言19:11より)神様を讃え、その教えに従って歩む時、神様は大胆に私たちを称賛してくれるのです。

揺るぎない信頼

愛のうちを歩むためには、感情に左右されない正しい選択を日々していく必要があります。自分がしたいと「感じる」ことをしながら、神様のおきてに従うことはできません。私が誰かに親切にする時、必ずしも毎回そうしたいと「感じる」わけではありません。そういう気分でない時でもあえて行動に移すことで、私は愛のうちを歩む選択をしているのです。愛とは、ただの感情ではありません。人々との接し方の選択なのです。

愛とは、ただの感情ではありません。人々との接し方の選択です。

私が愛のうちを歩み続ける上で、大きな助けとなっている聖書箇所があります。

人にされたいことを人にする。

これが、おきてと預言者たちの教えの要約だ・・・!!!

マタイ7:12(ALIVE訳)

自分が人からされたいことを人にするように心がけていれば、私たちの態度は明らかに変化します。このような心がけは、日常の中でとても簡単に実践できます。ある状況の中で相手に対して親切な態度を保てないと感じたら、こう自分に問いかけてみてください。「もし私が憐れみを必要とする側だったら、今この人にどう接してもらいたいかな？」

日々の生活には、私たちをイライラさせる要素が多くあります。混雑しているショッピングセンターの駐車場で、やっと見つけた空車スペースに他の車が割り込んできたらどうでしょう。瞬時にイライラが込み上げてきて、相手の失礼な行為に憤慨するかもしれません。しかし、大声で怒鳴ってクラクションを鳴らしたり、神様が喜ばないような行動に走っても、気持ちが悪くなることはありません。それどころか、自分も失礼なことをした相手と同レベルになってしまいます。神様を信頼し、良い行いをし続けていけば、神様は何かしらの方法であなたを祝福してくれるの

第6章 - 神様を信頼して良い行いをする(パート2)

です!

イライラしたり予期せぬ状況に直面したら、それに対して怒るのではなく、それを愛を示すためのチャンスとして捉え始めてみてください。

1コリント13:4-8には、愛のうちに歩むことについてハッキリ書かれています。これらのポイントをじっくりと読み、この中で自分がより力を入れるべき分野はどこか考えてみてください。

- 愛は、いつまでも耐え、忍耐強く、親切である。
- 愛は、決して妬まず、嫉妬で燃えたぎったりしない。
- 愛は、自慢せず、うぬぼれず、高慢にならない。
- 愛は、自信過剰ではない(思い上がり、高いプライドを掲げない)。
- 愛は、無礼(失礼)ではなく、みっともない態度を取らない。
- 愛は、自己中心的ではないので、権利を主張したり、自分のやりたいことばかりを強要しない。
- 愛には、気難しさや不機嫌さがなく、すぐ怒ることもない。
- 愛は、人からされた悪や、苦しめられたことをいつまでも覚えぬ。
- 愛は、不正を喜ばずに、正しさと真理を喜ぶ。
- 愛は、来るもの全てを耐え忍ぶ。
- 愛は、全ての人の最善をいつも信じる。
- 愛は、決して止まず、どんな時も諦めず、希望に満ちていて、弱ることなく、全てを耐え忍ぶ。
- 愛は、決して裏切らない。

貧しい人を助ける

聖書は、貧しい人を助けることに重点を置いています。また貧しい人を助ける人には、素晴らしい約束が与えられると教えています。これが、その約束の一つです。

揺るぎない信頼

貧しい人に手を差し伸べるのは、主に貸すのと同じです。あとで主が報いてくれます。

箴言19:17 (JCB)

使徒ヤコブはこう言いました。「父なる神が求める欠点なき純粋な捧げもの〔振る舞いや行動に現れる信仰〕とは、・・・孤児や未亡人のような生活に苦しむ人を助け、世話をするイエスの信者(クリスチャン)だ。」(ヤコブ1:27 ALIVE訳より一部強調)本物の信仰とは、どんな時にもその振る舞いや行動によって現らわされるべきです。なぜならば、心だけでなく、行いにおいても造り変えられた人こそが真のクリスチャンだからです。神様は与える存在です。その神様と繋がっている人ならば誰でも、与えることに情熱を感じるはずで、聖霊は助け手です。その聖霊に満たされている人ならば誰でも、助けることに情熱を感じるはずなのです。

「どんな風に人を助けられるかな?」と日常の中で考えるのは、とても健康的な習慣です。あなたが最後に助けた相手は誰ですか?生活の中で家族を手助けしたり、クリスマスにはプレゼントを用意したりするのは、多くの人にとって当たり前のことだと思います。しかし私は、その一歩先の話をしています。与えるために生きるのです。私たちは受け取ることも、与えることによって、喜び溢れる有意義な人生を送ることができるのです。あなたの周りに、助けを必要とする人はどのくらいいますか?その人たちに、助けの手を差し伸べようと思ったことはありますか?このようリアルな問いかけについて考える時、自分の答えの乏しさに気付くこともあるでしょう。私も、自分の答えの乏しさにがっかりすることがあります。しかし、たとえがっかりしても、もう一度立ち上がって、良い行いをする新たな決意をすることができるのです。

*私たちは受け取ることも、与えることによって、
喜び溢れる有意義な人生を送ることができるのです。*

あなたもぜひ、助けが必要な人々に対して、意識的に手を差し伸べてくださ

第6章 - 神様を信頼して良い行いをする(パート2)

い。周りに困っている人がいないか見渡して、どうやったら力になれるかを考えてみてください。言い訳を並べて、行動を起こさないこともできます。しかし、それはクリスチャンとしての正しい決断であるとは言えません。以下のリストは、過去に私が思いついた言い訳の数々です。他にも、同じ言い訳をする人たちをこれまで見てきました。

- ・「今は忙しい。」
- ・「問題は自業自得だからしょうがない。」
- ・「自分の問題だけで手一杯。」
- ・「あの状況に関わりたくない。」
- ・「何をすれば良いかわからない。」

困っている人を助けられない理由を探すのではなく、助けられる方法を積極的に探してみてもどうでしょうか？あなた一人では解決できないような問題を抱えている人もいるかもしれません。その場合は、他の人たちと協力し合って助けることも一つの方法です。少なくとも、私たちには祈りという手段があります。傷を抱えて助けを求める人たちのために自分にできることは何か、神様に求めて祈るのです。このことを忘れないでください。人々に手を差し伸べる度に、あなたは自分自身の徳を高めているのです。

最近あった大きな集会で、私は発展途上国の国々において、井戸の普及が必要だという話をしました。その地域に住む人々は、長時間かけて水を汲みに行きます。中には丸一日かけて汲みに行く地域もあるのですが、それだけの努力を費やしても、不衛生で汚染された水しか手に入らないのです。私たちのミニストリーは、近年それらの地域に700個の井戸を設置することができました。その結果、村全体の暮らしが大きく改善されました。

この話を聞いたある3人の女性たちは、何か自分たちにできることはないかと考え、21組の家族とチームを組んでガレージセールを開催したそうです。そし

揺るぎない信頼

て、次の大きな集会に参加した時に、「水を必要とする地域に井戸を設置し、その横に教会を建ててほしい」と、ガレッジセールで得た収益金20万円以上を私たちのミニストーリーに託してくれました。井戸から湧く綺麗な水だけでなく、神様のことばというのちの水と共に、人々を潤してほしいという情熱も託されたのです！

与えなさい。そうすれば与えられます。彼らは、量りのますに、押し込んだり、揺すり入れたりしてたっぷり量り、あふれるばかりにして返してくれます。自分が量るそのはかりで、自分も量り返されるのです。

ルカ6:38 (JCB)

見返りを求めて与えるのは正しい動機ではありません。人々を助けたいという純粋な気持ちから与えるべきです。しかし、私たちが与える時、それが増え広がって自分の元に返ってくると、聖書は約束してくれているのです。

旧約聖書に登場するヨブという人は、とても過激な宣言を残しました。彼は、「もし自分の腕が助けを必要とする人に差し伸べられないなら、つけ根からもぎ取られ、肩の骨がはずれても構わない」と言ったのです。(ヨブ31:16-22より)

この聖書箇所は、私の人生に大きな影響を与えました。あなたもぜひ、時間を取ってこの箇所を繰り返し読んでみてください。あなたにも、私にも、この世のあらゆる苦しみを和らげる力があります。その力を発揮することから私たちを遠ざけるものは、全て排除すべきです。イギリスの伝道者ジョン・バニヤンはこう言いました。「あなたに恩返しすることができない誰かのために助けの手を差し伸べない限り、あなたは今日を生きたとはいえない。」

神様を笑顔にする

私たちが神様を笑顔にすることができたら、それは最高なことですよね。実は、それが可能であると聖書には書かれています。詩篇の著者であるダビデはこう

第6章 - 神様に信頼して良い行いをする(パート2)

言いました。「あなたのしもべである私に向かって、どうか微笑んでください。そして、正しく生きるための道を教えてください。」(詩篇119:135 MSG訳より直訳)

私たちが神様の思いに従って生きることで、神様は笑顔になります!神様に従って生きる中で、人々に助けの手を差し伸べることができたら、神様の笑顔はさらに明るくなるはずです。なぜかと言うと、人々を助ける時、私たちは神様の模範に従って生きているからです。以前、私の息子が、彼自身の子どもたちのことをこう話していました。「僕がしていることを、子どもたちはすぐ真似するんだ。」そう話す彼の顔には、いつも笑みがこぼれています!

私たちが周りの人々を笑顔にする時、きっと神様も一緒に微笑んでいるはずです!

第7章

どんな時も

どんな時も、神様を信頼し、抛り頼み、神様にのみ自信を持ちなさい。心に抱く願いのたけを神様に知ってもらいなさい。神様は私たちの避け所(私たちの砦、高い塔)。セラ[ヘブライ語で「立ち止まり、心を静めそのことを深く味わおう」という意味]!

詩篇62:8 (AMPCより直訳)

「セラ」という言葉は、詩篇において計71節中に登場し、ハバクク書では計3節中に登場します。上記の聖書箇所は「セラ」が登場する計74節の一つであり、神様をどんな時も信頼することについて教える聖書箇所です。私たちは一度立ち止まり、神様が「この聖書箇所はとても価値のある箇所だから、それについて、立ち止まってよく考えてみて」と言っていることに気付くべきです。

神様と歩み始めた頃の私は、自分の手に負えないような問題に直面しない限り、神様を信頼することを意識して生活することはほとんどありませんでした。しかし数年経ってから、神様の存在から離れてしまったら自分には何もできないことに気が始めたのです。それからの私は「神様こそが助け主である」と信じて、どんな時も神様を信頼しながら生きることを意識するようになりました。今では一日を通して、何度も「神様、あなたを信頼します」と宣言することが習慣になっています。神様への信頼を口で宣言することは、私たちからの賛美でもあります。自分の身の回りで起きている問題や、これから起こり得る出来事だけではなく、「全て」において、私は神様を信頼して生きています。

緊急事態や深刻な問題が起きるまで、神様を信頼することを先延ばしするの

揺るぎない信頼

は賢い選択ではありません。神様を信頼する姿勢を持ちながら生きること、私たちは信仰によって人生を歩めるようになるのです。それは決して、問題のない人生が保証されるというわけではありません。しかし、たとえ問題からすぐに抜け出せなかったとしても、変わらず神様に拠り頼むことで、私たちの信仰が証明されるのです。

イエスがゲツセマネの園にいた時、彼はこれから自分と弟子たちが多くの困難と苦痛、誘惑に襲われることを知っていました。イエスは弟子たちに「誘惑に負けないように、神に祈りなさい。(ルカ22:40 JCB)」と言いましたが、弟子たちは居眠りをしてしまいました。聖書によると、彼らは悲しみのあまり眠ってしまったと書かれています。(ルカ22:45より) 迫り来る不安と恐怖に、疲れ果ててしまったのでしょうか。それとも、眠ることで問題を回避しようとしたのでしょうか。一方、イエスは熱心に祈り続けました。目前に迫る苦痛を取り除いてもらえるのだろうか。それとも、苦痛を乗り越える力が与えられるのだろうか。祈りの答えが分からなくても、イエスは先を見越して、天のお父さんである神様が助けてくれることを強く信頼しました。

イエスは、祈りの答えを神様に託しました。ただ自分の望みを求めるのではなく、自分の願いを神様に伝えた上で、こう締めくくったのです。「・・・わたしの思いどおりにではなく、あなたのお心のままになさってください。(ルカ22:42 JCB)」すると、天から送られた天使たちがイエスの上に臨み、彼の霊を強めたのです!(ルカ22:43より)

天のお父さんは、私たちが救い出すだけでなく、強めてくれる存在でもあります!たとえ問題から瞬時に抜け出せなかったとしても、忍耐を働かせ、正しい時に神様の方法で救い出されることを信じ続けていれば、神様は私たちが強めてくれるのです。

自分の弱みを認識しているのであれば、その分野で誘惑にあってから神様を信頼するのではなく、神様が誘惑から守ってくれることを信頼する方が賢い選択です。

第7章 - どんな時も

私はよく長話をしたり、深く考えずにうっかりおしゃべりをしてしまうことがあります。これが、長年に渡る私の弱みです。この弱みが原因となり、今まで何度も苦い経験を味わいました。そこで私は、朝の祈りの中で、今日一日自分が良い聞き手となり、知恵をもって発言できるように神様に祈るようになりました。

そうすることで、実際に問題を起こしてから、その後始末をしなければならない状況を迎えずに済みます。たとえ誘惑が来ても、誘惑に負けてしまわないように神様が守ってくれることを、私は信じて祈っています。自分の弱みを知り、その分野で誘惑から守られるように神様の力を求めることは、私たちにできる賢い選択の一つです。この知恵をペテロが知っていれば、彼はもっと良い結末を迎えていたことでしょう。

自分の弱みを知り、その分野で誘惑から守られるように神様の力を求めることは、私たちにできる賢い選択の一つです。

イエスは、ペテロがやがて悪魔からの大きな誘惑にあうと注意しました。しかし、それを聞いてもペテロはイエスに頼ろうとせず、むしろ自分は強い人間だと過信して、誘惑に陥るはずはないと思いつんでいました。以下の聖書箇所をよく読んで、自分がペテロと同じ態度を取っていないかどうかを考えてみてください。

「シモン、シモン〔ペテロの以前の呼び名〕。いいですか。サタンが〔あなたがたを神様の守りから取り出して、〕あなたがたを麦のように、ふるいにかけることを願いました。

しかし、安心しなさい。〔特にペテロ、〕あなたの信仰がなくならないように、祈ってあげました。だから、悔い改めて立ち直った時には、仲間の者たちもしっかり立てるように、力づけてやりなさい。」

するとシモン〔ペテロ〕は言いました。「主よ、何をおっしゃるのです。牢獄までもついてまいります。ごいっしょに死ぬ覚悟もできております。」

ルカ22:31-33 (JCBより一部強調)

揺るぎない信頼

その後、ペテロはキリストを3回も否定しました!(ルカ22:55-61より)もしペテロが自分の人間的な弱さを認め、イエスに助けを求めていれば、誘惑に陥らずに済んだかもしれません。イエスは誘惑に陥ったペテロを助け出そうとはしませんでした。逆に、ペテロがそれを上手く乗り越え、その経験を生かして人々の助けとなることを望みました。しかしペテロは、「まさか自分が誘惑に陥るはずがない」と自分を過信しました。これは大きな間違いであり、私たちにとっても同じことが言えます。自分を過大評価することは愚かな選択であり、このような考え方は人生で失敗する原因になり得ます。(ローマ12:3より) 神様は私たちを愛して止みません。だからこそ、私たちが神様に委ね切ることができるようになるまで、神様は私たちのプライドの問題を対処せずにはられないのです。

パウロは「いつでも、あらゆる状況や、全てのシーズンにおいて祈りなさい」と教えています。(エペソ6:18より) それを実践することで、どんな時も私たちが神様を信頼していることが証明されます。

自分の弱みは何かを知り、その弱さの中で「神様が自分を強めてくれる」ことをいつも信頼しているかどうか、そのことを振り返る時間を持ってください。次の箇所に、神様が私たちにくれた約束があります。

あなたは必ず私の祈りに答えて、力を与え、励ましてくださいます。

私があなただけを呼び求める日に、あなたは必ず答えてくれます。誘惑にも動じない力を与え、私を内側から強めてくれます。

詩篇138:3 (AMPCより直訳)

もしかすると、あなたはすでに「誘惑から守ってほしい」と神様に祈ったのに、それでも誘惑に負けてしまうと感じているかもしれません。私もそのように感じたことが何度もあります。しかし、それでも諦めずに神様に信頼し続けていれば、私たちは少しずつ確実に強められていきます。信頼し続けると同時に、聖書を学ぶことで、最高の結果を手に入れましょう。「神様のことばには、私たちの魂を救う力がある」

第7章 - どんな時も

とヤコブは言っています。(ヤコブ1:12より)

「自分の言動について助けてください」と神様に祈り求める時、私は自分の口に関する聖書箇所を引用するようにしています。例えば、ある日はこんな風に祈っています。

「天のお父さん、今日私が優れた言葉だけを発することができるように助けて。相手に対して良い聞き手となり、考えてから発言することができるように助けて。あなたに栄光を返せるような言葉を発したいです。私の話す言葉によって、周りの人を祝福したいです。神様、私はあなたの助けが必要です。あなたなしでは、私は何もできないから、私の弱さの中で、どうか私を強めてください。」

そして、祈りの中で聖書のことばを宣言するのです。なぜなら、私たちは神様に聖書のことばを思い返してもらうべきだと、預言者イザヤが教えているからです。(イザヤ43:26より)もちろん、神様が自分のことばを忘れることなどありません。それなのに、なぜ思い返してもらうことが大切なのでしょう?その理由がこちらです。

・神様に聖書のことばを思い返してもらおうとする姿勢は、神様と神様の約束に対して私たちが完全に信頼していることを表している。

・神様のことばは霊の剣であり、私たちが霊的な戦いに勝利するために与えられた武具の一つ。(2コリント10:4-5、エペソ6:17より)その武具である神様のことばを、声に出して宣言することに大きな力がある。

・神様のことばを声に出して語り続けることで、私たちの内側はさらに新しくされていく。(ローマ12:2より) これは、神様のことばについて深く考えるプロセスの一部で、聖書も強く勧めている。

自分の口について教える聖書箇所の中で、私が最も好きな3つの聖書箇所があります。個人的な祈りの中でも、これらを頻繁に引用しています。

揺るぎない信頼

主よ、どうか、この口を堅く閉じ、くちびるに封をさせてください。

詩篇141:3 (JCB)

私の口のことばと、秘めた思いが、神に喜ばれますように。ああ、〔決して揺るがない、頑強な〕私の岩、私の救い主、主よ。

詩篇19:14 (JCBより一部強調)

死と生は舌に支配される。どちらかを愛して、人は〔生死を分ける〕その実を食べる。

箴言18:21 (新改訳より一部強調)

この祈りのアイデアを活用して、自分が助けを必要とする分野で神様のことばを宣言することができます。あなたの弱みは、怒りやすいところでしょうか？つい過食に走ってしまうところでしょうか？自己中心的になってしまうところでしょうか？神様からの約束である聖書の中には、あらゆる弱みを取り扱う聖書箇所が必ず存在します。最近では、インターネットを介して聖書プログラムが豊富に入手できるので、それらを活用するのもお勧めです。ここであなたに覚えておいて欲しいことは、勝利を手に入れるためには、聖書のことばをたった数回宣言するだけではなく、何度も継続して行う必要があるということです。いつでも、どんな時でも、神様と聖書のことばを信頼し続けることにコミットしてください。そうすれば、やがて自分の中の変化に気付く時がくるはずです。

絶えることのない満足感

どんな時でも神様を信頼しているなら、自分には理解できないような状況や、不公平に感じるような出来事に直面しても、自然と神様を信頼し続けていることになります。求めていたものが手に入った時の神様に対する信頼となかなか手に入らない時の神様に対する信頼は、全くの別物です。私たちがクリスチャンとして目指すべきゴールは、使徒パウロによる次のことばの中にあります。「私は、どんな

第7章 - どんな時も

境遇にあっても満ち足りることを学びました。(ピリピ4:11 新改訳)「パウロは豊かに富んでいる時にも、そうでない時にも、状況に左右されない満ち足りた心を持つ方法を学んだと言っているのです。(ピリピ4:11-12より)

求めていたものが手に入った時の神様に対する信頼と
なかなか手に入らない時の神様に対する信頼は、
全くの別物です。

「満ち足りる」というのは、人生の変化を望まなかったり、より良いものを求めないということではありません。それは、求めるものがまだ手に入らない状況の中でも、今与えられているものに感謝して、喜びを奪わせないということなのです。

私にも数年間に渡って、不満ばかりを抱えていた時期がありました。その原因は、当時自分が置かれていた環境に感謝せず、理想の未来へたどり着くまでのプロセスを楽しまなかった私の態度にありました。もちろん神様は前進と成長には大賛成ですが、それ以上に「平安」に味方しているのです！

伝道者の書にある次の箇所について、考えてみてください。

目が見るところ〔今、実際に自分が楽しむことができるもの〕は、心があこがれることにまさる。これもまた、むなしく(空虚、偽り、くだらない)、風を追うようなものだ。

伝道者の書6:9 (新改訳より一部強調)

著者(おそらくソロモン)は、自分ないものを熱望するのは虚しい(何の価値も、意味もない)ことであり、そのような態度では、すでに与えられたものを楽しむこともできなくなってしまうと言っています。

パウロは、自分の求めるものが手に入っても、入らなくても、満ち足りる方法を学んだと言いました。それこそが、私たちのゴールであるべきだと思います。自分

揺るぎない信頼

の思い通りに行く時だけ満足するのでは、幼い子どもと同じであり、霊的な成熟さを反映していません。親であれば、そのような幼稚な態度を正すはずです。たくさんの祝福が与えられていることに改めて気付かせ、感謝することの大切さを教えるはずです。そのためには、欲しいものが手に入らない時にどう振る舞うべきかという模範を、親である私たちが示すことをまず心がける必要があると思います。全てが思い通りに行くような状況の中で、神様を信頼するのは簡単です。しかし、この本の目的は「どんな時も」神様を信頼する方法を私たちが学ぶことにあります。

人生で傷ついたり、また、何かを待たなくてはいけないけれど、待つ理由が分からない時にも、満ち足りた心を保つためには、「神様が良い存在であり、神様の方法と自分の方法は異なること」を信じる必要があります。自分の思う方法が、必ずしもベストだとは限りません。その時は良いと感じても、長い目で見ると良いとは限りません。全てが自分の思い通りに進むような人生だったら、他者を尊重し、愛情豊かで、思いやりがあり、傷ついた人を憐れむような人間へと成長することはできるでしょうか？そんなはずはないと思います！その人と同じような経験をしなければ、相手を本当に理解することはできないのです。その人と全く同じ道を通らなければ、相手を助けることはできないというわけではありません。しかし、失望や心の痛み、身体的な苦痛を伴うような困難は、実際に経験しなければ、同じ痛みを分かち合うのは難しいのです。

私たちが痛みの中でイエスに助けを求めるのは、イエスが私たちの弱さや不完全さを理解してくれる大祭司だからです。なぜ、イエスは私たちを理解できるのでしょうか？それは、私たちが通る全ての誘惑にイエスはあったからです。しかし、彼は一度も罪を犯しませんでした。(ヘブル4:15より)私たちがイエスに助けを求めることができるのは、「イエスなら私たちを理解してくれる」という確信を持っているからです！イエスは、病気や悲しみ、痛み、拒絶を理解しています。私たちが確信を持ってイエスの元へ行けると同じように、周りの人たちが「この人なら理解してくれる」と確信を持って近寄れるような存在に、私たちもなるべきです。

第7章 - どんな時も

人生で起こる経験の一つ一つが、私たちを磨き上げてくれます。それを通して、困難の中にいる人々を癒し、励ましを与える存在となるために、神様は私たちを用いてくれるのです。必ずしも毎回、神様の方法を理解できるわけではありません。(イザヤ55:9より)しかし、その中でも神様が良い存在であり、どんな時も神様の方法がベストだと信じ続けることで、神様を讃えることができるのです。

信頼には忍耐が伴う

神様を信頼することには、いつも忍耐が伴います。なぜなら、私たちのスケジュール通りに神様は働かないからです。忍耐は、私たちが何かを待つ間にも、人生を楽しめるようにさせてくれます!「神様だったら一瞬で容易くできそうなことなのに、なぜすぐに実現してくれないのだろう」と、理解に苦しむこともあるでしょう。しかし、神様のタイミングには必ず理由があります。もしかしたら、神様は私たちの信仰を試し、私たちの信仰を引き伸ばすことで、さらに力強く信仰によって生きることができるよう準備してくれているのかもしれませんが。もしくは、私たちが求める以上の結果を与え、現在のあなたの能力を上回ることを実現させるための計画を実現させようとしているのかもしれませんが。これらの理由は(この他にもたくさんありますが)、私たちが神様の権威、正しさ、知恵に拠り頼み、忍耐して待ち望むことで、平安の中に留まるためのチャンスなのです。

*忍耐は、私たちが何かを待つ間にも、
人生を楽しめるようにさせてくれます!*

忍耐は聖霊の実の一つです。しかし、忍耐の実を豊かに結ぶことは決して簡単ではありません。私にも、簡単に忍耐強くなれる分野と、なれない分野があります。忍耐することに関しては、今も成長している最中です。人生には待たなければならないことがたくさんあるため、待つこと自体は選択肢の一つではありません。しかし、どのような態度で待つかは私たち自身で選ぶことができます。ヴァインの聖書用語辞典によると、忍耐の実は「試練の中でしか実を結ばない」と記されています。

揺るぎない信頼

なんということでしょう!「別の定義があれば良かったのに」と思ったのは、きっと私だけではないはずです!

できることなら、ただ求めて祈るだけで、忍耐力が自分に自動的にダウンロードされれば良いのですが、そんな上手くはいきません。私たちは神様の子どもとして、内側に忍耐の実が備えられています。しかし、私たちはその実を成長させて、内側から外側へ働くようにする必要があります。忍耐とは、単なる霊的な理屈やアイデアではありません。日常生活やあらゆる状況で働かせるべき能力なのです。特に、今すぐにでも手に入れたい何かを待ち望む時こそ、忍耐を働かせる絶好のチャンスなのです!

スーパーで列に並んだり、渋滞に巻き込まれたり、待ち合わせに遅れる人を待ったり、神様からの祈りの答えを待ったりする時などにも、心に平安を持って人生の一瞬一瞬を楽しみたいのであれば、忍耐が必要不可欠になります。聖アウグスティヌスは、「忍耐は知恵の友である」と言いました。忍耐という言葉から、苦々しさや酸っぱさを連想する人が多いかもしれません。しかし、その実は甘いのです。

多くの時において、神様があえて私たちが待たなければならない状況を作るのは、その困難を用いて、私たちの忍耐を成長させるためです。忍耐を学ぶことはとても大切だからこそ、神様は愛する子である私たちのために、欲しがるものを与えたい気持ちを抑えて待っているのです。これは、全ての親が学ぶべきプロセスです。しかし残念ながら、世の中にはこの大切な原則を学ばずに大人になった人たちがたくさんいます。彼らは、すぐに欲望が満たされないと我慢できないのです。すぐに満たされたいという欲望が、私たちを誤った決断へと導いてしまいます。例えば、結果的に大きな借金を抱え、ストレスに押し潰されながら残りの人生を歩む人がたくさんいます。また、自分の感情を抑えきれず、誤った結婚を選択する人もたくさんいます。このように、すぐに満たされたい欲望が、逆に満ち足りない毎日や誤った態度、悪い決断を招くのです。

第7章 - どんな時も

神様の性質を踏まえて考えれば、神様が何の理由もなく私たちを待たせるはずなどないのは明らかです。その時点の私たちにとってベストなことが「待つこと」だからこそ、神様は待つ時間を与えているのです。待つことが自分にとってベストだなんて、信じられないかもしれません。しかし、それは私たちの不完全な性質が考えることです。待つことは私たちにとって良いことであり、待ち望んだ時間があるからこそ、感謝の心で祝福を受け取ることができるのです。

忍耐がないと、人生には焦りが生じます。しかし、待つ間にも神様を信頼することで焦りは取り除かれ、神様をほめたたえる態度で過ごすことができるようになります。信頼することは、私たちにとって大きな祝福です。心を騒つかせるような問題でも、神様が取り扱ってくれると信じるなら、私たちの心は解放され、良い実を結ぶ生き方に集中できるようになります。そのような姿勢は私たちに健康と長寿をもたらし、人間関係も改善されていくと私は確信しています。神様を信頼することで、欲求不満やストレスは人生から取り除かれていくのです。欲求不満とストレスは、人に対して不満を感じたりイライラしたりする大きな要因です。必ずしも誰かを傷つけたり、不親切な態度を取りたいわけではないのに、心がザワザワしていると、つい自分の感情にばかり集中してしまい、人に対する態度がおろそかになってしまいます。そんな時は、自分がどれだけ失礼で、きつい態度を取っているのかに気付くこともできません。そんな状態が長引けば長引くほど、知らないうちに人々は自分から離れていってしまうのです。

私は、神様を信頼できることの特権に心から感謝しています!決して不安や恐れ、イライラ、過度なストレスを抱えながらの人生は歩みたくありません!もし、あなたが今の状況において、これからの方向性や生き方について決断の時を迎えているのであれば、「神様を信頼すること」がベストな決断です。

第8章

もし神様が良い神様なら、どうして人は苦しむの？

けれども、私たちがいま味わっている苦しみなどは、後にもらえる栄光に比べたら、取るに足りないものだ。

ローマ8:18 (ALIVE訳)

苦しみに関しては、教えるのが非常に難しいテーマです。そのため、この章では祈りを込めつつ、お話していきたいと思います。このテーマに関する答えを、私自身も全て知っているわけではありません。しかしながら、神様を信頼することを題材として本を書く以上、このテーマに触れる必要性を強く感じています。なぜなら、多くの人から「もし神様が良い神様なら、なぜ人はまだ苦しまなければならないの？」という疑問を投げかけられることがよくあるからです。

クリスチャンの視点で考えると、神様を信じていない人たちが苦しむのは、何となく腑に落ちます。神様を信じない生き方には、苦しみが生じるからです。問題は、「なぜクリスチャンも苦しむことがあるのか」という点です。これまで、私たちは神様から愛されていて、平安と喜びの溢れる人生を歩むことを望まれていると教えられてきました。もちろん、それは事実です。しかし同時に、たとえ苦しみの中でも平安と喜びを持ち続けることができるということを、神様は私たちに教えているのです。

私はこれまで、こんな疑問を聞いてきました。

- ・「神様が困難を引き起こしているの？」
- ・「神様は、私たちが苦しむことを許しているの？」
- ・「神様が全ての主権を握っているなら、なぜ苦しみを取り除いてくれないの？」

揺るぎない信頼

・「なぜ神様は、貧困や虐待、病気など、数えきれないほどある苦しみを無くしてくれないの？」

・「なぜ幼くしてガンで苦しむ子がいるの？」

・「なぜ良い人でも、若く死ぬことがあるの？」

・「なぜ自分は失業して、老後の保証まで失わなければならなかったの？」

・「なぜ神様は、飢餓や虐殺について何もしてくれないの？」

たくさんの「なぜ？」と折り合いが付けられなくなると、人は混乱して精神的に追い込まれます。ですから、もし私がこれらの「なぜ？」に答えるなら、まずは「分からない」と素直に言うと思います。そして、神様が良い神様であることは確信しているので、分からないことにはなく、自分が確信していることに集中するようにします。神様が良い神様であることを確信していれば、たとえ自分や周りの人が苦しみに直面しても、混乱という罫にかかることなく、心の苦しみを正しく対処できるようになります。もし、部屋の中で「神様、どうして？何でこんなことが起きるの？」と叫ぶことで気持ちが楽になるのなら、ぜひそうしてください。しかし、どんなに叫んでも、答えが与えられることはないでしょう。しかし最終的には、神様を信頼するか、または気持ちの折り合いを付けられないままイライラして過ごすか、どちらかの選択を迫られるのです。

*神様が良い神様であることは確信しているので、
分からないことにはなく、自分が確信していることに集中するようにします。*

私も神様と歩み始めてから最初の数年間は、理解できないことがある度に「なぜ？」と神様を問いただしていました。その結果、私は多くの混乱とイライラを抱えて歩んでいたのです。答えのない疑問を握り締めることは、神様と私の関係に大きな影響を与えていました。それに気付いた時、私は神様に「なぜ？なぜ？」と迫るのをやめ、全てに関して、特に人生に起こる痛みや理解できないことに関して、完全に神様に信頼を置く決断をしたのです。

第8章 - もし神様が良い神様なら、どうして人は苦しむの？

私は15年間に渡り、父親からの性的虐待に深く苦しみ、その後の25年間で虐待の影響に苦しみながら生きてきました。その頃の私は言うまでもなく、心にたくさん「なぜ？」を抱えていました。子どもの頃、こんな毎日から抜け出したいと神様に祈っても、実際にそれが実現することはありませんでした。確かに、そこから抜け出すことはできませんでしたが、神様は苦しみの中を切り抜ける力と、癒しを受け取るための恵みを私に与えてくれました。あまりにも多くの時において、私たちは神様が「してくれないこと」にばかり目を向け、神様が「してくれたこと」をないがしろにしてしまっています。しかし、それは私たちが犯す大きな間違いの一つです！私たちは、人生で不公平に感じることを嘆くのではなく、すでに与えられているものを喜ぶ決断をすることができます。理解できないことや心にある「なぜ？」が、私たちを盲目にしてしまわないように気をつけましょう。

*私たちは、あまりにも多くの時において、
神様が「してくれないこと」にばかり目を向け、
神様が「してくれたこと」をないがしろにしてしまっています。*

人生に起こることや起こらないことによって私たちが翻弄されて暗闇をさまようことを、神様は望んでいません。確かに、神様の計り知れない知恵には隠されたことがたくさんあります。過去に起きた出来事の中には、私たちが天国に行く時まで真相が明らかにされないものもあるでしょう。しかし、ここで次の聖書のことばを一緒に考えてみてください。

ああ、神の知恵と知識との富は、何と底知れず深いことでしょう。そのさばき（神様の決断）は、何と知り尽くしがたく（謎めき、神秘に満ち）、その道（神様の方法、道筋）は、何と測り知りがたい（ミステリアスで、見出しがたい）ことでしょう。

ローマ11:33（新改訳より一部強調）

私たちが神様を求める時、神様は隠された謎や秘密を理解できる知恵を私たちに与えると約束しています。（エペソ1:17より）しかし、それと同時に私たちが

揺るぎない信頼

知るのは「ほんの一部」に過ぎず、神様と顔を合わせるその日まで、全てを完全に理解することはないと、使徒パウロは言っています。(1コリント13:9-10より)

私はよく、「信頼することには、まだ答えの分からない疑問が伴うものである」と口にします。神様は多くの真理を私たちに示し、複雑な問題に対しても答えを与えてくれます。しかし、神様からの答えが示されても、それを理解する器が私たちにない場合もあるのです。私たちの限りある知能では、神様にしか分からないことを完全に理解するのは不可能です。だからこそ、神様は私たちが知っておくべきことは明らかにし、私たちの理解を超越することはあえて覆いをかけるのだと、私は思うのです。

*信頼することには、
まだ答えの分からない疑問が伴うものである*

私たちが人生を前進する中で、その当時は気付かなくても、過去の出来事を振り返った時に初めて気付くことがたくさんあります。私も苦しい状況を歩んでいた時は、なぜこうなってしまったのか分からず、理解に苦しんでばかりいました。しかし、今振り返ってみると、以前とは違う視野で過去を見ることができるのです。それは霊的な成長を遂げ、過去の忍耐の成果に目を向けられるようになった証です。詩篇の著者であるダビデはこう言いました。「主よ。私は思い上がったり、横柄な態度をとったりしません。何でも知っているふりをしたり、他の者より自分がまさっていると考えたりすることもしません。」(詩篇131:1より)

ここでダビデは、人間には理解することのできない神様の隠された謎があることを話しているのだと思います。それならば、私たちは神様の前にたくさんの「なぜ？」を並べるよりも、もっと神様を信頼するべきだと思いませんか？以前、リー・ストロベル氏がこう言っていました。彼のこの言葉が大好きです。「苦しみに対する究極的な答えとして、神様は理屈を提示する代わりに、ご自身を現す『キリスト』をこの世に送られたのだ。」私たちの罪を背負い、苦しみを味わうために、神様はイエス

第8章 - もし神様が良い神様なら、どうして人は苦しむの？

をこの世に送りました。そしてイエスを信じる全ての人に、解放を約束してくれました。いつ、どのような形で解放がやって来るのか、そのタイミングは神様にしか分かりません。しかしその時が来るまで、神様を信頼し、困難の中でも神様の平安を体験できる特権が私たちには与えられているのです。

愛する人が病に苦しみ、若くして他界するようなことが起きると、「この人には解放が訪れなかった。それなのに、神様が私たちをいつでも解放してくれるだなんて、どうして信じることができるの？」と言う人もいるでしょう。神様を信頼する人にはいつも解放がもたらされることを、私は固く信じています。しかし、その解放は必ずしも地上で体験するとは限りません。私たちがやがて加え入れられる天国には、痛みも、涙も、苦しみも存在しないのです。

私は以前、赤ちゃんの頃に長い階段から転落したある若い男性の話を聞いたことがあります。その事故で、彼は背骨をひどく損傷しました。それ以降、彼は病院の入退院を何度も繰り返し、17歳になる頃には、すでに計13年間の入院生活を経験していました。それでも彼は、神様が公平であることを信じていたのです。周りから「なぜそんな風に考えられるの？」と聞かれると、彼はこう答えました。「この苦難にも勝る永遠を、神様は用意してくれているからね。」

彼のような話を聞いたり、悲惨な苦しみを耐え抜き、なおも神様を信頼し続ける人に出会うと、言葉にできない思いがこみ上げるのを感じます。ただ一つ言えるのは、彼らの信仰は美しく、彼らは状況に左右されずに堅く立つ素晴らしい模範であるということです。全てが思い通りに進み、祈りの答えがすぐに与えられるような状況の中で、神様を信頼することは簡単でしょう。しかし苦しみを背負い、長い間祈り続け、奇跡を待ち望みながら神様を信頼し続けるのは、全くの別物です。スムーズな過程の中で神様を信頼することよりも、苦難に満ちた過程の中で神様を信頼することの方がより強い信仰を伴うと私は思うのです。

揺るぎない信頼

神様って本当に良い神様なの？

はい、神様は本当に良い神様です！神様の性質そのものが良いため、それ以外の性質を持ち合わせることは不可能です。私たちの身の回りの物事が上手く行かなかったり、気持ちが進まないからといって、神様が良くない存在だと考えるのは正しくありません。聖書には、神様の善良さに関する聖書箇所が約700箇所ほど登場します。その中でも、ヤコブの手紙に含まれるこのことばが、私は好きです。

すべて良いもの、完全な（自由で、広大で、満ち足りている）ものは、空に輝くすべての光を創った神から贈られる。神は光輝くが、その光に照らされてゆれる影のように、変化することはない。

ヤコブ1:17（ALIVE訳より一部強調）

全ての良いものは神様から来ます。神様には「良いもの」を与えることしかできないのです。その真理が変わることは決してありません。私がこう話すのを聞く人の中には、「本当に良い神様なのだとしたら、なぜ今も人は苦しまなければならないの？」と主張する人もいるでしょう。私たちの苦しみには様々な理由があります。しかし、それらは神様が計画した苦しみではありません。苦しみをつくり出すのは神様ではなく、サタンの仕業です！苦しみは、どこをどう切り取っても良いものであるようには感じられません。しかし、神様は良い神様なので、私たちの人生に起こる全てのことを働かせて、それを益としてくれるのです。「こんな悲惨な出来事を益とするなんて不可能だよ！」と思ってしまうほどの難しい状況も、中にはあるでしょう。しかし、神様にとって不可能なことは一つもないのです。

私は今、何のためらいもなくこう宣言できます。私が過去に受けた虐待の苦しみも、神様が働かせて益としてくれました。そして、私の教えを受け取る全ての人の人生にも、それが益となっているのです。こう考えられるようになったのは、私を虐待した人たちへの苦い感情や自己憐憫、憎しみを手放せるようになってからでした。神様に過去の苦しみを委ね、それを働かせて益としてくれることを信頼するプ

第8章 - もし神様が良い神様なら、どうして人は苦しむの？

ロセスの中で、ゆっくりと変えられていったのです。同じような体験を、あなたもすることが出来ます。そのためには、全てのことに於いて、まず神様を信頼するのです。あなたが必要とする助けを受け取るためには、全てに於いて神様を信頼することが何よりも不可欠です。もし、神様を信頼しないのであれば、私たちにとってはどんな悲劇も、ただの混乱と苦みでしかなくなってしまいます。

神様は良い神様であり、神様がする全てのことは良いものです。(詩篇 119:68より) それでは、苦しみが私たちの人生の益になるなんてことは、果たしてあり得るのでしょうか？ 困難な状況の中にいる時、神様がその苦しみを通して私たちの内側で良い働きをするために、解放が訪れるまでの期間を長引かせるようなことはあるのでしょうか？ もちろん、その可能性は十分あります。できれば避けて通りたいような状況でも、それを乗り越えることで得た素晴らしい結果や成長の証を、きっと誰もが持っているはずで、他にも選択肢があるのなら、苦しみを通らない道を選びたいものですが、全ての状況にその選択肢があるというわけではありません。しかし、神様がその苦しみを益としてくれると信じるか信じないかは、私たちの選択に委ねられているのです。

このトピックに関しては、後ほどさらに掘り下げていきますが、せめてでもいくつかの苦しみの意味を理解できるようになるためには、まず神様が良い神様であり、神様がすることは全て良いものであると信じる堅い土台を心に据える必要があります。神様はまずはじめに、地球のあらゆる被造物を私たち人間のために造りました。それらを見渡す神様の様子が、創世記1:31に書かれています。「神はでき上がった世界を隅から隅まで見渡しました。とてもすばらしい(ふさわしい、喜ばしい)世界が広がっていました。こうして6日目が終わりました。(JCBより一部強調)」

中には「神様が良い神様だったら、なぜ苦しみと悲劇のない世界を造らなかったの？」という疑問を抱く人もいますが、本来、神様は苦しみと悲劇のない世界を造ったのです！ エデンの園や、神様が人間のために元々持っていた計画を見てみると、全てが良いものであったことが分かるはずで、神様は人間に自由意思を与え

揺るぎない信頼

ました。しかし、その結果は、この世に苦しみが増えられるものとなってしまったのです。神様は、私たち人間が自由に神様を愛することを望んでいます。操り人形のように、意志を持たずに生きてほしいとは思っていません。私たちの意志で、神様の計画を選ぶことを望んでいるのです。アダムとエバは、神様の計画を選びませんでした。その結果、苦しみが世界に入ってきたのです。そんなアダムとエバの愚かな選択から私たちを救うために、イエスはこの世に来てくれました。しかし、イエスがしてくれたことの全体像は、私たちが天国に行ってから初めて見る事ができるのです。エペソ人への手紙の中で、パウロは私たちに与えられた聖霊についてこう語っています。「私たちのうちに住まわれる聖霊は、神が約束のものをほんとうに与えてくださるという保証〔私たちの相続分の頭金〕です。私たちに押された聖霊の証印は、神がすでに私たちを買い取り、ご自分のもとの引き取ってくださっていることを保証するのです。」(エペソ1:14 JCBより一部強調)

この聖書箇所は、私たちに多くのことを示しています。私たちがイエスを救い主として受け取る時、人生のあらゆることが良くなっていくのを体験します。そして、イエスのことをより深く知り、イエスの計画に従って生きることを学ばば学ぶほど、人生はさらに良くなっていくのです。ソロモンはこう言いました。「正しい人の道は徐々に光を増し、やがて真昼のように明るく輝く(箴言4:18より)」また申命記7:22では、「神様は私たちを敵から少しずつ解放してくれる」とあります。

神様は私たちを敵から少しずつ解放してくれる

この地球でさえ、うめき声を上げながら、神様の子どもたちが完全に解放されることを望んでいるのです。次の聖書箇所は、それについて力強く語っています。

イエスの信者(クリスチャン)だって神の霊を、神からの最初の約束として先取りして〔喜びにあふれる約束を前もって味わって〕いるが、うめき声をあげている。また、神の子どもとしての完全な権利が与えられるその日を、ひたすら待ちこがれている。その日には、神が約束してくれた〔聖なる〕新しい体、すなわち、もはや病気に

第8章 - もし神様が良い神様なら、どうして人は苦しむの？

かかることも死ぬこともない〔肉欲や死から抜け出した〕体を与えられるのだ！

ローマ8:23 (ALIVE訳より一部強調)

私たちは今、神様の素晴らしさの味見をしているに過ぎません。しかし、神様の素晴らしさを完全に味わう日が、いつか必ずやって来ます。肉欲がある限り罪が存在し、罪が存在する限り苦しみがあります。この地上で生きる間に、私たちが全ての苦しみから完全に解放されることを、神様は約束していません。しかし、苦しみから引き上げてくれる神様の復活の力を、私たちは楽しむことができると約束しているのです。(ピリピ3:10より)つまり、神様によって、私たちは喜びと冷静さを持って苦しみを耐え抜くことができるということです。この世には苦難がありますが、イエスはすでに世に打ち勝ったのだから、私たちは元気を出すべきだと、イエスは言いました。(ヨハネ16:33より)

私はこの地上で可能な限り、神様の素晴らしさを楽しんでいます。そして、いつか肉体が滅び、天国で過ごすイエスとの永遠を迎える時には、今以上の素晴らしさを味わえることを楽しみにしています。その日が来るまで、私は自分が「神様は良い神様!」とだけ宣言し続けられることを祈っています。たとえどんな苦しみに直面しようとしても、どんな悲劇がこの地上で起ころうとしても、それは神様のせいではありません。なぜなら、神様は良い神様だからです!

苦しみは永遠には続かない

苦しみの中で思い出してほしい励ましの一つは、今の苦しみが永遠に続くことはないということです。少なくともイエスを信じる人にとっては、苦しみがずっと続くことはありません。なぜなら、どんな最悪なことが地上で起きても、神様と過ごす永遠の中では痛みなど存在しないと約束されていて、私たちはそれを待ち望むことができるからです。

(神様は)人の目から涙を全くぬぐいとって下さる。もはや、死もなく、悲しみ

揺るぎない信頼

(苦悩や嘆き)も、叫びも、痛みもない。先のものが、すでに過ぎ去ったからである。

ヨハネの黙示録21:4 (JCBより一部強調)

この世で味わう痛みのほとんどは、肉体が滅んで天国に行く前に解消されます。たとえその苦しみが生涯続くものとしても、天国に入る時には必ず消え去り、想像を遥かに超えるような喜びと楽しみが代わりに与えられるのです。

自分が傷を負っている時、「これもやがては消え去るもの」と考えることをお勧めします。そうすることで、圧倒される思いをせずに済むからです。最近、私は副鼻腔炎にかかり、35日間ひどい頭痛に悩まされました。その間、私は「これもやがては消え去るもの」と何度も自分に言い聞かせ、最終的には回復することができました。苦しみに耐える期間が長く続くと、つい「これはずっと続くのではないか」と思うてしまうことがあります。それでも、やがては終わるものがほとんどなのです。傷ついた心もやがては癒されます。少なくとも、イエスに委ねることで癒しを体験することができます。詩篇147:3には、こう書かれています。「神様は心の傷ついた人々を優しくいたわり、傷口を覆ってくれる。」怪我もやがては回復し、失望は新たな希望へとつながり、一つの出来事の終わりが新しい扉を開くのです。

*怪我もやがては回復し、失望は新たな希望へとつながり、
一つの出来事の終わりが新しい扉を開くのです。*

人は誰でも、過去に深く傷ついた数々の経験を抱えています。しかし、それらはすでに解決し、今はその苦しみから解放されているのです。私は30年に渡り、腰に持病を抱えていたので、日常生活は色々と制限されていました。2年前、別の医師から新たな検査を受けるよう勧められて検査を受けた結果、腰の痛みの原因は股関節の先天性異常であることが分かったのです。現代の素晴らしい技術のおかげで、私は人工股関節置換手術を受け、長年の痛みから解放されました。以前は制限されていたことも、今ではできるようになりました。30年間も続くような痛みなら、

第8章 - もし神様が良い神様なら、どうして人は苦しむの？

これから先も永遠に続くのではないかと感じる人もいるかもしれませんが、私の場合には30年の痛みには終わりがあり、そこから新しいはじまりの一步を踏み出すことができました。

どのような苦しみであっても、そこから回復できるという希望を諦めるべきではありません。希望を持って回復を望む方が、失望したままでいるよりもよっぽど良いはずです！愛する人の突然の死で絶望する人が、癒されることは可能だと思いますか？はい、もちろんです。神様に不可能はありません。どんな傷も、どんな痛みも、神様には癒すことができます。

使徒パウロは、私たちの想像を絶するような苦しみを体験しました。それでも、彼はその苦しみを永遠とは考えず、ほんの束の間のものだと考えたのです。

今の私たちの試練は、永遠の栄光と比べれば、束の間(過ぎ行く時間の中の一瞬の問題)であり、取るに足りないものだ。また、この試練が永遠の財産を増し加えてくれている。[それは、すべての測りを越え、あらゆる比較と計算をずば抜けて卓越し、桁違いに広大な、決して消え去ることのない栄光と祝福である!]

2コリント4:17 (ALIVE訳より一部強調)

神様を信頼する選択をすることで、私たちもパウロのような姿勢を持つことができます。彼は、「見えるものではなく、見えないものに目を留める」と言いました。(2コリント4:18より)言い換えると、物理的な視点ではなく、霊的な視点でパウロは人生を見ていたのです。苦しみの最中でも、パウロは神様が善良であることを信じました。そして、神様のことばが約束するように、全ての苦しみが喜びに変わる栄光に満ちた場所で、神様と共に永遠を過ごせることを信じ続けたのです。

第9章

神様が苦しみを「許可」しているの？

天も地も、深い海も、主は思いどおりに治められます。

詩篇135:6 (JCB)

こう言う人がいるでしょう。「神様が苦しみや悲劇を起こしているとは思わない。神様がそれを計画しているとも思わない。でも、苦しみや悲劇が起こることを許可しているのは神様なの？もしそうだとしたら、一体何のために？どんな目的で？苦しみを許可することと、実際に起こすことと、どう違うの？悪や悲劇に苦しむことを許可するような神様を、どう信じればいいのか？」これは人々のリアルな声であり、私は実際にこれらの質問をされたこともありました。

また、こんな意見も聞いたことがあります。「神が存在しないという結論に至ったのは、科学的な観点からではない。この世にはびこる悪や苦しみのために、私は神の存在など信じられなくなったのだ。」その人は、これまで見てきた悪と良い神様の存在を両立させることができなかつたのです。もちろん、これらの疑問にも勝るような強い信仰を持つ人たちもたくさんいます。しかし、それと同時に、信じるためには「これだ!」と確信できる答えを必要とする人もたくさんいるのです。

私の場合は、邪悪な父親から受けた傷が要因となって、神様を信じる信仰へと押し流されました。自分一人では、虐待による痛みと苦しみに耐えることができなかつたからです。神様と関係を築く中で、私は平安と希望、癒しを体験しました。神様を知り、神様を信じることで体験した祝福の方が、神様に対する疑問よりも遙かに大きく意味のあるものでした。そして今は、答えが示される時まで、あるいは全てのことが明らかにされる天国で神様と出会うその瞬間まで、様々な疑問を片隅に

揺るぎない信頼

置くことができるようになりました。

しかしながら、人々がそのような疑問を抱えてしまうのは理解できます。疑問に感じることを声にするのは悪いことではありません。私たちがどんなに疑問を投げかけても、神様の気分を害することはないのです。しかし、全ての疑問に答えることが、必ずしも適切ではないと神様は考えています。たとえ私たちがどんなに多くの答えを受け取っても、「なぜ？」は止めどなく溢れ続けます。たとえ人生で起こることに対して疑問がある場合にも、神様を信頼するかどうかは私たちの決断に委ねられているのです。

果たして本当に、神様が悪を「許可」しているのかどうかについては、私も最善を尽くしてお答えするつもりですが、それでも私の答えが完璧なわけではないことを、前もってお伝えします。特に神様を信頼しないための言い訳を探しているような人たちにとっては、私の答えに不満を感じるでしょう。また、全てのことを頭で理解しないと気が済まないような人たちにとっても、私の答えでは不十分だと感じるはずです。知識を追い求めるのは良いことです。しかし、それが行き過ぎてしまうと逆効果になってしまいます。私が一生涯大切にしたいと感じる聖書のことばが、箴言にあります。

心を尽くして主に抛り頼め。自分の悟りにたよるな。

あなたの行く所どこにおいても、主を認めよ。

そうすれば、主はあなたの道をまっすぐにされる。

自分を知恵のある者と思うな。・・・

箴言3:5-7 (新改訳)

どんなに自分の悟りに頼っても、決して平安を見出すことはできません。「なぜ『これ』や『あれ』は起こったの？なぜ私の身に起こる必要があったの？」といった考え方は、まさに私たちの敵であるサタンのささやきです。そんな風に疑問を吹き込んで、サタンは私たちを神様から引き離そうとします。エデンの園の時代まで

第9章 - 神様が苦しみを「許可」しているの？

さかのぼり、どのようにサタンがエバに疑問を吹き込んだのかを思い出してみてください。サタンのささやきを鵜呑みにした結果、アダムとエバは罪を犯しました。その結果、神様が元々人間のために用意していた計画は変えられてしまったのです。サタンはエバにこう言いました。「ほんとうにそのとおりなんですかね？ほかでもない、園の果実はどれも食べてはいけないという話ですよ。神様は、これっぽっちも食べてはならないと言ったっていうじゃないですか。(創世記3:1 JCB)」その疑問がサタンの思惑通りに働いて、さらなる疑問がエバの中で勝手に出てきます。「この園にある果実が全て良い果実なのだとしたら、なぜ神様は食べてはいけないなんて言うのかしら？」そんな風にして言い訳をし始めたエバは、結果的にサタンに騙され、彼女の一生は大きく変わってしまったのです。

*どんなに自分の悟りに頼っても、
決して平安を見出すことはできません。*

神様がもともと創造した世界は、苦しみも悲劇もない完璧な世界でした。そして神様は、アダムとエバが権威を持って行動し、与えられた全てを用いて神様と人に仕え、世界を導くことを望んでいました。(創世記1:28より)苦しみを世界に招き入れたのは神様ではなく、神様が創造した男と女です。彼らが神様にではなくサタンに耳を傾け、禁じられていた果実を食べたことで、苦しみは始まったのです。たった一度の決断が、自由に生きて神様の愛と親しい関係を楽しむ人生から、神様を恐れて身を隠す人生へと変えてしまったのです。(創世記3:8より)

神様にはこの世における最高権威があります。いつでも、どこでも、誰にでも、どんなことでもすることができます。私たちの祈りも、全ては神様の最高権威に委ねられています。「神様には全てのことが可能である」という約束に私たちは拠り頼むのです。(マタイ19:26より)ところが、神様は人間に自由意思を与えました。この自由意思こそが、私たちが悪に苦しむ日々を送るかどうかに影響を与えるのです。あなたはの中で、神様に従う方を選びますか？それとも、自分の道を突き進む方を選びますか？

揺るぎない信頼

神様は私たちを愛しています。そして、私たちが神様を愛することを望んでいます。しかし、強要される愛は真実の愛ではありません。ありのままの形で自由に捧げられてこそ、真実の愛です。私たちも愛する人には、自由を与えたいと望むものです。以前、こんなフレーズを聞いたことがあります。「愛は選択の自由を伴う。自由意思のあるところには悪が伴う。しかし、悪のあるところには救世主が存在する。救世主の存在するところには罪の贖いがある。罪が贖われると解放がもたらされる。」

神様は、人間が愚かな決断をする可能性があることを承知の上で、彼らに自由意思を与えました。その決断のために、痛みや苦しみを世界に招き入れる結果になることも理解していました。しかし、神様は人間を野放しにはせず、いつでも選択の余地と必要な助けを与えてくれました。その観点から考えると、神様は苦しみが世界に入ってくることを許可したと言えるのかもしれません。たとえそうであっても、操り人形のように意思のない人間を造ることに比べれば、意思を持って、愛し、行動する人間を造ることの方が遥かに意味のあることだったのです。

神様に解決できない問題などありません！これから起こることを見越して、神様は唯一の息子であるイエスを世界に送り、人間の罪に対する代価を払い、神様と人間が再び親しい関係を築くチャンスを与えようと、あらかじめ計画していました。神様は、苦しみから抜け出すための逃げ道は用意しませんでした。それは、この世に罪がなおも存在し、それが消え去らない限り、苦しみもなくなることはないからです。しかし、イエスを通して、神様は罪に対する赦しを与えてくれました。そして苦しみを避けて通れない時にも、耐え抜くために必要な慰めや、恵み、力など、あらゆる助けを与えてくれたのです。それだけではありません。もし私たちが神様を信頼するなら、壮絶な苦しみですら、人生の益とすることも約束してくれたのです。

そして私たちは、人が神を愛し、神の計画どおりに歩んでいるなら、〔神が共に重荷を背負ってくれることで〕自分の身に起こるすべてのことが益となる〔計画の中におさまる〕と知っている！

ローマ8:28 (ALIVE訳より一部強調)

第9章 - 神様が苦しみを「許可」しているの？

良い出来事だけが、人生の益となるわけではありません。悪い出来事ですら、神様には益とすることができます。これこそが、まさに神様の善良さを証明しています。神様の善良さは、不公平な出来事や個々の苦しみが持つ影響力を、全て丸ごと飲み込んでしまうのです。だからこそ、真つ当な理由がないなら、私たちは神様を信頼すべきです。神様を信じる信仰を持っていても、持っていなくても、私たちは等しく苦しみを味わいます。「この世には苦難がある」とイエスは告げました。しかし、イエスはそんな世に対して勝利することを宣言し、実際に約束を果たしてくれたのです。(ヨハネ16:33より)苦難を引き起こす原因は罪です。しかし、イエスこそが苦難に打ち勝つための答えとなってくれました！神様は、私たちを決して見捨てたりはしないのです！

*良い出来事だけが、人生の益となるわけではありません。
悪い出来事ですら、神様には益とすることができるのです。*

神様に頼らないでたった一人で苦しむよりも、神様と一緒に歩みながら苦しみを耐え抜き、時が来たら解放されること、もしくは苦しみが益とされることを信じる方が、よっぽど良いと思いませんか？私には、神様を信頼すること以上に腑に落ちる答えはありません。神様を信頼する生き方には、助けをもらえるチャンスが広がります。それとは反対に、神様を信頼しない生き方には、解放と癒しの希望もなのまま苦しむ運命が定められているのです。

神様を愛し、信頼し、神様に従うことを望む人々には、神様が全てを働かせて益としてくれます！私たちには生まれた瞬間から自由意思があります。ですから、苦難に直面する時も神様を信頼するかしないかは、私たちの決断次第なのです。

全ての苦しみは罪の代償

罪が存在していなければ、苦しみも存在しませんでした。全ての悪と苦しみは、罪による代償です。それは、自分や他人が犯した罪の直接的な結果かもしれな

揺るぎない信頼

いし、墮落した世界に住んでいることとの間接的な結果かもしれません。サタンは罪の根源です。人々を誘惑して騙すサタンこそが様々な問題の原因であると、はっきり言っても良いくらいです。しかし、自分が誰に対して耳を傾け、何に従うかという選択に関しては、私たちの自由意思が関わっていることを認識し、責任を持って行動すべきです。あなたは神様の導きを信じて、神様に対して従順に耳を傾けますか？それとも、サタンの偽りに耳を傾け、自分の欲のおもむくままに生きていますか？エバが経験したように、サタンは魅力的に見える一時だけの快楽を餌に罠を仕掛けてきます。しかし、神様はそんな一時的な快楽を遥かに超える人生を与えてくれます。それは、神様と共に歩み、親しい友好関係を築く中で与えられる平安と喜び、そして目的のある人生なのです。

「自分があの時あんな罪を犯したから、結果的に今こうやって苦しんでいるのだ」というように、全ての苦難と自分の罪をつなげて考えすぎないようにしてください。病気を患う人の中には、自分の犯した過ちのゆえに病気になってしまったのではないかと考え、罪の意識に苦しむ人がたくさんいます。確かに、自分の罪が病への扉を開ける要因となる可能性はありますが、直接的な過ちを犯していなくても、罪みれの世界に暮らしているということで病気を招いている可能性も、十分考えられるのです。すでに悲劇や痛みを抱えて苦しんでいるのに、これ以上自分自身を責めることはしないでください。神様が私たちの罪を明らかにする時、その過程の中で、私たちに罪悪感を与えることは決してありません。むしろ私たちが自分の罪を認め、それを悔いて心を入れ替え、赦しを受け取るチャンスを与えてくれます。神様は決して私たちに非難しません。もし非難されているように感じるとしたら、それは悪魔の仕業です。

なぜ人は苦しむのか、なぜ世界は悪に満ちているのか。その理由を探りたいという願望以上に、人々は自分の生きる目的を知りたいと願っているはずです。「自分には価値がある」と実感できる何かが欲しいのです。人々の抱えるそもそもの問題は苦しみにあるのではなく、満たされないままの心にあります。例えば、世の中にはインドのように様々な苦難を抱えながら、なおも宗教的な国があります。間違っ

第9章 - 神様が苦しみを「許可」しているの？

た宗教も多くありますが、それらの国の人々は、神という存在を求めているのです。つまり、自分以外の存在を礼拝するという概念を持っていることが分かります。それと比べて、西洋の国々はどうでしょうか。元々は神様への強い信仰心から始まった国であり、あらゆる喜びと楽しみを味わってきたはずなのに、ますます神様の存在から離れる一方です。本質的に考えると、西洋の国々は「もう神など必要ない」と言っているのと同じ状態にあります。国を挙げて、神様を必要としないような人道主義を掲げ、人間が全てを支配する社会を構築し始めているのです。より多くの罪がはびこるほど、結果的により多くの苦しみと悪が招き入れられるのです。しかし、神様の存在からどれだけ離れた国に生きていても、神様に耳を傾け、全てにおいて神様を信頼するならば、その人は苦難の中で神様の助けを体験します。やがて解放も体験し、悪からも大いに守られるでしょう。しかし、聖書の中に苦難を避けられるという約束は、どこにも書かれていません。私たちが住むこの世界には罪が溢れています。そのため、罪から来る代償を避けて通ることはできないのです。

苦難には2つの種類があります。一つは道徳的な決断から来る苦難で、もう一つは洪水や火災、台風などといった自然災害による苦難です。これらの苦難は神様が計画したのでしょうか？もしくは、神様が起こることを許可したのでしょうか？そうだと主張する神学者もいれば、そんなはずはないと主張する神学者もいます。そのように神学的な討論を続けるよりも、罪の重みに苦しむ地球の叫び声が自然災害として現れていると考える方が、ごく自然ではないかと私は思うのです。

どんなに善良で無実な人でも、自然災害で愛する人を失い、苦しむことがあります。なぜそのような災害が起きたのかと論じ合うよりも、苦しむ人のために何かできることはないかと手を差し伸べることに、私は力を注ぎたいです。神様を信頼して生きる人々も、邪悪な心を持った人々と同じように自然災害に見舞われ、被害を受ける可能性があります。なぜそんなことがあり得るのかを説明できる人は誰もいないでしょう。少なくとも、私にはできません。しかし、神様を信頼する人々には、神様からの解放と助けがやって来るという希望が残されています。憐れみと優しさは、どのような裁きにも勝る力があるのです。

揺るぎない信頼

助けはいつやってくるの？

神様の助けは、やって来る時と来ない時があるように見えるかもしれません。そのように“見える”かもしれませんが、実際には違うのです。自分が望んでいる助けを神様が与えてくれない時、私はいつも神様の性質を思い返すようにしています。そうすることで、私が神様のベストな方法を求める時、神様が必ず事を成し遂げてくれると信頼できるようになるからです。私たちはよく、自分の求める形にこだわりがちです。そのため、自分の望むような方法で助けが与えられないと「神様は私たちを全く助けてくれない」と解釈してしまうのです。しかし、自分の身勝手な思いで頭がいっぱいになってしまうと、神様が今まさに助けを送ってくれていることに気付けなくなってしまいます。

もう一つの問題は、助けが来るタイミングです。祈るとすぐに神様が助けを送り、解放をもたらしてくれるケースもあります。しかし、私たちには理解できないようなタイミングで助けがやって来ることもあるのです。自分が通っている苦しい状況の中に神様の助けが約束されているのなら、なぜ何ヶ月も何年も待たなければならないのでしょうか？神様のすることには、いつも理由があります。しかし、その理由が何なのかを神様が私たちに示すことはほとんどありません。時には苦しみを通して、神様は私たちの内側に良い働きをしてくれます。それはもしかすると、全てが順調に進んでいる時の私たちには向き合えないような働きなのかもしれません。

C.S.ルイスはこう言いました。「痛みはいつも何かを主張する。神様の声は、楽しみににおいてはささやく声、良心においては呼びかける声であるが、痛みの中では大きな叫び声となる。神様はその声をメガホンにして、聞く耳を持たない世界を目覚めさせようとするのだ。」

私たちに神様の声が聞こえる時、それは必ずしも神様からの初めての呼びかけではないはずです。自分の考えと神様の計画が異なる場合、自分の考えが大きくなり過ぎると、それが神様の答えを受け取る妨げになります。先ほど、私の悩みであ

第9章 - 神様が苦しみを「許可」しているの？

った目の乾燥に対する神様の答えが「より多く水分を取ること」だったとお話しました。でも、水分補給だったらもう十分できていると思い込んでいたので、神様の答えをきちんと受け取っていませんでした。当時を振り返ってみると、色々な人たちから「もっと水分が必要なのでは」と指摘されていたのですが、私はすぐに「水ならもうたっぷり飲んでるから、それは正しい解決策ではないと思うわ!」と答え、アドバイスを跳ね除けていました。

2列王記5章に、ナアマンという男性が登場します。シリヤ軍の最高司令官で、非常に勇敢な人でしたが、ひどい皮膚病を患っていました。ある日、彼は使用人の一人を通して「預言者のエリシャだったら皮膚病を癒せるかもしれない」という話を耳にします。そこで人々はシリヤの王からの手紙を携えて、ナアマンをエリシャの元へと連れて行きました。ナアマンが到着すると、エリシャは直接彼と対話をせず、「ヨルダン川に入って7回身体を洗えば癒されるだろう」と使いの人を介して伝えました。それを聞いたナアマンは、なんと腹を立てたのです。なぜなら、エリシャが偉大な神様の男だったら、今この場で儀式を取り持ち、盛大に彼を癒してくれると思っていたからです。最高司令官という自分の地位のゆえに、いつも敬意を持って取り扱われるのが当たり前だと考えていたようですが、この場合はそうではありませんでした。

聖書によると、その後ナアマンは怒り狂ってその場を出て行き、こう言いました。「ただ川で洗うだけだったら、わざわざこんなに遠くまで来る必要などなかった、川だったら故郷にもっと良い川があるじゃないか。」しかし、使用人の一人が彼にこう返したのです。「もしあの預言者に、何か難しいことをせよと言われたら、そうなさるおつもりだったのでしょ。それなら、体を洗って、きよくなれと言われただけのことですから、そのとおりになさってみたらいかがですか。(2列王記5:13 JCB)」神様は下の位の使用人を用いて、ナアマンのプライドに訴えかけました。そのプライドこそが、喉から手が出るほどに欲しかった癒しを受け取る妨げとなっていたのです。私たちはどのくらい、「これはこうじゃなきゃならない」などのような自分の「考え」に固執し、神様の助けが別の形でやってきてもそれを助けとして捉えず、しまい

揺るぎない信頼

には気分を害したりして、答えを受け取るチャンスを見逃してしまっているでしょうか？

神様のことばは、こう語っています。「愛する皆さん。人のことばにまず耳を傾け、自分はあとから語り、怒るのは最後にしなさい。(ヤコブ1:19 JCB)」もっと聞く耳を養えば、人生に必要な答えをより多く受け取ることができるかもしれません。少なくとも、私にとってはそうでした。

まだ若いクリスチャンだった頃の私は、自分の気に入らないことや理解できないことがあると、いつも「なぜ？」と疑問を持ち、イライラしてばかりいました。「神様、なぜミニストリーが成長するのにこんなに時間がかかるの？神様、私はこんなに祈っているのに、なぜデイズと子どもたちを変えてくれないの？」今ではその疑問の答えがはっきりと分かります。変えられるべきだったのはミニストリーや家族ではなく、私自身だったのです。当時の私は、それに気付くことができないほど未熟でした。私たちが誤った疑問を持ったり、求めているものを受け取る準備ができていない場合には、神様は答えを与えるまで時間を置くということを、私は経験を通して学びました。結局のところ、どのような疑問に対しても、答えは全て同じです。それは「神様を信頼する」ということなのです！

*私たちが誤った疑問を持っている場合、
神様は答えを与えるまで時間を置くことがあります。*

第10章

私たちが苦しむ理由(パート1)

どんなことにも〔神に〕感謝しなさい。〔状況がどうであれ、感謝の態度で感謝を捧げなさい。〕これこそ、キリスト・イエスにあって、神が〔キリストに属する〕あなたがたに望んでおられることです。

1テサロニケ5:18 (JCBより一部強調)

苦しみを完全に理解することはできません。しかし、理解を深めることは可能であり、それは賢いことです。多少の理解があるほうが、何も分からず混乱するより、苦しみに耐えやすくなります。全く何も理解できないと、重荷は倍になって私たちにのしかかるでしょう。人はなぜ苦しむのか。その答えの多くは、私自身が霊的に成長する過程の中で示されました。例えば、苦しみをただ受け止め、そのプロセスが完了するまでひたすら待たなければならないこともあります。それとは反対に、苦しみの中でも揺るがずに立ち、サタンに滅ぼされてしまわないよう自分を守る必要があることもあります。これから先、神様にあってますます成長する中で、苦しみについてより理解を深めていくことと思いますが、この章では、今の私が知っていることをあなたと分かち合っていきたいと思います。

すでに与えられている祝福の一つ一つに目を向け、感謝することには、苦しむ魂を元気付ける効果があります。苦しいことに目を向ければ向けるほど、苦しみは増すばかりですが、感謝できることを探し、そこに集中することは、かなり助けになるのです。神様が良い神様であると信じる人は、人生で最悪な苦しみを通るような時にも、神様への強い信頼があるため、人生のあらゆるシーズンを乗り越えられると証明することができます。苦しみに直面しながら、なおも語れる感謝のことばには、その人が持つ神様への信頼を何よりも物語る力があるのです。不当な理由で苦

揺るぎない信頼

しんでいる場合には、なおさらのことです。

苦しみはとてモリアルであり、痛みを伴います。時には非常に恐ろしく、耐えきれないほどの恐怖心をおおることもあります。肉体面の苦しみもあれば、霊的な面、精神面、感情面、金銭面、対人関係などにおける苦しみもあります。イエスは、人間では耐えられないような苦しみを通りながらも、その過程を通して従順さを学びました。そのことを、聖書が記しています。(ヘブル5:8より)イエスが従順ではなかった瞬間など、一度もありませんでした。むしろ、どんな時にも感謝に満ちて、愛の溢れる態度を取っていました。イエスは苦しみを通して、神様への従順には犠牲が伴うことを学び、自ら進んで犠牲を払い、私たちの救いの源となってくれたのです。(ヘブル5:9、12:2より)イエスこそが、人生に起こり得る全ての痛みを理解できる大祭司です。(ヘブル4:15より)ですから、イエスは自分自身が行ったことのない道を、私たちに行けとは言いません。私が行く前に、まずイエスが先を行ってくれること、そして私が歩むための道を備えてくれることを思うと、感謝せずにはられません。

*イエスは自分自身が行ったことのない道を、
私たちに行けとは言いません。*

それらを踏まえて、日々の中で苦しみに直面したら、私たちがすべきことをいくつか紹介していきたいと思います。

罪は全ての苦しみの根源

ここまでの内容で、自分の罪や、他の人の罪、または墮落したこの世界に住んでいることが、苦しみを引き起こす原因となっていることが分かりました。しかし、さらに理解を深めるために、もう一步踏み込んで考えてみたいと思います。神様が人間のために持っていた元々の計画は、苦悩や苦痛に満ちたものではありませんでした。それなのに、全ての苦しみを神様のせいにするのは、不公平なことだと思いま

第10章 - 私たちが苦しむ理由(パート1)

せんか？

病は、私たちが頻繁に味わう苦しみの一つです。罪と病には何らかの繋がりがあるという話を聞くと、一体どの罪が原因となっているのか見定めようとして、私たちはつい考え過ぎてしまいます。確かに、自分が過去にした何かが原因となって病を引き起こす可能性も考えられます。しかし、必ずしもそうとは限らず、ほとんどの場合は何の関係もないと言っても過言ではありません。

聖書の中で、特定の罪と特定の病の関係性を、イエスが指摘するような場面は登場しません。イエスは癒し主であり、癒しの力を通して、人々が罪の赦しを受け取る手助けをする存在です。(マルコ2:9-11より)聖書を詳しく学ぶと、癒しと罪の赦しは、十字架によってキリストがもたらした和解の一部であることが分かります。(イザヤ53:4-5より)つまり、癒し主である神様が、同時に病をもたらすことは不可能なのです。ですから、「神様は良い存在、悪魔は悪い存在」というシンプルな真理を、私たちの心にしっかりと刻み込んでいきましょう！

毎年、風邪やインフルエンザの季節がやって来ると、多くの人が感染して苦しみます。それは良い人にも、悪い人にも、若い人にも、老いた人にも、同じようにやって来るのです！それなのに、風邪やインフルエンザにかかる人は罪のある人で、かからない人は罪のない人と判断するのは適切ではなく、疑いが残る考え方です。しかしながら、病気になったら、その病を迎え入れるようなきっかけを自分が作ってしまったかどうか、神様に尋ねるのは一つの知恵です。ちゃんと自己管理をできたかもしれないのに、できていなかったことが原因で免疫力が低下し、身体が病気に負けてしまう可能性も考えられるからです。そんな時、今後の改善点を神様が示してくれることもあれば、逆に何も示されないこともあります。示されなかった時はただ神様に癒しを求め、神様が全てを益としてくれることを信じれば良いのです。

風邪やインフルエンザだったら、このように折り合いをつけて理解するのも

揺るぎない信頼

難しくはありません。しかし、その病気ががんなどのように、大きな苦痛や命を脅かすようなものだったら、頭の中で折り合いをつけるのはとても難しいことです。状況が困難であればあるほど、頭で理解するのは難しくなるのです。

私は、1989年に乳がんを患いました。最近になってよく考えるのですが、あの頃もっと自分を大切にできていたら、あれは免れることができる病だったのかもしれない。当時はまだミニストリーを始めて間もない頃で、まだ神様を信頼することや、忍耐することをよく理解していませんでした。そのため、いつもストレスを抱えた状態で生活していたのです。それに加えて、ミニストリーを建て上げるのと同時に、神様によって心の癒しを体験している最中でもあり、困難で苦しいプロセスを歩んでいました。夜は十分な睡眠をとらず、適度な運動もせず、仕事に明け暮れ、身体を休めることもなく、ジャンクフードばかり食べ、コーヒーも明らかに飲み過ぎていて、水分不足で、いつもカリカリしていて、すぐにイライラして・・・全てを挙げればきりがありません。そんな生活の中でホルモンのバランスが崩れた結果、月経周期に影響が出てしまい、病院を受診することになりました。そこで医師からは子宮摘出の話をされ、それからはエストロゲン注射を打つようになりました。その効果は絶大だったので、最終的には10日ごとに注射を打っていました。それから約1年が過ぎた頃、私はエストロゲン依存性の乳房腫瘍であると診断されました。言い換えると、エストロゲンが餌となって、腫瘍が成長したのです。それは危険なタイプの進行性のがんだったため、大手術が必要とのことでした。

しかし、私が自分の身体を大切にしていなかったことを、神様は決して罰したり、非難したりしませんでした。手術は無事成功し、その後の治療も特に必要ないほどにまで回復しました。それはまさに、奇跡であったとしか言いようがありません。その経験を通して、神の宮である自分の身体を尊重することの大切さを、神様は私に教えてくれました。今では自分の健康面を考慮して、より良い日常生活を送るよう心がけています。十字架の代価によって私たちは贖われ(買い取られ)、神様に属する者とされました。神の宮(家)である自分の身体を尊重せず、酷使するのは罪深いことなのだと、私はこの経験を通して気付くことができました。「その考え方は、

第10章 - 私たちが苦しむ理由(パート1)

私にはちょっと度が過ぎるわ」と感じる人は、ひとまず心の隅に置いてもらって構いません。しかし、自分の身体を大切にし、尊重することの大切さは忘れないでください。

色々な人と話をする中で、いかに多くの人が（あるいはほとんどの人が）自分の身体を大切にしていないかに気付かされます。単純に、健康に関する知識が足りないことが大きな要因だと考えられますが、だからこそ（それ以外の理由がないのなら）、病の根源が何なのかを神様に尋ねるのは賢い選択なのです。ぜひ一度、霊・魂・体の健康に関する本を読んでみてください。きっと、今までは気付かなかった多くのことに気付かされるはずです。

がんを患った私に対して、神様は非常に深い憐れみと恵みを示し、これ以上ない結果を与えてくれました。このように私が自分の経験談を話す理由は、「がんになるのは自分を大切にできない人たちだ」と言いたいからでは決してありません。様々な病気の原因が何なのか、私もその全てを知りません。しかし、健康であることを心がけ、体力を保つことが大切であることは、誰もが知っているはずです。サタンは、次の獲物を探して地上をさまよっています。そのターゲットにならないために、私はできる限りの努力をしたいのです。1ペテロ5:8(JCB)にはこう書かれています。「最大の敵である悪魔の攻撃に備えて、警戒しなさい。悪魔は、飢えてほえたけるライオンのように、引き裂くべき獲物を求めてうろつき回っているのです。」つまり、悪魔の獲物とならないために、適度なバランスを保ちなさいとペテロは言っているのです。当時の私の生活習慣は、とてもバランスの取れたものではありませんでした。健康を守ることに関する聖書の教えを破りながら、なおも病気にならないことを期待するのは間違っています。自分の身体を大切にしなければ、最終的に辛い思いをするのは自分自身なのです。

私は股関節の先天性異常と関節炎を患い、最近になって股関節置換手術を受けました。術後の経過は驚くほど良好でしたが、動き過ぎるとひどい痛みを感じることがありました。痛くなったら、それは動き過ぎているサインなので、仕事を減らし、忍耐して静養を心がけるようにしました。私の担当医も、痛みの度合いに従

揺るぎない信頼

って、その日にできることとできないことを決めるよう勧めました。「今日動き過ぎて、翌日に痛みが増したら、その日の活動を減らして、痛みのある部位を休めなさい。」というのが、医者へのアドバイスでした。

エペソの人々にパウロが宛てた手紙にもあるように、私たちはいつどんな攻撃にも対抗できるように備え、自分の持ち場を守るべきなのです。(エペソ6:13より)キリストとその愛に留まり、癒されることを信頼し続けましょう。神様が示されることに従って行動し、神の愛のうちで休息して、完全な回復と癒しを期待するのです。

知恵のある人は、愚かな人よりも苦しまずに済む

どんなに賢く知恵のある人でも、苦しみを避けて通ることはできません。しかし、愚かな人には防げられないようなことを、知恵のある人には避けて通れることがたくさんあります。神の教えにもあるように、自分が蒔いたものは、最終的に自分で刈り取るのです。(ガラテヤ6:7、マタイ7:1-2、ルカ6:31より)この教えを読むと、いつもハッとさせられます。この聖書のことばは、全ての人が日常的に思い返すべき教えではないでしょうか。

例えば、ある男性が複数回に渡り、妻を裏切るような行為をしたら、彼はその後、失ってしまう存在の大きさに苦悩するはずです。これは紛れもなく自分の責任であり、自分が蒔いたものを自分で刈り取っているに過ぎません。また、ある人が深く考えずに高額な買い物をしたら、その後の負債に追い詰められても、それは自分の責任であり、愚かに蒔いてしまったものを刈り取っているに過ぎないのです。箴言には、愚かな人が人生に問題を積み上げる様子が描かれています。その一つの例として、次の箇所を読んでみましょう。

〔自意識過剰な〕愚か者はすぐにけんかをします。

〔自意識過剰な〕愚か者の口は破滅のもとで、いつも危ない橋を渡ります。

箴言18:6-7 (JCBより一部強調)

第10章 - 私たちが苦しむ理由(パート1)

また、賢く知恵のある人のことばには価値があると記された聖書箇所もたくさんあります。その一つが次の箇所です。

批評好きは人を傷つけますが、知恵ある人のことばは慰め、いやします。

箴言12:18 (JCB)

賢いことばを語ることに加えて、賢い行動を選択することも大切です。箴言では、知恵こそが最も価値あるものであり、私たちが追い求めるべきものであると教えています。知恵のある人には、全ての人が望むような果てしない祝福が約束されています。神様からの好意や、豊かさ、この世での長い人生、成功、明確な方向性、守り・・・数えきれないほどの祝福が注がれるのです。

自分がする愚かな決断の代償は、すぐにはやって来ません。もしすぐ来るとしたら、きっと今頃私たちは大変なことになっているでしょう。感謝すべきことに、私たちは神様の赦しと憐れみを受け取ることができます。しかし、もし私たちがそれでも愚かな選択をし続けるのであれば、その代償を払うのは自分自身であり、何らかの苦しみを味わることになるのです。

私たちは、道徳という基盤で成り立つ世界に生きています。ですから、道徳に反する行為にはそれなりの結末が伴うのです。例えば、飲酒運転をしたら、事故を起こして自分や他人を傷つけることになります。また、かんしゃくばかりを起こす人には、独り寂しく生きる人生が待っています。人殺しをしたら、赦しを受け取ることが可能ですが、人生の長い期間を牢獄で過ごす結末を迎えます。それらを踏まえて、日常の中で自分が語ることばや取る行動には、結果が伴うことを心に留めて生活してみてください。そうすることで、いざという時に賢い選択ができるきっかけを得られるかもしれません。

使徒パウロは、人間には受ける価値がある苦しみと、受ける価値のない苦しみがあると言っています。不正な行動を取って正しく裁かれるよりも、正しい行動

揺るぎない信頼

を取っていながら不正に裁かれる方が優れていると教えているのです。(1ペテロ 2:19-20、4:15-16より)

神様のことばを学び、知恵を身につけ、それを人生に適用すればするほど、苦しみは減っていきます。私は身をもってそれを体験しました。聖書は私たちの人生に与えられたマニュアル本です!良く考えた上で、一つ一つの決断をしていくための手助けをしてくれます。全ての決断には結果が伴います。だからこそ、良く考えて決断することが大切です。神様のことばに従って生きていれば、人生に起こりうる様々な結果の被害者になることはありません。なぜなら、神様に従っていれば、それらの結果から何かを学び、乗り越える決断をしていくことができるはずだからです。神様のことばを学ぶ前までは、私も性的虐待の被害者でした。しかし、神様のことばを知るようになってからは、神様の方法に従ってあらゆる決断をしていけるようになりました。そのため、今では過去の影響から解放され、自由の中を歩んでいます。

キリストを信じる信仰のゆえに受ける迫害の苦しみ

テモテに宛てて書いた手紙の中で、パウロは神様に従って生きる人生には迫害という苦しみに伴うことについて書いています。(2テモテ3:12より)パウロ自身も迫害に苦しみました。神様がその全てから彼を解放してくれたと言っています。(2テモテ3:11より)つまり、どんな苦しみの中にあっても、私たちには解放が約束されていて、神様がそれを実現してくれると信頼することのできる特権が与えられているのです。そのことに、私はとても感謝しています。しばらくの間は、苦しみに耐えなければならぬ期間があるかもしれませんが、神様は忠実な存在です。私たちが望むなら、解放が訪れるまでの間、どんな苦しみにも良い態度で耐え抜く力を神様は与えてくれるのです。

キリストへの堅い信仰を公に持ちながら、迫害を味わったことのない人はほとんどいないはずです。このような場合の迫害は、拒絶という形で現れます。私も

第10章 - 私たちが苦しむ理由(パート1)

個人的にそんな場面に遭遇したことがあります。それはとても重く辛い体験でした。神様のことばを教えるという使命に従うために、教会を去るよう命じられ、結果的に家族や友人からも拒絶されました。私たち人間は、多様性の中に一致を見出すのが苦手な生き物です。みんなが同じでなければ、自分たちの考えやアイデア、活動が攻撃されるのではという危機感を覚えるのです。

私は、いわゆる女性のあるべき立場から飛び出し、自分が神様から語られたことばを信じました。そんな私の決断が、多くの人の逆鱗に触れたのです。「私は一体、自分を何者だと思っているの？きちんとした教育も受けていないし、しかもただの女じゃない。私が属するクリスチャンのコミュニティでは、女性が神様のことばを教えるなんて、あり得ないことなのに。」今振り返れば、それは悪魔からの最初の攻撃でした。そんな風に耳元でささやき、神様の声に従うことを諦めさせ、今までのコミュニティに留まり、惨めで満たされない思いを抱え続けるように、私を仕向けようとしていたのです。

当時の使徒たちは、これから迫害にあうことを聖霊によって語られていました。それでもなお、彼らは大胆に前進し続けたのです。しかし中には、神様のことばを聞いて最初はそれを喜んで受け入れても、心に深く根付かせようとせず、しばらくの間は耐え忍んでも、神様のことばのゆえに迫害される(苦しみを味わう)と、すぐに心が折れてぐらついて離れていく人たちがいると、イエスは教えています。(マルコ4:16-17より)

人は誰しも、周りから受け入れられたいと望んでいます。拒絶されることの痛みを喜ぶ人などいません。感情的な痛みは非常に強く、しかもひどく長引くものです。イエス自身も人々に拒絶され、あざけられました。(イザヤ53:3より)実際に、ヨハネ15:25には、イエスが理由もなく憎まれたと記されています。イエスはとても善良で、一度も罪を犯さなかったのに、人々から迫害されたのです。またイエスは、弟子がその師を超えることはないとも言いました。(ルカ6:40より) つまり、もしイエスが苦しんだなら、私たちも苦しむことが予測できるのです。

揺るぎない信頼

クリスチャンになって間もない頃、どうしても理解できなかった聖書のことばがあります。それは、苦しみについて教える聖書箇所なのですが、ここでその2節を紹介したいと思います。

不当な罰を受けても耐えるなら、神に喜ばれます。〔神に認められ、受け入れられ、価値あるものとして見なされます。〕・・・

この苦しみは、神が与えてくださった務めでもあるのです。〔この務めを使命と引き離して考えることはできません。〕あなたがたのために苦しめられたキリストが〔自ら〕見ならうべき模範となりました。この方について行きなさい。

1ペテロ2:19、21 (JCBより一部強調)

当時は、なぜ神様が私の苦しみを喜ぶのか理解できませんでした。しかし、神様が喜ぶのは私の痛みや苦しみではなく、神様のためにそれを耐え抜こうとする姿勢なのだ、その後気付くことができました。つまり、私たちの苦しみによって神様が誉め讃えられるのではなく、苦しみの中でも良い態度で耐え抜く姿勢によって誉め讃えられるのです。子どもが苦しむなら、親が共に苦しむように、私たちが苦しむなら、神様も共に苦しんでくれます。私たちを神の愛から引き離せるものなど存在しません。神様はほんの一瞬たりとも、私たちから離れることはないのです。(ローマ8:38-39、ヘブル13:5より) 苦しみの中では、神様が側にいないように “感じる” こともあるでしょう。イエスも十字架でそのような体験をしましたが、神様は決してイエスの元を離れてはいませんでした。ですから、今あなたがどんな状況にあったとしても、神様が共にいて、あなたのために解放と癒しの計画を持っていることを忘れないでください。

*今あなたがどんな状況にあったとしても、神様が共にいて、
あなたのために解放と癒しの計画を持っていることを忘れないでください。*

正義のために迫害されるなら、それは祝福であり、私たちが天で受ける報酬は増し加えられると、イエスは言いました。(マタイ5:10-12より)私のように天国に

第10章 - 私たちが苦しむ理由(パート1)

行くまで待ちきれないという人には、イエスが言った次のことばがあります。全てのものを手放してまで神様と福音(神の良い知らせ)に従う人は、この世でも後の世でも多くを刈り取ると彼は約束しました。(マルコ10:29-30より)これら2つの聖書箇所から、私たちの受ける報酬は天国にも地上にもあることが分かります。

私たちが心を尽くして神様に仕えるために、手放す必要のあるものがいくつかあります。その中の一つが、人からの評価です。イエスは、人からの評価を全て手放しました。(ピリピ2:7より)今では、私にもその理由が分かります。人からどう思われているかを気にしてばかりいては、キリストに完全に従うことはできません。私が神様のことばを教えるという使命を受け取った時、「知人たちからどう思われるだろうか」と気にする思いを手放しました。今では、その報酬となる祝福を受け取っています。そして、あの頃よりも今のほうが、より多くの仲間たちに囲まれています。

神様を熱心に求める人には、神様からの報酬が与えられます。(ヘブル11:6より)迫害に苦しむようなことがあったら、神様があなたのために用意している報酬に目を向けるのです!信仰のゆえに人からの評判が悪くなったり、周りから不公平に裁かれ、批判されても、どうか落胆しないでください。神様を信頼し続け、これから与えられる報酬に目を向けていきましょう。

第11章

私たちが苦しむ理由(パート2)

前章では、「罪が原因で起こる苦しみ」、「愚かな決断をすることで生じる苦しみ」、「神様を信じる信仰のゆえに受ける迫害の苦しみ」の3つに焦点を当てました。

引き続きこの章においても、私たちが苦しむ理由についてお話ししていきたいと思います。これを通して、あなたの神様との歩みがさらに祝福されることを祈っています。

他の人の罪によって不当な苦しみを味わう

不当な理由によって苦しむことは、とても耐え難いことです。なぜなら、たとえ自分に非がなくても、どうすることもできない状況の中で苦しまなければならないからです。そんな時、まず初めに出てくるのは「こんなの不公平だ」という思いではないでしょうか。確かに不公平ですよ。人生はいつも公平であるとは限りません。しかし、それでも神様を信頼して生きていれば、どんなに不公平な状況の中でも神様の正義が正しいタイミングで働くことを期待できるのです。神様は正義を愛しているため、喜んで間違いをまっすぐに正してくれます。いつも私たちをかばい、不当な扱い方をされる私たちが受け取れなかったものを、代わりに報いてくれるのです。

幼少期に受けた虐待や、肌の色、性別、国籍、その他何千もの理由により受ける不当な差別は、私たちの心に大きな傷を残します。その傷をきちんと対処しないと、それはより深い傷跡を私たちの心に残し、私たちの人生に影響してしまいます。

揺るぎない信頼

私の大好きな神様の性質の一つは、神様が正義の神様であるということです。次の聖書箇所には、私たちが信頼することのできる神様の約束が記されています。

私たちは、「正義はわたしのものである。〔正義の報いと解放はわたしによって成される。悪を犯す者への〕復讐はわたしがする」(申命32・35)、また、「主がその民をさばかれる」(申命32・36)と言われた方をよく知っています。

ヘブル10:30 (JCBより一部強調)

何と素晴らしい慰めのことばでしょう!もしあなたが人からの不当な扱いに苦しんでいたとしたら、この聖書のことばを心に留めて、神様がそれを実現してくれることを信頼することをお勧めします。

私自身、これまでの人生で神様の正義を何度も体験してきました。先ほども少し触れたように、ミニストリーを立ち上げる決断をした頃、私は人々からの拒絶を経験しました。それから数年後ではありましたが、私の心に深い傷を残した人々のうち、何人かは最終的に自分の間違いを認め、私に謝罪してくれました。

「不正に扱われたことによる償いを受ける」ということは、「自分に起こったことに対して報いがある」という意味です。人からの不当な扱いがあった時、神様があなたを尊重し、祝福してくれるのです。しかし、神様が自分の正当性を証明してくれることを望むのであれば、私たちは不当な扱いをしてきた人たちに対する仕返し
の思いを捨てる必要があります。

父親からの性的虐待から始まり、母親からは見て見ぬふりをされ、親戚からも助けてもらえなかった私は、結果として自分を苦しめるような生き方をするようになっていました。自分を傷つけた全ての人に復讐し、見て見ぬふりの傍観者たちにも仕返しをしたい気持ちでいっぱいでした。心は恨みと憎しみに満ちていて、まるで世の中が私に貸しがあるかのような態度で生きていました。もちろんそのような

第11章 - 私たちが苦しむ理由(パート2)

生き方をしても、良いことなど一つもありませんでした。何の解決にも繋がらず、自分の気持ちを晴らすどころか惨めさが続く一方でした。虐待された時に十分辛い思いをしたのに、それから何年経っても犠牲者のまま過去の出来事に囚われ、苦しみ続けていたのです。人並みの平穏な人生など、私にはもう送れないと思っていました。

その頃の私はすでにクリスチャンでしたが、まだ神様のことばを正しく理解していませんでした。イエスを救い主として受け入れていましたが、神様の教えを学んで従うよりも、自分の思いのままに歩む人生を送っていました。しかし、神様は義を愛する存在であり、私自身ではなく神様が私の過去を取り扱ってくれるのだと知った時から、私の人生が変わり始めました。ほんの一夜で全てが変わったわけではありません。少しずつ、私の壊れた心は癒されていきました。過去に受けたひどい仕打ちには、神様によって人生の益へと変えられていったのです。

神様の望みは私たちが過去を手放し、敵である相手を完全に赦し、祈り、神様の導きの中で彼らを祝福することです。最終的に父は私に謝罪して、涙を流し、悔い改めました。そして、私は父を神の救いへと導き、洗礼を授ける特権に預かったのです。父は娘である私のことや、ミニストリーの活動を誇りに思うと言ってくれました。

私たちの人生にある多くの苦しみは、私たちに悪意を持つ人からの不当な扱いが原因であると言っても過言ではないでしょう。時には、私たちが愛していると言う人たちから苦しめられることもあります。その場合、私たちの心にはより深い傷が刻まれてしまいます。しかし、たとえそれがどんなに深い傷であったとしても、神様は手を差し伸べ、癒しを与え、苦しみも益として働かせて、過去の痛みを報いへと変えてくれるのです。

神様は灰の代わりに美しさを与え、悲しみの代わりに喜びを与えてくれます。(イザヤ61:1-3より)そして、私たちが失ったものに対して報いを約束してくれてい

揺るぎない信頼

るのです。

神様、あなたの神様は、あなたが失った全てを再び解き放ってくれます。あなたをかわいそうに思ってあなたの元へ戻り、散り散りにされたあらゆる場所から全てを集めてくれるのです。

申命記30:3 (MSG訳より直訳)

誰も苦しみや痛みを喜ぶ人などいません。しかし、神様に従い、神様が報いてくれると信じ続けていれば、どんな苦しみや痛みであっても、その先には神様の報いが待っていることを期待することができます。

神様にしか変えられないものを自分で変えようとして苦しみを味わう

かつての私は、「世の中を動かしているのは自分ではない」ということを学ぶ必要がありました。その事実は、これまでに抱えていた多くの感情的な苦しみを和らげてくれました。私はもともと気が強く、積極的で支配したがるタイプだったので、自分には関係のないことも支配して、変えようとばかり葛藤していました。そのため、神様が実際に変えようとしていたのが、私の満ち足りない現状ではなく、「私自身」なのだ気付けるまでには長い歳月がかかりました。周りの人たちを変えれば幸せになれるし、自分にも都合が良いとも思っていたので、私は人々を変えようともしていました。しかし、唯一人々を変えることができるのは神様だけです。それも、相手が望まなければ神様は何もせずにただ見守り続けるのです。当時の私はそのことについて、時間をかけて学ぶ必要がありました。

私が相手に何かを望む代わりに、その人の持つありのままの価値を見出すことができるようになってからは(今も日々学んでいます)、苦しみや惨めさが和らいでいきました。かつての私は、絶対的に謙遜になる必要がありました。いつも自分を低くして謙遜になることを神様は教えています。しかし、実際にそれに従う人は少ないため、私たちに謙遜さを教える環境を神様が代わりに用意するのです。例え

第11章 - 私たちが苦しむ理由(パート2)

ば、私たちが謙遜さを学ぶために、イライラさせるような人をあえて日常に送り込むこともあります。その人との関係において苦悩するうちに、実は神様がその状況を用いて、自分の中に潜む深い問題を取り扱っているのだと気付かされるのです。神様は解放をもたらす存在です。必ずしも私たちが望むタイミングで、その解放が訪れるとは限りません。しかし、神様はいつも私たちの人生に起こる悪い出来事を、必ず益に変えてくれるのです！

問題の根源は問題そのものではなく、それに対する自分の対応の仕方にあると考えたことはありませんか？自分が満足しない原因は全て夫のデイズにあると、私はずっと思っていました。しかし、本当の問題は私自身の自己中心的な態度であると、神様は示してくれました。長い間、私はデイズを変えようと必死でした。しかしどんなに努力しても水の泡で、期待できるような変化を見ることはできませんでした。なぜなら神様はその状況を用いて、問題の根源を示そうとしていたからです。

聖書には、小さな羊飼いの少年ダビデが王になるために油注がれた(特別に選ばれた)ことについて記されています。しかし、ダビデが実際に王になるまでの間、彼は狂氣的で悪に満ちたサウル王の下で仕えなければなりませんでした。その間にダビデがサウル王から受けた仕打ちは、不公平極まりないものばかりでした。しかしその一つ一つには、神様の目的が込められていたのです。

またダビデが王になる前に、彼自身の中にある「サウル的な性質」を取り除くため、神様はサウルを用いたという話を聞いたことがあります。かつて父が取っていた残酷な行動を見返すと、私も彼と同じような品性を身につけていたことが分かりました。しかし、当時の私はそのことに気付いていませんでした。私は神様からの使命に呼ばれていたにも関わらず、幼少期の虐待が原因となり、心が頑ななままでした。周りに対してキツイ態度を取り、律法的な見方ばかりしていました。当時の私と関係を築くということは、私のルールに従うということでした。「私の」ルールです！当時の私には、人々を引きつける才能はありましたが、神様からの使命として

揺るぎない信頼

与えられた役割をこなすために必要不可欠だったクリスチャンとしての性質は足りていませんでした。放置されていた心の傷やアザが原因となって、私は自分自身の行動に対して盲目になっていたのです。クリスチャンとして生きるということは、一生の間自分の振る舞いを良く変え続けるというわけではありません。しかし、私たちはイエスによって内側から変えられ、よりイエスの性質に近づく必要があるのです。

当時の教会のリーダーたちや他の人たちから不当に扱われた経験を通して、神様は彼らと同じ過ちを繰り返してはならないことを私に教えてくれました。振り返ってみると、私を傷つけた人々と密接に関わったあの数年は、神様が私のために設けてくれた特別な機会でした。もちろん本当に辛い経験でしたが、それを通して私は人としてさらに成長することができました。自分が思う自分の姿ではなく、自分の真の姿に目を向けることができるように、時に私たちは難しい状況や困難に直面する必要があります。私たちの視界はプライドによって曇りやすくなり、それが人の批判ばかりをしてしまう原因となってしまいます。しかも、批判している行動を同じように自分もしているかもしれないのに、自分のことになると盲目になるのです。(ローマ2:1より)

この分野においては、ペテロが良い例を示しています。ペテロは積極的な性格の持ち主で、躊躇せずいつも自分の意見を述べる人でした。将来的には素晴らしいことを成し遂げる人物となりましたが、それまでは必要以上に自尊心が強い人でした。そんな彼の態度は、彼自身のために変えられる必要があったのです。イエスがペテロに対して、「これからお前は試練の中でサタンによって麦のように振り分けられるが、それでもお前の信仰が堅く立ち続けられるように祈った」と話した時にも、ペテロは「自分には牢獄にまで、必要ならば死にまで、イエスに従う覚悟ができています」と瞬時に切り返しました。そう宣言した日のうちに、彼はイエスを三度も否定しました。そんな自分の失敗を通して、彼はやっと本当の自分の姿と向き合うことができたのです。彼は自分自身が弱さを持った人間であり、神様の赦しと助けを必要としていることを知りました。(ルカ22:31-34、55-62より)イエスが「ペテロ

第11章 - 私たちが苦しむ理由(パート2)

のために祈った」と話した時、彼はイエスに感謝し、あらゆる面で助けが必要であることを認めるべきだったのです。

イエスを否定した後、ペテロは激しく泣き、悔い改めました。その経験を経て、彼は影響力のある偉大な使徒へと成長していったのです。問題の根源は、私たちの弱さではなく、弱さと向き合うことを拒む態度です。私たちの人生において、神様が実現したいと望んでいることを妨げてしまうものがあれば、それを神様に示してもらい、助けてもらうように日々祈り求めて行きましょう。私たちは他の何物でもなく、神様の意思を人生に追い求めるべきです。

神様の偉大さのもとで自分自身を低くしていれば、神様が正しいタイミングで私たちを引き上げてくれると、ペテロは私たちに勧めています。(1ペテロ5:6より)自分自身を低くするということは、難しい状況から抜け出そうとするのではなく、何かの下に留まるということです。誰も苦しみを好む人などいません。しかし、それが自分にとって必要なプロセスならば、それを受け止めることも必要なのです。

例えばある女性が、彼女と子どもたちを身体的に虐待する夫と暮らしているとします。もちろん彼女は、その状況の中で耐え続けるべきではありません。夫の元から逃げ出すべきです。私の母は娘の私に対する父の虐待を知りながら、それでも父の元に留まり続けました。それは彼女の人生において最悪の決断だったと言ってもいいほどです。

しかし、こんな場面はどうでしょうか。ある女性が働く職場では、彼女が唯一のクリスチャンです。つまり、彼女以外にイエスのことを伝えられる人はいません。彼女は職場仲間たちから拒絶され、からかわれ、昇進のチャンスすら奪い取られました。そのような状況の中で、彼女は耐えきれず逃げ出すべきでしょうか？それともこの状況から離れるべきかどうかを神様に祈り求めて、明確な答えを待ち望むべきでしょうか？このような場合、神様の望みは彼女がしばらく職場に留まることで、神様がご自身の栄光を現すチャンスを作ることもかもしれません。2テモテ4:2には「機

揺るぎない信頼

会があろうとなかろうと、都合が良からうと悪からうと」神様に仕えられるようにいつでも準備していなさいとあります。

ある出来事や特定の人が原因で辛い思いをする時、私たちはその状況をどう対処すべきなのかを神様に祈り求めるべきです。傷ついている時に聖霊の導きを仰ぐことなく、物事を決断するのはお勧めできません。パウロはガラテヤの人々に対して、聖霊に満たされていれば多少の煩わしさがあっても、お互いを耐え忍び合えるはずだと言いました。(ガラテヤ6:2より)きっと私だったら、第一印象で「こんな状況を我慢する必要もないし、耐え忍ぶつもりもないわ」と反応してしまうかもしれません。しかし、よく考えてみれば、イエスはこんな私のことを耐え忍び続けてくれているのです。何と恵み深いことでしょうか。

これまでの人生において、私は様々な道を通ってきました。それを経て今実感するのは、「どんなことがあっても、神様の恵みは私たちに注がれ続ける」ということです。言い換えると、神様によって置かれた場所に留まってさえいれば、他の人にとっては悲惨でしかないような状況でも、私たちが喜びの姿勢で向き合える恵みを神様は十分に注いでくれるのです。

*どんなことがあっても、
神様の恵みは私たちの上に注がれ続ける。*

神様との歩みを始めて間もない頃の私は、気が付くといつも何かと葛藤していました。一つの葛藤が終われば、また別の葛藤が始まるのです。周りの状況によって、私の気分はいつも左右していました。例えば、集会の動員数が高ければ気分が高まるのですが、動員数が悪ければ落ち込んで、ネガティブな発言ばかりしていました。動員数を上げようとありとあらゆる手段を試みたのですが、それでも日によっては数字に変動があったので、結果に影響されて私の気分も動揺していました。そんな中で、私はあることにやっと気付いたのです。それは神様にしか変えられないことを、しかも神様の正しいタイミングでしか変わらないことを、自分自身の力で

第11章 - 私たちが苦しむ理由(パート2)

変えようとしていたということです。私たちのタイミングは神様の偉大な手の中にあります。(詩篇31:15より)最終的に私は全ての不安を神様に委ねました。その結果、神様が約束した平安を体験することができたのです。(ピリピ4:6-7より)

今では集会の動員数も、あの頃と比べると随分良くなりました。しかし今でも、場合によっては動員数にアップダウンが生じます。不安な気持ちにはなりますが、昔のように自分の力でどうかしようと、もがき苦しむことはなくなりました。シンプルにそれを切り抜け、また次の集会に期待して前を向くことができるようになりました。

もし現状を変えようと奮闘して感情的・精神的な苦しみを味わっているとしたら、自分にこう問いかけてみてください。「神様にしか変えられない状況を、自分の力で変えようとしている?」もし自分の力で変えようとしているならば、「握り締めている思いを手放し、全てを神様に委ねて」ください。

不完全な世界に生きているために苦しみを味わう

ここまでの内容から、私たちが苦しむのは、自分や他の人が犯した罪による結果から来ることが分かりました。しかし、私たちが苦しむ主な原因の一つは、単純に私たちが罪にまみれたこの世界に住んでいるからなのです。この地球が存続すればするほど、まるで悪は勢いを増していくかのように感じられます。いつの時代にも、時の流れとともに悪が勢いを増す様子に、人々はショックを受けて来たのではないのでしょうか。私がまだ子どもの頃、周りの大人たちは「昔と比べて今の時代は悪いことが増えている」と口を揃えて話していたのを覚えています。そして今、私たちは世界中で起きる凶悪な出来事にショックを隠せない時代を生きています。キリストが再び戻るまでまだしばらくかかるとしたら、現代の子どもたちが大人になる頃にはきっと口を揃えて「今よりも昔の方がましだった」と話すことでしょう。悪は日々進化しています。決して静止することなく、勢いを増して増え広がっているのです。前にデイヴから聞いたのですが、新聞配達少年が強盗被害に遭ったという報道

揺るぎない信頼

が初めてされたのは、1950年頃でした。そのニュースに当時の人々は大きなショックを受け、悲惨な事件を受け止めるのに時間がかかったそうです。しかし、現代の社会を見渡してみるとどうでしょう。新聞配達少年が強盗に遭っても、ショックを受けて驚く人はほとんどいません。そんな世の中になってしまったことに心が痛みますが、残念なことに悪いことが起これば起こるほど、苦しみも増す一方なのです。これらの問題が起きる理由を私たちが全て理解することはできません。それでもなお、私たちには「神様を信頼する特権」が与えられているのです。

神様に信頼を置く全ての人を、神様は果たして守ってくれるのでしょうか？少なくとも私は、神様が守ってくれることを確信しています。これまでも神様が人々を守ってくれた証を、たくさん聞いてきました。あなたにも神様によって守られた体験談があるはずですよ。では神様の守りを感じられず、意味も分からずに苦しむことになってしまったらどうすれば良いのでしょうか？ここでリー・ストロベル氏が語った知恵のことばをもう一度振り返ってみてください。「苦しみに対する究極的な答えとして、神様は理屈を提示する代わりに、ご自身を現す『キリスト』をこの世に送られたのだ。」全てを説明できる人などいません。しかし、イエスには全ての罪を贖うことが可能なのです。

セントルイスで起きた最近の洪水被害により、私たちのスタッフの一人が、住まいと所有物の全てを失ってしまいました。彼女は私たちが運営する医療ミニストリーのリーダーであり、発展途上中の国々へ出向き、人々を支援するためにこれまで多くの犠牲を払ってきました。また彼女は神様に従う信仰深い女性であり、神様を信じる両親のもとで育ちました。それなのに、なぜこのようなことが彼女に起こったのでしょうか？私たちはこの世界に生きているという単純な理由で、苦しみに直面することがあるのです。しかし、神様はそのような状況にあっても、彼女を完全に報いてくれました。現在、大勢の人々や様々なミニストリーが団結して彼女の家族を支援し、新しい住まいと家財道具の一式を揃える手伝いをしています。それが完了する頃には、前の住まいよりもさらに立派な家で、以前のものよりも新しい家財道具に囲まれて、彼女と家族は新しい生活をスタートすることができるでしょう。

第11章 - 私たちが苦しむ理由(パート2)

そのような災害の中で、家を失いそうになりながらも、最悪な結果を免れ、住まいを失わずに済んだクリスチャンも大勢います。それはまさに神様の守りです。彼らの証を聞く時、私の心も喜びでいっぱいになります。しかし、なぜ家を失った人と失わずに済んだ人がいるのでしょうか？もう一度言いますが、私たちは理屈にばかり捉われて物事を考えるべきではありません。それよりもキリストがしてくれたことに目を向け、神様が全てに報いてくれて、痛みを解放し、人生の益として働かせてくれることを期待して、神様と歩む人生を楽しむ方がよっぽど良いと私は思います。

第12章

苦しみの先にあるもの

ところがヨセフは牢獄につながれ、足かせや鉄の首輪をかけられたのです。

〔そして、彼の魂は鉄の中に入っていった。〕

詩篇105:18 (JCBより一部強調)

ヨセフには、素晴らしいことを成し遂げる夢がありました。ヤコブの末の子どもであったヨセフは、兄弟の中で父に一番気に入られていました。そのため兄たちはヨセフを憎み、妬んでいました。彼らの憎しみは日を追うごとに増し、最終的にはヨセフを奴隷としてエジプトに売り払ってしまったのです。彼らは代わりに、血まみれにした上着を持ち帰り、ヨセフが野生の獣に殺されたと父に嘘をつきました。

その後のヨセフの人生は波乱に満ちていました。不当な罪に問われ、何度も苦しい思いをしましたが、それでもなお、彼は信仰を手放すことなく神様を信頼し続けました。そんなヨセフを神様は行く先々で祝福し、最終的にエジプト王の次に偉い総理大臣にまでなったのです。その結果、神様はヨセフを通して多くの人々を大規模な飢餓から救い出しました。そこにはヨセフの家族も含まれていました。目の前にいる総理大臣が弟のヨセフであることを知り、兄たちは驚愕します。ヨセフは自分の手にした地位と名誉によって、かつてひどい仕打ちをした兄たちに復讐できるほどの立場にありました。しかし、目の前でうろたえる兄たちに対するヨセフの行動は大変素晴らしいものでした。

兄たちも気が気ではなく、ヨセフのところに出向いて来ました。「手紙でも申し上げたとおり、われわれはあなたの奴隷です。」そろってヨセフの前にひれ伏し、恐る恐る言いました。ところが、ヨセフの返事は意外でした。「そんなに怖がらないでく

揺るぎない信頼

「ださい、兄さんたち。私だって神様ではないのですから、さぼくだの罰するだのと大それたことなどできません。それは、あの時はずいぶんひどいことをするものだと思いますよ。でも、そのおかげで家族みんなが助かったではありませんか。悪意から出たことでも、神様はこのように良いことに役立てられるのです。私のような者が今日あるのもみな、神様の深いお考えがあつてのことです。たくさんの人をいのちを救うためです。」

創世記50:18-20 (JCB)

この聖書箇所について思い巡らせてみれば、その素晴らしさに気付くと思います。あんなにも悲惨な体験をしたヨセフなのに、自分を不正に扱った兄たちを憎むことはしませんでした。その代わりに、神様がこれまでの状況を全て働かせ、それを益としてくれることに目を向けたのです。しかも兄たちを憎むどころか、助けの手を差し伸べるための準備をしていました。続けて彼はこう言いました。

「だから、心配などしないでください。兄弟ではありませんか。今後のことは万事お任せください。悪いようにはしません。」なんていう優しいことばでしょう。〔彼は兄たちを励まし、希望と力を与えたのです。〕

創世記50:21 (JCBより一部強調)

ヨセフは悲劇に襲われ、周りから不当に扱われましたが、それでも神様の方法で困難を切り抜けた最高な模範であり、私にとってのヒーローです。ヨセフが力強い男性であったことは、言うまでもありません。その後、彼は110歳まで生き、過去の悲劇に勝る最高な年月を送りました。苦しみの末に、彼は偉大な勝利を手にしたのです。言い換えれば、あの苦しみがあったからこそ、その後のヨセフの人生はより優れたものになったのです。たとえ苦しみの中にあっても、私たちが安定して神様を信じ続けるなら、その後の人生では神様からの信頼を得て、より大きな使命と祝福にあずかることができるのです。

自分を傷つけた人々を救うのは、実は自分自身のためでもあります。なぜな

第12章 - 苦みの先にあるもの

ら、苦みに満ちたまま同時に人生を楽しむことは不可能だからです。だからこそ、私たちはヨセフが示した模範に従って生きるべきなのです。

*自分を傷つけた人を赦すのは、
実は自分自身のためでもあります。*

奴隷として売り飛ばされた後、ヨセフは無実の罪に問われ、13年間に牢獄で過ごしました。その間、彼は鉄の鎖に繋がれていました。これについて少し前に引用した詩篇105篇の英語訳には、「彼の魂は鉄の中に入っていった」と記されています。一体どういう意味でしょうか？現実的な観点で考えてみると、魂が鉄の中に入っていくことによって、彼はさらなる強さを手に入れたのではないのでしょうか。つまり、苦みを経験したことで彼は人としての成長を遂げ、エジプトという一国を指揮する者としてのふさわしい品性を身につけたということです。

英語にはこんな表現があります。”Our troubles can make us better or bitter.”(辛い経験を経て、私たちはより良い人間になることもできれば、憎しみに満ちた人間になることもできる。)その通りだと思います。どんなに辛く苦しい状況でも、神様を信頼し続けていれば最終的に私たちは報われます。その報いの一つが、人としての強さなのです。

イザヤ書には「どんな困難の中にあっても神であるわたしが力を与えるのだから、恐れる必要はない」と、神様が預言者を介して人々に語りかけ、励ます様子が描かれています。

恐れるな。[恐れる必要など微塵もない。]わたしががついている。取り乱すな。わたしはあなたの神だ。わたしはあなたを力づけ、あなたを助け、勝利の右の手でしっかり支える。

あなたは新しい鋭い刃のついた打穀機となり、敵という敵を粉々にし、もみからの山をつくる。

揺るぎない信頼

イザヤ41:10, 15 (JCBより一部強調)

これは人生に起こるあらゆる出来事を用いて、神様が私たちを強め、より良い人間へと成長させてくれる約束を示す箇所の一つです。しかしその実現のためには、苦痛が伴う困難な道を通る時にも神様を完全に信頼し続けることが必要不可欠です。あなたが今どんな状況にあらうとも、これはあなたのために用意された約束です。たしかに、敵は悪意を持って攻撃を仕掛けてきます。しかし、神様は全てを働かせて益にすることができます。またそのプロセスの中で、私たちを人として成長させてくれるのです。辛くて苦しい状況を通る時には、神様があなたを愛しているということ、また、だからこそ恐れる必要がないということをどうか思い出してください。以前、ユーモア溢れるこんな話を耳にしました。このトピックとつながりのある話なので、ぜひ読んでみてください。

男性は結婚式を終えて、妻と一緒に家に帰ろうとしています。その途中で湖を渡るために、二人はボートに乗り込みました。するとちょうど嵐になり、ボートは大きく揺れ、妻は非常に怖がりました。それに比べ、夫はとても冷静にしています。それを見て不思議に思った妻は、なぜ恐れを感じないのかと夫に尋ねました。

すると夫はふと笑みを浮かべ、ゆっくりとナイフを取り出しました。そしてまるで妻に危害を加えようとするかのように、徐々にナイフを彼女の方へ近づけたのです。しかし、当の妻は恐れる様子もありません。「怖くないのかい？」と尋ねる夫に対し、「なぜ怖がる必要があるの？あなたが私を愛していることはよく知っているわ。だから、あなたが私を傷つけることなんてあり得ないもの。」と答えました。

そんな彼女に対し、夫はこう話したのです。「だから僕もどんな嵐が来たって怖くないんだ。神様は僕らを愛している。どんなことが起きようと、神様は必ずそれを益としてくれるよ。」

たとえ人生の嵐に何度襲われようとも、愛に溢れた神様の手の中で、私たち

第12章 - 苦しみの先にあるもの

はいつも安全なのです。

思いやりと共感

私自身、苦しみを体験したことで、同じように苦しみの中にある人々をさらに思いやることができるようになりました。実際に不当な扱いをされたり、大切な人を失ったりしたことがなければ、そのような体験の中で苦しむ人々を理解するのは難しいでしょう。

誰かにアドバイスをするのは簡単です。しかし、自分も実際に同じような経験をしていなければ、私たちの態度はどこか素っ気なくなってしまうかもしれません。例えば、私が現在25歳だったとしましょう。これまでの人生は、割と簡単な道のりでした。素晴らしい両親に恵まれ、必要なものはいつでも与えられてきました。勉学においても優秀で、大学では苦労することなく良い成績をキープしました。また父親のコネで、卒業前から就職先が約束されていました。今では憧れていた会社でバリバリ働いています。一言で言えば「人生最高!」。そんなある日、最近仲良くなった職場の友人がなんとなく浮かない表情をしています。彼女が落ち込む様子を見て、「どうしたのかしら?」と気になってはいるものの、正直に言うと声をかけるほど心配ではありません。しかし、最終的には彼女の方から、自分の抱えている経済的な問題について打ち明けてきました。「それならご両親に相談すると良いわ。私だったらきっとそうする」とアドバイスしましたが、彼女は自分が両親から虐待されて育ったこと、そして今では疎遠であるため、親から助けをもらうなど不可能であることを伝えます。でも、私は自分の子どもを虐待する親や、自分の子どもを助けられない親がいるなんて信じられず、彼女の悩みを真摯に受け止めることができません。結局、「まあ、何とかなるんじゃない?」と思いやりのかけらもない一言を言い放ち、その場を後にするのです。

友人は孤独の中で空っぽな心を抱え、取り残されたままです。裕福で寛大な両親に恵まれた私には、金銭的な余裕があるので、彼女を助けることもできます。

揺るぎない信頼

それなのに、苦しい経験の少ない私は苦しんでいる人々を理解することも、共感することもできないのです。

世の中にはこのような人がたくさんいます。彼らは悪い人たちではありません。ただ単に、人生経験が少ないのです。そんな彼らにも、遅かれ早かれ、困難を通る日がいつかやってきます。それを経て、彼らがより良い人間へと成長できることを願っています。

実際の私は、順風満帆な25歳の女性とは真逆の人生を送ってきました。両親からの愛情や憐れみを感じたことは一度もなく、虐待しか受けてきませんでした。私の幼少時代は恐れと苦しみ、孤独しかありませんでした。その結果「人々への思いやりで満ちた大人へと成長したのです」と言いたいところですが、実際には堅く心を閉ざしたまま大人になりました。しかしその後イエスに出会い、イエスとの関係が深まり、同時に様々な痛みや苦しみを体験したことで、今の私へと成長することができたのです。

さらに以前、がんを宣告されたことによって、深刻な病を抱える人々に対する思いやりが今まで以上に深くなりました。また、10年に渡り患った偏頭痛を克服したことによって、同じ問題を抱える人々のためにより信仰を持って祈れるようになりました。そして幼い私を性的に虐待し続けた父親のことも、神様の恵みと聖書のことばを通して、最終的に赦せるようになりました。身をもって経験したからこそ知っていることは、憎しみと怒りを抱え続けて生きるよりも、それを手放して相手を赦すことの方がずっと良いということです。ミニストリーを立ち上げた頃の私には、神様の存在と夢以外には何もありませんでした。しかし、あれから約40年経った今も、こうして活動を続けています。様々なことを経験して多くのことを学びましたが、それと同時に数々の犠牲も払ってきました。大勢の人から裁かれ、批判され、自分はミニストリーにふさわしい人間ではないのかもしれないと感じることもありました。しかし、苦しみの中で神様の慰めを体験したことで、今では人々に慰めを与えられるようになりました。自分自身が苦しむ時に神様の慰めを体験することで、私たちは

第12章 - 苦しみの先にあるもの

周りの人を慰めることの恵み深さを学ぶことができます。

私たちの神様は、なんとすばらしいお方でしょう。神様は主イエス・キリストの父であり、あらゆる慈愛(同情心と憐れみ)の源です。そして、私たちが苦しみや困難(災難や苦痛)にあえいでいる時、慰めと励ましを与えてくださるお方〔その源〕です。それは、苦しみの中であって慰めと励ましを必要としている人々に、私たちも、神から受ける助けと慰めを与えることができるためです。

2コリント1:3-4 (JCBより一部強調)

昔、自分の辛い状況を誰かに打ち明けようとしていたことがよくありました。しかし、彼らは単純に私を助ける術が分からなかったのです。誰も私と同じような経験をしたことがなかったため、私の抱える苦しみを理解することができませんでした。彼らは神様の慰めを必要とする状況に直面したことがなかったのかもしれない。もしくは直面したことはあったかもしれませんが、どのように神様に慰めを求めたら良いのかが分からなかったのでしょう。「自分が持っているものを人に与えることはできない」と、私はよく口にします。ですから、まずは自分が神様から受け取るべきです。そうすれば、自分が受け取ったものを他の人に与えることができます。

何らかの問題を抱えた人が私たちの元に来る時、そのうちのほとんどの人が、私たちにはその問題を解決することはできないと理解した上で来ています。彼らが本当に求めているのは誰かに理解してもらい、慰めてもらい、憐れみをかけてもらうことです。苦しみを経験することで、私たちは穏やかで、情け深く、優しさで憐れみに満ち、相手を理解できる人へと成長していくことができます。これらの性質は、まさに神様を象徴しています。それを身につけることで、私たちはますます神様のようになることができます。

苦しみを乗り越えた先の祝福の一つは、他の人たちに対する思いやりと共感が成長することです。傷ついた人にとっては、ただ単純に憐れみを示してもらうこと

揺るぎない信頼

に、何よりも大きな価値があるのです！

しかしながら、苦しみを経験しない限り人々の助けになることができないというわけではありません。もちろん素晴らしい両親を持ち、最高の幼少時代を送り、金銭的な苦勞もなく、様々な面で豊かさに富んだ人生を送ってきた人たちにだって、神様によって大いに用いられることはできます。ところが、そのようなケースは非常に稀です。なぜなら苦しみは人生に付きものであり、必ずしも楽なことばかりではないからです。

より深い神様との関係

苦しみを経験することの利点は、神様との関係がより深まることであると私は気付きました。他に頼れる人がいない状況の中で神様に信頼を置く時、私たちは神様の奇跡と素晴らしさを体験します。また、神様の持つ忠実さ、正義、優しさ、憐れみ、恵み、知恵、力など、数え切れないほどの祝福も体験することができるのです。パウロは、自分の生きる目的はキリストを知り、キリストの素晴らしさをより深く親密に理解することであると堅く決意していました。そして死から復活したキリストの力を理解し、キリストの苦しみを共に分かち合いたいと言ったのです。(ピリピ 3:10より)

ここで、その聖書箇所秘められた力強いポイントをいくつか見ていきましょう。

1. パウロは決意を固めていた！

どんなことであれ、人生で達成したいことがあるのなら、まずはその決意を固める必要があります。勝利を得るためには、ほんの数回だけ正しいことをするのではなく、見たい結果が見えるまで繰り返し続けることが大切です。

2. パウロはイエスをより深く、より親密に知りたいと望んでいた。

パウロは単にイエスについて知識を深めるのではなく、イエスのことを個人

第12章 - 苦しみのあるもの

的なレベルで知りたいと望んでいました!深く親密な関係をイエスと築くことを望んでいたのです。このような関係は、心からイエスを知りたいと望む全ての人が築けるものです。

3. パウロはイエスの性質とその素晴らしさを、より深く明確に知りたいと望んでいた。

パウロはイエスを知っていました。ダマスコへの道で、彼はイエスとの衝撃的な出会いを経験していましたが、それでもなお、イエスをもっと知りたいと求め続けたのです。霊的に成長していないなら、私たちは決して満足するべきではありません。イエスの素晴らしさは計り知れず、求めれば求めるほど、イエスについての新しい気づきが与えられます。そしてイエスと人生を歩む中で、何があってもイエスが共にいてくれることに気付くはずです。イエスは決して私たちを離れたり、見捨てたりすることはないのです。

4. 死から復活し、私たちを引き上げることのできるイエスの力を体験したいとパウロは望んでいた。

本当の意味でイエスを深く知り、彼と親密な関係を築くことで、私たちは困難の中でも平安と喜びを持つことができるようになります。どんなに辛い状況であっても、イエスがそれを益にしてくれると信頼することができるのです。私たちには死から復活したイエスの力があるのですから、敗北者のような生き方をする必要はありません。

神様の力を体験すれば、次に困った状況が起こった時にはもっと簡単に神様を信頼できるようになります。神様は私たちの内側にも外側にも、神様の力を現したいと望んでいます。ただ私たちに苦しみからの解放をもたらすだけでなく、私たちを神様の大使として用いて、人々をイエスの元へ引き寄せることを望んでいます。辛い困難な時にいても、私たちが揺るがずに神様を信頼し、平安と喜びの中を生

揺るぎない信頼

きるのなら、絶えることのない神様の力が証明されます。また、どんなに時間がかかろうとも私たちが忍耐して待ち続けることで、揺らぐことのない神様の力が証明されます。そして私たちが苦しみからの解放を体験することで、人々は神様の忠実さを目の当たりにし、神様の存在とその偉大な力、また私たちが助けたいと願う神様の熱い思いを確信することができるのです。そのような私たちの生き様が、人々がイエスを信じる信仰に目覚めるきっかけとなるのです。

*そのような私たちの生き様が、
人々がイエスを信じる信仰に目覚めるきっかけとなるのです。*

5. パウロは、「もっとイエスのようになれるのであれば、その苦しみを共に分かち合っても構わない」と言った。

これは「私たちもイエスのように十字架につけられる必要がある」という意味ではありません。もっとイエスのようになり、神の栄光を反映していくためであれば、どんなことも乗り越えるという意気込みを意味しているのです。

それでは、後々益になることを私たちが学ぶために、神様が多くの試練を与えるということでしょうか？神様は、我が子に何かを教えるために物置小屋の裏で厳しく叱るような父親ではありません。

このように言った方が良いかもしれません。それは、あらゆる問題や困難も、神様はご自身の目的のために用いることがあるということです。いずれにしても苦しみを味わうのであれば、そこから益となる何かを見出したいと思いませんか？若い頃の私は、神様のいない苦しい人生を送ってきました。神様と出会ってからの人生においても、何度も苦しみを味わいました。その経験を経て今思うのは、「たった一人で苦しむよりも、神様と共に苦しむ方がはるかに良い」ということです。神様は、私たちが苦しみからの解放へ導く計画を常に持っています。しかし、苦しみの中でも私たちの品性が磨かれ、成長を遂げるために、苦しみからの解放のタイミング

第12章 - 苦しみ先の先にあるもの

が先延ばしされることもあるのです。神様のタイミングは常に完璧です。私たちが苦しみからの解放を待つ間にも、私たちには神様を信頼するという特権が与えられているのです。

いずれにしても苦しみを味わうのであれば、
そこから益となる何かを見出したいと思いませんか？

報酬を得ることの喜びのために

イエスは十字架という恥辱をものともせず、天で得る報酬の喜びを知って、十字架での死を最後まで耐え抜きました。(ヘブル12:2より)これまでに数えきれない人々が「過去の経験は何ものにも代えがたい」と言うのを、私は耳にしてきました。なぜなら、その経験を通して彼らは造り変えられ、神様とより近い関係を築くことができたからです。

まさに困難の中を歩んでいる時には、その状況を嫌いたくなるでしょう。痛みや苦しみを楽しいと感じる人などいません。しかし、その先に待つ報酬に目を向けていれば、困難さえも喜びの態度で乗り越えることができるのです。どんなにひどい痛みを感じても、それが長く続いたとしても、その中で神様の素晴らしさに期待し続けるのなら、最終的にはブレイクスルーと勝利を味わうことができるのです。

私はよく、「そこから抜け出す(Get Through)ためには、まずそこを通り抜ける(Go Through)必要がある」と教えています。困難を恐れなくてください。私たちに耐えられない試練を神様が与えることはないからです。むしろ神様はいつも私たちを助け、導いてくれるのです。

「そこから抜け出す(Get Through)ためには
まずそこを通り抜ける(Go Through)必要がある。」

第13章

一日ずつ

主はモーセに言いました。「天からパンを降らせよう。毎日みんな外へ出て、その日に必要なだけ集めなさい。…

出エジプト16:4a (JCB)

神様がイスラエルの人々に天からパンを降らせたのは、彼らの空腹を満たすためだけでなく、信仰を試すためでもありました。神様は「その日に必要な分のパンだけを集め、翌日にはまた必要な分が与えられることを信じなさい」と、イスラエルの人々に命じました。それが多くの人にとって、どれだけ難しいことだったのでしょうか。彼らは荒野をさまよい、食べ物も足りず、それを手に入れる手段もありませんでした。そのような状態の中で、次の日の食料に対する心配は大きかったことでしょう。もし私が彼らの立場だったら、とても心配していたはずですよ！

神様は様々なエリアで、私たちが神様を信頼するかどうかを試すことがあります。イスラエルの人々が天から降ったパンを次の日のために余分に集めると、翌朝には全てが腐り果て、悪臭を漂わせました。私たちも言い訳や心配事を並べ、明日のものを今日のうちに集めて、惨めな思いをしてはいないでしょうか？

最近こんなことがありました。朝目覚めると、同時期に期限が迫る複数の執筆プロジェクトのことを急に考え始めたのです。それに加えて、大きな集会の準備やテレビ番組への出演、ビジネスミーティング、その他の約束がいくつも重なっていました。この先一ヶ月間のスケジュールを考えれば考えるほど、プレッシャーが重くなるのを感じました。その時、私がすでに知っていたはずの真理を、神様はもう一度シンプルに語りかけてくれたのです。それは「その日その日を精一杯生きる」とい

揺るぎない信頼

うことでした。その瞬間にプレッシャーが軽くなるのを感じました。なぜならその日その日を精一杯生きていれば、神様が私たちに望む全てのことを成し遂げる力が与えられることを、これまでに疑う余地もないくらい経験していたからです。

今日という日を明日の心配をするために使ってしまったら、「今日」を無駄にしまいます。それは無意味なことです！イエスは「明日の心配をする必要はない」と言いました。明日のことは、明日自身が心配するからです。(マタイ6:34より) どうやって問題を解決しようかと思悩むのではなく、神様に信頼を置けば、神様は私たちを助けてくれるのです。

2013年に、私たちは毎日のデボーションのための本「Trusting God Day by Day(一日ごとに神様を信頼する)」を出版しました。この本は人気の高いデボーションブックの一つとなりました。その理由は、「これなら自分にもできる」と感じられる内容の本だからです。人生で達成すべきことをいっぺんに考えたり、週単位や月単位で考えると、その大きさについで圧倒されてしまいます。しかし、一日単位でならできます。アルコールリクス・アノニマス(アメリカから世界へ広まったアルコール依存症の人たちを支援する団体)もこれと同じ原則の元、アルコール依存症に悩む人々を支援してきました。アルコール依存症の人々は、残りの人生をお酒なしに生きるのは無理だと感じています。失敗を恐れるあまり、断酒の一步を踏み出せずにいるのです。しかし「一日ずつ飲まないで過ごす」と考えれば、できる気がするのです。彼らの目標は、お酒を飲んでいない状態で一日を過ごすことです。これを実践しているほとんどの人が、禁酒を何日間続けられているのかを把握しています。中には、数年間に渡って禁酒を継続できている人もいます。

この原則は神様のことばから直接引用されているので、人生の全てのエリアで適用することができます。神様を信頼して、一日ごとに達成することを目標にすれば、借金や運動、減量、学業の修了、特別な支援を必要とする子どもの育児など、様々なエリアで成功を取められるはずです。

第13章 - 一日ずつ

以前耳にしたこの言葉が大好きです。「人生を一日ずつ生きようとしているが、時には一気に数日がまとまって襲いかかってくるように感じる日もある。」

信仰と信頼の違い

「信仰」と「信頼」という2つの言葉は、同じような意味として解釈される場合がほとんどです。果たして、この2つには違いがあるのでしょうか？確かに、両方とも神様に対する自信が必要なので、様々な面で類似点の多い言葉ではあります。しかし、「信仰」は名詞で、私たちが「持つもの・保有するもの」を指しますが、「信頼」は動詞としてよく用いられるため、多くの場合、私たちが「すること・行動を起こすこと」です。

神様は私たちに信仰を与えてくれます。聖書には、「全ての人にそれぞれ信仰が与えられている」と書かれています。(ローマ12:3より)しかし、信仰をどう用いるかは、与えられた人次第です。信頼とは、行動の伴う信仰のことです。それは、行動を通して解き放たれた信仰のことです。人が神様以外に信頼を置くものについて考えてみてください。世界経済や政府、教育、人間関係、老後の貯蓄、自分自身など、様々なものに信頼を置きます。それらの中で完全に信頼できるのは、神様だけなのです。

信頼とは、行動の伴う信仰のことです。

この本の中で、私が何度も使ってきた「神様に信頼を置く」という表現に注目してみてください。「置く」は行動を意味します。何かをどこかに置くためには、まず決断が伴います。例えば、私が使い終わったパソコンを充電できる場所に置けば、次に使う時には充電が満タンの状態で使用することができます。ところが、ソファーに置いたままで何もしなければ、次に使いたい時には充電が足りなくなっているかもしれません。運よく充電がなくなるチャンスをかけることもできますが、充電がなくなれば結果的につながりするでしょう。これは、神様以外のものや人に信頼

揺るぎない信頼

を置くことと似ています。「上手くいくかもしれない」というチャンスにかけるのですが、私たちみんなも体験したことがあるように、いつも上手くいくわけではありません。

もちろん、信頼に値する人も存在します。しかし、満足のいく結果を得られるかどうかの保証はありません。人生の4分の3を神様と歩んできた経験から言えるのは、神様に信頼を置いた結果に、私は完全に満足しているということです。自分の期待や思い通りに物事が進まないことも、もちろんあります。しかし、神様はいつも私にベストを与えてくれていたのです。

もし、あなたが今までそのように歩んでこなかったのであれば、人生のあらゆる場面で神様に信頼を置く決断をしてみてもいいでしょうか？それを一日ずつの目標にすれば、思ったよりも簡単に実践できるはずです。今日一日、あなたは神様に信頼することができますか？もしくは、神様に信頼を置くか決断しますか？あなたが今どんなに難しい状況に直面していたとしても、それを神様に委ね、信頼を置きますか？

聖書には、神様に信頼を「置く」と宣言した人々がたくさん登場します。それは彼らの決断だったのです。神様に信頼を置くことについて記す時、著者たちはほとんどの場合に「I will(私は～します)」という書き方をしています。決断することから始まり、次にそれを貫き、最初はほんの1時間ずつであったとしても、それを続けるのです。小さな目標は、やがて私たちが大きな目標を達成する手助けとなります。

聖書にこうあります。

私の神、主よ。あなたは私の隠れ家。私はあなたに信頼を「置きます」。どうか、私を追いかけて迫害する者から救い出し、解放してください。

詩篇7:1 (著者による強調含むAMPC訳より直訳)

第13章 - 一日ずつ

恐れが迫る時、私はあなたに自信を持ち、あなたに信頼を「置き」、あなたに拠り頼みます。

神〔の助け〕によって私は神様のことばを讃え、神に寄り添い、頼り、自信を持って信頼を「置き」ます。だから、恐れることなど何ともありません。ただの人間が、私に何ができると言うのでしょうか。

詩篇56:3-4（著者による強調含むAMPC訳より直訳）

人生が上手くいっている時に、神様を信頼することは簡単です。しかし、物事が上手く行かない時には難しく感じるのです。悲劇と苦痛に直面しているような時には、なおさらのことです。しかし、「私たちにできないことをするように神様は私たちに言わない」ということを、私たちは心に留めるべきです。私たちは一日ずつ神様を信頼することができます！一日の中で数え切れないほど「神様に信頼を置きます」と宣言しなければならないような日があったとしても、宣言することには価値があります。それは神様を誉め讃えるだけでなく、私たちが背負う必要のない重荷を軽くしてくれるのです。

1989年に乳がんであることを宣告された時、私は恐れを感じ、心の中は不安でいっぱいでした。「もし～だったらどうしよう」という考えが押し寄せて来ましたが、恐れや不安を口にする代わりに「神様、あなたを信頼します」と宣言することを神様が教えてくれました。中には、何度もそれを繰り返し宣言する必要のある日もありましたが、私は諦めませんでした。ついに手術当日、摘出处置と同時にリンパ節を検査して、がんの転位を調べることになりました。検査結果が出るまで、ますます神様に信頼を置かなければならない日々が続きました。待っている期間はとても長く感じましたが、私は毎日「神様、あなたを信頼します」と繰り返し宣言し続けました。待ちに待った検査結果は、幸いにも良好でした。リンパ節にがんは転移していませんでしたが、医師たちは今後の治療が必要かどうか確信を持つことができず、その答えを知るのは専門医だけでした。そこで、専門医の診察予約をしましたが、診察日までしばらく待つ必要がありました。この先の数ヶ月間に自分の人生に何が起るのか、その答えを聞ける時まで、私は神様を信頼する日々を過ごしたのです。

揺るぎない信頼

その間、最悪の結果を想像して不安に心を揺るがせる機会はたっぷりありました。しかし、その度に神様は「信頼しなさい」と私に語りかけてくれたのです。ついに、がん専門医による診察日を迎えました。その結果、「がんは完全に切除されたのでこれ以上の治療は必要ない」とのことでした。今後は普通の生活に戻り、年に一度の検査だけを受ければ良いのです。私は心から安堵しました!まるで200キロ以上の体重が一気に軽くなったような感覚でした。それから長年に渡り、年に一度のマンモグラフィ検査の時期が来るたびに、再びそのプロセスを始めから繰り返さなければいけませんでした。ある年には、画像に影が映っていると放射線科医により診断されたため、超音波検査を受けて欲しいと言われ、そのためにもしばらく待たなければなりませんでした!「もしがんが再発していたらどうしよう?もし他の場所に転移していたら?」そんな疑問や様々な考えが、検査日までの間にぐるぐると頭の中を駆け巡りました。しかし、私はこう宣言し続けたのです。「神様、たとえこの先どうなっても、私はあなたを信頼します。」

その後の超音波検査の結果は、全く問題ありませんでした!がんを克服したことを改めて認識したあの日から27年経った今でも、がんは再発していません。

私がこの体験談を話しているのは、「神様に信頼を置くということは、信仰の良い戦いを戦うことが求められる」ということをあなたに伝えたいからです。1テモテ6:12においても、パウロがテモテに同じことを教えています。悪魔は嘘をつくのが得意です。あらゆる状況を利用して、私たちの心を恐れで満たそうと試みます。しかし、どんな時でも神様に信頼を「置く」決断をすることによって、私たちは悪魔の策略を阻止できるのです!

この章を読み進める中で、あなたはもしかすると「神様に信頼しても望み通りの結果を得られなかった」と感じているかもしれません。それは決して珍しいことではありません。なぜなら、物事は必ずしも望み通りに進まないからです。神様に信頼すること、言い換えると「完全に信頼し切ること」の目的は、私たちの望み通りの結果を手に入れることではありません。私たちが神様に信頼する決断をする時、それ

第13章 - 一日ずつ

はどんな結果でも神様を完全に信頼すると決めているのです。神様だけがベストを知っていることを信頼し、その決断により神様を誉め讃えるということなのです。

ヨブ記に書かれている次のことばが、神様への完全なる信頼を表しています。「そのため神に殺されるなら、それでもいい。たとえ殺されても、私は〔神を信頼し続けることを〕やめない。」(ヨブ記13:15 JCBより一部強調)ヨブは、自分を救ってくれる存在が生きていること、そしてついにはその存在が地上に降り立つことを知っていました。(ヨブ記19:25より)ヨブが神様に示した自信に満ちた信仰と信頼こそが、ヨブ記の中核となるメッセージです。この書を読む時、読み手はついヨブの苦しみばかり気を取られてしまい、そこから学ぶべきメッセージを見落としがちです。しかし、ヨブの信仰に私は感心させられます。これらの箇所を読むと、状況に左右されずに神様を信頼することの大切さに気付かされ、信仰が強められるのを感じます。

確かに、ヨブにも不平をこぼすことがありました。彼が耐えていた苦しみは、自分が受けるに値するものではないと考えたのです。それでも彼は、神様を信頼することを決して諦めませんでした。最終的に、神様はヨブが失ったものを倍にして与えました。それはヨブにとって最高の瞬間であったに違いありません。諦めずに神様に信頼を置き続ける人を、神様は最後に必ず報いてくれると、私は強く信じています。

災難に見舞われても、不平をこぼさずに切り抜ける人はほとんどいません。むしろヨブと同じように、自分はこんな苦しみを受けるに値しないと考えるでしょう。しかし、その最中でも私たちは一日ごとに、神様を信頼する選択ができます。そうするのであれば、私たちはどんな困難も必ず乗り越えることができるのです。

揺るぎない信頼

これから先の未来はどうなるの？

私たちは皆、これから先の未来を知りたいと考えています。中には、何百万という大金を支払って占い師や霊能者の元を訪れ、未来について知ろうと試みる人もいます。しかし、聖書はそのような行為を非難しています。そのようなことのために、そこまでの大金をはたいても構わないと感じる人がいることにも驚きです。神様を信頼していれば、そのようなことをする必要はないのです。なぜなら、これから起きることについては神様が正しい時に示してくれるからです。それまでは、ただ信頼して待てば良いのです。

第16代アメリカ大統領であるエイブラハム・リンカーンはこう言いました。「未来は一日ずつしかやってこない。それこそが醍醐味だ。」よく考えてみてください。本当に未来を知りたいですか？たとえ知ったとしても、後になって後悔するかもしれません。人生には、良い面もあればそうでない面もあります。だから、もし未来の全てを知ってしまったら、ワクワクすることだけでなく予期しなかった困難や苦痛、失望、チャレンジがあることにも気付かされてしまうのです。

辛い日も一日ずつ向き合うことで、諦めずに乗り越えることができます。神様に信頼を置き、抛り頼み、委ねていけば、どんなことでも一日ずつ達成していけるのです。問題について余計なことばかり考えてしまうと、気が遠くなって人生を投げ出してしまいそうになります。また、未来を知ってしまったら、いずれ起こる困難についてあれこれと考えては思い悩み、圧倒されてしまうかもしれません。私たちが未来について知るべきことがあれば、神様がそれをベストな形で示してくれるはずで、神様が私たちから何かを隠すのにはちゃんとした理由があり、神様が正しいタイミングで必要に応じて示してくれることを、私たちは信頼すれば良いのです。

人には貧しい時もあれば、富む時もあります。その両方で満ち足りることを学ぶべきであると、パウロは私たちを励ましています。(ピリピ4:11より)その両方を用いて、神様は私たちの人生に働いてくれるのです。人生には様々なシーズンが訪れ

第13章 - 一日ずつ

ます。しかし、その季節の一つ一つが働きあうことで、人生は美しくなるのです。長い冬を抜けると、やがて春が訪れ、再び美しい花々が咲き誇るのです。

自分の将来に待ち受けるものは何か、私はその全てを知りません。しかし、私にもあなたにも素晴らしいものが待っていることを信じています。ですから、人生を一日ずつ歩みましょう。そして心と思いを尽くして神様を信頼することで、神様が与えてくれる勝利を楽しみましょう。明日のことを心配して、今日という一日を無駄にしないでください!あなたは神様の大きな手に支えられ、神様はあなたを大切に思っています。だからこそ、私たちを強めてくれる神様を通して、私たちはどんなことでも成し遂げていけるのです。(ピリピ4:13より)

第14章

全てを知ることができなくても

あなたがたのうち、主を恐れ、主のしもべに聞き従う者はいるでしょうか。そのような人が今、闇の中を歩み、一筋の光もないというなら、主を信じ、自分の神により頼みなさい。

イザヤ50:10 (JCB)

自分の人生に何が起きているのかが分かっていたり、全てを把握しつつ自分の望むものを手に入れるための計画もある状況の中であれば、神様を信頼することはできるでしょう。しかし、現状や将来について全く分からない暗闇の状況で神様を信頼することは、全くの別物です。

イギリスの伝道者チャールズ・スポルジョンはこう言いました。「光の中で神様を信頼するのは容易いことである。しかし、暗闇の中で神様を信頼するには信仰が必要だ。」人には全てを知りたいという抑えきれない欲望があります。全てを知ること、人生の舵取りがしやすくなると考えるからです。しかし、神様との関係の中に入る時、私たちは人生の舵取りを神様に完全に委ね、神様が行くべき道に導いてくれることを信頼する必要があります。そのプロセスの中で、私たちは神様の助けなしに進もうとすることがあります。だからこそ、そんな私たちを神様は助けてくれるのです！神様はあえて、全てを理解できないような環境に私たちを置き、私たちの思うタイミングで答えを与えずにいるのです。人生には不思議がいっぱいです。その不思議と向き合う上で、私たち人間に与えられている選択肢は限られています。神様にしか分からない答えを何とか手に入れようと奮闘し、最後は苛立ちと混乱で立ち往生するかもしれません。また時には、他人の知恵を借りて助けを得られることもあります。逆にそれが混乱を増し加えることもあります。しかし、平安を手

揺るぎない信頼

に入れるための一番の近道は、神様を信頼することを学ぶことです。神様を信頼することは、神様に栄光を帰すことの一つであると私は信じています。神様を信頼する生き方は、神様に対する尊敬と神様のことばを信じる姿勢、そして神様の性質に対する信頼を表すのです。

*平安を手に入れるための一番の近道は、
神様を信頼することを学ぶことです。*

人生の答えを全て手に入れたいという飽くなき欲望の原点には、臆病の霊が存在します。私たちは次に何が起こるのか、この先にはどのような結末が待っているのかを知りたがります。私たちは予期せぬ出来事を好まないのです。少なくとも、喜ばしくない出来事は避けたいと望みます。

神様は次に起こることに対する洞察力も与えてくれますが、それがいつでも与えられるわけではありません。たとえ与えられない時にも、私たちは神様を、安全を保証する「大黒柱」として信頼すべきです。神様を信頼して、どんな時でも忍耐強くあれば、私たちは決して裏切らない神様の忠実さを体験するはずで

何が起きているのかを理解できない状況は、私たちの不安をあおり、ストレスを引き起こします。私たちはあらゆることに思いを巡らせ、頭で理解しようと必死になるのです。しかし面白いことに、「そうか!」と思える瞬間があっても、それが正しい解釈である保証はありません。全てがきれいに整頓されている人生を好んみませんが、人生にはごちゃごちゃした状況があったりします。そんな時は「神様も周りの人も、自分の思い通りに行動してくれない」と感じ、イライラは募るばかりです。私自身も、自分の思い描いた通りに物事が進まなくて、取り乱した経験が何度もあります。

こういった状況は、私たちにとって学びのチャンスでもあります。しかし、そこから何かを学ぶためには落ち着いて、自分のどの考え方が間違っていたのかを神

第14章 - 全てを知ることができなくても

様に聞く必要があります。私の場合、神様の思いを求めるのではなく、自分の願い通りになるような計画を立ててしまうことでした。

しかし、どんな状況でも、私たちが最初に取り組むことのできる最も基本的な信仰の一步は、こう宣言することです。「神様、これは私の願いです。でも、どうか私の思いではなく、あなたの思いが実現しますように！」

私がミニストリーを始めて間もない頃、神様のことばを教えるというビジョンを実現するために、私と気の合う友人たちを選抜してチームを組み、活動の立ち上げを手伝ってもらうことになりました。ここで、その友人たちを選び集めたのが「私」であることに着目してください。私はそのプロセスの中で祈ることも、神様の計画を求めることもしませんでした。イエスが弟子たち（これから共に働く男性たち）を選んだ時、最終的な決断を下すまで、イエスは一晩中神様に祈ったのです。（ルカ 6:12-13より）

私が選んだ友人たちは、神様が選んだチームメンバーではありませんでした。そのため、チーム内の関係は悪化の一途を辿り、私は心に傷を負うことになりました。彼らは私の陰口を言い、嘘の証言をし、私は濡れ衣を着せられました。最終的に私は夢の実現に向けてスタートラインを切る前に、ビジョンから離脱しそうになるまで追い詰められました。

人間関係を築く上で、誰と繋がりを持つかという選択はとても重要です。特に相手との親しい距離感の中で同じ目標を共に目指す関係であれば、なおさらのことです。サタンは人を利用して私たちを傷つけ、内側から活力を奪おうとします。クリスチャンでさえ、このようなサタンの策略に利用されてしまうのです。人は誠実であると同時に、単純に間違えることもあります。私がチームメンバーとして選んだ友人たちは、私に関することを神様から聞いたと思い込んでいました。しかし、それらは真実とかけ離れたことでした。そして彼らの誤りを認められないプライドが、彼らが失脚する要因となってしまったのです。

揺るぎない信頼

そのような多くの苦い経験を通して、「大切な決断の前には必ず祈るべきである」ことを、私は身をもって学びました。憶測や思い込みによる決断は、神様に喜ばれません!自分の思い通りに計画を立ててから、その実現を神様に祈ることはしないでください。まず最初に神様に祈り、聖霊によって神様が用意するベストな計画へと導いてもらうのです。

大切な決断の前には必ず祈るべきである

「知らない」ということに満足する

使徒パウロは高学歴で賢い人でした。そんな彼も、次のことばが表す境地にまでたどり着きました。「イエス・キリストと、その十字架上の死以外は語るまいと決心した」(1コリント2:2 JCB) 神様の良い知らせについて教える時、パウロはキリストを通して得られる救いを「何とも不思議な神の奥義(隠された真理)」と言いました。全てを理解する代わりに、パウロは神様を信じる選択をしたのです。子どものように純粋でシンプルな信仰を持つことを拒む人が大勢います。彼らはキリストの十字架と救いについて、複雑に頭で理解することを好むのです。しかし、実際に頭で理解することは不可能であり、このことは心でのみ受け止めることができるのです。

もし人生に不確かなことが一つもなかったら、信仰は必要なくなります。信仰は、答えの分からない状況の中で、その溝を埋めてくれる存在です!私たちを取り巻く環境の答えをひたすら探るのではなく、神様のことばと神の性質、また彼の思いを私たちは追い求めるべきです。もし誰かに「問題に直面したらどうするの?」と聞かれたら、「分からない」と素直に答えれば良いのです。そして「今、全てのことについて祈っている。時が来れば神様が答えを示してくれると確信しているよ。」と伝えれば良いのです。たとえ、まだそれを完全に信じ切れていなかったとしても、実際に声に出して信仰を宣言するのは良いことです。まず神様に信頼することを決断すれば、感情は後から自然とついて来ます。

第14章 - 全てを知ることができなくても

人生の不思議や疑問に対する答えを探るのは、決して悪いことではありません。しかし、そのためにイライラしてますます混乱するのであれば、それは答え探しに熱中し過ぎているサインです。

人々は人生において、たくさんの混乱を体験します。その原因の一つは、「とにかく全てを知らなければ気が済まない」という偏った考え方にあると思います。暗闇の中で、今何が起きているのか全く理解できない時にも、あなたは神様に対する信仰を持つことができますか？神様はそのような信仰を求めています。暗闇をさまよう時や、何も分からない状況で神様の働きや存在が見えない時にこそ、神様は私たちが信頼することを望んでいるのです。実を言うと、何も分からない暗闇の時こそ、私たちの信仰を成長させる絶好のチャンスです。聖書が教えるように、信仰には小さな信仰と大きな信仰があります。小さな信仰に満足して留まるのではなく、困難な時をチャンスにして、神様を信頼し、大きな信仰を育てていきましょう。

知る必要のある人にだけ示される

最近観た映画に、二人のFBI捜査官が登場する話がありました。彼らは互いに異なる役職だったので、一人の捜査官はもう片方の捜査官と比べて、より多くの機密情報を知っていました。そのため、情報量の限られている捜査官はより多くの情報を持つ捜査官に対して内容を共有するよう求めるのですが、彼は「知る必要のある人にだけ提供される情報なんだ」と答えるだけでした。つまり、知る必要のある人だけが、この事件の詳細を把握していれば良いということです。

私たちに対しても、神様は同じ方法で対応していると思います。私たちが知る必要があることは神様が必ず示してくれると私たちは確信できます。しかし、私たちが知る必要のないことや知らない方が良いことに関しては、神様はあえてそれを示しません。たとえそのような場合でも、私たちは満足することができます。むしろ満足すべきであり、満足することを学ぶ必要があるのです。

揺るぎない信頼

あることに関する知識は私たちの魂にとって重荷となり、必要のない不安や恐れを生じさせます。その重荷は私たちに必要ありません。そのような場合は、むしろ知らないでいる方が良いのです！先週、ある人と電話で話していた時に、共通の知り合いに関する話が持ち上がりました。その知り合いは不道德なことを繰り返すような人でした。私たちはそれが噂話になったり、不確かな情報に触れたりしないように気を付けて会話をしていました。途中で、その人の近況について電話の相手に聞かれた時、私は答え方に迷いました。すると、彼女は即座に「やっぱり答えなくて大丈夫。私が知る必要のないことよね」と言ったのです。

そんな友人の切り返しは、彼女の霊的な成熟さを表していると感じました。それは私たちにとっての模範になります。ただの興味本位だったり、「自分で状況をコントロールしたい」という理由で何かを知りたがることと、本当に聞く必要がある上で知りたいと望むことには大きな違いがあります。人生の様々なことについて議論したり、疑問に思ったりしながら混乱と苛立ちを募らせる代わりに、「知る必要のある時が来たら、神様が答えを示してくれる」とシンプルに信頼してみてください。

聖書の中には、人間が神様と論じ合う立場に置かれる場面が登場します。しかしそれは、まだ示す段階ではないと神様が判断している事柄を、人間が突き止めようとするような論じ合いではありません。その例として、2つの聖書箇所を紹介します。神様の計画に沿って論じ合うことと、神様の計画からかけ離れたところで論じ合うことの違いが描かれています。

「さあ、来たれ。論じ合おう」と主は仰せられる。「たとい、あなたがたの罪が緋のように赤くても、雪のように白くなる。たとい、紅のように赤くても、羊の毛のようになる。」

イザヤ1:18（新改訳）

心と思いを尽くして神である主に拠り頼み、主を信頼し、主に自信を持ちなさい。自分の洞察力や理解に頼ってはいけません。

第14章 - 全てを知ることができなくても

箴言3:5 (AMP訳より直訳)

もう一度言いますが、疑問に感じることにについて神様に問いかけることは悪いことではありません。神様は喜んで私たちと語り合い、論じ合ってくれるはずで。しかし、最初は純粋な議論であっても、次第に行き過ぎてバランスを失い、神様に喜ばれないような議論を持ちかけることがないように気を付けるべきです。心の平安を基準にしてください。(コロサイ3:15より) 言い換えれば、心の平安を判断基準として、自分の問いかけが神様にとって喜ばしいものかどうかを見定めるのです。

進むべき道が見えない時

一旦「問題の解決策などない」と思い込んでしまうと、その瞬間に恐れが私たちを支配し始めます。あなたはどのくらい「こんな問題、解決するわけがない」と口にしたり、他の人からその言葉を耳にしたりしますか？進むべき道が分からないからといって、必ずしもその道が存在しないわけではありません。イエスは彼自身について「わたしが道です。(ヨハネ14:6 JCB)」と言いました。また預言者イザヤは、神様は「目の見えない者に、彼らの知らない道を歩ませ、彼らの知らない通り道を行かせる(イザヤ42:16 新改訳)」存在であると言いました。神様にとっては暗闇も光と同じなので、私たちを正確に導くことができます。私たちにとっては目の前の状況が暗闇であっても、神様は光そのものなので、神様が暗闇に住むことはありません。詩篇の著者ダビデは、神様を完全に信頼することについて非常に優れた章を書き残しました。その中で、彼はこう語っています。

朝風に乗って、地の果てまで飛んで行っても、あなたの力強い腕は、私を導き、支えてくださいます。私が暗闇にまぎれ込もうとしても、夜は私を照らし出す〔唯一の〕光となるのです。暗闇も、神から隠れることはできません。神から見れば、暗闇も光も同じようなものなのです。

詩篇139:9-12 (JCBより一部強調)

揺るぎない信頼

進むべき道が分からないからといって、
必ずしもその道が存在しないわけではありません。

試練が長引くような時や、とても大変な状況に直面する時、この状態がずっと続くかのように考え始めてがっかりすることも珍しくはありません。私たちはこのように考え始めるのです。「この苦しい状況に終わりなんて来ない。思いつくことは全部試したのに、何も変わらない。他に方法が見つからない！」

しかし、神様は違うことをあなたに言っています。

先の事ども〔ばかり〕を思い出すな。昔の事どもを考えるな。見よ。わたしは新しい事をする。今、もうそれが起ころうとしている。あなたがたは、それを知らないのか。確かに、わたしは荒野に道を、荒地に川を設ける。

イザヤ43:18-19 (新改訳より一部強調)

この聖書箇所には、私はどれだけ励まされてきたことでしょうか。このことばからあなたも励まされることを祈っています。心が痛む時には、どうかこのことを思い出してください。神様は必ず道を備えてくれるということをし！

以前神様が道無きところに道を開いてくれた時のことを思い出し、「同じように神様は再び働いてくれる」と、ぜひ思いを巡らせてください！神様の考えは、私たちの考えとは異なります。しかし、預言者イザヤのことばにあるように、神様は荒野に道を切り開くことができます。人生の砂漠に水を湧き上がらせ、川を設けることもできるのです。

神様が道を備えてくれると信じる決断をしても、「道が開かれるのはいつ？」と疑問に感じることもあるかもしれません。しかし、その確かな答えを知っているのは神様だけです。それを問いかけても、神様が答えを示すことはほとんどないかもしれません。なぜなら神様は、私たちがその中で神様を信頼することを望んでいるからです。

第15章

神様の待合室(パート1)

この世の最強な戦士は「忍耐」と「時間」である。

レフ・トルストイ

私のような性格の人にとって忍耐を学ぶことは、人生における大きなチャレンジの一つです。

愛する人が手術を受ける時、医師からの言葉を待つために病院の待合室で家族や友人と待った経験はありませんか？ほとんどの人は不安な様子で、表情には緊張と不安が見られます。結果が告げられるのを待つ中、この時点では誰一人その答えを知らずにいます。そのような状態の中でひたすら待ち続けるのです。果たして良い結果を聞けるだろうか？それとも悪い結果だろうか？予想以上に待ち時間が数時間長引くと、不安はさらに膨らみます。頭の中に巡るのは不穏でネガティブな考えばかりかもしれませんが、そう感じるのは自然なことかもしれません。

では、それが「神様の待合室」だったらどうでしょう。そこでも私たちは不安と緊張感、心配を抱えますか？それとも、忍耐して待ちながら良い結果を期待しますか？待ち時間が予想以上に長引く場合、前向きで希望に満ちた態度でいられるでしょうか？私たちは頻繁に「神様を信頼する」という言葉を口にしますが、実際に神様を信頼することの実を示していますか？

神様には、神様のタイミングがある

神様が何かを急ぐことはありません。それなのに、私たちは全てにおいて急

揺るぎない信頼

いばかりいます!神様が道を備えてくれるという約束を知るだけでは満足せず、それが「いつ」実現するのかまで知りたがるのです。聖書は「時が来たら神様が全ての必要を満たしてくれる」と約束していますが、その「時」とはいつだと思いますか?それは、神様によって正しいと定められたタイミングです。それが正確にいつを指すのかについて、神様が私たちに教えることはほとんどありません。しかしながら、その「時」の訪れが遅れることは決してないと私たちは確信することができます。神様は私たちが耐えられる許容範囲をよく知っています。ですから、それ以上の苦しみを神様が押し付けることは決してないのです!

私たちには長いと感じることで、神様の時の中ではほんの一瞬に過ぎません。

愛する友よ。これだけは忘れるな。神様からしたら1日は千年であり、千年は1日のようであることを。

2ペテロ3:8 (ALIVE訳)

神様は永遠という光の中で物事を捉えています。そのため、神様は急ぐことがありません。終わりのことを初めから知っているのです。私たちがこれから行く場所に神様はすでに行ったことがあり、そこで何が起きるかも神様は正確に理解しています!神様がすることの根底には必ず良い目的があるのです。それを信じられるようになることは、待ち時間の長さに関係なく神様を信頼し続けるための力になります。

私たちは、自分の成長段階ではまだ正しく取り扱えないようなものに、つい手を出したくなります。しかし、神様は正しいタイミングを知っています。ですからその時が来るまで、神様が与えることはないのです。時には神様から「待ちなさい」と言われたり、「NO」と言われることすらあるでしょう。それでもなお、神様の定めることは全て正しい時に、正しいものとして完成されるのです。私たちの人生や神様との歩みにおいて神様が起こす全てのことには、必ず私たちの益となる目的があるの

第15章 - 神様の待合室(パート1)

です!

ガラテヤ5:22によると、神の子どもである私たちには忍耐という実が備えられています。しかし、その忍耐の実が現れるまでには大抵の場合、数年をかけて神様と一緒に人生を歩む必要があります。私たちの内側には、忍耐の実を結ぶための種がすでに蒔かれています。しかし、それが成長して強くなるまでには、時間と経験を重ねる必要があるのです。

「忍耐」という言葉のギリシャ語の語源には、「～の下に留まる」という意味があります。言い換えると、不愉快で、時には痛みを伴うような場合にも、何かにしがみつくと意味です。それは物事を最後まで見届けるということです。多くの人が苦しい思いをする物事から逃げ出したいと思っています。いつ終わるのか分からない苦しみに耐え続けるのは、とても不快なことだからです。しかし、神様は私たちの求めるものを、私たちの望むタイミングで与えるわけではありません。なぜなら神様は、私たちの霊的な成長に力を注いでいるからです。神様にとっては私たちが瞬時に解放されることよりも、私たちの霊的な成長のチャンスの方が遥かに重要なのです。

私がまだ神様を信頼することについて深く理解していなかった頃、神様だったら簡単に解決できるはずなのに、全く行動を起こしてくれないことに大きな苛立ちを感じていました。しかし、あの時の状況が何も変わっていなくても、神様は私の内側で働いていたことが今では分かります。神様は、私の信仰を引き延ばすことで私の信仰をより大きくし、強めてくれたのです。当時の私は神様をどう信頼すれば良いのか分からなかったので、問題が解決するまでの時間を惨めな気分でもごしていました。もし、あの時に神様を信頼する方法を知っていれば、待ち時間も短かったのではないかと思います。

神様と一緒に人生を経験すればするほど、人生はより簡単になります。その中で学ぶことは、神様は早すぎることもなければ、決して遅れることもないというこ

揺るぎない信頼

とです。少なくとも、神様のスケジュールの中では決して遅れることはありません。忍耐とはただ単に待ち続ける能力だけを指しているのではなく、どのような態度で待ち続けるかということも指しています。人生で待たなければならない状況がたくさんある中で、神様の望みは私たちが「忍耐して待つ」ことです。「神様の性質には何の欠点もなく、一生を通して神様の素晴らしさが示され続ける」ということを信頼しない限り、私たちが「忍耐して待つ」ことはできません。自分にとっては、あるものが「良く思えない」からといって、それが決して良いものでないとは限らないのです。その時には良く思えなかったことでも、長い目で見れば結果的には人生の大きなプラスであったことに気付くかもしれないからです。

遅すぎることは決してない

マルタとマリアは、弟のラザロが病気であることを伝えるためにイエスに使いを送りました。マルタとマリア、そしてラザロはイエスの親しい友人であり、イエスは彼らを愛し慕っていたと聖書に書かれています。それなのにラザロが病気であると聞いた後、イエスが実際にラザロに会いに向かったのは、その2日後でした。(ヨハネ11:3-6より)イエスが到着した時にはラザロはすでに死んでしまった後で、彼が墓におさめられてからすでに4日が過ぎようとしていました。ここで、自然とこのような質問が浮かぶかもしれません。「本当に彼らを愛していたなら、なぜイエスはすぐに会いに行かなかったのだろうか？」

イエスがすぐに会いに行かなかった理由は、到着する頃にはすでに手の施しようのないように見える状況であってほしかったからです。イエスが到着すると、マルタはこう言いました。「先生。あなたがいてくださったなら、ラザロは死なずにすんだでしょう。(ヨハネ11:21 JCB)」私たちも周りの状況を見ては、神様によくこう言っていないでしょうか。「イエス、これが起こるのをあなたは防げたはずなのに。」そうしてマルタと同じように、なぜ神様は防ぐことができたはずの痛みを許したのだろうかとがっかりし、疑問に思うでしょう。

第15章 - 神様の待合室(パート1)

ラザロの話を知っていればお分かりの通り、ラザロの死から数日が経っていた事実でさえ、イエスはそれを乗り越えられない障害だと思いませんでした。実際にイエスは、このようなすでに手の施しようのないように見える状況を望んでいました。それは神様が共にいれば全てが可能であるということ、そして神様が必要を満たすのに遅すぎることはないということ、ラザロの親族や友人、また私たちにも気付かせるためだったのです。イエスはラザロを死からよみがえらせました。奇跡を目の当たりにして、全ての人がイエスとそのやり方でしたことを喜んだはずですが、私自身は死者がよみがえる様子を実際に見たことはありませんが、死んだような環境や状況に、神様がいのちを吹き込む様子はこれまでに何度も見てきました。私たちはラザロのストーリーを「神様は奇跡を起こすのに遅すぎることなど決してない」という真理の模範として捉えるべきです。

自分の思い通りに神様が働くことを望む代わりに、このことを覚えておくことができます。それは、長い目で見た時に、神様の方法がいつも私たちの方法よりも優れているということです。神様の知恵にはたくさんの不思議が隠されています。私たちは「なぜ」物事が起きてしまうのか、いつでも理解できるわけではありません。しかし、私たちには神様を信頼できる特権が与えられているので、痛みに耐えることができるのです。

忍耐は力

求めているものが与えられるまで待つ間にも、忍耐は私たちに人生を楽しむ力を与えてくれます。自分では変えることのできないものに囚われて惨めなままであるために、人生の多くの時間が無駄になってしまいます。もし、不愉快な状況を自分で変えることができるならば、そのために行動を起こすべきです。しかし自分では状況を変えられないのであれば、神様を信頼し、神様が働いてくれるのを待つ間にも惨めにならないと決断すべきです。無駄にしてしまった一日を取り返すことはできません。ですから、神様がこの地上で与えてくれた貴重な時間を無駄にしないことこそが、知恵のある堅実な選択なのです。

揺るぎない信頼

自分では変えることのできないものに囚われて惨めなままにいるために、
人生の多くの時間が無駄になってしまいます。

苛立ちや失望、惨めな思いが、悪い状況を改善することは決してありません。むしろそれらの思いは病気を引き起こしたり、寿命が縮む原因を作ったり、人間関係のもつれを生じさせたりするのです。使徒ヤコブは、忍耐のある人のことを「完全に成長した、どんなことにもびくともしない(ヤコブの手紙1:4 JCB)」人であると言いました。なんと力強いことばでしょう!私もそのような人になりたいです。きっとあなたもそう願うはずです。この聖書のことばを読むと「私にも忍耐があれば良いのだけれど、まだまだ無理ね」と、つい考えてしまいます。しかし、私たちは忍耐強くなることができます。それは、正しく考えることから始まるのです。

もし私が「幸せになるためには、欲しいものを手に入れなければならない」と考えているとしたら、そんな自分の考え方こそが惨めな人生を仕立て上げています。しかし、私が「私は神様を信頼する。神様のタイミングこそが完璧だと信じる。そして待つ間にも、神様の安らぎの中で、安心して人生を楽しむわ」と考えを変えることができたなら、その状況の中で自分に足りないものなどなくなるのです。私たちがどんなに焦っても、神様が問題の解決を急ぐことはありません。しかし、一つ確かなことは、神様のタイミングが来るまでどんなに時間がかかろうとも、忍耐が持つ力によって私たちは喜びの態度で待ち続けることができるということです!

何の変化も起きていないように感じて、見えないところで常に何かに変化しています。木が成長する様子を思い浮かべてください。その成長を実際に目で見ることはできませんが、それでも木は成長を続けています。幹は伸び、枝は増え広がるのです。ゆっくりと成長する木は素晴らしい実を結ぶ、という話を聞いたことがあります。これと同じ原則を、人間に置き換えて考えることができると思うのです。自分の枝が増え広がる様子が見えなくても、根は確実に奥深く伸びて、やがては良い実を結びます。いつか素晴らしい実を結ぶ時になれば、待っている間自分が成長し続けていたことに気付くはずですよ。

第15章 - 神様の待合室(パート1)

心配しないで!

あるものを間近でじっと見ていると、逆に近すぎて、その成長を見落としてしまうことがあります。しかし、そこから距離を置いてしばらくしてから再び戻ってみると、その成長の度合に驚かされるのです。以前、私たち家族は所有地の一部を売却しようと試みていました。しかし、市場に出てから3年経っても売れる兆しは全くありませんでした。売れるどころか、見学に来る人すらいなかったのです。結局、3年間で1件のオファーもありませんでした。条件の悪いオファーすら来なかったのです!私はその所有地をどうしても売りたいかったので、イライラしていました。たくさん祈り、売却されることを信仰によって宣言していました。それでも売れない日々は続き、私はそのことを考える度にイライラするようになっていました。ある朝、土地の売却についてまた祈ろうとする私の心に、神様はこう語りかけました。「あの土地のことはもう忘れて、わたしに任せなさい。」その時、私は自分がたった一つのことに関して時間を費やし過ぎていたことにやっと気づきました。そんな私に対する神様の望みは、私が考えるのをやめて、神様が成し遂げてくれることをシンプルに信じることでした。

その後は土地の売却のことが頭をよぎる度に、「神様が成し遂げてくれるから大丈夫!」と考えるようになりました。この件に関して私はやっと神様の安らぎの中で休息することができ、しかも驚くことに、それからたった2週間で土地は無事に売却されたのです!売り出してからの3年間、「私は忍耐して待ち続けることができた」と言いたいところですが、振り返って考えると実際にはそうではありませんでした。そんな私の焦りが、売却の時期を遅らせていたのかもしれない。自分が神様のタイミングを待っているつもりでいても、実際には神様の方が私たちを待っているのかもしれない!

*自分が神様のタイミングを待っているつもりでいても、
実際には神様の方が私たちを待っているのかもしれない!*

揺るぎない信頼

望んだものが与えられないことに対する恐れが、私たちが忍耐することのできない主な原因の一つです。しかし、もう一度言いますが、自分自身の考え方を变えることは私たちにとって大きな助けとなるのです。「何も変化していない」と考える代わりに、「自分の目には変化が見えないけれど、神様が働いてくれていることを信じよう!」と考えることができます。

過去に起きたことも現在起きていることも、未来に起こることも神様は全て理解していて、全ての主導権を握っています。その中で神様が不安になったり、焦ったりすることはありません。私たちの焦りはいつ、どのような形で答えが与えられるのか分からない不安から生じます。情報が少なければ少ないほど、私たちは神様の待合室で忍耐を失いやすくなってしまいます。しかしその中で、「神様のタイミングこそが完璧であり、どうしても好きになれない待ち時間こそが私たちの内側に良い働きをしてくれていること」を、神様のことばと経験が教えてくれるのです。

偉大な神の人として知られる聖書の登場人物のストーリーを読んで、「彼らの証が自分のものであれば良かったのに」と、多くの人が密かに願ったことがあるのではないのでしょうか。彼らと同じような経験をしたいとは思わなかったとしても、少なくとも彼らのように称賛されたいと思ったことはあるかもしれません。間違いなく、彼らは素晴らしい人たちです。しかし、そんな彼らも皆、神様の待合室で待ち続けたのです。モーセは40年間、荒野で待ち続けました。ダビデは20年間、王になるまで待ち続けました。そのうちの15年間は、サウル王から逃れるために洞窟に隠れて過ごしました。ヨセフは13年間、解放を待ち続けました。そのうちの10年間は、彼は牢獄の中で過ごしました。アブラハムは20年間、神様からの約束の子が与えられるまで待ち続けました。私たちも神様の待合室で待ち続けていれば、いつかみんなが称賛するような素晴らしい証を手に入れられるかもしれません!

第16章

神様の待合室(パート2)

期待して主を待ち望みなさい。勇敢になり、自信を持って、揺るがずに耐え忍びなさい。そうです。期待して主を待ち望むのです。

詩篇27:14 (AMPC訳より直訳)

人々はよく「神様を待ち望む」という言葉の意味を勘違いしがちです。「待つ」ということは、どちらかという受け身で、非活動的で、人生が保留されている状態であるように捉えられます。多くの人にとって、全く何もしていないことは難しいことです。神様を待ち望むことについて誤って解釈すると、実際に待ち望む時が来ても、私たちは動けないのです。

「待つ」という言葉の語源を深く掘り下げると、実は神様を待ち望むというのは、靈的にとてもアクティブな状態であることが分かります。「目の前の状況を変えようとしなくて、静まっていなさい」と神様に言われることがあるかもしれませんが、それは「何もせずにじっとしていなさい」という意味ではありません。神様がしようとしていることに対して希望を持ち、素晴らしいことを期待する態度を、神様は私たちに望んでいるのです。実際に目で見ることが出来る前から、神様の働きに対して感謝の態度を持ってほしいと願っているのです。

神様の待合室で過ごす間にも、どんな態度で何を考えるかによって、私たちは喜びを保つことができます。そのためには、まず自分の思考を正しく管理することが大切です。これから登場する2つの思考パターンについて、どちらだったら喜びを生み出せるのか考えてみましょう。

揺るぎない信頼

1つ目の思考パターン

- ・もう十分待った。これ以上待ち続けるなんて無理だ。
- ・状況は何も変わっていない!
- ・神様は私のことなんて忘れてしまったのかもしれない。
- ・この問題を解決するのは無理なのだろうか。
- ・もう諦めてしまいたい。

2つ目の思考パターン

- ・神様がこれから何をしてくれるのか楽しみ。
- ・今は何の変化も見えなくても、神様が働いてくれていることを信じよう。
- ・神様は私を愛しているから、この問題も神様が何とかしてくれるはず。
- ・詩篇139篇には、神様がいつも私のことを思ってくれていると書いてある。だから、今も神様は私のことを覚えてくれているんだ。
- ・恐れの中を生きる人生なんて選ばない。絶対に諦めたりもしない!

これら2つの思考パターンを見れば、より多くの喜びを生み出すのがどちらかは一目瞭然ですよね。それなのに、なぜ私たちはネガティブな考え方や態度に傾く傾向があるのでしょうか?ローマ8:6で、使徒パウロは人間的な考えを「聖霊の存在しない考え方(AMPC訳より直訳)」であると述べています。まさにその人間的な考えこそが、罪の引き金となるのです。ですから、もし私たちが人間的な考えに従って生きるのであれば、目の前の状況に左右された決断しかできなくなります。しかし、同じ聖書箇所でも触れているように聖霊の考えに従って生きるのであれば、私たちにほのちと魂の平安が約束されます。聖霊の考えに従うことで、私たちは神様の視点で物事を考えられるようになり、状況に左右されることなく、希望に満ちた考え方ができるようになるのです。

第16章 - 神様の待合室(パート2)

あなたは何を見ている？

人間的に考えるか、もしくは聖霊が考えるように考えるか。その選択は自分自身に託されています。残念なことに、多くの人は頭に浮かぶ様々な思いに惑わされながら人生を歩んでいます。ネガティブで希望のない、恐れと疑いに満ちたそれらの考え方が、私たちの敵であるサタン¹の仕業なのだと気付かずにいます。神様のことばに反する誤った考えを振り払い、神様のことばに沿った考えに置き換えることで、自分の考えを選択できるようになることに、彼らは気付くことができずにいるのです。

2コリント4章で、パウロは自分と仲間のクリスチャンたちが、途方に暮れるような困難を体験した時のことについて語っています。彼らは「四方八方から苦しめられ〔悩まされ〕、〔あらゆる面で〕圧迫されるが、押しつぶされ、打ちのめされることはない。『どうしてこんなことが・・・』と途方にくれるようなことが起きても、絶望して投げ出したりはしない。迫害され(追いかけれ)るが、神は見捨てはしない。〔ひとりぼっちで立ち尽くすようなことはない。〕時には打ち倒されるが、滅んではない。 (ALIVE訳より一部強調)」と、記されています。その理由について、パウロはこう語っています。

だから私たちは、いま見えるもの、すなわち、身の回りの苦しみには目をとめない。むしろ、今は見えない天にある財宝を望み見るのだ。見えるものは、(一時的に過ぎず、) はかなく消え、見えないものは永遠に続く!

2コリント4:18 (ALIVE訳より一部強調)

パウロと彼が仕えていた人々は、自分たちが悪い状況にあることを理解していました。目の前には実際に困難が溢れていましたが、彼らの目は別の場所へ向けられていたのです。イエスの存在と、神様がくれる勝利と解放の約束から、彼らは決して目をそらしませんでした。彼らは肉眼だけでなく、霊的な目で物事を見据えていたのです。肉眼では見えないものを心の目で見つめ、さらにその全てが真理であ

揺るぎない信頼

ると信じたのです。

私たちも、肉眼で見ることのできない神様を信じています。また、天使の存在も信じていますし、重力の存在も信じています。雲で空が覆われる時にも、その上には太陽があることを信じています。このように考えると、私たちの身の回りには、肉眼では見えなくても、その存在を確信しているものがたくさんあることが分かります。それならば、たとえ成果がまだ見えなくても、私たちが待っている間に神様が働いていると信じることも可能だと思いませんか？まだ慣れない段階では、そう信じることを難しく感じるかもしれませんが、しかし、変わっていくことはできます。

私たちの本当の人生は私たちの内側にあります。私たちの内側にあるもの（考えや態度）は、私たちの身の回りの環境以上に重要です。周りの状況がどんなに厳しくても、私たちが正しい態度で、神様のことばに根付いたポジティブな考えを保つのなら、私たちは平安と喜びを体験できるのです。たとえ獄中で生活をしていても、良い態度で前向きな考えを持つ人の方が、一般社会で生活をしながら憎しみと恨みに満ちたネガティブな態度の人よりも、よっぽど自由だと私は思います。ただシンプルに良い考えを持ち、希望に満ちた態度を選ぶことで、誰でも人生の質を上げることができるのです。

たとえ良い環境に恵まれ、金銭的にも豊かで、仕事も順調で、素晴らしい家族に囲まれていても、そのことに感謝せず、自己中心的で、自分を傷つけた相手に対する怒りを抱えたまま生きるのであれば、私たちは悲惨な人生を歩むことになります。それとは反対に、難しい状況の中をたった一人で過ごし、金銭的にもギリギリな生活を送っていたとしても、感謝の心を持ち、人々を祝福することに時間を費やして生きるのであれば、平安と喜びに溢れた人生を歩むことができるのです。

あなたの態度や考えは、あなた自身のものです。もしあなたが望まないのであれば、誰もあなたに悪い態度を取らせることはできません！

第16章 - 神様の待合室(パート2)

*あなたの態度や考えは、あなた自身のものです。
もしあなたが望まないのであれば、
誰もあなたに悪い態度を取らせることはできません!*

聖書によると、ヨセフは13年間の獄中生活において、神様が解放してくれる時を待つ間にも、希望と良い態度を持っていたことが分かります。ヨセフには夢がありました。その夢の実現は、現状から考えると難しく思われましたが、それでも彼は決して諦めませんでした。(詳しくは、創世記37-50章に登場するヨセフのストーリーを読んでみてください。)

アブラハムは、子どもを与えると約束してくれた神様のことばが実現するまで、20年間待ち続けました。20年間という歳月は、神様の待合室で過ごすにはとても長い時間です。

きっと、アブラハムにも諦めなくなるような瞬間が数多くあったはずです。しかし聖書には、希望を持ち続ける理由がなくなっても、アブラハムは信仰によって夢の実現を信じ、神様の約束が果たされるのを期待し続けたと記されています。また、自分にも妻のサラにも、身体的に子どもをつくる能力が残されていないことを考慮しても(その事実を目の当たりにし、それについて考えたとしても)、神様がくれた約束への確信が、不信仰や疑いによって揺らぐことはありませんでした。それどころか、神様を賛美し、栄光を帰すごとに、彼はますます強められていったのです。賛美とは、神様の素晴らしさを表現する私たちの詩(うた)です。だからアブラハムも、これまでに神様がしてくれた素晴らしい働きの一つ一つに思いを馳せたのでしょう。また栄光とは、神様の素晴らしさの現れです。だからアブラハムも、これまでに体験した神様の素晴らしさの一つ一つを思い返していたのでしょう。神様が良くしてくれたことに思いを巡らせる選択をすることで、アブラハムは強さを保ちながら、神様の待合室での時を過ごしたのです。

今現在、あなたも神様の待合室で時間を過ごしているでしょうか?もうすでに

揺るぎない信頼

長い間、待ち続けていますか？想像以上に時間が長引いているように感じていますか？そんな中で、あなたは上手に待つことができているのでしょうか？何を考え、どんな態度で過ごしていますか？神様は、全てを完璧になされる存在です。だからこそ、忍耐して神様を待ち望むことができるよう、態度と考えを選ぶことをあなたに励ましたいです。

希望を持って待ち望む

幸いなことに、希望を持つためには、希望を「実感」できるのを待つ必要はありません。目の前の状況がどんなに厳しくても、希望を持つ決断をすることができます。私たちが希望の中に囚われる囚人になることで、神様はこれまでの祝福を倍にして返してくれると約束しています。(ゼカリヤ9:12より)つまり、「何があっても希望を持ち続けずにはいられない」というくらい希望に溢れるほどに、希望の中に囚われる囚人になるなら、これまでに失ったものは神様の手によって回復され、祝福は倍になって返ってくるのです。

希望とは、ただ単に良い結果を願うことではありません。何があっても希望を堅く持ち続ける時に、それが私たちの人生にブレイクスルー(壁を打ち破ること)を起こす力となるのです。待ち続ける間も、私たちが信仰を強く持ち、希望に満ち溢れるための一つの方法として、神様のことば(神様の約束)を熱心に学び、それらを思い巡らすことができます。神様のことばには、神様に希望を置く全ての人を励まし、強める力があるのです。

詩篇の著者である若い青年ダビデは、神様の約束が実現するまで20年の間待ち続けました。その彼がこう話しています。

私は主を待ちます。期待して待ち望みます。そして、神様のことばのゆえに、希望を持ちます。

詩篇130:5 (AMPC訳より直訳)

第16章 - 神様の待合室(パート2)

希望には、その根拠が必要です。希望を持つことができる理由が必要なのです。ダビデにとって、それは神様のことばでした。ダビデは、とにかく神様の忠実さを信頼し、そのことばが実現されることを待ち望んだのです。

神様のことばを学び、深く味わうことが、なぜ私たちの助けになるのでしょうか？例えば、種は発芽の時期を迎えると、自分の種類の植物と同じ芽を出します。同じように神様のことばという種が、心という豊かで柔らかい土に蒔かれると、収穫物を産み出します。それ以外のものは産み出しません。この原則は、聖書の初めから終わりまで一貫して見ることができますが、マルコ4章では、その真理が種という視点からさらに分かりやすく説明されています。

それ以外は、よい（適応力のある）地にまかれた種のようになる！神の真理を聞くと、しっかり飲み込む。その人は、目を見張るように成長し、良い実をどんどん結ぶ！ある人は30倍、ある人は60倍、ある人は〔なんと〕100倍だ!!!

マルコ4:20 (ALIVE訳より一部強調)

だからこそ、神様のことばである聖書をできるだけ頻繁に読み、学び、聞き、味わうことを強くお勧めします。そして、柔らかくて（親切で優しい）、信仰に満ちた心でそれを行ってください。神様のことばが心に「植えられ、根を張る」と、魂を救い出す力を持つとヤコブは言いました。（ヤコブ1:21より）神様のことばは、私たちを変えることができます。それによって、私たちは神様が望む自分へと変えられ、神様が望むことを実行できるようになるのです。神様の待合室にいる間に、私たちが諦めることを神様は望んでいません。神様の正しいタイミングで、ブレイクスルーが起きるまで、私たちが堅く立ち続けるための力を神様のことばは与えてくれるのです。

あなたの希望を、神様と神様のことばに置いてください！いつでも良い知らせを聞けるように、心の準備をしておいてください！希望を持って生きていれば、様々な問題から解放されて、人生の旅路を楽しむことができるようになるのです。

揺るぎない信頼

待つ間にも従順な姿勢を保つ

主を待ち望め。その道を守れ。そうすれば、主はあなたを高く上げて、地を受け継がせてくださる。…

詩篇37:34 (新改訳)

希望を持って待ち望むことは、人生で勝利を見るために欠かせない要素の一つです。それと同時に、「神様のやり方に従いながら」待ち望むことも、私たちが心の中に留めておくべき要素の一つです。従順でいることの大切さは、きっとあなたもすでに理解していると思います。しかし、全てが順調な時でさえ従順になるのが難しいなら、神様の待合室で、長引く困難と向き合いながら変化が起きるのを待っている時に従順になるのは、さらに難しいということに私たちは気付くべきです。そのような時は、周りに対して親切にしたり、愛を持って接したり、人々に仕えたり、与えたりと、いつも正しい行いを続けたいとは感じられないかもしれません。

ストレスやプレッシャーが多い時に、聖霊の実を反映するような生き方をするのはさらに難しいことです。そんな時は、神様に祈ったり、聖書から神様のことばを学んだりするのも難しく感じるかもしれません。しかし、そんな時こそ神様に祈り、神様のことばを学ぶことが最も重要な時なのです。正しいことが起こるのを待つ間にも、正しい行いをやめない。それこそが、最も力強い生き方の一つです。パウロは、「正しい行いをすることに疲れ果ててしまわないようにしましょう。失望せず、あきらめずにいれば、やがて祝福を刈り取る日が来るからです。(ガラテヤ6:9 JCB)」と私たちに伝えています。神様の待合室にいる間も、正しい行いをやめないようにあなたを励ましたいです！神様を愛し、神様がこれまでにしてくれたことや、今してくれていることに感謝しているからこそ、私たちは正しい行いを続けていくべきなのです。

正しいことが起こるのを待つ間にも、正しい行いをやめない。

それこそが、最も力強い生き方の一つです。

第16章 - 神様の待合室(パート2)

神様は、私たちが信仰によって歩むことを望んでいます。信仰によって歩むということは、目の前の状況や自分の感情によって歩むのではなく、正しいとわかっていることによって歩むことです。純粋に正しいからという理由で、正しい行いを続けることには大きな力があります。状況に左右されない私たちの振る舞いが、神様への信頼と、どんな時にも神様を誉め讃えるという決意を明らかにするのです。

どんな時にも断固として動じることなく、神様の働きに励んでいれば、私たちの努力は決して無駄にはなりません。(1コリント15:58より)たとえ周りの人には見えなくても、神様はいつもあなたの忠実さを見ています。試練の中でも不動な態度を貫く人は、勝者に与えられるいのちの冠を受け取るのです。(ヤコブ1:12より)

ですから、神様の待合室にいる間にも神様を信頼し、約束の報酬に目を向けていきましょう。そして、良いことが必ず訪れると期待し、神様にあって全てが可能であることに希望を置いて、一緒に喜びを体験していきましょう!

第17章

神様が静寂を保つ時

神よ。沈黙を続けしないでください。黙っていないでください。神よ。じっとしていないでください。

詩篇83:1 (新改訳)

私はこれまでに、「今ここに神様が来て隣に座り、私に何を望んでいるのか教えてくれたら良いのに!」と思ったことが何度もあります。あなたにも、きっと私と同じように考えた経験があるのではないのでしょうか。神様の望みを実際に聞くことができたなら、もっと楽になるかもしれません。しかし、神様には別の意図があるのです。神様の思いと私たちの思いが異なるのであれば、私たちは神様の思いに従うことを学ぶ必要があります。神様の望みは、神様が静寂を保つ時でも私たちが信頼し続けることなのです!

あなたはこれまでに、神様が荷物をまとめ、新しい住所も告げずに遠くへ引っ越してしまったのではないかと感じたことはありませんか?自分の人生に神様の働きが見えなくなり、神様の声も聞こえなくなると、まるで暗闇の中を手探りで進み、迷路から抜け出そうとしている気分になります。そんな時は自分の信仰が試されるのを感じますが、そんな時こそ私たちが重要なレッスンを学ぶ時なのです。そのレッスンとは、神様が静寂を保つ時でも「神様を信頼し続ける」ということです。静寂を保っているからといって、神様が何もしていないとは限らないのです。

*神様が荷物をまとめ、新しい住所も告げずに
遠くへ引っ越してしまったのではないかと感じたことはありませんか?*

揺るぎない信頼

旧約聖書の時代が終わり、新約聖書の時代が幕を開けるまでの400年間、神様は静寂を保ち続けました。しかし、神様はその400年の間に、人々がメシア(救世主)の訪れを迎え入れるための準備をしていました。聖書には、「時が満ちると、イエスが誕生した」と書かれています!(ガラテヤ4:4より)全てのことに關して神様は正しい時を定めています。やがて時が満ちると、神様は口を開いてくれるのです。私たちの役割は、その瞬間まで神様に耳を傾け続け、期待して待ち続けることなのです。

次に1列王記17:1において、神様が預言者エリヤについてどう語っているのかを考えてみましょう。これから数年間は雨が降らないことを、エリヤは人々に預言しました。すると確かに、それから3年6ヶ月の間、雨が降ることはありませんでした。人々は厳しい干ばつに悩まされ、そのような預言をしたエリヤのことを良く思わない人も出てきました。この干ばつがいつまで続くのか、神様が新たに語ってくれる瞬間をエリヤは待ち焦がれたことでしょう。しかし、1列王記18:1に「それから、かなりたって、3年目に、次のような主のことばがエリヤにあった。(新改訳)」とあるように、神様はエリヤに雨が近づいていることを預言する新たな使命を与えました。すると、そのことば通りに雨が降ったのです。

聖書には他にも、神様を信頼する人たちが神様の静寂を体験した例が登場します。ヨブやアブラハムも、神様の静寂を体験しました。ヨブ記23章には、神様を見つけることも、神様の声を聞くこともできずに絶望を味わうヨブの様子が記されています。ヨブ記23章からいくつかの節を抜粋して見ていきましょう。

ああ、できれば、どこで神に会えるかを知り、その御座にまで行きたい。

ヨブ23:3 (新改訳)

ところが、いくら神を探してもむだなのだ。〔東へ西へと〕あちこち尋ねても見つからない。北へ行っても〔神の姿は〕見当たらず、南に向きを変えても、神は姿をくらましてしまう。

第17章 - 神様が静寂を保つ時

ヨブ23:8-9 (JCBより一部強調)

次の節では、恐ろしいほどの神様の静寂の中で、ヨブが信仰によって語った言葉が記されています。

しかし彼はわたしの歩む道を知っておられる。[そのすべてに気を配り、理解し、注意を払ってくれる。]彼がわたしを試みられるとき、わたしは[精製されて混じりけのない]金のように出て来るであろう。

ヨブ23:10 (口語訳より一部強調)

たとえ神様の姿を見ることや神様の声を聞くことができなくても、神様が自分に目を注ぎ、心を向けてくれていることをヨブは信じました。ヨブは、「もしかしたら」神様は自分を解放してくれるとは言わず、「時が来たら」神様は自分を解放してくれると言ったのです！

アブラハムはたった一人の息子イサクを捧げることにに関して、神様の静寂を体験しました。アブラハムの信仰と従順を確かめるために、神様は息子をいけにえとして捧げるよう彼に命じました。そしてアブラハムが息子に手を掛けようとしたその瞬間まで、神様は「息子を傷つけてはならない」とは告げずに、静寂を保ち続けたのです。その瞬間までアブラハムは、信仰に従って進む以外の道を選ぼうとはしませんでした。なぜなら、たとえイサクに手を掛けたとしても、神様は忠実な存在なので、きっとイサクを死から蘇らせてくれると確信していたからです。(ガラテヤ 22:1-12より)

私はアブラハムやヨブのような究極の体験をしたことはありませんが、神様の声を再び聞くまで、長い静寂の中を待ち続けたことは何度もあります。私たちに「神様はそばにいないのではないか」「神様は私のことなど気にかけてはいないのだろうか」と、つい考えたくなくなってしまような困難の時を通ることがあると思います。もしくは「神様の声が聞こえなくなってしまったのでは・・・」と考えたことがあ

揺るぎない信頼

る人は、私の他にもいるのではないのでしょうか。

私も長年の間で何度も、神様の声を聞こうと「努力」して自分自身にプレッシャーをかけることがありました。しかし最終的には、神様が私たちに語りかける方法は一つではないことに気付いたのです。神様の声を聞こうと「努力」して聞こえないことにイライラするのではなく、神様が私たちに語りたい時には明確に語ってくれることを信じれば良いのです。

「神様の声が聞こえなかったらどうしよう」と不安に思う代わりに、「神様は必ず語ってくれる」と信じる選択をしましょう。あなたが神様の声を聞きたいと思い、それに従う準備ができていたら、神様は完璧なタイミングであなたに語りかけてくれるはずです。時が満ち、定められたタイミングが来たら、神様はエリヤに語ったのと同じように、私たちにも再び語ってくれるはずです！

神様が静寂を保つ時に、私たちがすべき6つのこと

1. 神様が最後に語ってくれたことを守り、実行し続けよう

パウロは「与えられた自由をしっかりと握り締め、再び捕らわれの身にならないように気を付けなさい」とクリスチャンに教えました。(ガラテヤ5:1より) 私たちは与えられた自由を掴み続け、神様が静寂を保つ間にもがっかりしたり、信仰を弱らせたりしてはならないのです。

私にはまだ知らないことがたくさんありますが、すでに知っていることもたくさんあります。そして今、自分がすべきであると理解していることを日々こなしながら生きています。よく色々な人から「ミニストリーの次の活動は何ですか？」と質問されるのですが、私は未来を読むことができないので、どう答えるべきか分からないことがあります。もちろん活動計画が立っていればそれを伝えられるのですが、先の見通しが立たない時には、私も多くの人と同じようにただ今日という日と向き

第17章 - 神様が静寂を保つ時

合い、神様を信頼しながら生きているのです。人生の次のシーズンに何が待っているのかは、他の人々にとってそうであるように、私にとっても未知の世界なのです。

また、「神様はあなたに何と語っていますか?」というのも、頻繁にされる質問の一つです。まるでカレンダーが新しくなれば、神様から新しいことばが語られるはずだと言っているかのように、新年を迎えると多く聞かれる質問です。確かに1月1日は、新しい抱負について語り合うにはちょうど良い機会です。しかし、新年の初日だからという理由で、神様が新たな啓示を与えてくれるとは限りません。神様は行事ごとに新しいことばを与えてくれる自動販売機ではありません。神様が語るタイミングは、神様だけが決められることです。神様の静寂が続く時には、自分が今すべきことに日々向き合えば良いのです。

最近デイヴと私は、ある友人の新婚時代の話聞いて、彼らと一緒に大笑いしました。当時、彼女の夫は霊的であることに過度にこだわっていて、彼女に毎日読んでもほしい聖書箇所を通読プランまで組んだそうです。地域教会の副牧師の仕事を終えて帰宅すると、彼がまず最初に言うのが「今日、神様は何て語ってくれた?」でした。毎日同じ質問をされる彼女は、一体どれだけのプレッシャーを感じていたことでしょう!「何も語られなかったわ」と答えるような日には、自分の力不足を感じたかもしれません。今となっては笑い話ですが、当時は笑い事ではなかったことでしょう。”神様からのことば”をひねり出すように、自分や人にプレッシャーをかけるべきではありません。そのような行動は、悪魔が私たちを欺くチャンスを与えることになってしまいます。

2. 神様の静寂は、あなたを褒めていることの表れかもしれない

神様が明確な指示を与えないのは、あなたなら正しい決断ができると信頼しているからかもしれません。私たちの日頃の行動を一つ一つ細かく指示する存在として、神様のことを捉えるのは間違っています。そのような関係は親と幼い子どもの関係であり、成熟した息子・娘との関係ではありません。今朝、息子が「午後にお母

揺るぎない信頼

さんのところへ寄るね」と連絡してきました。私の家に来たらどう振る舞うべきか、私は息子に事細かく指示しません。私は彼を信頼しています。また、彼が私の思いを知っていて、その思いを尊重してくれることも信じています。例えば、息子は家の中に入る時、玄関のドアを開けっ放しにすることはありません。また、家の外に車を停める時、隣家の駐車スペースをふさいで駐車することはありません。事前の連絡なしで、私の知らない人を連れて来ることもありません。息子は私の思いをすでに知っているのです、私がこれらのことを彼に細かく説明する必要はないのです。

聖書の教えや私たちが知っている神様の考えと性質に沿って物事を決断する自由を、神様は私たちに与えてくれています。最近、クリスチャンのある有名な男性が自分の人生を振り返り、こんな風に語るのを耳にしました。人生で重要な分岐点を迎える時に神様の導きを求めて祈ると、「正しい選択に辿り着いて平安を感じるまで色々なことを試すように」導かれると彼は気付いたそうです。たとえ私たちにとって神様が静寂でいるように感じる時でも、神様は聖書のことばや平安、知恵、過去の経験などの様々な方法を通して、私たちとのコミュニケーションを図っているのです。

神様が明確な指示を与えないのであれば、それはつまり、あなたが正しい決断をしてくれると神様が信頼しているということだからこそ、自信を持ってください！ 停車したままの車を運転することはできません。人生には、正しい方向へ進んでいるかどうかを見極めるために、まず車のエンジンをかけて少しずつ前進しなければならぬ時もあるのです。

*神様が明確な指示を与えないのであれば、それはつまり、
あなたが正しい決断をしてくれると神様が信頼しているということだからこそ、
自信を持ってください！*

第17章 - 神様が静寂を保つ時

3. 周りの人と自分を比べないで!

他の人の神様との体験談を耳にすると、自分にも同じような体験が与えられるはずだと思い込むことが私たちにはよくあると思います。しかし、神様があなたの人生にも全く同じ働き方をするとはいりません。私が以前読んだ本の中には、まるで神様が実際にベッドの脇に腰かけ、その人に向かって今日すべきことを細かく話しているかのような描写がありました。そこで何度も登場するのが、「神様はこう言った」や「神様はこう告げた」というフレーズでした。私も同じようなフレーズを使って話すことがありますが、そのような表現はあまり使い過ぎない方が良く感じています。なぜならこのような言い回しを聞いて、誤解してしまう人がいる場合もあるからです。私たちは、神様の導きの中で毎日を生きることができます。しかし、それはまるで実況中継のように、神様が事あるごとに細かな指示を与えてくれるという意味ではないのです。

中には、私よりも多い頻度で神様の詳細的な語りかけを聞く人もいます。しかし、私は他の人と自分を比べるべきではないことを学びました。他の人と自分を比べてばかりいたら、神様と自分との関係に満足できなくなってしまうからです。私たちはそれぞれ異なる人間であり、神様はそれぞれに合った形で、目的を持って働いてくれます。そのことについて、私たちは神様を信頼すべきです。一言も話さずに誰かと同じ部屋にいても、相手が親しい人であれば居心地良く過ごせますよね。それと同じように神様の静寂の中でも、神様が共にいてくれると信じるだけで十分であるべきです。

4. たとえ返事が来なくても、神様に話しかけ続けよう

私たちは自分の思いを表すべきであり、神様もそれを望んでいます。いつ、どんな時でも、何に関しても、私たちは好きなだけ神様に語りかけて良いのです。詩篇の著者ダビデは、自分の心を神様にとても正直にさらけ出しました。私たちにも「ただ誰かに話したい」と感じる瞬間があります。相手に何かを求めるわけでもなく、

揺るぎない信頼

ただ自分の声に耳を傾け、秘密を守ってくれる人を求めると思います。その話し相手として最適な存在が神様なのです。

5. 何も聞こえない時間が長く続いても、耳を傾け続けよう

神様に耳を傾ける姿勢は、あなたの心が開かれていて、神様のことばを受け取る準備ができていることを神様に示していることになります。私はよく、神様に「何か語りたいことはある？」と尋ねるのですが、そのように祈った後は、心を静める時間を数分間持つようにしています。そうすることで、私は次の箴言に記された神様の教えに従っています。

あなたの行く所どこにおいても、主を認めよ。〔主を知り、認識せよ。〕そうすれば、主はあなたの道をまっすぐに〔平らに〕される。

箴言3:6（新改訳より一部強調）

神様に呼びかけて何の答えが返ってこなくても、神様に語りかけること自体に意味があると私は思います。呼びかけに対して静寂が返ってくる時にも、現状を良い結果に繋げるために神様が働いていたことが明確に分かるような形で、神様は私たちの環境を導いてくれるのです。

6. 神様に自分の心を調べてもらおう

時にダビデは、「自分の心に正しくないものがあるか調べてほしい」と神様に言いました。（詩篇26:2、詩篇139:23-24より）とても大胆な一歩ですが、この行動こそ、神様の思いが何であれ、それが自分の人生に実現することを心から求めている証なのです。

あなたが神様の声を聞く上で妨げになっているものはありませんか？罪や間違った態度、神様の声を聞くことについての誤った解釈などといったものが妨げの

第17章 - 神様が静寂を保つ時

要素ではないでしょうか。真理は私たちを自由にします。ですから、真理を知ることが恐れる必要などありません。神様が静寂を保つのは、私たちが間違ったことが原因ではないかもしれません。しかし、その理由が何なのかを探ることに価値はあらずです。

神様は長い静寂を保ちましたが、最終的にヨブに語りかけました。しかし、それはヨブにとっては予期せぬ内容でした。苛立ちを抑え切れなくなったヨブは、自分はこんな風に扱われるべきではないと神様に抗議し、納得のいく答えを求めました。そして、自分に対する神様の対応は正しくないと言い放ちました。この時のヨブは、目に見えないところで起きていた霊的な戦いに気付いていなかったのです。それはヨブだけでなく、私たちにも共通して言えることではないでしょうか。聖書には、やがてヨブが自分の取った態度を後悔し、神様の前で心を改めたとあります。神様に抗議した自分の態度が罪であったことを、彼は自覚したのです。

ヨブはあらゆる面で正しい人でした。しかし試練に直面すると、自分に対する神様の扱い方は間違っていると思い込んでしまいました。(ヨブ42:3-6より)彼の正しさは、自分の正当性を主張するものへと変化していきました。自分の正当性を主張する態度は、私たちにとっても危険な落とし穴です。確かにヨブは(私たちの間でも類を見ないほどの)厳しい困難な道を通りました。しかし、最後には「この試練を通して、今までよりも神様のことをさらに理解できるようになった」と言ったのです。(ヨブ42:5より)また、神様はヨブが失ったものを倍にして与え、驚くほどの祝福を注いでくれたのです。(ヨブ42:10-17より)

ヨブは険しい道のりを通りましたが、最後には素晴らしい結末を迎えることができました! 私たちもヨブと同じような結末を待ち望むことができます。忘れないでください。サタンが災いを起こす目的でしたことも、神様は祝福へと変えてくれるのです。(創世記50:20より)

第18章

変化の時にも神様を信頼する

自分の考え方を変えられない人に、何かを変えられるはずなどない。

ジョージ・バーナード・ショー

世の中には変化を好まず、それを断固として拒む人がたくさんいます。しかし、私たちが変化を望んでも望まなくても、世界は常に変わり続けるのですから、その事実を拒もうとしても無意味です。私たちがすべきことは、変化に対する自分の考え方を変えることです。そうすれば人生の変化が訪れても、柔軟に対応できるようになるはずで、多くの人が変化についてどう感じているのか、その理由も交えながら考えていきましょう。

世の中には「変化は大嫌い!」と語気を強める人も少なくはありません。そのような人は、自分の人生の舵取りができなくなるのを好まないのかもしれませんが、もしくは新しいことに対する不安や、「変化は苦手」という単なる思い込みが原因かもしれません。または、幼少期に聞いた周囲の声に影響されて、そのような考え方が形成された可能性も考えられます。はたまた、イエスが用意してくれた最高の人生を阻止しようと目論むサタンが、変化を拒む要塞を私たちの頭の中に築いたのかもしれません。

生きている限り、変化は絶えず起こり続けます。それを拒むということは、自分に向かって吹く風を止めようとするのと同じです。私の孫は何でも計画するのが得意ですが、彼女にとって予期せぬ変更があった場合に、計画の調整を図るのは得意ではありません。時にはそうすることが、彼女を不安にさせることもあります。しかし、変化を阻止できるものは、この世の中にほとんど存在しません。中には自力で

揺るぎない信頼

変化を止められるような状況もあるかもしれませんが、神様の計画から生まれる良い結果を阻止してしまっている可能性も十分にあるのです！今いる場所から次の目標を目指して進むのであれば、変化を避けて通るのは不可能です。いつもと同じ作業を繰り返しながら、いつもと違う結果を望むことはできません。しかし世の中には、自分の期待以上の結果を望みながらも、変化を堅く拒み続けるような人たちもいるのです。

生きている限り、変化は絶えず起こり続けます。

それを拒むということは、自分に向かって吹く風を止めようとするのと同じです。

変化に対する考え方を変える

もしあなたが変化を好まないのであれば、その理由を自分自身に聞いてみてください。もしかすると、自分でもその理由を上手く理解できていないかもしれません。しかし、シンプルにそんな自分の考え方を変えることができれば、変化に対して今までとは全く違う、新しい視野が開かれるかもしれません。

ここで、変化に対する苦手意識を生み出す考え方をいくつか挙げてみましょう。これらの考え方は、惨めさ以外の何も生み出しません。

- 変わることが大嫌い。
- 何かが変わってしまうのが怖い。
- 変化は好まない。
- 自分の人生の舵取りは自分でしたい。
- 現状に満足しているから、逆に変わらないでほしいと思っている。

次に、変化に対する前向きな考え方を見ていきましょう。これらの考え方を持つことで、私たちは喜びの姿勢を持って変化を楽しめるようになります。

第18章 - 変化の時にも神様を信頼する

- ・変わることが好き。
- ・変化を迎えることで、人生は今よりもどんどん良くなっていくと信じている。
- ・この変化の先にある成果を見るのが楽しみ。
- ・私は最大限の自分になりたい。変わることは、そのプロセスの一部。
- ・私は神様の計画に沿って進みたい。そのためには、変化を必要とする場合もある。

神様のことばと思いに沿った考え方を選択することで、私たちは自分の考え方を新しくすることができます。聖書には、「神様だけが唯一変わらない存在であり、それ以外のものは全て移り変わるものである」と明確に記されています。(マラキ3:6、ヘブル2:27より)

何かが変わるからといって、それ以前にあったものが必ずしも間違っていたとは限りません。むしろ、今よりもさらに良いものが訪れるのだと解釈して良いのです!最近、私たちのオフィスで突然の辞任を申し出た人がいました。たった2週間の猶予しかないギリギリの通告だったので、彼の代わりとなる人は誰もいませんでした。彼は重要な役職についていたため、後任者は簡単には見つからなかったのです。私はストレスを感じましたが、それでも神様を信頼し続け、この変化を通して今までよりも優れた結果が与えられることを信じ続けました。

結果的に、私たちは彼の後任者を探す必要はありませんでした。なぜなら、彼と同じチームの男性2人が立ち上がり、「僕たちならこれまでより少ない人数でも、今までと同じ仕事量をこなしながらもっと多くの責任を担っていけるはずですよ」と言ってくれたからです。結果はとても良好で、この変化を私たちは大変喜びました。最初は予期せぬ変化を拒み、喜ぶことができませんでしたが、結果としてその変化こそが、期待以上の祝福を私たちにもたらしてくれたのです。

全てのことには時があります。ふさわしいシーズンが訪れると、全ては美しくなるのです。(ダニエル2:21、伝道者の書3:1、11より)聖書を見ると、地球が回り

揺るぎない信頼

続ける限り、季節は巡ることが分かります。(創世記8:22より) 冬が終わると春を迎え、春が終わると夏を迎え、夏が終わると秋を迎え、秋が終わると冬を迎えます。気温や風速、湿度も日々変化します。このように気候に関しては、変化を当たり前のこととして受け入れることができるのですから、それと同じように人生の様々なエリアにおいても、変化をごく自然なものとして受け入れるべきではないでしょうか。私たち自身も歳を重ねる度に、様々な形で変化していきます。周囲の人々も変化します。彼らの責任や関わり方も変化します。その中で、相手との人間関係にも変化が必要となることがあるのです。

子どもたちが成長し、やがて自立すると、親子の関係にも変化が訪れます。しかし、それは関係が浅くなるという意味ではありません。ただ変化するというだけで、これまで以上の関係を築くことも可能なのです。

先日、娘が私の家に届け物をしてくれた時、少し彼女と話がしたかったので、着いてから数分で立ち去ろうとする彼女を呼び止め、「なぜそんなに急いでいるの？少しゆっくりしていったらどう？」と言いました。すると彼女は、「お母さん、家で家族が待っているから急がなければならないのよ」と答えたのです。それを聞いて傷つきそうになった私は、神様の助けをすぐに求めました。その瞬間、彼女には私を訪ねる以外にもすることがたくさんあるのだから、今ここで私が傷ついて彼女を困らせるのは不公平だと気付くことができたのです。私の願いは、母親である私からのプレッシャーを感じることなく、彼女が自由に生きることです。彼女は私と多くの時間を過ごし、私のために色々なことをしてくれています。それなのに、彼女が家族の用事で忙しい時に、私がプレッシャーをかけるのはとても自己中心的なことであり、これまでの良好な関係に傷をつける可能性のある行動です。親として私たちは子どもたちの成長を受け入れ、彼ら自身の決断を尊重すべきです。たとえ彼らの選択の全てを好むことができなくても、決断する権利は子どもたちにあるのですから、私たちはそれを尊重すべきなのです。

一旦子どもが自立して家を出ると、とても哀れな状態になってしまう親が大

第18章 - 変化の時にも神様を信頼する

勢います。そのような傾向は、特に「母親」に多く見られます。母親は常に子どもに愛情を注ぎながら、自分の人生を費やしてきました。何もかも注ぎ込んでしまったあまり、子どもが親元を去って新しいことを始めると、独り取り残された母親はこれから先の新たな生き方を模索し始めるのです。そのような母親によく見られるのが、子どもに対して「自分と時間を過ごしてほしい」というプレッシャーをかけ、子どもとの関係にダメージを与えてしまうことです。また、子どもに「自分は母親の思い通りに動かされている」という感情を与えてしまい、子どもにとって母親と過ごす時間が、結果的に喜びではなく義務になってしまうことです。それよりも母親は子どもを手放し、お母さんと子どもというよりかは、友人同士に近い新しい関係を築く選択をする方が優れています。親子の変化を受け入れて新しい考え方を身につけるうちに、「1つの扉が閉ざされたら、必ず次の扉が開かれる」という神様の原則に気付くはずです。その扉は前の扉と同じように、ふさわしい時に開かれる美しい扉なのです。

最近、知人の女性がこう話していました。「『この子は私を傷つけないだろう』と思っていた方の子は私を傷つけたことがあるけど、『この子にはいつか傷つけられるかも』と思っていた方の子には、未だに傷つけられたことがないの！」人は予想通りには行動しないものです。もしも自分の期待とは違うことが起きたら、それは神様を信頼する絶好のチャンスです。時には、周囲の人々の変化を受け入れるのが難しいこともあるでしょう。しかし、そのような時にも前向きな態度で神様を信頼し続けていれば、結果的には全てのことが益となるのです。神様を信頼することこそが、まさに人生の答えです。様々な変化を迎える時にも神様を信頼していれば、神様の中で安心して心を休めることができるのです。

神様は過去に起きたことも今起こっていることも、これから起きることも全て知っているため、不安になったり、待ちきれずにソワソワしたりすることはありません。私たちが不安になったり、待ちきれずにソワソワしたりするのは、知りたくても分からないことがたくさんあるからです。特に変化の中では、ますます心が騒めくのを感じます。もちろん、これから何が起きて、変化の先にはどんな将来が待っているのかを神様はすでに知っています。神様がそれを私たちに見せることも可能

揺るぎない信頼

ですが、神様がそうしないのは、私たちが神様を信頼することを望んでいるからです。神様を信頼することは、私たちに与えられた大きな特権です！人生で予期せぬ変化や、やがて来ると分かっていた変化が訪れると、私たちは神様にしか答えの分からない疑問を抱えることがよくあります。「もちろんできることなら、人生の全体像を今見たい」と私たちは望みますが、もし未来に起きることの全てを今知ってしまったら、毎日を生きることが退屈になるか、以前よりも将来を恐れるようになるのではないかと私は思うようになりました。

神様は良い神様ですから、物事が起こる前に私たちがそれを把握すべき場合には、神様がそのように計画してくれるはずです。もし神様がそのように計画していないのであれば、私たちは安心して、神様からのサプライズを待ち続ければ良いのです。神様を信頼するということは、神様のやり方を信頼するということです。ただ単に「自分の」求めるものが与えられると信じるのではなく、「神様の」ベストが与えられることを信じるべきです。そこには神様のタイミングと、そこへ辿り着くまでの方法や道のりも含まれるのです。

もし、あなたが変化に対して苦手意識を持っているのであれば、変化についての考え方を根本から変えてみることをお勧めします。そうすることで、あなたの人生にポジティブなものが、より溢れるようになるかもしれません。

小川が枯れ果てても

自分では現状に満足しているように感じて、もし神様が今こそ変化の時であると決めたら、あなたはどうしますか？しかも、神様が次に示す場所が、今いる場所よりも優れているように思えなかったらどうでしょう？それが、まさに預言者エリヤに起こったことでした。しかし、彼がその変化を好まなかったり不満をこぼしたりしたという記述は、聖書のどこにも見つかりません。

エリヤは深刻な干ばつの時代を生きていましたが、神様によって奇跡的に守

第18章 - 変化の時にも神様を信頼する

られていました。水の流れる小川のほとりで生活していて、必要な食べ物はカラスがその日ごとに届けてくれました。しかしある日、とうとう小川が枯れ果ててしまったのです。(1列王記17:7より)すると神様は、別の町へ移動し、そこに住む未亡人に世話をしてもらおうようエリヤに告げました。エリヤが到着するとちょうどその時、彼女は最後の食事の支度をしている最中でした。それを食べ終えたら、息子と二人で死のうと考えていたのです。それはどう考えても、幸せな生活の様子ではありません。そのような状況を目の前にして、心を躍らせる人などいません。しかし、先ほども言ったように、それでもエリヤは不満をこぼしたりしませんでした。彼は未亡人の女性に、「まず自分のために食事の支度をしてくれれば、干ばつの間にも彼女の食料が尽きることはない」と伝えました。彼女はエリヤに従い、彼のために食事を用意すると、その後は決して食料に困ることがありませんでした。(1列王記17:8-16より)

エリヤの人生に起きたこの変化は、必ずしも彼にとって益となるものではありませんでしたが、未亡人の女性にとっては益となるものとなりました。私の人生に変化が起こったように、神様はあなたの人生にも変化を起こして、他の人を助けようとする時が来るはずです。それが私たちの助けになっているようには思えなかったり、それによって自分の歩みが一、二歩後戻りしてしまったかのように感じるかもしれません。しかし、神様は私たちを「誰かの人生に変化をもたらす仲介者」として用いるのです。その役目を果たし終えた時、神様が私たちを今までよりも優れた場所へと前進させてくれることを、私たちは信頼することができるのです。

きっとイエスも、十字架で私たちの罪のために苦しみながら死んだ時よりも、地上に来る前に天国でお父さんと過ごした時を好んだはずです。それでもなお、イエスは私たちのために思い、十字架の死というミッションを喜んで受け入れました。私たちも神様に用いられたいのであれば、自分には関心のないような変化も時には受け入れる必要があるかもしれません。

あなたの小川が枯れ果てるようなことがあっても、心配し過ぎないでください

揺るぎない信頼

い。神様には新しい計画があります。例えば、突然会社から解雇されて職を失ってしまったら、これからどんな変化が待ち受けているのかを考えて、恐れを抱く人もいるかもしれませんが。それは人としてごく自然な反応です。しかし、変化の中でも神様を信頼し続けることは、変化を原動力にして、そこに留まらずに前進するための鍵となってくれるのです。

どんな状況においても変わらずに神様を信頼することこそが、平安と喜び、そして勝利に満ち溢れた人生を歩むための主要材料なのです。

嵐が過ぎ去るのをじっと待つ

30年以上も前に、私は神様の導きに従うため、当時仕えていた地域教会での役職を離れました。その教会でも素晴らしい伝道の機会に恵まれていましたが、それとは違う環境に出ることで、さらに多くの伝道の機会を得られるのではないかと感じたのです。その決断に踏み切った当初は、新しい活動を立ち上げた時よりも、以前の役職に就いていた時の方がより多くの結果を残せていたのではないかと感じることもありました。実を言うと、自分が前進するどころか後退しているかのように感じたのです。

最終的に状況が変わり始め、「自分の決断は間違っていなかった」と実感できるようになるまでには、想像以上に長い時間がかかりました。もし、今あなたが変化の中を歩みながら、思い描いた成果が出せない状況にいたら、今はその期間を耐え忍び、神様の導くことに向かって忠実であり続けてください。ブレイクスルーを目前にして諦めてしまうのはとても残念なことです。こう考えてみてください。嵐が来たら、私たちは屋内の安全な場所に留まり、計画を再開できるまで嵐が去るのを待ち続けるものです。

人生に訪れる変化は、嵐の訪れと少し似ています。それは予想外のタイミングで突然やってきて、計画実行の妨げとなることもあります。天気予報には表示さ

第18章 - 変化の時にも神様を信頼する

れない嵐だってあるのです!変化の中で決断を迫られる時には、燃え上がる感情が一旦落ち着くまで待つ必要があります。感情の浮き沈みが激しい時には、いかなる決断もすべきではないと私は考えています。変化に順応し、落ち着いて考えながら、神様の声を聞くための時間は必要です。変化の中で大きな決断を迫られる時には、ひとまず時間を置くことを強くお勧めします。新しい環境や役割、人間関係に慣れるためには時間をかけても良いのです。時間を置く間にも、前向きでポジティブな考え方を意識しましょう。そして良いことが必ず起きると期待して、良い態度を保ち続けましょう!

*変化の中で大きな決断を迫られる時には、
ひとまず時間を置くことを強くお勧めします。*

新たな変化の一つ一つも、時間が経てば、あるべき形に収まります。以前、ミニストーリーの主要なリーダーたちが、ある変更を提案してきたことがあります。それを聞いた私はあまり乗り気ではありませんでしたが、リーダーたちの意見を尊重しなかったため、彼らの提案を受け入れることにしました。しかし、それからしばらく経っても、私はまだ前向きな気分になれずにいました。神様に喜ばれないネガティブで批判的な感情を、自分の心から締め出さなければならない時もありました。最終的には数ヶ月間かかりましたが、新たな変化に順応できるようになったのです。自分の感情を重視して、「やっぱり気に入らないから今までのやり方に戻そう」と提案することもできれば、私にはそれをする権限もありました。しかし、それが正しい選択ではないことを心の奥底で知っていたので、私はしばらく時間を置くことにしたのです!その後、私の中の嵐は過ぎ去り、再び平安が戻ってきました。最終的に私は、あの時の変更が良い結果をもたらし、同僚たちの提案を受け入れて良かったと思えるようになりました。

職場における新たな変更などのように、自分の力ではどうすることもできない変化に苦手意識を抱いてはいませんか?職場に限らず、異なる環境や人間関係においてはどうでしょうか?たとえ苦手を感じても、その変化をプラスに捉えること

揺るぎない信頼

で、以前よりも環境が良くなっていることに気付けるかもしれません。

最近、私は今までで一番短い髪型にチャレンジしました。すぐには気に入りませんでしたでしたが、今ではこの髪型が大好きです。より若々しくなったように感じますし、何といてもお手入れが簡単なのです！また、夫のデイヴは40年間ずっと口髭を伸ばしてきましたが、ある日、彼は口髭を剃ってシャワー室から出てきたのです。私には、彼の顔から上唇がなくなってしまったかのように見えて、慣れるまでに時間がかかりました。しかし、今ではそのスタイルを気に入っています。見た目も若返ったので、これからはもう口髭を伸ばさないでほしいと感じています。これらの経験から私が言いたいのは、新しい変化に慣れるためには多少の時間を置く必要があるということです。そうすることで私たちは変化に順応し、多くの場合はそれを好めるようになるのです。

第19章

自分を変えたい

誰もが世界を変えようとするが、自分自身を変えようとする者はいない。

レフ・トルストイ

人生の中には、誰も変えたいと望むものがあります。それを神様が変えてくれたら、どんなに幸せなことでしょう。しかし、もしその変わるべきものが「自分自身」であつたらどうしますか？

「周りの環境や人々が変わってくれたら幸せになれるのに。」そんな思いばかりを巡らして、私は多くの年月を無駄にしてきました。私は周囲の環境や人々を変えようとして、神様に祈り求めていました。しかし、神様が変えたかったのは、他でもない私自身だったのです。それに気付くまでは「自分」が変わるべきだなんて、思いもしませんでした。しかし、その態度こそが、不幸せで満たされない日々を生み出す原因となっていたのです。最終的に、正直になって自分自身をよく見つめ直した時、そもそも自分が自分に満足しない限り、誰も私を満足させることなどできないことに気付きました。当時、私は自分のことをあまり好きではなかったのですが、心に抱えた空虚感の理由を周囲の人々や状況のせいにして、的外れな解釈をしていたのです。

サタンは、私たちが他の人の短所に目を向けるように仕向けてきます。他の人のことばかりを批判して、私たち自身の変わるべき点に気付かせないためです。人を批判することで、私たちは自分の欠点に対して盲目になります。しかし、やがて地上での生涯を終えて神様の前に立つ時、私は自分自身の行いだけに関する申し開きをするのです。そのことに気付けたことに、私は感謝しています。(ローマ14:12

揺るぎない信頼

より) 神様が私に聞くのは、周囲の人たちに関するのではなく、私に関することのみです。すなわち、私は「周りの人や状況を変えてください」と神様に願うのではなく、神様が私の内側でしたいと願う働きに集中すべきなのです。

神様が良く思わないような自分の振る舞いや態度について、神様が私たちを取り扱う時、よく分からないかもしれません。聖書では、このプロセスを「指摘」と呼んでいます。これは、聖霊の働きによるものです。最初は単純に「何かが間違っている」と感じるのですが、それが何なのかが分からない時もあります。そんな時は、その原因を自分で突き止めようとするのではなく、神様に信頼することを強くお勧めします!自分の知性に頼れば頼るほど、神様が私たちに示したいと思っているものを見分けることは難しくなり、本当の意味で理解しづらくなってしまいます。

例えば、私がデイヴと口論しているとしましょう。心のどこかで自分の振る舞いに対する不快感があっても、それが自分の誤りを知らせようとする聖霊のサインであることに気付くことができません。なぜなら、私は「自分が正しくて、デイヴが間違っている」と信じ込んでいるからです。

心のモヤモヤの理由に早く気付けるようになるまで、私たちは聖霊の働きに抵抗してしまうかもしれません。しかも、自分がしてしまっていることに気付かないのです。しかし、それでも神様が真理を示してくれることを信頼していれば、私たちは学び、やがて真理によって自由にされます。そのためにも、人生のあらゆるエリアにおいて盲目になることなく、神様によってますますイエス・キリストのように変えられるために、私たちはいつも祈り求めるべきです。(ローマ8:29-30より)

自分は変わることを望んでいる?

私は運命を信じています。しかしそれは、完全に神様に決められた、私たちに何の関連もない自動的な結末ではないと私は思います。神様は私たち一人一人に役割を与えてくれています。しかし、実際に神様に用いられて、その役割を果たす

第19章 - 自分を変えたい

ためには、まず自分自身が変わらなければならないのです。自分が神様のことばを教える使命へと呼ばれていることを知った時、私はとても興奮しました。しかし当時の私は、神様が私を通して働くために、まず自分が内側から変えられる必要があるということに気付いていませんでした。

神様は、私たち一人一人のために良い計画を用意してくれています。時に、私たちはその計画から脱線し、別の方向へ進んでしまうことがあります。しかし、感謝すべきことに、神様の助けによって私たちはいつでも軌道修正することができるのです。神様の導きに従う中で、自分の失敗が祝福へと変えられるのを体験することもできます。聖書に登場するヤコブとパウロにも、間違った方向へ進みそうになる経験がありました。数々の深刻な失敗を重ねましたが、彼らは神様によって変えられ、素晴らしい人生を歩むことができたのです。

ヤコブは人を騙し、詐欺を働いた策士でしたが、やがて神様の素晴らしい人となりました。(創世記32:22-28より)また、パウロは元々クリスチャンを迫害していましたが、やがて偉大な使徒になりました。(使徒7:58、8:1-3、9:1、4、17、22より)彼らの人生からも分かるように、自分が変わることで、自分の運命を実現させるのに遅すぎることなどないのです。

*自分が変わることで、
自分の運命を実現させるのに遅すぎることなどないのです。*

多くの場合において、自分の置かれた状況で変化を体験するためには、まず自分自身が変わる決断をする必要があります。ヤコブとパウロも状況の変化を体験する以前に、まずは自分自身が変わるべきであることに気付き、それと向き合いました。もしあなたが今、自分の現状に納得していないのであれば、神様が周りの状況を変えてくれることを願う前に、まず自分の変わるべき部分を変えてもらうように祈ってみてください。神様の望む姿へと変えられていけば、やがて私たちは神様に用いられるようになり、神様が用意してくれている祝福を手にすることができます。

揺るぎない信頼

私たちがキリストのように造り変えられるプロセスは、長く苦しい道のりかもしれませんが。しかし、神様が内側で働く時、私たちが聖霊と共に歩む選択をすれば、よりスムーズな道のりとなるはずです。

時には、「変わらなければならないのは自分だけなのかもしれない」と感じることもあるでしょう。特に私は、神様が変わようとしているのは自分だけであるように感じた時、それをどう受け止めるべきか分からずとても戸惑いました。ある日、そのことについて神様に不満をこぼしていると、私の心にささやく声が聞こえました。「ジョイス、君はわたしに多くのことを祈り求めただろう。あなたは本当にそれを手に入れたいのか？」神様は、全ての人の人生を取り扱おうとしてくれています。しかし、必ずしも全ての人が神様に耳を傾け、神様が起こそうとしている変化を受け入れるわけではありません。神様が他人の人生にどう働いているのかを気にするのはやめて、自分の人生にどう働こうとしているのかを受け入れることを、私はあなたに力強く励ましたいです。

もし神様が今あなたの人生に働いている最中だとしたら、あなたはこれまでとは違う自分を感じながらも、現状でまだ明確な変化が見えておらず、もどかしさを感じているかもしれません！もう後戻りはできないし、神様の助けなしに前進することもできません。それなのに、肝心の神様は居眠りでもしているかのようです。しかし、今は諦める時ではありません。ただ神様を信頼し続けてください！神様を信頼するということは、一度きりや、たった5秒間で済むようなものではありません。来る日も来る日も続く旅路なのです。神様は、私たちが少しずつ変えていきます。長い時間をかけて辿り着いた先で、これまでを振り返る時、今の自分が以前とはまったく違う人間であることに気付くまで、私たちは変化が起きていることを把握することはできないものです。私はよくこのように言っています。「私はまだ目的地まで辿り着いていないけれど、昔の自分と比べたら、今の自分のはるかに前進しているわ。神様、ありがとう！」

過去に父親から虐待された私は、深刻な性格障害を抱えていました。そんな

第19章 - 自分を変えたい

自分の問題を認め、変わりたいと願うようになってからも、実際に変化を体験するまでには長い時間がかかりました。今はなかなか前進していないように感じて、どうか落ち込まないでください。ただ神様の働きを信じ、少しずつ変えられていく自分を楽しむのです。覚えていてください。惨めな気分を選んでも、変化が早く起こるわけではないのです！

霊的な成長を遂げるプロセスにおいて、たとえ神様のタイミングや方法が自分の選択とは異なっていたとしても、私たちは神様の方法を信頼する必要があります。やがて数年後に自分の人生を振り返る時が来たら、「神様の方法こそが完璧であった」と実感できるはずですよ！

イエスのように変えられていくことほど最高な変化はありません。そのプロセスは、人生のあらゆるシーズンをまたいで続きますが、それぞれのシーズンはその時々であって美しいのです。神様は私たち一人一人のために、特別なプログラムを用意しています。ですから、人生の旅路を歩む上でそれぞれのシーズン、神様の存在、そしてあなた自身を存分に楽しんでください！

キリストのように変えられていくことほど最高な変化はありません。

今までとは違うやり方を学ぶ

神様が数年間に渡って、私の人生に成し遂げてくれた素晴らしい変化の一つ一つに思いを巡らした時、その変化を達成するためには、以前とは違う新しいやり方や、これまでとは違う物事の捉え方を学ぶ必要があったということに私は気付きました。

例えば、以前の私はとても自己中心的でしたが、それがいかに深刻で、多くの問題の引き金となっているのかに気付いてからは、心から変わりたいと願うようになりました。しかし、「我の強さ」が衰えるのには時間がかかり、加えて多少の痛みを

揺るぎない信頼

伴います。自分の自己中心的な一面に向き合えるまでには、長い時間がかかりました。物事が思い通りに進まなくても、気分を害さずに良い態度を保てるようになるまでには、もっと長い時間がかかりました。その過程の中で神様を信頼することを学ぶうちに、だんだんと良い態度を身につけられるようになりました。しかし、それはたった一晩で実現したわけではありませんでした！

また、平安を楽しむためには、周りがいつも自分に合わせてくれることを期待するのではなく、周囲の人々や物事に自分自身を適応させる必要があることも学びました。(ローマ12:16より)私の場合、全てを自分の思い通りに進めることよりも心に平安を保つことの方が、よっぽど幸せで価値のあることだと気付けるまで、実に数年かかりました。平安とは、人間が手に入れることのできる最も貴重なものの一つです。私たちは皆、平安を保つことの価値の高さを認識すべきです。あなたは、平安を保つためであればどんな変化も起こしていけるという心構えができていますか？

また、自分の正当性を主張することは、自分を過大評価しているということにも気付きました。誰かと意見が食い違う時、ただ自分の正当性を主張するために平安を手放しても、それは全く価値のないことです。私たちは、神様が必要に応じて自分の正当性を証明してくれることを信頼することができます。たとえそれが証明されなくても、私たちは満ち足りた態度を選択することができるのです。

学びのプロセスに終わりはありません。私たちはあらゆる分野において、生涯をかけて学び続けます。それは、神様のやり方に従うことに関しても同じです。私も、神様との関係を築くことを日々学んでいます。きっとあなたも、私と同じように日々学んでいるのではないのでしょうか。

変えられていくプロセス

自分が変えられることを望み、聖霊の働きを受け入れる決心ができれば、次

第19章 - 自分を変えたい

のことを学ぶ必要があります。それは、「自分を変えるのは自分ではない」ということ、そして、本当に変わるためには「神様の働きを信頼する必要がある」ということです。自分で自分を変えようとして失敗することで、私たちの多くは葛藤し、イライラを募らせて、最終的に希望を失います。小さな前進はありますが、またすぐに昔の習慣へ戻ってしまうのです。もっと努力しようと意気込み、変わるための新たな作戦や計画を練るのですが、結局は失望に終わるサイクルを繰り返してしまうのです。

自分自身も変わることを望み、そのために努力しているのに、変わることができないのはなぜでしょうか？自分のしたくないことをシンプルにやめることができないのは、なぜでしょうか？例えば、物事をよく考えずに発言してしまう私の癖が原因で、人間関係にダメージを与えていることに気付いたら、私はその癖を改めて「変わりたい」と望むでしょう。それでも変われないのはなぜでしょうか？答えは簡単です。それは、神様の存在なしでは不可能なことだからです。私たちが全てにおいて神様に頼り、助けを求めることを神様は望んでいます。私たちを本当に変えることができるのは、唯一神様だけです。なぜなら、それは神様にしかできない内なる働きであるからです。

静かに口を閉ざし、間違った発言で周囲との衝突を起こさないように頑張っ
て努力をすれば、しばらくの間は平穏な状態が続くかもしれませんが、ふとした瞬間にまた問題が顔を出すはず。しかし、人とのコミュニケーションにおいても、神様が助けてくれることを信頼していれば、少しずつ自分の中で神様が変化を起こすのを体験するはず。そして、いつの日かその問題は消え去り、神様の素晴らしい働きに感謝せずにはいられなくなるはず。イエスの中に留まる選択をする人だけが、本当の変化を体験できるのです！神様の計画は、このことばにある通りだからです。「人がわたしのうちに生き、わたしもその人のうちに生きているなら、その人は多くの実を結びます。わたしを離れては何もできません。(ヨハネ15:5 JCB)」

何でも自力でやり遂げて、自分に誇りを持ちたいというのが人間の性質です。

揺るぎない信頼

しかし神様は、私たちが全てにおいて神様を信頼し、神様の働きに感謝することを望んでいるのです。

あなたは自分自身と格闘していませんか？自分の好きになれない部分や、神様に喜ばれないと分かっている生き方を変えようと、自力で奮闘してはいませんか？不安な気持ちを隠そうと努力したり、怒りを感じている相手を赦そうと頑張っ
てはいませんか？それ以外にも、様々な自分との格闘があるかもしれません。しかし、私たちが一つ学ぶべきことは、どんなに努力をしても、神様の助けなしでは自分を変えることはできないということです。

ありがたいことに私たちには、神様が自分の内側に働いてくれることを祈り求め、神様が自分を変えてくれると確信を持つことのできる特権が与えられています。私たちは神様から離れた状態ではなく、神様に拠り頼んだ状態で努力すべきなのです。簡単なことのように聞こえるかもしれませんが、人間には強い自立心があるため、実はとても難しいことなのです。しかし、もし本当の成功を手に入れたいのであれば、何もかも自分でしたいという思いを手放し、イエスに拠り頼むことを選択する必要があります。イエスに拠り頼み、信頼することを身につけていきましょう！

*もし本当の成功を手に入れたいのであれば、
何もかも自分でしたいという思いを手放し、
イエスに拠り頼むことを選択する必要があります。*

ローマ7:15-25において、使徒パウロは、神様だけが彼を解放できる存在であり、その解放はキリストを通して与えられるということを学ぶまで、彼自身も努力しては失敗を繰り返したと語っています。正しいことをしようと努力しては失敗し続けて、自分自身と格闘した後、パウロは次のように言いました。

ああ、私はなんとみじめで哀れな人間だろう。いったいだれが、この奴隷状態

第19章 - 自分を変えたい

から解放してくれるのだろうか。でも神に感謝している! [神様には私を解放することができる! 油注がれた] 王なるイエス・救世主(キリスト)によって、私は解放された。

ローマ7:24-25a (ALIVE訳より一部強調)

これらの節における彼の話し口調や語気からも分かるように、パウロはこの時、「やっと正しい答えを見つけ出すことができた」という感情を露わにしています。彼に必要なだった変化を可能にしたのは、神様だけでした。それと同じように、私たちのうちに必要な変化を起こすことができるのも、唯一神様だけなのです!

求めれば与えられる

もしあなたが変わりたいと望むのであれば、それを見て神様は喜んでます! 次のステップは、神様が自分の中で変化を起こし、変わるために必要な強さを与えてくれることを信頼することです。変えられていくプロセスの中でも、私たちはつい神様の存在を無視して、自力で何とかしようとする傾向があります。しかし、そのようなやり方では上手くいきません! 使徒パウロですら成功しなかったのですから、私たちにも無理であることは明らかです。結局のところ、自力で奮闘するのではなく、神様の働きを信頼しなければ、私たちは変わることができないのです。

ヤコブ4:6には、神様が「[罪に対抗し、信仰と救いへの感謝を反映する従順な人生を歩ませてくれる聖霊の力を通して] 私たちにより多くの恵みを与えてくれる (AMPC訳より直訳)」と記されています。恵みは神様の思いやりであり、あらゆることを可能にする力です。恵みが常に注がれている状態でなければ、私たちはイライラを募らせ、疲れ果ててしまうだけなのです。

この真理と出会った時、私はとても深い喜びに包まれました。その頃の私は、神様が望むような自分になろうと努力しては失敗ばかりして、どうすれば良いか分からずに落ち込んでいました。そんな努力と失敗の繰り返しは、まるで永遠のように続いたのです。一旦は諦めようと思っても、また再び立ち上がって努力し、そして

揺るぎない信頼

また失敗するのです。しかしある時、自分に足りないのは神様の恵みであることによく気づき、それからは神様が自分を変えてくれると信頼し始め、少しずつ勝利を体験していきました。

ある賛美歌には、このような歌詞があります。「驚くほどの恵み!何て素晴らしい響きだろう!」それを受け取るためには、まず神様に求める必要があります。ヤコブ4:2にはこうあります。「欲しいものが手に入らないのは、“神に”求めないからだ。(ALIVE訳)」とてもシンプルですよ!神様に求めるのです!求めれば、私たちは受け取り、「喜びに満ちあふれる」ことができるのです。(ヨハネ16:24より)私が自力で変わろうと奮闘していた頃、努力はしても、神様に求めることはしていませんでした。私は神様に信頼していませんでした。ほとんどの場合、私たちの失敗は神様への信頼が欠けていることが原因です。自力で努力するのではなく、代わりに神様をもっと信頼すれば、その先に待っている素晴らしい結果にきっと驚くことでしょう!

自分の役割は何?

しっかりと神様のことばと向き合うことで、私たちはますますイエスのように変えられ、栄光を映し出す者となると聖書は教えています。(2コリント3:18より)私たちの役割は、神様のことばである聖書を学び、それが私たちを変えてくれると信頼することです。神様のことばを薬のように心に服用して、その効果に信頼しましょう。「神様のことばには、私たちの魂を救う力がある」とヤコブは言いました。(ヤコブ1:21より)

神様のことばを信頼するのは、神様に信頼することと同じです!聖書を読むことを、宗教的な毎日の義務ではなく、本当に価値あるものとして捉え、そこには力が満ち溢れていることを理解しましょう。それを毎日の食事と同じように受け取るのです。神様のことばは、私たちの霊を強める食料だからです。そして、神様によって、自分の内側に必要な働きが行われることを信頼しましょう。処方された薬を服用して

第19章 - 自分を変えたい

心身の回復を待つと同じように、神様のことばに含まれる薬(癒しの力)が魂を癒してくれることを私たちは信じることができます。

また、聖書で読んだ内容を祈りへと変えることもお勧めします。例えば、他の人を愛することの大切さについて読んだのであれば、ただ読むだけで終わりにせず、自分が人々を愛せるように神様に祈るのです。自分に敵対する人を赦すことの大切さについて読んだのであれば、それを実際に祈りに変えて、自分がすぐに相手を赦し、恵み深くなれるように神様に求めましょう。そうすることで、私たちは単に神様のことばを読むだけでなく、それが私たちの人生で実現することを神様に求めているのです。

このことをいつも覚えておいてください。私たちにできる最も力強いことは、神様に寄りかかり、拠り頼み、自分を委ねて、神様に信頼を置くことなのです！

第20章

人々を変えるのは神様であると信頼する

「自分が相手に望む姿」ではなく、「ありのままの相手」に価値を見出そう。

ジョン・マクスウェル

人間は相手の欠点を見つけるのが得意です。しかしそれは、なんと悲しい事実でしょうか！人は誰も欠点を持っています。しかし、他の人々が変わることを求めていると、次第には自分の変わるべき点に対して盲目になってしまうのです。

神様だけが、人々を本当に変えることのできる唯一の存在です。なぜなら変化とは、内側から外側へと変えられることだからです。外側の振る舞いや行動が変えられるためには、まず心を変えられる必要があります。そして、私たちに新しい心を与えることができるのは、唯一神様だけなのです。エゼキエル36:26で、神様はこう言いました。「わたしはあなたがたに新しい心を与える。それで、あなたがたは正しい願いを抱くようになる。また、あなたがたに新しい霊を授ける。それで、石のように堅い罪の心を取り除かれて、愛に満ちた新しい心が生じる。(JCB)」つまり、神様は私たちの内側に、神様の心と霊を置くと言っているのです。私たちの石のように頑なな心を取り除いて、神様の思いや働きを繊細に反応する新しい心を与えてくれるのです。この変化を経ることなく、人々がお互いを心から愛し、平和な関係を築くのは難しいことです。

あなたの周りにも、「この人が変わってくれたら良いのにな」と感じるような人がいるかもしれません。それはもしかすると夫や妻、娘や息子、親、親戚、友人、同僚かもしれません。しかし、その人自身が望まない限り、人が変わることはありません。ですから、最初の一步は、その人が自分の振る舞い方と向き合い、変わりたいと

揺るぎない信頼

望むように、神様が導くことを祈り求めることなのです。その後にはできる唯一のことは、自分が良い模範となり、その人の欠点や問題ばかりではなく、良い部分に目を向ける習慣を身につけることです。

謙虚な態度で祈る

人々が変えられることを祈り求めるのであれば、私たちは謙虚な姿勢で祈る必要があります。そうでないと、自分たちも周りの人と同じ罠に掛かってしまう可能性があるからです。1コリント10:12には、こうあります。「ですから、よく注意しなさい。『私は、そんなことは絶対にしないから大丈夫〔誘惑に負けることもない〕』などと思っている人がいれば、そういう人〔自信過剰で自分だけは正しいと思っている人〕こそ注意しなければなりません。同じ罪を犯すかもしれないからです。(JCBより一部強調)」ですから、私はこう祈るようにしています。

「天のお父さん。もし本当に必要であれば、あなたが〇〇さんを変えてください。しかし、もし〇〇さんが変わる必要はないとあなたが考えるのであれば、どうか私の心を変えてください。そして、〇〇さんが変わるべきだと考えてしまう私の誤りに気付かせてください。そして、私に変わるべき点があれば、変わることができるように助けてください。アーメン!」

聖書の教えと照らし合わせて、相手の行動が罪であると認識できる場合もあれば、明確な理由もなく単純に相手を好きになれない場合もあります。その人が自分とは違う性格だったり、異なる意見を持っていたりすると、相手の誤りや欠点にばかり目が向いてしまうものです。しかし、そこに留まるよりも、自分の視野をさらに広げて、全ての人には価値があることに気付くことの方が賢い選択と言えます。

私たちの人生における大きな葛藤の一つは、ほとんどの場合、人間関係や他人の気に入らない点に関するものです!自分のために相手が変わってくれることを私たちは願いますが、そのような態度がいかに自己中心的であるかについては考

第20章 - 人々を変えるのは神様であると信頼する

えることはほとんどありません。少なくとも、私は考えることがありませんでした。私たちはプライドのゆえに「自分の意見や行動こそが正しい」と考えます。「世の中の人々は自分に合わせるべきだ」とも思うのです。そのような態度こそが、まさに離婚や家庭崩壊などのような、あらゆる人間関係の危機を生み出しているのです。

謙虚な態度を身につけるための最初の一步は、私たちが批判する相手以上に、おそらく自分たちにはもっと多くの誤りや欠点があるということに気付くことです。しかしながら、私たちは相手の非にばかり気を取られてしまい、なかなか自分の欠点を自覚できないのです。自分のことに関しては都合の良い理由を並べて言い逃れる反面、他の人のことになると、自分を棚に上げて厳しい意見を並べるのです。

神様の導きの中で、私が初めて「本当の私」と対面した時、大きなショックを受けたのを覚えています!いつものように夫のデイヴが変わることを求めて祈っていると、私の祈りを遮るように神様の声が聞こえてきました。想像できますか?祈りに集中しようとする私を、神様が遮ろうとしてきたのです!今こうして当時を振り返ると、自分のしていたことの愚かさに気付き、恥ずかしい気持ちでいっぱいになりますが、その頃の私は自分のしていることの意味を全く理解していなかったのです。デイヴのことを祈ろうとする私に対して、神様がこう言いました。「君たちの問題の原因はデイヴではない。君自身だ。」それを聞いた私はショックを受けました!それから3日間ほどかけて、神様は私と一緒に暮らすことの現実を、私自身に突きつけました。私はとても自己中心的で、支配欲が強く、付き合うのも大変で、思い通りに物事が進まないとすぐに気分が害されるような難しい人間であることを、神様は示してくれたのです。その3日間のほとんどを、私は泣いて過ごしました。しかし、その出来事こそが、私が健康的な変化を体験するきっかけとなったのです。

*神様の導きの中で、私が初めて「本当の私」と対面した時、
大きなショックを受けたのを覚えています!*

揺るぎない信頼

憐れみの力

いかなる場合でも、憐れみは裁きに勝ります。(ヤコブ2:13より)言い換えると、憐れみは裁きよりも優れているということです。自分の短所や弱さ、欠点の深刻さに気付けないような人が、他の人に対して憐れみを示すことができるでしょうか。神様の憐れみ深さを思えば、私たちも同じように人々に接するべきだと気付くことができるはずです。ここで、『憐れみを知らない王様と、憐れみ深い植木屋』の話为例に挙げます。

王様は立派な果樹園を持っていました。そこには様々な種類の木が植えられていて、熟練した植木屋によって日々手入れされていました。

毎日、植木屋は様々な木からみずみずしく熟した果実を収穫し、かごの中に入れました。そして毎朝、宮廷が開かれると、植木屋は王様に収穫したばかりの果実を届けるのです。

ある日、植木屋はさくらんぼを収穫して王様へ届けました。ちょうどその時、不機嫌だった王様がたまたまさくらんぼを一つ味見すると、何とそれは酸っぱいさくらんぼでした。怒った王様は、植木屋に八つ当たりして、さくらんぼをいくつか掴み取ると、それを植木屋に向かって投げつけました。おでこにさくらんぼが当たった植木屋は、王様に向かってこう言ったのです。「神様は何て憐れみ深いのだ!」

それを聞いた王様は不思議そうに尋ねました。「お前は痛めつけられて腹を立てているはずだ。それなのに、なぜ『神様は何て憐れみ深い』などと言うのだ?」

すると、植木屋は答えました。「陛下。実は今朝、私はパイナップルを収穫するつもりでおりました。しかし、途中で気が変わったのです。あなたが今お投げになったのが、もしもパイナップルだったら、きっと私はもっとひどい目にあったことでしょう。しかし、憐れみ深い神様のおかげで、あの時、私は気を変えることができたのです。」

第20章 - 人々を変えるのは神様であると信頼する

植木屋は、たとえ不公平な状況でも、神様を信頼することの価値をよく理解していました。私たちが直面する状況も、実際にはもっとひどいものであった可能性もあります。しかし、そうならなかったのは、神様の憐れみ深さのおかげなのです！

神様がここまで憐れみを示してくれているのですから、私たちも人々に対して、同じように憐れみ深くあるべきです。神様の望みは、神様が豊かに与えてくれる祝福を、私たちが周りの人々と分かち合うことです。また、神様が私たちを赦してくれたように、私たちも人々を赦すことです。神様が無条件に私たちを愛してくれたように、私たちもお互いを愛することを神様は望んでいます。神様は、私たちにはないものを他人に与えることなど、期待していません。だからこそ、私たちが喜びに満ちた人生を送り、そして神様の素晴らしさを反映するためにも、神様は私たちを養い、あらゆる面で備えてくれるのです。先ほどのお話に登場した王様は、植木屋の憐れみ深い態度について、その後しばらく思いを巡らせていたに違いありません！私たちは憐れみ深い態度によって、人々の心に触れることができます。自分が罰を受ける立場であることを理解している相手にとっては、なおさらのことです。

今、少し時間を取って、あなたの周りにも憐れみを示すべき相手がいないかどうか考えてみてください。憐れみとは贈り物です。それは努力して得るものではありません。憐れみを無償で受け取ることで、人々は神様の愛の力を実際に体験し、それによって変えられていくのです。

幼かった私を性的に虐待した父親を赦すことができたのは、神様がデイヴと私に憐れみを豊かに与えてくれたからでした。それによって、私たちは年老いた父に歩み寄り、彼が生涯を終えるまで面倒を見ることができました。父が以前こう言ったのを、私は覚えています。「俺は本当にひどいことをしてきた。殺したいと思われてもおかしくないのに、お前たちはこんな俺にいつも親切にしてくれた！」亡くなる3年前に、父はイエスを救い主として受け入れました。私は父の救いに心から感謝しています。神様はデイヴと私を通して、父に憐れみを示してくれたのです。神様の望みは、日頃から私たちとパートナーを組み、私たちを通して働き、私たちを用いるこ

揺るぎない信頼

とです。世の中には、傷ついた状態でさまよう人たちが数え切れないほど多く存在します。中には宗教と名のつくものを試した結果、失望を抱えて生きる人たちもいます。しかし、もしイエスに出会うことができれば、彼らが同じままでいることは二度とありません。もしかすると、神様は「あなた」という模範を用いてのみ、その人の人生に歩み寄ることができるのかもしれませんが。ですから、単に口だけでイエスについて語るのではなく、自分の生き方を通してイエスを証明していきましょう。どんなに素晴らしいことを言っても、そこに行動が伴っていなければ、それは安っぽくて力のない言葉でしかなくなってしまうのです。

生涯の大部分を通して、私の父はとても意地が悪く虐待的な人だったので、彼のそんな態度を改めようと、過去にも多くの方が父の説得を試みました。しかし、誰がどんなに説得しても、父が変わることはありませんでした。ところが、神様の憐れみを体験した途端、父の頑なな心は溶け始め、劇的に変化していったのです。やがてイエスを救い主として受け入れ、洗礼を受けると、父はますます変えられていきました。その後は3年間しか生きることができませんでした。父が旅立った先が天国であることに、今も感謝せずにはられません。

自由意思

神様が人々に対して、何かを無理やり強要することはありません。ですから、私たちが周りの人に何かを強要すべきではないのです。例えば、周囲の人や自分自身、または本人を傷つけるような誤った行動について、その人と話し合いを試みるのは間違っていない。しかし、もし相手が私たちの言葉を受け入れないのであれば、変わることを説得し続けても無意味なのです。これまでも素晴らしい変化を人々の中に見てきましたが、それは私が彼らを説得した結果ではありません。神様が私たちの祈りに答えて、彼らの人生に変化をもたらしてくれたからなのです！

聖書によると、ある女性の夫がまだ救われていない場合、その人は、神様に従う自分の生き方を通して、夫を救いへと導くことはできるかもしれませんが、言葉

第20章 - 人々を変えるのは神様であると信頼する

による説得で救いへと導くことはできないと記されています。(1ペテロ3:1)妻が言葉によって夫を説得しても、夫の心はますます頑なになり、より変化から遠ざかってしまうだけなのです!誰かを説得したいのであれば、自分の力でどうにかするのはなく、神様にすべて任せてしまった方が、確実に良い結果を期待できるのです。

相手を変えようとするのではなく、その人のために祈ることに取り組んでください。そうすれば、より良い結果を見ることができるようです。

出しゃばり屋

出しゃばることに潜む罪については、あまり聞いたことがないかもしれませんが。しかし、私たちはそれについてもっと聞く必要があります。出しゃばる態度は、プライドから来ます。すぐに出しゃばりたがる人は、自分に決定権のないことでも勝手に決断したり、自分の出る幕ではない場面でも行動をしようとします。

出しゃばり屋の社員が昇進することは滅多にありません。出しゃばり屋の子どもは、損ばかりします。出しゃばり屋のクリスチャンは、神様の働きのために用いられる前に、その品性が取り扱われる必要があります。「出しゃばる」とは、神様を認めずに自分だけで物事を決断しようとする事なのです。

「今日か明日、街に出かけ、1年かけて一儲けしよう」このように明日を語る人はよく聞け。あなたに明日の何が〔たった少しでも〕分かる?〔実のところ、〕人生とは、今は見えても、すぐに、〔薄い大気の中へと〕消えてしまう霧(ひと吹きの煙、もや)のようにはかかない。だから、こう言うべきだ。「神様が望むなら」あれこれしよう!ところが、天狗になったあなたがたからは〔偽りの〕自慢が止まらない。神様ではなく、自分のおかげだとする自慢は悪だ。また、神様中心の将来を描くことが正しいとわかっていながら、そうしないのなら大きな過ちだ。

ヤコブ4:13-16 (ALIVE訳より一部強調)

揺るぎない信頼

神様を認めず、導きについても祈らず、神様を信頼せずただ自力で行動を起こしても、決して天国で賞賛されることはありません!そのような態度はプライドの産物であり、対処される必要のある問題なのです。

他人について「あの人は変わる必要がある」と考え、その人を変えるために自分が名乗り出ることも、出しゃばりと同じです。神様に誰かを変えてくれるように祈るのであれば、謙遜な態度で、自分にも欠点があることを自覚して祈ることを強くお勧めします。

どんな時でも神様は忍耐強く、私と向き合ってくれます。その反面、神様が他の人にも忍耐を働かせている様子を見ると、私は不思議に思うことがあります。周りを不愉快にさせるような人を、神様はなぜ変えようとしませんか? 考え、理解に苦しみます。しかし、使徒パウロは、神様は恵み深い存在であり、一人でも多くの人を罪を認めて考え方を変えられるように、裁きの時を先延ばしにしています。(ローマ2:4より)神様がそのように憐れみを示し、人間の悪い態度を耐え忍んで、一人でも多くの人を救いへと導こうとしているのであれば、私たちもそれと同じような態度を選ぶべきだと思いますか?

私のかつての上司は、職場の社員に対して不公平な態度を取っていました。社員の努力に感謝を表したことはなく、低い賃金しか支給せず、間違いを細かく指摘して、人に対する敬意に欠ける人でした。彼はクリスチャンであり、あのような振る舞いが正しくないことを知っていたはずですが、なぜ神様は彼を止めようとしなくて、誤った態度のまま放っておくのかを理解できず、何度も神様を問いただしたことがありました。神様を問いただすのは、出しゃばり屋な人たちだけです!本来、私は神様を問いただすのではなく、次のように祈るべきでした。「神様、あなたがすでにOOさんの内側で働いてくれていると信じます。だから、OOさんがあなたの声に耳を傾け、正しい選択ができるように助けてください。私はOOさんに傷つけられています。でも、そんなOOさんを見て、あなたの心はもっと痛んでいるはずです。神様、あなたが私たちに恵み深く忍耐を働かせてくれていて、ありがとう。」

第20章 - 人々を変えるのは神様であると信頼する

残念なことに、状況が深刻になるまで、私の上司が変わることはありませんでした。もっと早く神様の声に耳を傾け、神様に従う決心をしていれば、彼はもっと素晴らしい人生を歩むことができたはずです。それを思うと、残念な気持ちでいっぱいになります。今こうして振り返ると、私自身も彼からの扱いに腹を立ててばかりいないで、もっと彼のために祈れば良かったと心から思います。

身近な人が正しい人生を歩んでいないと感じたり、彼らの振る舞いが自分や他の人を傷つけているような場合、まずはその人たちのために熱心に祈ってみてください。手遅れになる前に、彼らが神様の声に耳を傾けられるように求めてください。そのような憐れみ深い態度は、人を裁く態度に勝ります！ディートリヒ・ボンヘッファー牧師はこう言いました。「他者を裁くことで、私たちは自分の悪に対して盲目になり、他者にも等しく恵みが注がれていることを忘れてしまう。」

他の人を変えようと奮闘するよりも、その人のために祈るのなら、神様にしかできないことが成し遂げられます。それによって、私たちは平安をより楽しむことができるはずです。自分が望んでいる変化が訪れるのを待つ間にも、神様の呼びかけに従順であり続けましょう。そして、神様の手の中で柔軟に変えられながら、神様の働きのためにますます用いられていきましょう！

第21章

疑いの対処法

信仰によって植えたものを、疑いによって掘り起こしてはならない。

エリザベス・エリオット

疑いがなければ、神様を信頼するのは何と簡単なことでしょう。しかし、疑いは湧き上がってきます。だからこそ、私たちは疑いを上手に対処する方法を学ぶ必要があります。何事においても、私たちに對抗してくる存在がないに越したことはありませんが、それは現実的ではありません。もし誘惑や恐れ、疑いがなかったら、どんなに良かったことでしょう！しかし、それらがあつたとしても、それらを問題として受け入れる必要はありません。神様は「疑わずに信仰を持ちなさい」と教えていますが、「やがて疑いはなくなる」とは言っていません。神様が私たちに対して疑わないように言うのは、やがて疑いが湧き上がることを神様は知っていて、その時が来たら迅速かつ正確に対処することができるよう自分自身を備えることを、神様は私たちに望んでいるからです。

最近、テレビ番組の収録をしたのですが、その中で、私が視聴者の方たちの質問に直接答えるコーナーがありました。その日のテーマは「信頼」だったのですが、ある女性から疑いに関する質問が番組のホームページに寄せられました。その女性はこう言いました。「神様を信頼する努力をしているし、実際に信頼したいと望んでいるのに、悩みの種である疑いをどうしても取り除くことができず、どうすれば良いかわからない。」

あなたも、この女性と同じような疑問を抱いているかもしれません。私もかつては、同じように感じることもありましたが。結論を言うと、私たちの信仰や神様への

揺るぎない信頼

信頼を揺るがせようとしてくる疑いが湧き上がることを阻止することはできません。しかし、たとえ疑いが来ても、それに影響されないという選択をすることはできます。私たちは自分が持つ疑いを疑うことができるようになるのです！

私たちは自分が持つ疑いを疑うことができるようになるのです！

神様が私たちに「OOをすべきでない」と教える時、それは「この教えに従えば、今後OOに関して誘惑されることも、OOをしたいと感じることも、OOをしないうために我慢する必要もなくなる」という意味ではありません。むしろ、実際には真逆のことを言っているのです。もし、恐れるような出来事が起こらないのであれば、なぜ「恐れてはならない」と言う必要があるのでしょうか？誘惑されることがなくなるのであれば、なぜ「誘惑に負けてはならない」と言う必要があるのでしょうか？疑うことがなくなるのであれば、なぜ「疑ってはならない」と言う必要があるのでしょうか？

疑いを避けることはできません。しかし、たとえ疑いが来ても、神様の約束を揺るがずに握り続けることはできるのです。

聖書の中の模範

神様と個人的な関係を持つ者として、どのように疑いに対処すべきか。それについての素晴らしい模範はアブラハムです。アブラハムは、妻のサラとの間に子どもを授かるという約束を、神様から受け取りました。しかし、当時の二人はすでに、子どもを授かる年齢をはるかに超えていたのです。希望を持てる物理的な理由はアブラハムにはありませんでしたが、「それでも彼は信仰により希望を持ち続けた」と聖書は言っています。(ローマ4:18より)

自分たちの年齢では子どもを望めないという事実が目の前に立ちただかっ
ても、アブラハムの信仰が弱まることはありませんでした。(ローマ4:19より)不信仰
や疑念ですら、神様の約束に対するアブラハムの確信を揺るがす(疑いを抱かせ、

第21章 - 『確かに私の態度は良くないかも。でも、それは私のせいじゃない!』

不信に思わせる)ことはできませんでした。なぜなら、彼は神様を賛美することによって力を得ていたからです。(ローマ4:20より)実際には想像以上の時間がかかったものの、アブラハムとサラに与えられた神様の約束は、やがて現実のものとなりました。

聖書の登場人物たちの人生において、彼らの神様との歩みをどれだけ疑いが妨げようとしていたかは想像することしかできません。しかし、聖書には、苦難や理不尽な状況、大きな反対を体験しながら、それでも神様を信頼し続けた人々の素晴らしい模範が詰まっています。無実の罪によって投獄されたヨセフにも、疑いは忍び寄ったことでしょう。招かれもせずに王の前に出ることは、死に相当する罪であると知りながら、王に会いに行こうとしたエステルにも、疑いは忍び寄ったはずです。迫害され、投獄され、痛めつけられ、飢えに苦しみ、辛いことばかりが待っていると知りながら、キリストの良い知らせを伝え続けたパウロにも、疑いは忍び寄ったはずです。それでもなお、彼らは神様の忠実さを目の当たりにし、信仰の良い戦いを戦い抜きました。

私たちに敵対してくる力を認識する

私は最近、あることに気付きました。それは、神様の憐れみによって何かから自由にされるということは、必ずしもその事柄が消えてなくなるという意味ではないということです。私たちは過去の痛みから自由にされていますが、その痛みはふとした時に心によみがえる場合があります。また、私たちは恐れから解放されていますが、思いがけないタイミングで再び恐れが湧き上がり、私たちの人生に忍び込むチャンスを狙うこともあるのです。

ルカ4章には、イエスが聖霊により荒野に導かれ、悪魔から誘惑を受ける様子が描かれています。荒野で過ごした40日の間、イエスは様々な誘惑に耐え、その全てを見事かわしました。用意していた全ての誘惑を出し尽くすと、サタンは新たな次の機会を狙うために、イエスの元から去っていったと聖書には記されています。

揺るぎない信頼

す。(ルカ4:13より)言い換えると、イエスはこの戦いに勝利しましたが、彼にはまだ別の戦いが待ち構えていたのです。私たちに敵対してくる力が止むことはありません!

様々な試練を通して、私たちの信仰は試されます。苦痛という名の燃えたぎる炉の中で試され、朽ちない強さを身につけられたら、それは素晴らしいことです。疑い、恐れ、不安は、私たちに敵対してくる力の一部です。機会が来れば、敵対してくる力も来るのです。(1コリント16:9より)使徒パウロは、自分が良い行いをしたいと望む度に、いつも悪が訪れると語っています。(ローマ7:21より)それらの攻撃によって信仰のダメージを受ける必要はありませんが、敵対してくる力が私たちに訪れることには変わりないのです!

私たちに敵対してくる力は様々な形でやってきます。どんな形式であれ、そこに共通する目的は、神様の約束が実現するという希望を手放すように私たちが仕向けることなのです。

私たちに敵対する人たち

神様の意志に従って生きようとする、それに反対する人たちが出てきます。使徒たちも常に、宗教家やローマ人たちの敵対に対処する必要がありました。イエスも、自分を拒絶し、忌み嫌う人たちからの敵対に対処しました。彼らはイエスについて理不尽な告発をし、批判し、見下しました。しかしそれでも、イエスは父である神様に与えられた使命から、決して目を逸らしませんでした。時には、私たちが心の拠り所とする人たちから敵対され、批判されることもあるでしょう。そんな時は、いつも以上に心が痛みます。イエスの実の兄弟たちも、イエスは頭がおかしくなったと考え、彼と一緒にいる所を人に見られることを恥じていたのです。

第21章 - 『確かに私の態度は良くないかも。でも、それは私のせいじゃない!』

私たちに敵対する状況

自分たちに敵対するような状況を私たちはみんな経験したことがあります。そのような状況の中で、目的を達成するのは決して簡単ではありません。私は以前、日常生活の中で予期せず起きた出来事や、イライラした出来事、時間と労力のかかった出来事を、1ヵ月に渡り記録に残したことがあります。その間、私は本の執筆と、カンファレンスの準備、テレビ番組の撮影、イエスの良い知らせを伝えるための伝道旅行の準備など、たくさんのプロジェクトを同時に抱えていました。記録を始めてから30日目には、もうすでに長いリストが出来上がっていました。その中には、真っ白なソファに真っ赤なビタミンドリンクをこぼしたことや、階段から落ちたことなど、様々な内容が記されていました。

このような出来事は私たちをイライラさせるくらいのものですが、時には、深刻な状況やさらなる注意を払う必要になる状況もあります。そのように自分に敵対する状況が起きると、日常の中に妨げが生じ、本来しようとしていたことができなくなってしまいます。「心を尽くして神様に従いたい」と望む時にも、サタンは私たちを邪魔するために、あれこれ試してくるのです。

私たちに敵対する感情や思考

ここまでお話してきた具体的な内容に加えて、様々な思考や感情も、私たちの神様に対する信頼を揺らがせてことがあります。疑いは、その一つです。他にも、恐れや不安、恐怖心、失望、心配などがあります。しかしながら、私たちよりも前の時代を生きた神様の人々も、同じ状況の中で前進し続け、神様の目的を達成することに成功しました。その模範に励まされながら、イエス・キリストの恵みによって、私たちも同じように神様の目的を達成できるのです。

聖書が言うように、私たちは「目を覚まして祈る」べきです。(マタイ26:40-41、1ペテロ4:7より)自分の信仰に敵対するものや、神様への従順を妨げるもの

揺るぎない信頼

には十分注意しましょう。また、それらの正体を認識して、神様がくれる財産を奪い取られないようにしましょう。

疑いに関して言うと、疑いを抱くのは、信仰の欠如や神様への信頼の乏しさが原因ではないということを覚えておいてください。それはサタンの誘惑であり、私たちが神様を信頼することを阻止しようとしているのです。このように、疑いの源を認識することで、その疑いを信じるべきかどうかを判断することができるのです。

例えば、誰かが私を批判するのを、私が耳にしたとしましょう。しかし、その人がこれまでも多くの人たちを批判してきた人で、しかも私のことをよく知らない人であれば、その批判の源が何なのかを認識できるので、私は取り立てて気分を害することはありません。それと同じように、神様の思いとは異なる感情や思考が忍び寄り、神様への信頼を阻止しようとしてきたら、私たちはその源を認識することで、自分の心を守ることができるのです。イエスは弟子たちに「誘惑に陥ることがないように祈りなさい」と言いました。(ルカ22:40より)弟子たちにも誘惑は等しくやってきましたが、それに陥るか陥らないかは、彼らの選択次第だったのです。

恐れを感じるのは、自分が弱虫だからではありません。疑いを感じるのも、神様を信じていないからではありません。この真理を理解することが、私にとって非常に大きな助けとなりました。敵の正体を理解せずに、敵を倒すことはできません！疑いは恐れの間であり、その両方が私たちの敵なのです！

雑音をかき消そう

不快な雑音から気を反らすために、ラジオやテレビの電源を押したことはありますか？私は時々、私たちの所有しているコンドミニウムに滞在することがあります。通常はとても静かな場所なのですが、週に一度、夕方になると近隣のダイニングバーでバンドの生演奏が始まります。すると、私の苦手な騒々しいジャンルの音楽が聞こえてきて、どうしても気が散ってしまうのです。しかも、ダイニングバーの外

第21章 - 『確かに私の態度は良くないかも。でも、それは私のせいじゃない!』

壁は取り外し可能な構造になっていて、生演奏の時は壁が移動するので、音は外まで響き渡ります。そんな時はテレビの音量を少し上げるだけでも、外の音がずいぶんと軽減されるので、最近はそのようにしています。

アブラハムも同じようなことをしました。彼は神様を賛美することで、疑いや不信感をかき消していました。疑いを感じたり、疑いの声を聞くと、彼は神様に賛美を捧げることで、サタンが起こす雑音をかき消していたのです。

「神様がしてくれた素晴らしい働きや祝福についてのストーリーを話す」ことも賛美の一部であると聞いたことがあります。アブラハムは疑いを察知すると、妻のサラに、神様に従うためにハランの家を出た時のことを覚えてるかどうかを尋ねていました。当時、どこへ行くべきかわからなかった自分たちを、神様が一步步導いてくれたことや、神様がしてくれた素晴らしい働きや祝福を体験したことについて、2人で話に花を咲かせたことでしょう。

デイヴと私も同じように、2人でよく話をします。ミニストーリーを始めたばかりの頃のことや、様々な試練に直面したこと、その中で体験した神様の忠実さなどを2人で思い返すのです。すると、神様を疑うことは到底できなくなります。だからといって、私は全く疑いを感じなくなるというわけではありません。しかし、そんな時はすぐに疑いの声を消し去り、その源を探り当てるのです!

神様が私たちに「疑ってはならない」と教えるのは、疑いが信仰を攻撃しにやってくることを知っているからです。疑いは、悪魔の武器です。悪魔はその武器を用いて、私たちが神様の思いを実現することや、神様が与えるものを受け取ることを阻止しようと試みるのです。

ある日、イエスはある男性の重篤な娘を癒すため、彼らの家に向かっていました。その途中にも、癒しを求める大勢の人がイエスの周りに集まりました。すると、イエスは彼らのために立ち止まり、癒しの奇跡を働き始めました。ある一人の病

揺るぎない信頼

人を癒していると、男性の使用人がイエスの元にやってきて「娘はすでに亡くなったので、もう来ていただかなくても大丈夫」と告げました。聖書によると、イエスはその使用人の話を聞いていましたが、彼の言ったことを無視して、男性に「信じ続けなさい」と伝えました。(マルコ5:22-43より)つまり、イエスですら、疑いをもたらす声は無視しなければならなかったのです。イエスも私たちと同じように誘惑にいましたが、決して罪を犯すことはありませんでした。(ヘブル4:15より)

必ず道はある

ヴァイン聖書語源辞典において、「疑い」という単語は、「他に道のない状態」や「他に支援のない状態」であると定義されます。しかし、私たちには道のない状況など起こり得ません。なぜなら、イエスこそが道だからです。(ヨハネ14:6より)時には、道が見えないこともあるでしょう。しかし、その時こそまさに神様を信頼すべき瞬間です。自分ではどうすれば良いかわからない時や、他に助けがない時こそ、信仰と信頼の出番です。イエスは道であり、私たちの助けでもあります!私たちが必要とするもので、イエスに与えることのできないものはありません。周りの人は「他に道などない」と言うかもしれません。また、悪魔も「他に道などない」と囁いてくるかもしれません。しかし、それでもあなたは「道」が自分の中に生きていて、彼が共にいることを思い出すことができるのです!勝利に辿り着くまで、あなたは彼を信頼し続けますか?

40年前に神様のことばを教える使命を受け取った頃、私は妻・母として家庭で仕えると同時に、職場で週40時間の勤務をこなしていました。多忙な日々の中で、聖書の勉強に十分な時間を費やすことができず、毎週のバイブルスタディーをリードするために準備することも難しくなっていました。

信仰のステップを踏むべき時が来ていると感じた私は、仕事をやめて、聖書を学ぶのに十分な時間を確保する決心をしました。デイヴの賛成を得ると、私は仕事と収入を手放しました。しかし、デイヴの給与だけでは月々の支払いには少し足

第21章 - 『確かに私の態度は良くないかも。でも、それは私のせいじゃない!』

りないこともあり、疑いと恐れに襲われることもありました。「神様はお前の必要を満たしてくれない。仕事をやめたのは失敗だった。」そんな声が、時折聞こえてきたのです。

心では、自分の決断が正しかったことを確信していましたが、頭の中では自分自身との論争を続けていました。結局、私は悲惨な状態になるまで苦しみ続けました。しかしある朝、家の中を歩いていると、神様が私の心にこう語りました。「恐れと疑いを耐え忍び続けるか、それとも私が奇跡を起こし、やがて必要を満たすことを信頼するか。どちらを選ぶかは、君次第だ。」私は信仰の岐路に立っていました。これ以上2つの異なる思いを抱え続けるのではなく、神様を信頼するかどうかを決断する必要があったのです。

神様は、私が信頼できるように必要な恵みを与えてくれました。それから6年間、私たちは神様が毎月の必要を満たしてくれるのを体験しました。それを通して私の信仰は成長し、神様が忠実な存在であることを身をもって確信したのです。当時を振り返ると、あの数年間があったからこそ、ここまで神様との親密な関係を築けたのだと実感し、感謝でいっぱいになります。

神様の導きを感じ、そのために信仰の一步を踏み出した途端、疑いに襲われることがあるかもしれません。しかし、驚かないでください。信仰が試されるのは試練かもしれませんが、それは私たちにとって良いことなのです。神様を信頼すればするほど、信頼することがますます簡単になっていきます。そして、これまでとは違う形で、神様の忠実さを体験できるようになります。その回数を重ねるごとに、あなたはさらに強められていくはずですよ。

この言葉を聞いたことがあります。「疑いは、失敗以上に夢の実現を妨げる。」疑いによって、信仰の道から脱線してはなりません。疑いの正体に気づき、信仰によってその疑いを断ち切っていきましょう!

第22章

どれだけ経験がある？

幸いな（祝福され、幸運で、羨ましい）ことよ。（質が高く、神の思いに満ちた）
知恵を見いだす人、〔神様のことばと人生経験から〕英知をいただく人は。

箴言3:13（新改訳より一部強調）

仕事に応募した経験があれば、面接の時にこんな質問をされたことがあるのではないのでしょうか。「この職種の経験はお持ちですか？」答えが「はい」の場合、次
にこう質問されるでしょう。「どれだけの実務経験がありますか？」

大学を卒業し、就職を希望する職種に関連した学位を持っていても、ただそれ
を持っているだけでは採用にはなりません。どれだけ自分には知識があると思
い込んでいても、その知識が試された経験がなければ、実際に職務をこなせるこ
とを証明することはできません。

この地上で神様の栄光と目的を達成するために、神様が私たちを用いる時
にも、神様は同じものを求めています。モーセがイスラエルの人々を率いる時
にも、神様の導きによって、彼は次のようなガイドラインを人々に与えました。

そこで頼みたいのだが、各部族から、人生経験が豊かで知恵もあり、物事のよ
くわかる者を選んでくれないか。その者たちを指導者に任命しよう。

申命記1:13（JCB）

お気付きかもしれませんが、このリストの中には、才能というものが含まれて
いません！人は生まれながらにして、ある分野において才能を持っていますが、価

揺るぎない信頼

値ある人材として用いられるためには、才能だけではなく、知恵や悟り、経験も必要なのです。そこで、各部族のリーダーを正しく任命するために、モーセは経験のある人材を探したのです。

私たちも、神様の呼びかけに従ってミニストリーを立ち上げた時、私たちと共に仕えるチームメンバーが必要でした。どのような人を求めているのかについて、自分の牧師と話し合っていると、彼は私にこう言いました。「ジョイス。その人が様々な状況に直面して、実際にどう振る舞うかを見るまでは、その人の本当の姿は分からないんだよ。」なぜ、そうなのでしょう？その理由は、品性と知識が試されるまで、その人の本当の能力は知ることができないからです。それは、私たちについても同じです。人生の試練に直面する時、自分がどう振る舞うかは、実際に体験してみなければ分からないのです。

単に「神様を信頼している」と口で言うのは簡単です。しかし、実際に神様を信頼しなければならない状況に直面したら、果たして本当に私たちは神様を信頼できるでしょうか？神様を信頼することがテーマであるこの本を執筆する最中にも、個人的に大きなチャレンジに遭遇し、長く続く痛みを耐え忍んだ時期がありました。その間にも「神様は働いている」という確信を持てたのは、これまでの神様との経験があったからであり、実際に神様の忠実さを何度も体験してきたからです。

神様への信頼に関する本を、私たちは好きだけ読むことができます。しかし、神様に信頼することを本当に身につけたいのであれば、実際にそれを行動に移し、経験を重ねる必要があるのです。神様のことばを教える者として、私が皆さんにお伝えしたいことは、何かを学びたいのであれば、ただ単に耳で聞いたり、目で読んだりするだけでは不十分なのだということです。それを実際に身につけるためには、「行動に移す」必要があるのです。それを通して私たちはさらに学びを深め、机の上では得られない知識を手に入れることができるのです。

第22章 - どれだけ経験がある？

イエスも経験を重ねた

ヘブル5:8-9には、イエスについてこう記されています。イエスは神様のひとり子であったにもかかわらず、

神に〔能動的に、特別に〕従うことには多くの苦しみがともなうことを、身をもって学んだ。この〔彼自身の完全なる〕体験を通し、自分の完全さ〔備えられた者であること〕を証明し、その上で、自分に従うすべての人に永遠の救いを与える者となったのだ。

ヘブル5:8-9 (ALIVE訳より一部強調)

つまり、神様の働きのために十分に備えられるためには、イエスでさえ経験を積む必要があったのです。この事実には、私はとても励まされました！言うならば、私たちは日々経験を重ねながら、学びを深めていけば良いのです。クリスチャンになって日の浅いうちは、すんなりと神様を信頼することを難しく感じるかもしれません。しかし、年月が経ち、信仰が試される中で、神様が信頼に値する存在であることを身をもって体験するはず。頭の中の知識も、大切な知識の一部分です。しかし、実際の経験によって得る知識の方が、さらに深い意味を持つのです。

頭の中の知識も、大切な知識の一部分です。

しかし、実際の経験によって得る知識の方が、さらに深い意味を持つのです。

もちろん、教育(神様のことば)は必要不可欠です。しかし、神様からの啓示も同じくらい重要です。個人的な様々な状況下で知識が試され、神様の善良さや忠実さを体験してこそ、私たちは神様からの啓示を受け取ることができます。

使徒パウロがコリントの人々を教え、励ました時にも、「あなたがたが耐えられないような試練がやってくることはない」と言いました。神様はいつでも逃げ道を用意してくれます。なぜなら、神様はご自身のことばに忠実な存在だからです。(1

揺るぎない信頼

コリント10:13より)これは、パウロの経験談に基づいた励ましだった私は思います。パウロ自身も、多くの試練に耐えながら神様を信頼し続けました。そして幾度となく神様によって解放され、どんな時でも勝利者の態度を持てるまでに強められたのです。

最近、神様を信頼することについて質疑応答のセッションをした時に、ある女性からこんな質問を投げかけられました。「過去に神様を信頼して、期待外れの結果を体験したことがあります。それなのに、どうやって神様を信頼すれば良いのでしょうか。」20年前の私だったら、彼女のこの質問にどう答えるべきか迷ったはずで。しかし、これまで神様と40年の歳月を共に過ごした経験から、私はどう答えるべきかすぐに分かりました。私はこう答えました。「神様を信頼したのに、求めるものが与えられなかったのは、あなたが神様の計画以外のものを求めていたからよ。」成熟した信仰を持つ人は、何かについて神様を信頼しますが、たとえそれが与えられなくても神様を信頼し続けることができます。そして、自分の願いが神様の計画と一致していれば、それが与えられると信じ、神様の計画と一致していなければ、それが与えられない方が良いのだと理解しています。自分が望んだものが与えられなかったことを、彼らは神様に感謝することができるのです!それは、彼らが神様の与えてくれる「結果」ではなく、そこに至るまでの「過程」において、神様を完全に信頼しているからです。

パウロはこう言いました。

そこで、私たちは、あなたがたひとりひとりが、同じ熱心さを〔初めから終わりまで〕示して、最後まで、私たちの希望について十分な確信を持ち続けてくれるように〔熱心に心から〕切望します。

ヘブル6:11 (新改訳より一部強調)

困難の中にいる時や、何らかの必要を抱える時に神様に信頼を置くのなら、その経験を重ねていく度に、それが徐々に簡単になっていきます。私たちは少しずつ

第22章 - どれだけ経験がある？

つ(時にはごく微量ずつ)神様を信頼できるようになっていくのですから、たとえ今はまだ完全に神様を信頼できていないように感じて、がっかりしないでください。

人生という名の学校

私たちは皆、「人生という名の学校」にいます。人生の旅を歩むごとに、私たちはより多くのことを学んでいきます。詩篇の著者ダビデは、神様との経験を持つ人々について頻繁に語りました。そのうちの一つには、こうあります。「神様の憐れみを経験した人は、神様に拠り頼み、自信を持って神様に信頼を置く。(詩篇9:10より)」神様の善良さ、優しさ、憐れみ深さ、無条件の愛、寛大さを体験することで、私たちはどんな時にも、自信を持って神様に信頼を置けるようになるのです。たとえ自分の望み通りの答えが与えられなくても、最終的には、神様が与えてくれるものこそがベストなのだ実感できるはずです。神様の考えや動機を理解できないからといって、それが正しくないと断定することはできません。長い時間がかかることもありますが、最終的には、神様の思いを理解できるようになるのです。

「今の知識を持ったまま、若かった頃に戻ってやり直したい」と、人々が言うのをよく聞きますが、それは不可能なことです。今の自分に知識があるのは、「人生という名の学校」で多くのことを経験したからなのです。

私が神様のことばを教える使命を受け取った時、人生を一旦保留にして聖書学校へ通うことはできませんでしたが、当時も今も「人生という名の学校」に通い続けています。そこで私は、普通の学校では学べない多くのことを学びました。

詩篇の中で、ダビデは自分自身が経験したことを「神様によって特別に取り分けられた経験」と言いました。(詩篇119:7 AMPC訳より)私はその考えが大好きです!これまで経験してきたことは、全てが自ら好んで選択したものばかりではないかもしれません。しかし、神様の計り知れない知恵によって、それらの経験は私たちのために「特別に取り分けられた」のです。言い換えれば、私たちが神様とその復活

揺るぎない信頼

の力を本当の意味で理解することができるように、神様がそれらの経験を特別に用いてくれたのです。

仕事をやめてからの6年間、私たちの信仰は神様によって試されました。その間、私たちは完全に神様に拠り頼み、驚くほどの霊的な成長を遂げることができました。確かに、それは自分が好んで選択した道のりではありませんでしたが、それこそがベストな道だったと今では確信しています！

イスラエルの人々が荒野をさまよった時にも、彼らは「人生という名の学校」に通っていました。その間、神様は彼らの世話をし、必要を満たし続けてくれました。私はその様子を想像するのが好きです。神様はイスラエルの人々にマナ(天から与えられた超自然的な食物)を与えましたが、それがどこから来ているのか彼らには分からず、これからそれが毎日与えられるという保証も(神様の約束以外には)ありませんでした。つまり、彼らはその日ごとに神様に信頼するしかありませんでした。時には、私たちが何かを学べる唯一の方法は、他に選択肢がないような時であったりします。

*時には、私たちが何かを学べる唯一の方法は、
他に選択肢がないような時であったりします。*

荒野を40年間さまよう間にも、イスラエルの人々の衣服が古くなることはありませんでした。(申命記8:4より)新しい衣服が与えられたのではなく、すでに持っていた衣服が驚くほど長持ちしたのです。神様は、彼らが神様の命令を守るかどうかを試していると言いました。そのことばからも分かるように、信頼は試されてこそ証明されるのです！神様は、彼らをより良い環境へ導くことを計画していました。しかしその前に、神様がしてくれた全てのことを彼らが決して忘れないためにも、神様に完全に拠り頼むことの大切さを教える必要があったのです。(申命記8:2、7、11より)

第22章 - どれだけ経験がある？

「人生という名の学校」で、私は親しい人たちから裏切られ、家族や友人が私の人生の選択に納得しなかった時に、拒絶を経験しました。周りから誤解されたり、不当に非難されたり、迫害されたりと、様々な痛い目に合いました。しかし、それと同時に私を傷つけた人たちを赦し、憎しみや怒りを手放すことの大切さを学びました。そして誠実さを持つこと、良い態度を持つこと、平安を大切にすること、忍耐すること、自分の心をコントロールすること、正しい人間関係を見極めること、神様を人生の最優先にすること、人々を尊重することなど、人生の教訓を数えきれないほど身につけました。それらを学ぶには信仰が試されることも多く、決して簡単な道のりではありませんでした。しかし、その経験があったからこそ、私は年ごとにだんだんと容易に神様を信頼できるようになったのです。

だんだんと容易になっていく

神様を信頼することは、神様と共に歩む人生のように、経験と共にだんだんと容易になっていきます。他のものではなく神様に信頼を「置く」ことで、それがますますできるようになっていくのです。私たちは結婚してから50年以上経ちますが、私はデイヴが神様の平安の中を生きる様子を、いつも間近で見してきました。時には、私が大変な思いをしている反面、デイヴの人生があまりにも平穏に見えて、苛立ちを感じることもありました。しかし、平穏なだけの人生など存在しないことに私は気付きました。それでもなお、どんな時でも全てにおいて神様を信頼していれば、平安の中を生きることができるのです。

デイヴは私よりも少し早く学ぶことができます。私は頑固なタイプなので、デイヴよりも多く「神様によって特別に取り分けられた経験」がなければ、何かを学ぶまでに長い時間がかかります。デイヴは若い頃に、全ての心配を神様に委ね、任せることを学びました。結婚した当初、何か大変なことが起こると、私はいつもデイヴから「君がどれだけ心配して取り乱しても、何も状況は変わらないよ。それなら神様を信頼すべきだと思わない？」と言われていました。もちろん、私もそうしたいと望んではいましたが、どうすれば神様を信頼できるのかが単純に分からなかったの

揺るぎない信頼

す。だからこそ、神様を信頼することの難しさはよく分かります。しかし、旅路を続ける中で神様を信頼できるようになっていくことも、私は自分の経験から知っています。たとえ自分の信仰がちっぽけに感じる時があっても、どうか失望しないでください。最初はちっぽけな信仰でも、やがては大きな信仰へと成長することができるからです。

嵐の中で取り乱す弟子たちの様子を見たイエスは、彼らの信仰を「小さい」と言いました。(マルコ4:40より)しかし、それから数年後には、あの時の弟子たちが凄まじい迫害の中で大きな信仰を持ち、キリストの良い知らせを人々に広めたのです。ちっぽけだった彼らの信仰は、やがて大きな信仰へと成長しました。それならば、私たちの信仰も大きく成長できるはずです。信仰の成長を遂げるために、彼らは晴天の下で海水浴を楽しんでいたでしょうか?いいえ、そうではありません。むしろハリケーン級の嵐の中を歩んだのです!途中で神様への信頼が揺らぐこともありました。最後には、いつでも、全ての状況において神様を信頼する術を身につけたのです。死と隣り合わせの生活を送りながら、それでも彼らが諦めずに前進し続けることができたのは、たとえ生きようが死のうが、全てにおいて神様が信頼に値する存在であることを知っていたからです!

イエスは十字架の上で苦しんだ末、死の間際に、信頼に満ちたことばを放ちました。最後の呼吸をする直前、彼はこう言いました。「父さん。わたしの霊を今、あなたの手に委ねます。」(ルカ23:46より)

私たちもイエスのように、最後の呼吸をする直前まで、神様を信頼し続けていたいものです!神様を信頼して生きる選択は、悲惨な人生を喜び溢れる人生へと変える力を持っています。信頼とは、神様が与えてくれた力強い贈り物です。その包みを開いて、いつでも、全ての状況において、その贈り物を最大限に活用していきましょう。

第23章

全てを神様に委ねる

神に全てを完全に委ね切った人間は、世の中の想像をはるかに超えて、神に用いられることができる。

D.L. ムーディー

いつの時代も、人は数々の不安を抱えて生きています。中でも私たちのミニストーリーにおいて、人々からの祈りのリクエストが最も多いエリアが3つあります。1つ目は「自分の子どもや愛する人のための祈り」、2つ目は「金銭面の祈り」、3つ目は「健康や癒しを求める祈り」です。

心配は、神様への信頼を妨げる敵です。心配は私たちから信仰を奪い、恐れの中に引きずり込もうとします。恐れを通して、神様からの祈りの答えを受け取った人は誰もいません。揺るがない信仰と神様への信頼を通してこそ、私たちは自分の望む人生を歩み、平安と喜びを受け取ることができるのです。それでは、先ほど登場した「心配に関する3つのエリア」に焦点を置いて、神様を信頼することについて人生に当てはめていける原則を考えていきましょう。

1. わが子に対する心配

「うちの子はどんな大人になるのかしら？私たちは良い親でいるのかしら？間違ったことをしたら、どう正せば良いのかしら？厳しくし過ぎている？それとも甘くし過ぎている？」子どもたちが十代になり、やがて大人へと近づく過程の中で、子どもたちが悩み、葛藤する姿を見る機会が増えます。親としての自分の至らない点が、わが子の抱える問題の原因になってしまったのではないだろうか、不安を感じる親

揺るぎない信頼

も少なくはありません。そのようにして、悪魔は親たちに間違った自責の念を植え付け、心を消耗させようとするのです。

デイヴと私には、すでに自立した4人の子どもたちと11人の孫がいます。これまでも、彼らがそれぞれの問題を抱えて悩む姿を、私たちは見てきました。そして、葛藤する子どもたちに手を差し伸べるためには、祈りこそが最大の味方であり、最強の助け手であることを神様は教えてくれました。彼らの問題をどんなに心配しても、私が状況を良くすることはできないのです。

わが子や愛する人が間違った決断をしていたら、私たちはそれをえるように説得したいと思うでしょう。しかしながら、ほとんどの場合、私たちが問題の答えを知っていても、相手は耳を傾けようとはしません。特に十代や若者に関してはその傾向が強く、実際に苦い思いをしなければ、何が人生における正しい選択なのか納得することができないのです。

デイヴと私にはたくさんの孫がいるため、現時点で全ての年齢層の子どもが揃っています。その中に十代の孫が2人いますが、2人ともそれぞれ異なる悩みを抱え、葛藤している最中です。1人は自信の分野で葛藤していて、それが形となって多方面に表れており、もう1人は、常に憶測を並べては、自分で自分を責め、膨らみ続ける不安を抱えています。

現在の年齢や、これまで重ねてきた経験を考えれば、2人の孫が直面する問題の原因を突き止めることは、私にとっては簡単なことです。しかし、まだ人生というものを理解している最中の2人にとって、それは簡単なことではありません。今、彼らは強い自立心を持ちながらも、未熟さや幼さを完全に手放せないでいる「自分」という一人の人間と向き合おうとしているのです。

他にも成人した孫がいますが、彼らもまたそれぞれの問題を抱え、葛藤した時期を経て、安全な場所へ辿り着くことができました。今では、神様を中心とした実

第23章 - 全てを神様に委ねる

り多い人生を歩んでいます。一人の孫はかつて、怒りの分野で葛藤しました。他の孫たちも、薬物の使用や強烈な反抗心など、様々な問題を抱えていました。しかし、彼らの人生が最終的に素晴らしい場所へ辿り着けたのは、まさに彼らのための熱心な祈りがあったからこそなのだ、今こうして振り返って実感しています。私たちは、祈りを最終手段として考えるべきではありません。むしろ問題に直面したら、まず最初に祈るべきです。祈りは、神様の働きのための扉を開きます。いつでも祈りを捧げ、私たちが神様に委ねた状況や人々に対して神様が働いていることに感謝していれば、その扉は開かれていくのです。

祈りは、神様の働きのための扉を開きます。

私たちの4人の子どもたちも、多くの子どもたちと同じように問題を抱えた時期がありましたが、今では立派な男性・女性へと成長し、それぞれ神様に仕えています。親である私たちも、彼らとの素晴らしい関係に恵まれ、一人一人を心から誇りに思っています。もしかしたら今、あなたは自分の子との関係において難しい時期を通っているかもしれません。問題の深刻さによっては、神様の介入が絶対的に必要な境地に立たされているかもしれません。そんな時、親にとっての最大の誘惑は「心配すること」です。親として「わが子を助けたい!」と願うのは、当たり前のことです。「全ての問題から解放してあげたい!」と思うはずですが、できることなら、代わりに問題を背負ってあげたいと思うのではないのでしょうか。これはまさに、罪にまみれた私たちを憐れむ神様の思いと同じであり、親として自然と湧き上がる感情なのです。しかしながら、親であっても人生の荒波からわが子を救うことはできません。時には、愛しているからこそ、わが子が自分で蒔いた種を刈り取って、苦しみを味わうことを許す必要があるのです。旧約聖書の箴言に書かれているこのことばに、私たちは信頼を置くことができます。「子どもの時に正しい生き方を教えておけば、年をとってからも変わりません(箴言22:6 JCB)」

たとえわが子が道を外しても、私たちが祈り続け、正しい模範を示していれば、いつか必ず正しい道へ戻ってきてくれるはずですが。

揺るぎない信頼

誰のせい？

わが子が問題を抱えていたり、人生で挫折を味わっていたら、それは一体誰のせいでしょうか？親である自分が至らないからでしょうか？子ども自身が間違った選択をしたからでしょうか？悪い仲間にもまれていてからでしょうか？それとも、この時代の社会がいけないのでしょうか？

そのようにして、犯人捜しに時間を費やしてばかりいると、私たちは大切な真理を見落としてしまいます。原因が何であれ、問題解決に必要な答えは「神様」なのです！もちろん、私も子育てにおいて失敗したことが何度もあります。それでも振り返ってみると、実際には良い母親になれていたのではないかと、正直驚くほど感じています。私はひどく崩壊した家庭環境で育ちました。次から次へと問題の絶えない毎日でしたが、それでも神様は、私が良い母親になるための恵みを注いでくれました。そのおかげで私は、自分の予想以上の母親になることができました。私は以前、娘たち2人にこう言われたことがあります。「これまでのお母さんの生い立ちや、幼少期の虐待を考えると、私たちのために信じられないほど素晴らしい子育てをしてくれたと思う！」

どうか次のことを、心に留めておいてください。私たちは完璧な父親・母親になることはできませんが、神様は問題を解決し、私たちの失敗による結果を正すことができます。神様が私たちに求めているのは、ただ私たちが考え方を改めて、問題解決のために心からの祈りを捧げることです。それを通して、神様は働くのです。

わが子を心配する誘惑から、自分を守ってください。そして、あなたにはできない働きを、神様が子どもたちの内側でしてくれることを信じるのです。人を変えられる唯一の存在は、神様だけです！「子どもの心配をしないで」と口で言うことは、実際に行動に移すよりも簡単であることを私も理解しています。しかし、神様は忠実な存在ですから、私たちには他の人の決断をコントロールすることができなくても、祈ることで扉が開かれ、神様が彼らの人生に働くことを可能にできると私は約

第23章 - 全てを神様に委ねる

束できます。神様にとって不可能な問題など一つもないのですから。

私たちはわが子を神様に委ねることで、親として神様に導かれ、子どもに寄り添い、彼らが正しく細い道を歩む手助けをすることができます。もしくは、わが子を心配して、彼らが傷ついたり、間違った決断をする時のことを心配することもできます。私はその両方を試しましたが、神様にわが子を委ねることの方が、はるかに賢い選択でした。祈りと告白によって、私たちの信仰と信頼は解き放たれます。ですから、わが子のために祈り、祈ったことを宣言していきましょう。たとえ彼らが神様の思いとは反する決断をしても、神様を信頼し続けるのです。信頼することに対して、決して期限を設けてはいけません！

信頼することに対して、決して期限を設けてはいけません！

使徒パウロが愛する大切な人々のために祈ったのと同じように、私たちも愛するわが子や大切な人々のために祈ることができます。次の聖書のことばを、人々を神様に委ねる方法のための模範にしてみてください。

私は今、あなたがた〔兄弟姉妹〕を、神とそのすばらしいみことばとにゆだねます。〔つまり、あなたがたを神の元に預けることで、あなたがたが完全に守られ、養われることを信じます。そして、神の計り知れない好意により与えられた教えと、導きと、約束に、あなたがたを委ねます。〕このみことばが、あなたがたの信仰を強くし、神のためにきよい者（聖別され、聖められ、魂の変えられた者）とされた人々が相続する恵みの財産を、あなたがたにも与えるのです。

使徒20:32 (JCBより一部強調)

この聖書箇所を自分のものにして、祈ることをお勧めします。あなたが祈る相手を、ここでは「サム」と呼びましょう。サムのことを心配して彼を変えようと奮闘する代わりに、あなたは今、彼を神様に委ねる決意を固めました。このような祈りで、それを実践していきましょう。

揺るぎない信頼

「天のお父さん。あなたにサムを委ねます。あなたの元へ彼を預け、恵み深いその教えに委ねます。そして、あなたが彼を安全に守り、あなたとの親しい個人的な関係へと導いてくれることを信じます。」

これから先、サムについて思わず心配しそうになる時には、その心配を祈りへと変えて、神様が彼の人生に働いていることを感謝しましょう。

私自身もこれを実践することで、4人の子どもたちの人生に素晴らしい出来事が起こる様子を見てきました。特定の聖書箇所を数ヶ月間に渡って祈り続けた結果、神様の奇跡的な働きを子どもたちの人生に見たこともありました。神様の手を動かすのは、心配や恐れではありません。信仰、信頼、献身こそが、神様の手を動かす要素となるのです。

2. 金銭面における心配

私たちが生きるためには、お金が必要です。不思議なことに、お金はいくらあっても足りないように感じます!しかし、もう一度言いますが、どんなに心配しても、そこから答えが生まれることはありません。神様は、収入の十分の一を倉（神の国の働き）へ納めることを私たちに教えています。そうすることで天の窓が開かれ、祝福が大いに注がれるのです。また、神様は私たちをむさぼる者から守ってくれます。（マラキ3:10-11より）種を蒔かずに、収穫を望むことはできません。それと同じようにビジネスにおいても、神様へ捧げることの忠実さを最優先すべきです。それを守ることで、私たちは自信を持って神様の前に出て行き、大胆に祈り、神様が栄光の富から必要を満たしてくれることを期待できるのです。（ピリピ4:19より）また、自己資金を賢く管理するためには、知恵を働かせる必要があります。

神様は、「私たちの望む全てを与える」とは言っていませんが、「私たちの必要を全て満たす」とは約束しています。何かを求めるのは私たちの自由です。聖書にも「神様は私たちの心の願いをかなえてくれる」とあります。（詩篇37:4より）しかし、

第23章 - 全てを神様に委ねる

それが単なる肉欲的なものであり、私たちが霊的に高めるものでないなら、私たちはそれを願うべきではありません。

これまで長年に渡って、神様が私たちに与えてくれるのを体験してきました。年を経るごとに与えられる度合が増すのを感じましたが、中には足りないと感じる年も多くありました。私たちが目に見える物にばかり焦点を置くことを、神様は望んでいません。神様の知恵によって、私たちが求めるものをすぐに与えないのは、私たちの求める以上に優れた計画を用意しているからです。求めてもすぐに与えられないのは、神様の返事が遅れているのではないということをおぼえておき、神様のタイミングを信頼しましょう。自分の欲しいものがすぐに与えられないのは、神様にはより優れた計画があるからであり、自分にはまだそれを求める知恵が備わっていないということなのです。

金銭面に対する心配を減らし、お金を正しく管理するための知恵を用いることは、私たちの人生においてとても重要なことです。知恵とは、より満足のいく将来のために、今すべきことは何かを見極めることです。しかし、現代の社会には、支払いを先送りにして欲しい物を購入できる様々な手段があるので、私たちはつい借金を山積みにしてしまうのです。それはクレジット決済といい、クレジットカードをたくさん持てば持つほど、金銭的な問題を作り上げることとなります。自分には高額すぎる物をクレジットカードで購入するということは、将来の貯蓄を今消費するということです。今はそれで良くて、将来的には虚しさ以外の何も残りません。

欲しい物をすぐに手に入れるために、将来のことを顧みないで手段を探るのではなく、忍耐を持って待つことを、ぜひあなたに愛をもってお勧めします。欲しい物を現金で購入すれば、無駄な浪費を抑えることができますが、実際には現金払いを面倒に思う人が多いのが現状です。

平安を持つことには、物理的な富を持つことよりも大きな価値があります！借金の重圧があると、日常から平安が奪われ、人間関係にも問題を及ぼす可能性が

揺るぎない信頼

あります。金銭的に不足している時はストレスとプレッシャーが常に付きまとい、人との接し方にも影響を与えてしまいます。その結果、人間関係における問題を抱えてしまうのです。実際に大きな借金を抱えていて、今は手っ取り早く解決できる策がないかもしれません。しかし、絶えず神様を第一に置いて、必要以外の買い物を控えるよう自制しながら、計画的に借金の返済を続けていけば、必ず借金から解放される日が訪れます。そうすれば、金銭問題からも自由になるでしょう。

*平安を持つことには、
物理的な富を持つことよりも大きな価値があります！*

中には例外もあるかもしれませんが、ほとんどの場合、私たちの問題はお金が足りないことではなく、自分の身の丈に合わないお金の使い方をしてしまうことにあります！自分が努力して手に入れていない物を、欲しがるのはやめましょう。それよりも忍耐を身につけ、神様が正しい時に必要を満たしてくれることを信頼するのです！

*ほとんどの場合、私たちの問題はお金が足りないことではなく、
自分の身の丈に合わないお金の使い方をしてしまうことにあります！*

3. 自分自身や自分に関わる全てのことに対する心配

これは世界中において、最も多い心配事ではないでしょうか。私たちは日々、自分に関わる何千もの物事について心配します。その一つが健康についてです。医師の診断結果が思わしくない場合、「苦しい思いをするのだろうか？」「死んでしまうのだろうか？」と、これから自分の身に起こることに対する疑問で、頭の中はいっぱいになります。確かに、私たちは非常に優れた医療に恵まれています、イエスこそが癒し主であることを決して忘れてはいけません！私たちが神様を信頼し、健康に関するアドバイスに従うことを、神様は望んでいるのです。

第23章 - 全てを神様に委ねる

私の場合、歳を重ねるごとに更に健康になっています。なぜなら、神様の恵みによって与えられたこの身体を敬うことの大切さを学んでいるからです。例えば、常にストレスを抱えた状態で健康を保つことは、不可能です。30代の頃の私は頻繁に体調不良を感じていましたが、70代になった今はいつも調子が良いのです！それは健康な食生活と運動、ストレスとの上手な向き合い方、そして私の内側で働くイエスの癒しの力を信じることによるのだと思います。病気になるまで、癒しを求めるのを待つ必要はありません！単に病気の時だけ癒してくれる神様ではなく、いつも健康を与えてくれる神様を信じる特権が、私たちには与えられているのです。

*単に病気の時だけ癒してくれる神様ではなく、
いつも健康を与えてくれる神様を信じる特権が、
私たちには与えられているのです。*

神様は、私たちの面倒を見ることに喜びを持っています。聖書によると、私たちに関わる全てのことを神様は気にかけているとあります。

私のためのご計画は、次々に実現していきます。主の恵みは絶えることがないからです。どうか、私を置き去りにしないでください。私はあなたの手で造られた者ですから。

詩篇138:8 (JCB)

私たちは神様の手によって造られました。私たちは神様の子供です。神様は、私たちの面倒を見ることに身を捧げています。そんな神様を信頼することについて書かれている私の大好きなことばが、ペテロの第一の手紙にあります。その聖書箇所をじっくりと読んでみてください。

侮辱されても、苦しめられても報復をせず〔相手を脅すこともせず〕、公平にさばかれる神にご自分を〔すべてを〕お任せになりました。

1ペテロ2:23 (JCBより一部強調)

揺るぎない信頼

この聖書箇所は、私がこの本を通してあなたに伝えたかったことが全て収められています。私たちはどんな時も、あらゆる面で、自分自身を含めた全てのことに関して、神様を信頼することができるのです。神様に委ねられたものの中で、神様の手からこぼれ落ちるものはありません。たとえ人からひどい仕打ちをされても、イエスが自分自身のために仕返しをすることはありませんでした。そうするよりも、イエスはその役目を父である神様が果たしてくれると信頼し続けたのです。

周りから正しい扱いを受け、誰にもつけ込まれないために奮闘するがゆえに、私たちは一体どれだけのストレスを抱え、幸せを犠牲にしているのでしょうか？それは私たちの想像以上だと思います。この本も、いよいよ終盤を迎えました。そこであなたにお聞きしたいことがあります。あなたには自分自身と自分に関する全てのことを、イエスに委ねたいと思いますか？自分を丸ごとイエスに明け渡し、養ってくれることを信頼して、神様の言うことには何でも従いたいと思いますか？

あなたの思考の中に「あなた」はどれくらい存在する？

私たちは、誰が自分を世話してくれるのか、大切にしてもらえるのかなどと考えては心配します。もし誰かに面倒を見てもらう立場になったら、相手は自分を正しく扱ってくれるだろうか？周りからどう思われて、どう気に入られるかなどを考えては心配するのです。自分は周りからどう思われているだろうか？相手は自分に満足してくれるだろうか？これから自分はどうなるのだろうか？将来どんな影響を受けるだろうか？経済が悪化したら職を失うのだろうか？考えてもきりがありません。

「自分はこれからどうなるのだろうか？」という思いは、全ての人の恐怖心をあおります。しかし、良いニュースがあります。あなたは今日、その心配を神様に明け渡すことができ、神様が働いてくれるという確信を持つことができるのです。

自分のことばかりを考えることがないように、神様の助けを求めてみてください。なぜなら、自分のことを考える時間が減れば減るほど、幸福は増し加えられるか

揺るぎない信頼

らです。自分の面倒を見てくれるのは神様であることを信頼し、自らが周りの人の助けとなって、良い種を蒔くことに励みましょう。助けを必要とする人に手を差し伸べる度に、あなたは良い種を蒔き、やがて神様の助けという名の収穫を刈り取ることになるのです。

何年も前のことですが、私は不幸せな毎日を送ることが辛くなり、そこから解放されるためなら、神様が私に見せたいものは全て見せてほしいと考えた経験があります。全てを話すと長くなるので単刀直入に話すと、「不幸せな毎日の原因は、自分の自己中心的な考え方にある」と神様は教えてくれました。当時の私はいつも自分のことばかりを考え、自分が大切にされることを最優先にしていました。そのため、頭の中はいつも自分のことでいっぱい、神様が私の人生に働くスペースなど残されていませんでした。神様は私たちの面倒を見たいと願っています。しかし、そのためには、まず私たちが自分自身を神様に委ねる必要があるのです。

全てを神様に委ねよう

自分自身を第三者に委ねるということは、完全に自分自身を捧げるということです。その相手とは、人や職業かもしれません。また、家族や友人も当てはまります。私は、神様のことばを教えるという使命に自分を捧げています。しかし、それらのあらゆるもの以上に、私たちは神様に全てを完全に捧げるべきです。そして、神様の思いが人生に実現することを願い求めるべきなのです。神様に自分を捧げることに期限はありません。そこで次のような祈りを、日々の習慣にすることをお勧めします。

「天のお父さん、私は自分自身をもう一度、あなたの手の中に捧げます。全てにおいて、あらゆる手段を通して、あなたが私の面倒を見てくれることを信じます。いつも私を導いて、あなたに従い続けるために恵みを注いでください。私が傷ついた時は、あなたが慰めてくれると信じます。病気になった時は、あなたが癒してくれると信じます。何かにつまらなくなった時は、あなたが必要を満たしてくれると信じます。どうす

揺るぎない信頼

るべきか分からない時には、あなたが道を示してくれると信じます。私はあなたの
もので、あなたは私のものです。私はあなたを信頼します！イエスの名によって、ア
ーメン。」

自分自身を捧げずに、心配事を神様に委ねることなどできるでしょうか？もし
かすると、あなたはすでにクリスチャンで、イエスを救い主として受け入れているか
もしれません。しかし、完全に自分自身を神様に捧げ、神様の守りを信頼して生き
ているでしょうか？それこそがまさに今、私たちがすべきことなのです！

全ての心配事をイエスに委ねることで、あなたはこの瞬間から、最高の人生
を歩み始めることができます！

思いわずらいや心配事〔不安、関心〕をすべて〔きっぱりと〕、神に任せなさい。
というのも、神のほうで万事、心にかけてくれているからだ。

1ペテロ5:7 (ALIVE訳より一部強調)

この本の執筆にあたり、私はとても楽しい時間を過ごすことができました。あ
なたにも楽しんでいただけたことを願っています。それだけでなく、いつでも、全て
の状況において、神様への信頼を新たにするために、あなたがこの本を度々開いて
くれることを祈っています！

参考文献一覧

- 1.「信頼」, ウェブスター辞典 (1828年) - オンライン版,
<http://webstersdictionary1828.com/Dictionary/trust>.
- 2.「信頼」, Merriam-Webster.com,
www.merriam-webster.com/dictionary/trust.
- 3.Dr. アーウィン W. ラッツァー, 「Who Can You Trust?」, Moody Church Media,
2002年, www.moodymedia.org/articles/who-can-you-trust/.
- 4.「チャールズ・ディケンズより引用」, Goodreads,
www.goodreads.com/quotes/18876-no-one-is-useless-in-this-world-who-lightens-the.
- 5.「ジョン・バニヤンより引用」, Goodreads,
www.goodreads.com/quotes/41980-you-have-not-lived-today-until-you-have-done-something.
- 6.「聖アウグスティヌスより引用」, BrainyQuote,
www.brainyquote.com/quotes/quotes/s/saintaugus108487.html.
- 7.リー・ストロベル, “Why Does God Allow Tragedy and Suffering?”, CT Pastors,
<http://www.christianitytoday.com/pastors/2012/july-online-only/doesgodallowtragedy.html>.
- 8.「C. S. ルイスより良心に関する引用」, AZ Quotes,
www.azquotes.com/author/8805-C_S_Lewis/tag/conscience.
- 9.「エイブラハム・リンカーンより引用」, Goodreads,
www.goodreads.com/quotes/24046-the-best-thing-about-the-future-is-that-it-comes.
- 10.「チャールズ・スポルジョンより引用」, AZ Quotes,
www.azquotes.com/quote/1411293.
- 11.「デイトリヒ・ボンヘッフアーより引用」, Goodreads,
www.goodreads.com/quotes/328974-judging-others-makes-us-blind-whereas-love-is-illuminating-by.

救いの祈り

神様はあなたを愛していて、あなたと個人的な関係を持ちたいと願っています。もし、あなたが今までイエス・キリストをあなたの救い主として受け入れたことがないのなら、今受け入れることができます。ただ心をイエスに開いて、この祈りを祈ってください。

「天のお父さん、私はあなたに罪を犯してしまっていたことを認めます。私を赦してください。私をきれいさっぱり洗ってください。あなたの息子であるイエスに信頼することを約束します。イエスが私のために死んでくれたことを信じます。十字架上で彼が死んだ時、彼が私の罪を背負ってくれたことを信じます。そして、イエスが死から復活したことを信じます。今、私の人生をイエスに委ねます。

天のお父さん、赦しと永遠のいのちという贈り物を与えてくれてありがとう。あなたのために生きることができるように助けてください。イエスの名によって、アーメン。」

心からこの祈りを祈ったなら、神様はあなたを受け入れました。あなたを清めて、あなたを霊的な死の縛りから解放してくれました。時間をとって以下の聖書箇所を読んでみてください。そして、これからの新しい人生の旅を神様と一緒に歩んでいく中で、神様が語ってくれるように祈ってください。

ヨハネの福音書 3章16節

エペソ人への手紙 1章4節

ヨハネの手紙I 1章9節

ヨハネの手紙I 5章1節

コリント人への手紙I 15章3-4節

エペソ人への手紙 2章8-9節

ヨハネの手紙I 4章14-15節

ヨハネの手紙I 5章12-13節

イエス・キリストとの関係の中で成長することを励まされるような、聖書に基づいた良い教会を見つけることができるように神様に祈り求めてください。神様はいつもあなたと一緒にいてくれます。1日1日、どんな時も神様はあなたを導いてくれます。そして、あなたに用意されている、いのちに溢れた豊かな人生を生きる方法を示してくれるでしょう!

ジョイス・マイヤーについて

ジョイス・マイヤーは、聖書の教えを分かりやすく実践的に語る、世界でも有数のメッセンジャーです。ニューヨークタイムズのベストセラー作家でもあり、著書は100冊を超えます。また、数多くのメッセージをオーディオやビデオで幅広く提供しています。ジョイスのテレビ/ラジオ番組、「人生を毎日楽しむコツ」は世界中で放送されており、ジョイス自身も、カンファレンス講演のため、世界中を飛びまわっています。ジョイスと夫のデイブは、4人の子どもを育て、現在は米国ミズーリ州、セントルイスを拠点としています。

お問い合わせ

ジョイス・マイヤー ミニストリー - ジャパン

0120-053-922

info@joycemeyer.jp

tv.joycemeyer.orgにて、

ジョイス・マイヤーのメッセージを様々な言語で楽しむことができます。

Joyce Meyer Ministries - USA

(+1) 636-349-0303

www.joycemeyer.org